

授 業 計 画

平成 25 年度

Syllabus 2013

健康科学部 栄養マネジメント学科

健康科学部

栄養マネジメント学科

兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学の3つの方針（ポリシー）について



アドミッションポリシー (AP)

入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己を振り返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー (CP)

教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

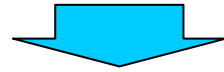
ディプロマポリシー (DP)

学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学 建学の精神・教育理念

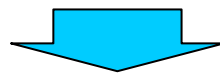


兵庫大学

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

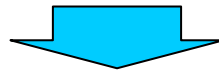


健康科学部

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)



栄養マネジメント学科

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

みなさんは、

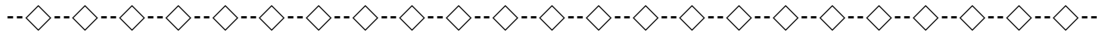
APに基づいて入学し、

CPに沿って学び

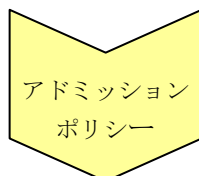
DPに定められた能力を身につけて卒業します。

健康科学部ポリシー

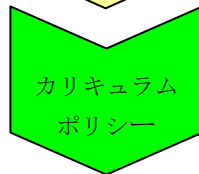
アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
<p>・健康科学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲や学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力を惜しまず、向上心を忘れない、柔軟な姿勢をもつ学生を受け入れます。</p>	<p>・健康科学部では、専門知識と技術の習得に向けて、基礎となる知識と社会人としての基礎学力を培います。また、学科の専門性に基づいて、健康課題を科学的に解明していく力を養うと共に、実践力を身につけることを目指して、カリキュラムを編成します。</p>	<p>・健康科学部では、生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。</p>



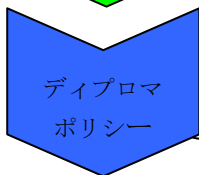
3つの方針（ポリシー）について



・本学に入学して学ぶために必要な能力や意欲についての考え方を示しています。



・本学で学ぶ内容や科目を、教育目標に合わせて組み立てるための方針を示しています。



・本学において必要な単位を履修し、学位を取得するために卒業するまでに身につけることが必要な能力を示しています。

栄養マネジメント学科ポリシー

栄養マネジメント学科は、学部ポリシーに基づき、豊かな人間性を礎とし、管理栄養士をはじめとした「食」と「健康」のスペシャリストの養成を目指します。

アドミッション ポリシー

・健康科学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

1. 「食を通じて人々の健康の維持と増進および疾病予防と回復のために役に立つ仕事がしたい」という姿勢を持ち、その仕事を通して自己の向上を目指す人
2. 自己の成長のために、自己を謙虚にみつめ、改善を心がける努力ができる人
3. 仲間と共に学び、共に成長する事に喜びを感じ、協力して意欲的に取り組むことのできる人

カリキュラム ポリシー

・栄養マネジメント学科のディプロマポリシーに示された3つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 高校から大学への円滑な移行をはかり、大学で学ぶ姿勢を身につける
2. より広い視野をもち総合的に判断する能力を身につける
3. 実践的な食の専門家となるために、周囲と協力して課題発見・問題解決できる能力を身につける
4. 社会人としての一般常識および食の専門家としての誇りを礎に、生涯に渡る自己研鑽の姿勢を身につける
5. 地域住民を対象とした実践活動を通し、応用力とコミュニケーション能力を強化する

ディプロマ ポリシー

・健康科学部のポリシーに基づき、卒業までに次の力を身に付けた人に学士（栄養学）の学位を授与します。

1. 食と健康の専門家としての社会的役割を自覚し、課題発見・分析、解決策を起案・実践できる力
2. 食と健康に関する社会的な課題について、周囲の人達と協調し、時にはリーダーとして率先して解決に取り組める力
3. 自らが身につけた食と健康に関する知識や技術を常に研鑽し、持続的に社会に還元できる

「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

カリキュラムマップ

【健康科学部ディプロマポリシー】 生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		栄養マネジメント学科ディプロマポリシー														
授業科目区分	授業科目名	1					2					3				
		食と健康の専門家としての社会的役割を自覚し、課題発見・分析、解決策を起案・実践できる力					食と健康に関する社会的な課題について、周囲の人達と協調し、時にはリーダーとして率先して解決に取り組める力					自らが身につけた食と健康に関する知識や技術を常に研鑽し、持続的に社会に還元できる力				
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
		食と健康の専門家としての基礎知識と技術力(自己学習力・知識)	食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度(知的好奇心・探究心)	学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力(自己管理能力)	洞察力を持ち、課題を発見する力(課題発見力)	方法、結果、分析を関連づけて考察できる力(論理思考力)	主体性を持ち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力(フォロワーシップ力・共感力を含む)	現象を幅広く深い視野から分析できる力(観察力と分析力)	与えられた課題において、作業効率を考へながら行動する力(計画・実行力)	他者への理解力と適切な自己表現力(コミュニケーション力)	他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力(リーダーシップ力)	新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力(情報リテラシー)	科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力(情報発信力)	データや情報に基づいて論理的に評価できる力(客観的評価力)	常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度(自己啓発力)	食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力(社会的責任の自覚)
基礎科目	日本語(読解と表現)	◎														
	英語	◎														
	コンピュータ演習	◎														
	生物基礎	◎														
	化学基礎	◎														
教養科目	宗教と人生						◎									
	生命倫理学							◎								
	哲学							◎								
	文学							◎								
	芸術							◎								
	色彩とデザイン								◎							
	心理学								◎							
	仏教と現代社会								◎							
	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)								◎							
	国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)								◎							
	法と社会								◎							
	日本国憲法								◎							
	人権の歴史				◎											
	政治学				◎											
	社会学								◎							
	経済学				◎											
	化学		◎													
	生物学		◎													
	食と健康		◎													
	実用英語(初級)									◎						
	実用英語(中級)									◎						
	中国語(初級)									◎						
	中国語(中級)									◎						
韓国語(初級)									◎							
韓国語(中級)									◎							
健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)							◎									
健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)							◎									
健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)							◎									
私のためのキャリア設計											◎					
専門科目	I群(領域に関する科目)	基礎ゼミⅠ	◎													
	基礎ゼミⅡ	◎														
	栄養のための基礎生物化学	◎														
	実験基礎演習			◎												
	調理基礎演習Ⅰ	◎														
	調理基礎演習Ⅱ						○		◎							
	医学概論		◎													
	コミュニケーション論									◎						
	バイオテクノロジー		◎													
	食料経済		◎													
	健康科学	○	◎													
	健康情報処理演習					○						◎				
	情報処理と栄養統計Ⅰ											○	◎			
	情報処理と栄養統計Ⅱ												○	◎		
公衆衛生Ⅰ(公衆衛生)	○							◎								
公衆衛生Ⅱ(健康管理)		○						◎								
社会福祉概論	◎															
生化学Ⅰ	◎	○	○													
生化学Ⅱ	○	◎														
生化学実験Ⅰ				◎												
生化学実験Ⅱ				○	◎											
栄養解剖学・人体生理学Ⅰ	◎															
栄養解剖学・人体生理学Ⅱ		◎														
栄養解剖学実験			◎													
人体生理学実験				◎												
臨床病態学Ⅰ	◎															
臨床病態学Ⅱ		◎														
生体防御論		◎														
食品学Ⅰ	◎	○														
食品学Ⅱ		◎														
食品学実験Ⅰ				○												
食品学実験Ⅱ					◎											
食品衛生学		◎						○								
食品衛生学実験				○				◎								
食品機能論		◎														
調理学		◎														
調理学実験				◎												
調理学実習Ⅰ						○			◎							
調理学実習Ⅱ									◎	○						

ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○

栄養マネジメント学科ディプロマポリシー

授業科目区分	授業科目名	1															2					3				
		食と健康の専門家としての社会的役割を自覚し、課題発見・分析、解決策を起案・実践できる力					食と健康に関する社会的な課題について、周囲の人達と協調し、時にはリーダーとして率先して解決に取り組める力					自らが身につけた食と健康に関する知識や技術を常に研鑽し、持続的に社会に還元できる力														
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5										
		食と健康の専門家としての基礎知識と技術力(自己学習力・知識)	食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度(知的好奇心・探究心)	学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力(自己管理能力)	洞察力を持ち、課題を発見する力(課題発見力)	方法、結果、分析を関連づけて考察できる力(論理思考力)	主体性を持ち、労を惜まず物事に進んで取り組む力(フォローアップ力・共感力を含む)	現象を幅広く深い視野から分析できる力(観察力と分析力)	与えられた課題において、作業効率を考へながら行動する力(計画・実行力)	他者への理解力と適切な自己表現力(コミュニケーション力)	他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力(リーダーシップ力)	新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力(情報リテラシー)	科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力(情報発信力)	データや情報に基づいて論理的に評価できる力(客観的評価力)	常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度(自己啓発力)	食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力(社会的責任の自覚)										
専門教育科	基礎栄養学Ⅰ(健康栄養)	○	◎																							
	基礎栄養学Ⅱ(基礎栄養)	○	◎																							
	栄養学実習						◎																			
	応用栄養学Ⅰ(ライフステージ栄養)		◎																							
	応用栄養学Ⅱ(スポーツ・環境栄養)		◎																							
	栄養管理学			○	◎																					
	栄養管理学実習		◎						○																	
	基礎栄養教育論		◎																							
	健康栄養教育論		◎																							
	基礎栄養教育実習			○			◎																			
	健康栄養教育実習							◎				○														
	実践栄養教育演習												◎													
	臨床栄養学Ⅰ		○			◎																				
	臨床栄養学Ⅱ		○													◎										
	臨床栄養学実習							○	◎																	
	臨床栄養管理学										◎															
	臨床栄養管理演習									○				◎												
	公衆栄養学Ⅰ					◎																				
	公衆栄養学Ⅱ		◎																							
	公衆栄養活動実習								○					◎												
	給食経営管理論															◎										
	メニュー管理実習		◎																							
	給食管理実習								○	○	◎															
フードサービスマネジメント演習							◎	○																		
総合演習															◎											
卒業演習Ⅰ											◎															
卒業演習Ⅱ															◎											
給食管理臨地実習(校外実習)											◎			○												
臨床栄養臨地実習													◎	○												
公衆栄養臨地実習														◎												
学校栄養教育論Ⅰ	◎	○																								
学校栄養教育論Ⅱ		◎								○																
卒業研究Ⅰ					◎																					
卒業研究Ⅱ													◎													

シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」(下表 1-1...、2-2...など)の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1					2					3				
自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力					経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりに働きかけ、ともに行動する力					学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力				
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5

科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」(マップ上部 1-1...、2-1...など)をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

健康科学部栄養マネジメント学科

【卒業要件単位数】

平成 25 ~ 24(2013 ~ 2012)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	群（領域に関する科目）	14 単位	14 単位	7 科目
	群（専門基礎に関する科目）	16 単位	16 単位	9 科目
	群（専門に関する科目）	15 単位	15 単位	8 科目
	卒業研究			
その他上記の科目区分のいずれかから		53 単位		
合 計		124 単位	57 単位	30 科目

平成 23 ~ 22(2011 ~ 2010)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		30 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	群（領域に関する科目）	12 単位	12 単位	6 科目
	群（専門基礎に関する科目）	16 単位	16 単位	9 科目
	群（専門に関する科目）	15 単位	15 単位	8 科目
	卒業研究			
その他上記の科目区分のいずれかから		51 単位		
合 計		124 単位	55 単位	29 科目

平成 25 ~ 24 (2013 ~ 2012) 年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成25年度（2013年度）入学者対象
 （ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		栄養士	管理 栄養士	栄養 教諭 一種	食品 衛生 管理者 等	学年配当 (数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担当者	ページ		
			必修	選択					1年	2年	3年	4年				
基礎 科目	日本語（読解と表現）	演習	2						2					[辻本 恭子]・[野田 直恵]	14	
	英語	演習	2						2					(平本 幸治)	15	
	英語	演習	2						2					[小泉 毅]	16	
	コンピュータ演習	演習	2						2					湯瀬 晶文	17	
	コンピュータ演習	演習	2						2					(河野 稔)	18	
	生物基礎	講義	2						2					[谷口]・[橋本]・[大藤]	19	
	化学基礎	講義	2						2					[市村]・[立谷]・[田中]・[田村]	20	
教 養 科 目	宗教と人生	講義	2						2					(本多 彩)	21	
	生命倫理学	講義		2										[浅沼 光樹]	22	
	哲学	講義		2										[三浦 摩美]	23	
	文学	講義		2										(安井 重雄)	24	
	芸術	講義		2										[柳案 節子]	25	
	芸術	講義		2										[岩見 健二]	26	
	心理学	講義		2										(北島 律之)	27	
	仏教と現代社会	講義		2										(本多 彩)	28	
	国際理解と宗教（キリスト教）	講義		2										[穂積 修司]	29	
	国際理解と宗教（イスラム教）	講義		2										[重親 知左子]	30	
	色彩とデザイン	講義		2										[浜島 成嘉]・[稲富 恭]	31	
	法と社会	講義		2										[國友 順市]	32	
	日本国憲法	講義		2										[笹田 哲男]	33	
	人権の歴史	講義		2										[西脇 修]	34	
	政治学	講義		2										(斎藤 正寿)	35	
	社会学	講義		2										(吉原 恵子)	36	
	経済学	講義		2										(石原 敬子)	37	
	化学	講義		2				A						[薬師寺 大二]	38	
	生物学	講義		2										[石井 禎基]	39	
	食と健康	講義		2										亀谷 小枝	40	
	実用英語（初級）	演習		2										[加藤 恭子]	41	
	実用英語（中級）	演習		2												
	中国語（初級）	演習		2										[佟 曉寧]	43	
	中国語（中級）	演習		2										[佟 曉寧]	44	
	韓国語（初級）	演習		2										[高 秀美]	45	
	韓国語（中級）	演習		2										[高 秀美]	46	
	健康・スポーツ科学（講義）	講義		2										(三宅 一郎)	47	
	健康・スポーツ科学（講義）	講義		2										(徳田 泰伸)	48	
	健康・スポーツ科学（演習）	演習		2										(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	49	
	健康・スポーツ科学（演習）	演習		2										(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	50	
	私のためのキャリア設計	講義		2											[森本 次郎]	51

は栄養士免許必修科目

は管理栄養士国家資格必修科目

は栄養教諭必修科目

食品衛生管理者・食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。…… A

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成24年度（2012年度）入学者対象
（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		栄養士	管理 栄養士	栄養 教諭 一種	食品 衛生 管理者 等	学年配当 (数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担当者	ページ
									1年	2年	3年	4年		
									必修	選択				
基礎 科目	日本語（読解と表現）	演習	2					2						
	英語	演習	2					2						
	コンピュータ演習	演習	2					2						
	生物基礎	講義	2					2						
	化学基礎	講義	2					2						
教 養 科 目	宗教と人生	講義	2						2					
	生命倫理学	講義	2									[浅沼 光樹]	22	
	哲学	講義	2									[三浦 摩美]	23	
	文学	講義	2									(安井 重雄)	24	
	芸術	講義	2									[柳楽 節子]	25	
	芸術	講義	2									[岩見 健二]	26	
	心理学	講義	2									(北島 律之)	27	
	仏教と現代社会	講義	2									(本多 彩)	28	
	国際理解と宗教（キリスト教）	講義	2									[穂積 修司]	29	
	国際理解と宗教（イスラム教）	講義	2									[重親 知左子]	30	
	色彩とデザイン	講義	2									[浜島 成嘉]・[稲富 恭]	31	
	法と社会	講義	2									[國友 順市]	32	
	日本国憲法	講義	2									[笹田 哲男]	33	
	人権の歴史	講義	2									[西脇 修]	34	
	政治学	講義	2									(斎藤 正寿)	35	
	社会学	講義	2									(吉原 恵子)	36	
	経済学	講義	2									(石原 敬子)	37	
	化学	講義	2					A				[薬師寺 大二]	38	
	生物学	講義	2									[石井 禎基]	39	
	食と健康	講義	2									亀谷 小枝	40	
実用英語（初級）	演習	2									[加藤 恭子]	41		
実用英語（中級）	演習	2									[加藤 恭子]	42		
中国語（初級）	演習	2									[佟 曉寧]	43		
中国語（中級）	演習	2									[佟 曉寧]	44		
韓国語（初級）	演習	2									[高 秀美]	45		
韓国語（中級）	演習	2									[高 秀美]	46		
健康・スポーツ科学（講義）	講義	2									(三宅 一郎)	47		
健康・スポーツ科学（講義）	講義	2									(徳田 泰伸)	48		
健康・スポーツ科学（演習）	演習	2									(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	49		
健康・スポーツ科学（演習）	演習	2									(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	50		
私のためのキャリア設計	講義	2										[森本 次郎]	51	

は栄養士免許必修科目

は管理栄養士国家資格必修科目

は栄養教諭必修科目

食品衛生管理者・食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。…… A

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	日本語(読解と表現)				
担当者氏名	辻本 恭子、野田 直恵				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力(自己学習力・知識)				

《授業の概要》

大学での学習、就職活動、および日常生活、社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などの日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。毎回、配布プリントの問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、実際に辞書などを引きながら問題を解いていく。

《テキスト》

授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考図書》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、主語と述語の呼応、適切な助詞の使い方、敬語を適切な用法など、日本語の基本的な表現を身につける。それによって、コミュニケーション能力を高める。

《授業時間外学習》

当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して不審箇所を明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《成績評価の方法》

授業時に複数回実施する小テスト(30%)と定期試験(70%)によって評価する。

《備考》

毎回、設問を解くので、国語辞典あるいは電子辞書を必ず持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	同音異義語・同訓異義語	音読み・訓読みにおける、同じ発音の漢字の熟語を書き分ける。
3	四字熟語	四字熟語には日本文化のエッセンスが凝縮されている。多くの四字熟語を知り、それらを理解する。
4	ことわざ・故事成語	ことわざ・故事成語には、古くから伝わる生活の知恵や社会生活を送る上での教訓が詰まっている。現代にも生きているそれらの表現を学ぶ。
5	慣用句	現代でも、「気がおけない」「悪びれないで」など、よく使われるけれど、間違いやすい慣用句がある。それらの意味と使い方を学ぶ。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて文を理解することにより、正確に文章を読解する。
7	主語と述語	述語には、動詞・形容詞・形容動詞・～ある(ない)などの型があることを学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
11	敬語	尊敬語、謙譲語・、丁寧語、美化語という敬語の5分類について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	現代では通用しているが、本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	社会的な場における敬語の使い方について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

学生生活に密着した英語表現とTOEIC Test形式の練習問題を中心に編集されたテキストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音などを確認します。CDを用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

『TOEIC Test Fundamentals』クリストファー・ブルスミス他（南雲堂）

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際のコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身につけることを目標とします。

《授業時間外学習》

次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、テキストを精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1 Campus Life	学生生活を始めるにあたって、友人達との日常会話表現を学ぶ。
2	Unit 2 Homestay	外国のホームステイ先での日常会話表現を学ぶ。
3	Unit 3 Making Friends	学生生活での新しい友人との出会いの日常会話表現を学ぶ。
4	Unit 4 At a Party	パーティーでの日常会話表現を学ぶ。
5	Unit 5 In the Cafeteria	大学内のカフェテリアでの日常会話表現を学ぶ。
6	Unit 6 In the Library	大学内の図書館での日常会話表現を学ぶ。
7	Unit 7 Talking about the Weather	天候に関する日常会話表現を学ぶ。
8	Unit 8 Making Telephone Calls	電話における日常会話表現を学ぶ。
9	Unit 9 Weekend Activities	学生生活の週末の過ごし方に関する日常会話表現を学ぶ。
10	Unit 10 Driving	自動車の運転に関する日常会話表現を学ぶ。
11	Unit 11 At a Bank	銀行の窓口での日常会話表現を学ぶ。
12	Unit 12 Shopping	買い物に関連する日常会話表現を学ぶ。
13	Unit 13 Internet Shopping	インターネットに関連する日常会話表現を学ぶ。
14	Unit 14 At a Photo Shop	写真屋さんでの日常会話表現を学ぶ。
15	Unit 15 At a Campus Bookstore	大学内の本屋さんでの日常会話表現を学ぶ。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	小泉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

リスニングの基礎から総復習をはかる。Phonicsによる基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《テキスト》

プリントを配布しますから、専用のバインダーと辞書を持ってきてください。〔Enjoy English〕（長崎出版）

《参考図書》

NHKラジオの「新基礎英語」を家で聴く事を宿題とします。本の購入は問いません。とにかく聴いて英語になれることです。

《授業の到達目標》

英語に親しませる事を目標とし、とくに基礎から聞いて話す事に力点をおき、英語が聴けるようになったと自信を持たせたい。そして、将来、英検、TOEIC、TOEFLにチャレンジする自信をつけさせたい。

《授業時間外学習》

毎回宿題を出します。宿題内容は、音読をして、丁寧にノートに書いて、暗唱までです。又、図書館の参考図書をよく利用してください。この他、DVD、VIDEO、TV等で生の英語にどんどん触れて感銘を受けた作品などの紹介や、感想文を英語で記録する。

《成績評価の方法》

英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。定期テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表（40%）、宿題（30%）、小テスト（30%）

《備考》

1.出席重視です。2.席を決めていつもパートナーと一緒に発表する。3.恥ずかしがらないで、英語で話して下さい。4.授業は英語力アップのため全て英語で話します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自己紹介	授業の説明、自己紹介、評価の説明
2	初めての人に会うありがとう	小テスト、会話（挨拶）、Phonics（Alphabet）英検5級リスニングテスト
3	場所を聞くいつ練習するの？	小テスト、会話、Phonics（Alphabet）英検5級リスニングテスト
4	何時ですか？	小テスト、会話、Phonics（子音）英検4級リスニングテスト
5	電話で話す	小テスト、会話、Phonics（子音）英検4級リスニングテスト
6	なぜと理由を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）英検3級リスニングテスト
7	体調を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）英検3級リスニングテスト
8	計画を聞く	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習 英検5級（全体）
9	許しを得る	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習 英検5級（全体）
10	～しましょうか？～しませんか？	小テスト、会話、Phonics（silent E）英検4級（全体）
11	値段を聞く	小テスト、会話、Phonics（silent E）英検3級（全体）
12	～はいかがですか？と物をすすめる	小テスト、会話、Phonics（polite vowels）英検準2級（全体）
13	乗り物で行き先を尋ねる・道を尋ねる	小テスト、会話、Phonics（polite vowels）英検5、4級の総復習
14	いい考えねと自分の考えをいう	小テスト、会話総復習、Phonics総復習 英検3級総復習
15	総復習	小テスト、会話総復習、Phonics総復習 英検準2級総復習

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

コンピューティング環境は私たちの生活に不可欠なものになっており、このことは大学の授業においても同様である。授業では、「コンピュータでどのような作業ができるのか、こういった場面でコンピュータが有用であるか」を少しでも身につけることを目指しつつ、コンピュータの基本的な操作方法と様々なアプリケーションの基礎を演習する。なお、内容は大学の設備や講義の進捗状況等により、変更することもある。

《授業の到達目標》

この演習では、コンピュータの基礎的な知識や能力（コンピュータリテラシー）の初歩的な部分、あるいは、今後受講することになる専門科目などで必要となるコンピュータに関する知識や技能の基礎を身につけることを目標とする。とりわけいくつかのソフトウェア環境において、基礎的な作業を自力で行えるようになることを目標とする。

《成績評価の方法》

毎回の授業・課題への取り組みおよびレポートを主として評価する（100%）。なお、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてオンラインでのファイル配付等を行う）。

《参考図書》

『体系的に学び直す パソコンのしくみ』 日経BP社
 『コンピュータの仕組み』 尾内理紀夫著 朝倉書店
 『コンピュータはなぜ動くのか』 矢沢久雄著 日経BP社
 『コンピュータ概説』 宮崎他著 共立出版
 「コンピュータリテラシー」、「オフィスソフト」についての各種解説書

《授業時間外学習》

毎回のように課題が出るので、時間をかけて取り組む必要がある。授業は毎回出席し前回までの課題を完成させていることを前提に行われる。そのため、万一授業を欠席する場合は、次回の授業までに授業内容を確認し、課題を完成させておくこと。

《備考》

コンピュータはとにかく触ってみることが大切です。触って、どういう操作をすればどのような反応を示すのかを注意深く観察して下さい。そうすれば上達も早くなることでしょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	コンピュータ演習の授業形態と授業内容の説明、およびクラスについての説明（大切なので履修希望者は必ず出席のこと）
2	環境設定	演習教室の利用環境の設定 コンピュータの利用の準備
3	電子メールの設定とタイピング練習	電子メール環境の設定 電子メールの操作方法を知る
4	操作の基礎	タイピングとその練習 ファイルとテキストファイルについて
5	基礎の確認	基礎的な知識の確認 課題ファイルのやり取りについて知る
6	簡単な情報検索	検索における論理演算について知る 情報検索の基礎を知り、簡単な情報検索を行う
7	ワープロソフト（1）	ワープロソフトと画像ソフトの基本を知る アプリケーションソフトの連携について知る
8	ワープロソフト（2）	ワープロソフトを利用するとともに、プリントアウトについて知る
9	プレゼンテーションソフト（1）	プレゼンテーションソフトの基本を知る ワープロソフトとの違いを知り、書き換えを行う
10	プレゼンテーションソフト（2）	プレゼンテーションソフトを用いて発表用スライドを作成する 他のアプリケーションソフトとの連携について知る
11	表計算ソフト（1）	表計算ソフトの基本操作を知る
12	表計算ソフト（2）	数式や関数についての基本を知る
13	表計算ソフト（3）	表計算ソフトと他のアプリケーションソフトとの連携について知る
14	総合演習（1）	実際のプレゼンテーションとその手順について知る
15	総合演習（2）	コンピュータ演習のまとめ

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

大学・短大での学習活動に必要となる「情報リテラシー」、つまりICT（情報通信技術）による情報を活用する能力の修得を目指します。
ネットワーク上の情報の活用、文書作成、データ処理、プレゼンテーションなど、ソフトウェアやサービスを利用するための技能を学習します。また、システムの仕組みや機能、情報倫理など、情報社会を生きる上で欠かせない知識も学習します。

《授業の到達目標》

パソコンやインターネットを学生生活の道具として適切に利用できる。
目的にあわせてソフトウェアやシステムを選択して情報の収集・編集・発表に活用できる。
ICTを活用して、日々生み出される膨大な情報を判断し、取捨選択できる。

《成績評価の方法》

実習での提出課題（70%）と情報倫理および総合的な演習での提出物（30%）で評価します。

《テキスト》

毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。配布したプリントやその他の資料などは、eラーニングのシステムや授業用のWebサイトで公開します。

《参考図書》

矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社。
情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2012)『インターネット社会を生きるための情報倫理 2012』実教出版。
その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介いたします。

《授業時間外学習》

この科目では復習が重要です。操作や利用方法を次の授業で生かせるように、日ごろからパソコンを利用して練習しておきましょう。
とくに、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では『まとめ課題』と『総合的な演習』があります。学習した成果を実践できるように準備しておいてください。

《備考》

学習環境として、2号館のコンピュータ実習室を利用します。また、小テストや課題提出にはeラーニングのシステムを利用します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明 / コンピュータ実習室の利用手続き / 授業前アンケートの実施
2	学内ネットワークシステムの利用	学内システムの利用 / Webメールの利用 / eラーニングの利用
3	インターネット(1)	電子メールによるコミュニケーション
4	インターネット(2)	インターネット上の情報の検索
5	インターネット(3)	ウェブの最新トピック、情報倫理
6	文書作成(1)	レポート形式の文書の作成
7	文書作成(2)	文書のデザインとレイアウト / 文書作成のまとめ課題
8	プレゼンテーション(1)	文字による基本的なプレゼンテーションの作成
9	プレゼンテーション(2)	図やアニメーションを利用したスライドの作成
10	データ処理(1)	表形式データの簡単な処理とグラフ作成
11	データ処理(2)	関数を利用した処理とグラフの活用 / データ処理のまとめ課題
12	総合的な演習(1)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成
13	総合的な演習(2)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成および提出・公開
14	総合的な演習(3)	プレゼンテーションの相互評価、演習問題の作成
15	総合的な演習(4) / まとめ	相互評価の結果の集計 / 授業全体のふり返り

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	化学基礎				
担当者氏名	谷口 武、橋本 陽江、大藤 隆彦				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

授業期間の2/3を用いて、原子の構造や化学結合、化学反応や分子の状態などについて学び、物質への理解を深めます。その後の

1/3の期間で、生命に関連の深い有機化学の基礎について学び、健康・医療・栄養科学を学ぶための導入となる講義を行います。

《授業の到達目標》

大学で健康・医療・栄養の関連分野を学ぶためには、化学の基礎知識が必要となります。化学的な知識があつてこそ、これらの学問の理解を速やかに進め、応用することができると考えます。本講義では、高校で履修する化学と同程度の基本的な知識を、生体成分や栄養成分の知識と密に関連して授業を進めることによって、健康・医療・栄養という各専門分野での勉強が確かな土台の上でおこなえるようにします。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び受講態度を含めた平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	物質を構成する原子と、原子を構成する陽子・電子・中性子
2	原子の結合	いろいろな結合 イオン・共有・配位・水素結合
3	化学反応式	$\text{CH}_4 + 2\text{O}_2 \rightarrow \text{CO}_2 + 2\text{H}_2\text{O}$ の意味
4	熱化学反応式	ガスコンロ・・・都市ガスを燃やすと熱が出るのは？
5	酸化・還元	物質が電子を得ること・失うこと
6	水の三態	氷・水・水蒸気、違いはなにか？
7	溶解・浸透圧	ナメクジに塩をかけると・・・
8	酸と塩基	酸味の原因
9	コロイド	豆腐、ゼリー、人体・・・コロイドとはなにか？
10	有機化学 有機化合物	炭素を中心とする化学
11	有機化学 官能基の働き	良い匂い・悪い臭い
12	有機化学 糖質・脂質	人間の活動をもたらすエネルギー源
13	有機化学 タンパク質	酵素の働き
14	ビタミン・ミネラル	化学と栄養 この講義全体のポイント再チェック
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《テキスト》

「食を中心とした化学」 北原・塚本・野中・水崎著
(東京化学社)

《参考図書》

上記のテキストで十分ですが、さらに進んだ化学の学習を望む者には次の書籍を推薦します。
「化学の基礎 化学入門コース1」 竹内敬人著(岩波書店)

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次回の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

食品や健康について専門的に学ぶためには化学の基礎知識は不可欠です。この化学基礎講義で、専門分野の勉強の基礎をしっかり築きましょう。化学の予備知識は不要です。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	生物基礎				
担当者氏名	市村 豊、立谷 正樹、田中 貞之、田村 淳				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の生態系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《テキスト》

「新課程版 フォトサイエンス生物図録」
数研出版編集部編（数研出版）

《参考図書》

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、3回行う小テストで満点を目指してください。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《備考》

生物だからこそ必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、広く生物全般にわたる基礎的な知識を習得します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造と機能	細胞は生物の基本単位
2	細胞をつくる物質・細胞膜の性質	細胞膜は半透膜・・・半透膜ってどんな膜？
3	酵素の機能と性質・体細胞分裂	酵素は働き者
4	呼吸と光合成	好気呼吸と嫌気呼吸・・・酸素がいない呼吸もある？
5	小テスト 生殖・減数分裂	生物はどうやって増えるのか？
6	発生	たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで
7	遺伝 メンデルの遺伝の法則	あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
8	遺伝 連鎖と組換え	遺伝子はシャッフルされて遺伝する
9	核酸の構造とタンパク質合成のしくみ	遺伝子からタンパク質へ
10	小テスト 神経伝達のしくみ	体の中の情報ネットワーク
11	血液・腎臓・肝臓の働き	体の中の道路と工場
12	自律神経系と内分泌系	自律神経系はアクセルとブレーキ
13	免疫系	細胞性免疫と体液性免疫 体を外敵から守るしくみ
14	小テスト 人間と自然	炭素の循環からみた環境問題 この講義全体のポイント再チェック
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	宗教と人生				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》

この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に自ら取り組む力を養う。兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》

われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を、スピリチュアル・ケア、宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
小テスト・レポート 約20%
定期テスト 約50%
この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の手習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	現代社会と宗教	宗教と社会、文化、医療、福祉について学ぶ
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
5	イスラームを知る	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
6	キリスト教を知る	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る	キリスト教が政治や福祉に与えた影響について学ぶ
8	建学の精神	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
9	建学の精神：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
10	仏教を知る	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の宗教を知る	身近にあるさまざまな宗教を取りあげて日本宗教の特性を理解することを目指す
14	日本の宗教を知る	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	現代社会と宗教	宗教と社会、文化、医療、福祉について学ぶ

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～ 思惟館
宗教セミナー
宗教ツアー
花まつり法要 など

《備考》

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちが医療技術の進歩に合わせて考え方をえなくなるが、授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《テキスト》

市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考図書》

『生命倫理学入門 [第3版]』今井道夫、産業図書、2011
『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業の到達目標》

- ・生命倫理学とは何か説明できる。
- ・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
- ・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《授業時間外学習》

授業で視聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《成績評価の方法》

(1) 毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。(80%)
(内訳：記述形式 40%、記述内容40%) (2) 定期試験 (20%)

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴って生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴って生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

哲学の主要テーマである「真理」と「知識」の問題についてどのような哲学的議論があるか概説し、哲学的思考の特徴を理解できるようにする。それを基に、哲学上の自然主義と反自然主義の各立場が知識と言語、言語と行為、意志と行為、心身問題といったテーマにおいてどのように展開されているかについて考察する。また、個人と社会（社会哲学）、実存の問題についても若干の考察を試みたい。

《テキスト》

門脇俊介著『現代哲学』産業図書

《参考図書》

授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

「哲学」とはどのような営みであるかについて理解できるようにする。人間が持ち得る「知識」の成り立ちについて、分析的に把握できるようにする。心身問題について理解できるようにする。個人と社会、公共の利益と社会契約という視座について理解できるようにする。個人の実存とコミュニケーションの成立に関して、客観的な視座を持てるようになる。

《授業時間外学習》

- ・テキストの予習と復習を通して、哲学論文の要旨を読解できるよう練習する。
- ・授業で紹介する哲学者の思想について復習するとともに、参考図書や各哲学者の著作に触れてみることで理解を深めるように努める。

《成績評価の方法》

平常の課題レポート（60%）および学期末のレポート（40%）で評価する。

《備考》

- ・提出するレポートは必ずホッチキス止めをすること。
- ・その他受講上必要な注意事項については、最初の授業およびその都度授業内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	～哲学への誘い～ 哲学とは何か	授業進行のためのガイダンス 「哲学」の開始、古代自然哲学から近代の知識論へ
2	「知識」に関する自然主義と反自然主義の問題	人間が何かについて「知る」ということについての2つの異なる態度について
3	「知識」とは何か	「知識」とは何であり、どのようにして成立するのかについて
4	「知識」の2つのあり方	ア・プリオリな知識とア・ポステリオリな知識について
5	「信念」の正当化と知識	「信念」の正当化に関する異なる立場、心理主義と規約主義について
6	「知識」はどこに成立するのか	実在論と観念論の対立
7	「信念」はいかにして正当化されるのか	基礎づけ主義と整合説の対立
8	「知識」と「言語」の問題	「真理」と「知識」の基盤としての言葉の意味の由来、要素還元主義について
9	「言語」と「行為」の問題	言語規則と言語行為論について
10	「知識」はどこに成立するのか	知識論と心身問題
11	心身問題の異なる立場	随伴現象説、同一説および機能主義について
12	「意志」と「行為」の問題	行為の因果説と反因果説について
13	社会と哲学の問題	自由意志と一般意志について
14	社会と哲学の問題	一般意志と社会契約説について
15	個人の実存の問題 まとめ	コミュニケーションと正当化の問題および人間の現実存在（実存）の問題について

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、事実を超えてさまざまな世界を構築し、そこに触れる人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学及び現代小説を取り上げるが、各作品における言葉の持つ面白さや意味について考え、また作品のテーマについても考察する。

《テキスト》

毎回、作品の一部をコピーして配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

さまざまな文学作品に接して、それらの言葉を読み解き、作品のテーマについて考えることで、言葉というものについての理解を深める。またそのことにより、現代社会を生きていく上で参考となる、言葉によって表現された多様な価値観について自ら考える力を身につける。

《授業時間外学習》

配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

授業時の意見文やレポートなどを提出することによる平常点（30%）、及び、定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方とその生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	源氏の武将たちの戦い方と生き方について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らの生き方と死に方について考え、また『平家物語』のテーマである無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
6	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてふりかえり、言葉について考える。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

日本の美術を知ることは、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物の資料をはじめ、視聴覚資料を多く提示し、受講生がこれまで気付かなかった日本美術の面白さを発見する手がかりとなる授業をめざします。

《授業の到達目標》

日常生活にある行事や習慣のなかに日本の美を見出すことができる。日本の文化について広く関心を持ち、自ら学ぶことができる。芸術全般を楽しむことができる。

《成績評価の方法》

日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの提出（100％）により評価します。

《テキスト》

なし。

《参考図書》

『日本美術の特質』矢代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》

各授業時に所定の内容を指示します。

《備考》

レポートの作成と提出の要領については、12月中旬の授業時に連絡する予定です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介 授業内容説明	教員の版画制作の経験と日本美術との関連性について聞くとともに、講義の今後のありかたについての説明を理解する。
2	現代の美術作家紹介-1	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
3	現代の美術作家紹介-2	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
4	現代の美術作家紹介-3	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
5	現代の美術作家紹介-4	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
6	日本の信仰	自然崇拜 神道 仏教が美術に及ぼした影響を知り、日常生活にあるしきたりや習慣のなかにある日本の美を発見することができる。
7	仏教美術-1	仏教伝来から天平時代までの仏像を中心に鑑賞し、中国から朝鮮を経て日本に伝えられた仏像が、日本に定着していく過程の変化と魅力を感じ取ることができる。
8	仏教美術-2	平安時代の密教と鎌倉時代の禅宗について知り、それぞれに大きく異なる仏教信仰のありかたと、美術への表れを、鑑賞から感じ取ることができる。
9	日本の美術-1	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。曼陀羅 倭絵 水墨画
10	日本の美術-2	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。画卷
11	日本の美術-3	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。狩野派 等伯
12	日本の美術-4	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。琳派
13	日本の美術-5	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。奇想の絵師
14	日本の美術-6	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。浮世絵
15	日本の美術-7	日本美術の特質について、そのいくつかをイメージすることができる。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・ 課題レポート（100%）

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代 ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス 印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派 現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクタにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験の観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%レポート・小テストなど10%受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣
 (とても詳しく、心理学全般の内容が記載されています)

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
 ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説。《序章 §1～9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ。《第1章 §1～2, §6～7》
3	覚えているって、どういつこと？(記憶)	記憶のプロセス、記憶にまつわるいくつかの事象。《第3章 §4》
4	どうやって、学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方。条件づけなど。《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方。《第2章 §5～9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	私たちが欲するものを分類。《第2章 §1～3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	欲求の階層。思うようにいかないときの行動。《第2章 §2～4》
8	君って、どんな人？(性格)	性格についての心理学の見方。《第4章 §1, 第5章》
9	君って、どんな人？(性格)	質問紙による性格検査の実施。《第4章 §1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観。《第4章 §2～3》
11	あの人が、きつこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質。《第6章 §1～2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果。《第6章 §4》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論。心理療法にも言及。《第5章 §4, 第8章》
14	これまで何を学んだか？(振りかえり)	これまでの内容の振りかえり。
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	仏教と現代社会				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性をもち、労を惜みず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
現代仏教についての理解をめざす
仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
小テスト・レポート 約30%
定期テスト 約40%
この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の手習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
宗教セミナー
宗教ツアー
花まつり法要 など

《備考》

科目名	国際理解と宗教（キリスト教）				
担当者氏名	塚本 潤一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

なぜ人間は対立するのか、なぜ国際社会は緊張状態が続くのか。それはこの世界が多様な価値観に満ちているにも関わらず、それを知らず、受け止めようとしなからである。まず多様な価値観を理解し、相手を受け入れるところから、共存関係は始まる。本講義では、キリスト教について学ぶ。そしてキリスト教が本来内包していたはずの、異なった価値観の人々を受け入れる視点を、講義を通して身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

- *キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。
- *キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

- *毎回の講義後に配布するレポート用紙を用いて、次回の講義に提出する復習レポート（60%）、および期末レポート（40%）を合算して評価する。
- *授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。ビデオを使って、世界の諸問題およびキリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	世界の「今」を知る	この世界にはさまざまな問題がひしめいている。人口問題、環境問題、水・食糧問題、貧困と格差、民族間・宗教観対立など、世界の「今」を知る。
3	中東問題をひもとく	一向に解決のきざしの見えてこない中東問題。特に、パレスチナ・イスラエル問題を三千年以上にわたる歴史をひもときながら解決の糸口を探る。
4	旧約聖書を学ぶ（1）	奴隷で始まり、奴隷に終わってしまった旧約聖書の悲しみの歴史を学ぶ。力と富による繁栄は一瞬で過ぎ去り、すべてを失ってしまったことを学ぶ。
5	旧約聖書を学ぶ（2）	力と富をひたすら求めてきた旧約聖書の民は、すべてを失った時に、大きな価値観の転換を迫られる。自分たちが本当に求めるべきものはなにであったのか？
6	旧約聖書を学ぶ（3）	力と富ではなく、神の言葉が必要であると気づいた民に、神は「救い主」を送ることを約束する。「救い主」とは何なのか、その驚きのイメージを学ぶ。
7	新約聖書を学ぶ（1）	今から二千年前に一人の人が生まれた。その名は「イエス」。30年あまりの短い生涯であったが、その存在は世界を動かすことになった。その生涯を学ぶ。
8	新約聖書を学ぶ（2）	イエスの言葉、行い、他者との関わりについて学び、その独創性に触れる。そしてイエスの伝えなかった「愛」「罪の赦し」について考える。
9	新約聖書を学ぶ（3）	イエスはたった一年の活動で、逮捕され、無実であったにもかかわらず、十字架刑という死刑で息を引き取る。なぜイエスは殺されなければならなかったのかを探る。
10	キリスト教の成立	十字架の上で死んだイエスは復活し、その愛は時を越え普遍的なものとなった。こうして、旧約聖書の「救い主」とは、イエスであったと受け止めるキリスト教が成立する。
11	ユダヤ教、イスラム教、キリスト教の関係を知る	現代において対立関係にあるように見えるユダヤ教、イスラム教、キリスト教が、実は同じ旧約聖書を正典とする親戚関係にあることを学ぶ。
12	キリスト教の諸教派について学ぶ	キリスト教の成立以降、ローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテスタント教会と様々な教派が生まれてきた。それらを見渡し、整理していく。
13	キリスト教の歴史の光と影	キリスト教の二千年間の歴史は、素晴らしい光の側面があり、同時に世界に様々な影を落としてきた。その功罪を歴史的に振り返る。
14	対立を乗り越えるために	文明は衝突したままなのか、諸宗教は対立を続け、常に国際関係は緊張状態が続くのか。対立を乗り越え、世界が共存関係を築くためには何が必要なのか、共に考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であることを整理する。また国際理解をどのように深めていけばよいのか整理する。

《テキスト》

プリント（毎授業ごとに配布する）

《参考図書》

- 『よくわかるキリスト教』土井かおる著（PHP研究所）2004、
- 『不思議なキリスト教』橋爪大三郎×大澤真幸（講談社現代新書）2011、
- 『キリスト教との出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、
- 『旧約聖書に強くなる本改訂新版』浅見定雄著（日本キリスト教団出版局）2010

《授業時間外学習》

- *その日の復習レポートをまとめ、次回の授業に提出する。（レポート用紙は授業ごとに配布する）
- *日頃からキリスト教の正典である聖書を読んでおく。
- *配布する資料が散在しないように整理しておく。
- *新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

*私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

科目名	国際理解と宗教 (イスラム教)				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力(コミュニケーション力)				

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラム教徒)の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク(イスラムの礼拝所)も増加している。この授業を通してイスラムに関心を持ち、激動期に入ったイスラムをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる現状を把握できる。
- ・イスラムに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・授業終了後に課すレポート(50%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	結婚、葬礼におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面からイスラムと民主主義の関係について考察する。
14	国際理解とイスラム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラム	日本とイスラム圏の交流を歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考図書》

白杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか』青土社、2011/ 河田尚子『イスラムと女性』国書刊行会、2011/小杉泰・長岡慎介『イスラムを知る12 イスラム銀行金融と国際経済』山川出版社、2010/ 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003/ レザー・アスラン『変わるイスラム 源流・進展・未来』藤原書店、2009

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムとの接点を持つ(例：モスクの見学)。

《備考》

- ・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	色彩とデザイン				
担当者氏名	浜島 成嘉、稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力） 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産行動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを色彩、かたち、素材の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野に関する一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、カラーリング課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出は単位認定の必要条件になる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス、デザインの基礎(1):色 色の知覚	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。(担当:浜島)
2	デザインの基礎(2):色 色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラースステムの違いについて説明する。(担当:浜島)
3	デザインの基礎(3):色 配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それによってに配色を考える。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。(担当:浜島)
4	デザインの基礎(4):かたち	デザインのかたちについて、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。(担当:稲富)
5	デザインの基礎(5):素材	デザインの素材について、材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。(担当:稲富)
6	デザインの基礎(6):デザインの歴史	近代以降のデザインの歴史について概観し、7回目以降の講義の流れを理解する。(担当:稲富)
7	デザインの各分野(1):グラフィック	ポスター、広告、パッケージのデザインについて解説する。(担当:浜島)
8	デザインの各分野(2):家具	家具のデザインについて、歴史的な変遷に従い解説する。(担当:稲富)
9	デザインの各分野(3):建築	建築・インテリアを取り上げ、「もの」のデザイン、「空間」のデザインについて解説する。(担当:稲富)
10	デザインの各分野(4):ファッション	19世紀後半以降のファッションを取り上げ、歴史的な変遷と社会の関わりについて解説する。(担当:浜島)
11	デザインの各分野(5):プロダクト	プロダクトデザインについて、主として携帯電話を例に、プロダクトデザインとマーケティングについて解説する(担当:稲富)
12	デザインの各分野(6):工業デザイン	工業デザイン分野について、主として産業革命以降のデザインと自動車デザインの変遷から解説する。(担当:稲富)
13	デザインの各分野(7):都市	造形物としての都市に注目し、その発生要因と社会の状況について考察する。(担当:稲富)
14	デザインの各分野(8):映像	映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。(担当:稲富)
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。(担当:浜島、稲富)

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、欠席となる。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》

目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考図書》

適宜指示する

《授業の到達目標》

リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》

予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》

授業態度（40%）および定期試験による評価（60%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道德、法の適用
2	基本的人権	プライバシー権
3	基本的人権	表現の自由
4	基本的人権	生存権
5	基本的人権	自己決定権
6	基本的人権	信教の自由
7	基本的人権	法の下での平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法	結婚・離婚、内縁
11	家族と法	親子、親権
12	家族と法	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

定期試験期間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	社会の規範、法の種類、法システム、国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	明治憲法の成立過程と特質、日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	人権の特色・種類、「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	「法の下での平等」原則について、また、「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	「象徴天皇制」の意義・内容、選挙制度の内容、「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	国会の組織・権能、内閣の組織・権能、議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	司法権独立の意義、裁判所の組織・権能、司法の民主的統制、また、「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）				

《授業の概要》

現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》

様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。
差別を見抜く力を身につけましょう。
人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。
人権感覚を豊かにしましょう。いのちとは何かを総括します。

《成績評価の方法》

定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》

テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

共生教育のすすめ 仲田 直
これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座 上杉聡
これでなっとく！部落の歴史 続私のダイガク講座 上杉聡

《授業時間外学習》

配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》

出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます。
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考えます。
5	日本近世の身分制について	士農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくられたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	性差別の歴史	「元始女性は太陽であった」にも関わらず、女性差別はいつからつくられ、固定概念しての男女の様々な性差別を考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） 3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー） 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

政治学のボキャブラリーを使用して、現実には起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年他の参考文献は講義をすすめるながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

（1）予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。（2）復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 <small>小さな政治と大きな政治</small>	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 <small>様々なアクター・利益</small>	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 <small>政党と選挙</small>	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、分から見れば社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。
 (配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
 定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。
 (配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵(2007,有斐閣アルマ)

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也(2000,日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析(1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、..と他者
3	行為の分析(2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析(3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析(4)正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類 社会的カテゴリー
6	行為の分析(5)予言の..成就	予言の..成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析(6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイム
8	社会集団と秩序(1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序(2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序(3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序(4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる(1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる(2)国家と市民社会	個人と社会、.由と連帯、.民社会、共同体、私的領域と公共領域 公的領域、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	(適宜指示を行う)
15	学習の総まとめ(2)	(適宜指示を行う)

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）				

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう(1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう(2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割(1)	競争の市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割(2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう(1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう(2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう(3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	化学				
担当者氏名	薬師寺 大二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1~2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

原子や分子の構造、化学結合、物質の状態、有機化学など、化学の基礎から応用までをパワーポイントを使って、視覚的にわかりやすく解説します。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

- ・「新・物質科学ライブラリ1 基礎 化学」 梶原篤・金折賢二 共著（サイエンス社）
- ・「一般化学」 長島弘三・富田功 共著（裳華房）

《授業の到達目標》

生活に必要な衣服や日用品、医薬品など、我々は化学の恩恵を受けています。本講義では、化学が我々にとって必要かつ身近なものだと感じてもらい、また化学の理解を通じて科学的思考を養います。

《授業時間外学習》

授業で配布されたプリントを必ず見直し、分からなかったところは参考書を見るなどして確認してください。

《成績評価の方法》

定期試験により評価(100%)します。

《備考》

積極的な授業参加を期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	化学の歴史的背景を踏まえ、化学の基本法則や原子の構成について解説する。
2	原子軌道	原子軌道のエネルギー準位や多電子原子の構成原理について解説する。
3	元素と周期律	元素の周期性、イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度などについて解説する。
4	共有結合と分子軌道	共有結合の形成、分子軌道のエネルギー、結合と結合などについて解説する。
5	分子の形と混成軌道	メタン、エチレン、アセチレンの形と混成軌道について解説する。
6	種々の化学結合（1）	ファンデルワールス力、配位結合、水素結合などについて解説する。
7	種々の化学結合（2）	金属結合と金属結晶、イオン結合とイオン結晶などについて解説する。
8	物質の三態	理想気体の状態方程式、実在気体、蒸気圧曲線などについて解説する。
9	混合物の状態変化	濃度、ドルトンの分圧の法則、蒸気圧降下、浸透圧などについて解説する。
10	化学反応（1）	酸・塩基反応について解説する。
11	化学反応（2）	酸化還元反応について解説する。
12	有機化学の基礎	飽和炭化水素、不飽和炭化水素、IUPAC命名法などについて解説する。
13	立体化学	立体構造の表示法、構造異性体、立体異性体などについて解説する。
14	低分子有機化合物	官能基、アルコール化合物、カルボン酸化合物などについて解説する。
15	学習のまとめ	これまで学習してきた内容の総括を行う。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	生物学				
担当者氏名	石井 禎基				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

講義全体をとおして、生物に共通する原理や生命活動を支えるしくみを理解できるように、「エネルギー」、「情報伝達」、「システム」をキーワードにして概説していく。

《授業の到達目標》

この生物学の講義の各テーマを自分なりに自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。また、生物学はただ単に生物に関する学問でなく、現代の社会背景を考へる一助となる学問である。そのため、この講義が新聞記事やテレビ番組などのさまざまな内容をより深く理解する手助けとなることを期待する。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト（70%）と平常点（30%）により評価する。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 南雲保 編集（羊土社）
 フォトサイエンス生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

《参考図書》

ケイン生物学 石川統 監訳（東京化学同人）
 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 和田勝 著（羊土社）
 理系総合のための生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 編集（羊土社）
 エッセンシャル細胞生物学 中山桂子・松原謙一 監訳（南江堂）
 ヒューマン・イマジネーション 坂井建雄・岡田隆夫 監訳（医学書院）

《授業時間外学習》

生物学の用語とその定義を理解し、その用語を利用しながら生物学の事象を自分の言葉で説明できるように復習をする。

《備考》

常に考えながら講義を聴くこと。大切だと思うところはメモをとること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物学について	生物学におけるものの考え方と生物学の階層構造について。
2	生物とは	生命の歴史の概観、生物の分類体系、生物の共通する特徴など。
3	生命系の化学的構成部品	生物は、共通する基本的な物質からできている。
4	細胞膜と浸透圧	生命の基本単位である細胞をを形作る細胞膜の特性と細胞に作用する物理的現象について。
5	細胞内外への物質の出入り	細胞は、細胞膜を通して必要な物質を取り入れ不必要なものを排出する。また、産生した物質を分泌する。
6	生物・環境間のエネルギーの流れ	生態系においてエネルギーと物質は循環している。
7	代謝・酵素・共役反応	生命活動におけるエネルギーの受け渡しはどうやって行われるのか。
8	細胞内のエネルギーの流れ	細胞内でエネルギーはどのような形で利用されるのか。
9	細胞間の情報伝達	多細胞生物は、細胞どうし互いに連絡をとっている。
10	細胞内の情報伝達	他の細胞から送られた情報が細胞内でどのように伝達されるのか。
11	遺伝情報	子孫に伝えられる特徴の情報とは何か。
12	遺伝情報の伝達	遺伝情報はどのように伝達されるのか。
13	運動のシステム	運動は、骨・関節と神経と筋肉の働きで起こる。
14	生体内環境維持のシステム	ヒトの内部環境の変動は小さい。
15	身体を守るシステム	生物は、外からの侵入者や自分でないものに対して防御する。

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》

- ・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
- ・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
- ・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
- ・遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明：食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)：栄養・栄養素の定義	栄養・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)：栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)：栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)：家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)：環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活(2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《テキスト》

「食生活論 第3版」福田靖子、小川宣子編（朝倉書店）

《参考図書》

「食生活論」遠藤金次他編（南江堂）「健康と食生活 改訂版」吉田勉編（学文社）「私たちの食と健康」吉田勉監修（三共出版）

《授業時間外学習》

- ・毎回、テキストをしっかりと読んで勉強してくること。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
- ・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》

授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（初級）				
担当者氏名	加藤 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

ビジネスシーンや日常生活に即した各テーマに応じた内容のリスニング問題、リーディング問題を解く。全ての基本である文法事項に関しては毎回学習し、必要に応じて英語における音声変化も確認しながら、実用的な英語運用に結びつく知識や技術を身につけたい。

《テキスト》

妻鳥千鶴子（他）著、First Time Trainer for the TOEIC TEST
(Cengage Learning)

《参考図書》

《授業の到達目標》

TOEICの問題形式に慣れること、スコア400を取ることを目標にする

《授業時間外学習》

次回の授業内容を予習し、基本的な語彙の確認をしておくこと。

《成績評価の方法》

平常点30%、毎回の講義後に実施する小テスト30%、定期試験40%

《備考》

毎回辞書を持参すること（携帯電話の辞書は不可）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	Pre-Test
2	UNIT 1 : Shopping	Part 1, Part 5, Part 6 の演習
3	UNIT 2 : Office Routine	Part 2, Part 5, Part 7 (Single passage)の演習
4	UNIT 3 : Eating out	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
5	UNIT 4 : Conferences	Part 4, Part 5, Part 6 の演習
6	UNIT 5 : Travel	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
7	UNIT 6 : Personnel	Part 2, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
8	Review	UNIT 1～UNIT 6 の復習
9	UNIT 7 : Customer Service	Part 3, Part 5, Part 6 の演習
10	UNIT 8 : Education	Part 4, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
11	UNIT 9 : Finances	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
12	UNIT 10:Household Routine	Part 2, Part 5, Part 6 の演習
13	UNIT 11:Office Management	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
14	UNIT 12 : Health	Part 4, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
15	Review	Post-Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（中級）				
担当者氏名	加藤 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

ビジネスシーンや日常生活など、身近な話題に即した各テーマを取り上げ、その内容に応じたリスニング問題、リーディング問題の演習・解説を行うことによって、各パートの問題へのアプローチの仕方、各パートの効率的な解き方を身につける。実用英語（初級）での学習内容、または、それに相当する知識を基に、さらに進んだ語彙力の増強、文法事項の理解の定着をはかる。

《授業の到達目標》

TOEICの問題形式に慣れ、授業で身につけた語彙力・文法力をベースに、スコア500～600を取ることを目標にする

《成績評価の方法》

平常点30%、毎回の講義後に提出する提出物30%、定期試験40%

《テキスト》

吉田佳代（他）著、実生活で役立つTOEIC® テストリスニング（成美堂） 数越知子/Braven Smillie 著、TOEIC® テスト・リーディング集中演習（金星堂）

《参考図書》

《授業時間外学習》

次回の授業内容を予習し、基本的な語彙の確認をしておくこと。

《備考》

毎回辞書を持参すること（携帯電話の辞書は不可）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Listening / Reading対策	Listening対策 (Unit 1) / Reading (Unit 1:短文穴埋め問題の攻略 語彙の問題に慣れよう)
2	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 2) / Reading (Unit 2 & 15:短文穴埋め問題の攻略 品詞 & 読解問題の攻略 タイトルと設問を先読みしてポイントをおさえよう)
3	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 3 & 4) / Reading (Unit 3 & 16:短文穴埋め問題の攻略 主語と一致する動詞 & 読解問題の攻略 設問の種類を分析しよう)
4	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 5) / Reading (Unit 4 & 17:短文穴埋め問題の攻略 時制や仮定法の問題に慣れよう & 読解問題の攻略 語句の言い換えに注意して答えを選ぼう)
5	Listening / Reading (Part 6対策)	Listening (Unit 6 & 7) / Reading (Unit 11: 長文穴埋め問題の攻略 文章の流れを理解しよう (1) 時制)
6	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 8) / Reading (Unit 5 & 18:短文穴埋め問題の攻略 自動詞・他動詞・使役動詞 & 読解問題の攻略 背景知識を使って答えを探そう Eメール・手紙)
7	Listening / Reading (Part 6対策)	Listening (Unit 9 & 10) / Reading (Unit 12:長文穴埋め問題の攻略 文章の流れを理解しよう (2) 代名詞)
8	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 11) / Reading (Unit 6 & 19:短文穴埋め問題の攻略 不定詞・動名詞・分詞に慣れよう & 読解問題の攻略 背景知識を使って答えを探そう 求人広告)
9	Listening / Reading (Part 7 対策)	Listening (Unit 12 & 13) / Reading (Unit 20:読解問題の攻略 まとめ)
10	Listening / Reading (Part 5 & 6対策)	Listening (Unit 14) / Reading (Unit 7 & 13:短文穴埋め問題の攻略 比較・関係詞の問題 & 長文穴埋め問題の攻略 文章の流れを理解しよう(3)つなぎ言葉)
11	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 15 & 16) / Reading (Unit 8 & 21:短文穴埋め問題の攻略 前置詞・接続詞の問題 & 読解問題の攻略 2つの文書のトピックと関連性を把握しよう(1))
12	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 17) / Reading (Unit 9 & 22:短文穴埋め問題の攻略 名詞・冠詞・数量詞の問題 & 読解問題の攻略 2つの文書のトピックと関連性を把握しよう(2))
13	Listening / Reading (Part 7 対策)	Listening (Unit 18 & 19) / Reading (Unit 23:読解問題の攻略 2つの文書のトピックと関連性を把握しよう(3))
14	Listening / Reading (Part 5,6 & 7 対策)	Listening (Unit 20) / Reading (Unit 10, 14 & 24 短文穴埋め問題の攻略まとめ、長文穴埋め問題の攻略まとめ & 読解問題の攻略まとめ)
15	Review	Review Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（初級）				
担当者氏名	佟 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・ 授業態度20%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《備考》

- ・ 中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる
- ・ 授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 復母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（中級）				
担当者氏名	佟 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

この講義は中国語初級・中国語 の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語 』
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
会話 簡単な日常会話ができる。
中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・ 授業態度20%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・ 中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる
- ・ 授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	数の言い方 ・ お金の言い方 形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	量詞（ものの数え方） 動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	時刻の言い方 状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	時間量の言い方 完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	前置詞「給」 助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	現在進行形の言い方 助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）				
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・ 期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める

《授業の到達目標》

- 1.ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
- 2.簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
- 3.韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
油谷幸利 他編著 小学館、2004年
- 『パスポート朝鮮語小事典』
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
- 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音 基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音 子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音 子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音 二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音 子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えろと意味)について勉強する。
6	文化項目(1)：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか(합니체)、～は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何か。	～です・ですかの(해요체)、～が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。 自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	韓国語（中級）				
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
- 『パスポート朝鮮語小事典』 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
- 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞)について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性をもち、労を惜みず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《成績評価の方法》

価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《授業時間外学習》

<予習方法>
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
<復習方法>
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性を持ち、労を惜みず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》

受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配布する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院) 『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) 『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院) 『からだの「仕組み」のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出、レポート課題
小テスト（20%）各分野の学習後に課すレポート課題（60%）平常点（20%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	1年 期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自1日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	10週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しよう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
15	学習	学習のまとめ

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（演習）				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク 等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》

<予習方法> シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法> 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（演習）				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性をもち、労を惜みず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法>
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
随時テーマに対するレポート提出(20%)
学期末にまとめたレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	森本 次郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー）				

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら体験的に「キャリアデザイン」を学ぶ。

《テキスト》

寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房、2012年

《参考図書》

講義中適宜指示する

《授業の到達目標》

自分自身やキャリアについて様々なワークを通じて学ぶことにより、有意義な大学生活を過ごすための力や、将来のキャリアを考える力を身につける。

《授業時間外学習》

予習については、テキストのねらい・予備知識の部分をシラバスの進行に合わせて事前に読んでおく。
復習については、毎回の授業の課題等を整理し、文書化して自身のキャリアデザイン・就職活動に活用できるようにまとめる。

《成績評価の方法》

平常点（受講態度等） 50%、毎回実施するレポート 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業のねらい
2	自分のキャリアを考える	大学時代のキャリア形成
3	自分のキャリアを考える	かなえたい夢について考える
4	自己理解を深める	現在の自己の全体像を知る
5	自己理解を深める	自我状態を知る
6	自己理解を深める	自分の性格を知る
7	自己理解を深める	歩んできた道を振り返る
8	自己理解を深める	将来像を考える
9	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
10	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
11	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
12	社会人基礎力を身につける	社会で求められる能力を知る
13	社会人基礎力を身につける	論理的思考（ロジカルシンキング）を身につける
14	社会人基礎力を身につける	創造的思考（クリエイティブシンキング）を身につける
15	まとめ	自己理解をまとめる

平成 23 ~ 22 (2011 ~ 2010) 年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成23年度（2011年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		栄養士	管理 栄養士	栄養 教諭 一種	食品 衛生 管理者 等	学年配当 (数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担当者	ページ
			必修	選択					1年	2年	3年	4年		
基礎 科目	日本語（読解と表現）	演習	2						2					
	英語	演習	2						2					
	コンピュータ演習	演習	2						2					
	生物基礎	講義	2						2					
	化学基礎	講義	2						2					
人文 系	宗教と人生	講義	2						2					
	生命倫理学	講義	2									[浅沼 光樹]	56	
	生涯発達心理学	講義	2									(森田 義宏)	57	
	人間関係論(含カウンセリング)	講義	2									(森田 義宏)	58	
	哲学	講義	2									[三浦 摩美]	59	
	文学	講義	2									(安井 重雄)	60	
	芸術	講義	2									[柳楽 節子]	61	
	芸術	講義	2									[岩見 健二]	62	
	心理学	講義	2									(北島 律之)	63	
	宗教と文化（仏教）	講義	2									(本多 彩)	64	
	宗教と文化（キリスト教）	講義	2									[穂積 修司]	65	
	宗教と文化（イスラム教）	講義	2									[重親 知左子]	66	
	生活とデザイン	講義	2									(稲富 恭)	67	
	色彩学	講義	2									[浜島 成嘉]	68	
	音楽表現	演習	2									未定	69	
	アメリカ文学	講義	2									(平本 幸治)	70	
	論説と評論	講義	2									(安井 重雄)	71	
歴史学	講義	2									(金子 哲)	72		
日本語表現法	演習	2									[野田 直恵]	73		
社会 系	法と社会	講義	2									[國友 順市]	74	
	日本国憲法	講義	2									[笹田 哲男]	75	
	人権の歴史	講義	2									[西脇 修]	76	
	政治学	講義	2									(斎藤 正寿)	77	
	国際関係論	講義	2									(斎藤 正寿)	78	
	社会学	講義	2									(吉原 恵子)	79	
	ジェンダー論	講義	2									(吉原 恵子)	80	
	経済学	講義	2									(石原 敬子)	81	
自然 系	数学	講義	2									不開講		
	物理学	講義	2									湯瀬 晶文	82	
	化学	講義	2					A				[薬師寺 大二]	83	
	生物学	講義	2									[石井 禎基]	84	
	食と健康	講義	2									亀谷 小枝	85	
	コンピュータ応用演習	演習	2									(河野 稔)	86	
語学 系	英語	演習	2									[Michael. H. FOX]	87	
	英語	演習	2									[Michael. H. FOX]	88	
	英語	演習	2									[Michael. H. FOX]	89	
	フランス語	演習	2									[本多 雄一郎]	90	
	フランス語	演習	2									[本多 雄一郎]	91	
	ドイツ語	演習	2									[竹内 節]	92	
	ドイツ語	演習	2									[竹内 節]	93	
	中国語	演習	2									[佟 曉寧]	94	
	中国語	演習	2									[佟 曉寧]	95	
	韓国語	演習	2									[高 秀美]	96	
韓国語	演習	2									[高 秀美]	97		
体育 系	健康・スポーツ科学（講義）	講義	2									(三宅 一郎)	98	
	健康・スポーツ科学（講義）	講義	2									(徳田 泰伸)	99	
	健康・スポーツ科学（演習）	演習	2									(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	100	
	健康・スポーツ科学（演習）	演習	2									(三宅一)・(徳田)・(樽本)・(矢野)	101	
キャリア 系	特別講義	講義	2											
	私のためのキャリア設計	講義	2									[森本 次郎]	102	
	就職基礎能力	講義	2									不開講		
	就職基礎能力	講義	2									不開講		

は栄養士免許必修科目

は管理栄養士国家資格必修科目

は栄養教諭必修科目

食品衛生管理者・食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。…… A

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成22年度（2010年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

業 科 目 の 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		栄養士	管 理 士 栄養士	栄養 教諭 一種	食品 衛生 管理者 等	学年配当 (数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担 当 者	ページ
			必修	選択					1年	2年	3年	4年		
基 礎 科 目	日本語（読解と表現）	演習	2						2					
	英語	演習	2						2					
	コンピュータ演習	演習	2						2					
	生物基礎	講義	2						2					
	化学基礎	講義	2						2					
人 文 系	宗教と人生	講義	2						2					
	生命倫理学	講義		2									[浅沼 光樹]	56
	生涯発達心理学	講義		2									(森田 義宏)	57
	人間関係論(含カウンセリング)	講義		2									(森田 義宏)	58
	哲学	講義		2									[三浦 摩美]	59
	文学	講義		2									(安井 重雄)	60
	芸術	講義		2									[柳楽 節子]	61
	芸術	講義		2									[岩見 健二]	62
	心理学	講義		2									(北島 律之)	63
	宗教と文化（仏教）	講義		2									(本多 彩)	64
	宗教と文化（キリスト教）	講義		2									[塚本 潤一]	65
	宗教と文化（イスラム教）	講義		2									[重親 知左子]	66
	生活とデザイン	講義		2									(稲富 恭)	67
	色彩学	講義		2									[浜島 成嘉]	68
	音楽表現	演習		2									未定	69
	アメリカ文学	講義		2									(平本 幸治)	70
	論説と評論	講義		2									(安井 重雄)	71
	歴史学	講義		2									(金子 哲)	72
日本語表現法	演習		2									[野田 直恵]	73	
社 会 系	法と社会	講義		2									[國友 順市]	74
	日本国憲法	講義		2									[笹田 哲男]	75
	人権の歴史	講義		2									[西脇 修]	76
	政治学	講義		2									(斎藤 正寿)	77
	国際関係論	講義		2									(斎藤 正寿)	78
	社会学	講義		2									(吉原 恵子)	79
	ジェンダー論	講義		2									(吉原 恵子)	80
経済学	講義		2									(石原 敬子)	81	
自 然 科 系	数学	講義		2									不開講	
	物理学	講義		2									湯瀬 晶文	82
	化学	講義		2									[薬師寺 大二]	83
	生物学	講義		2									[石井 禎基]	84
	食と健康	講義		2									亀谷 小枝	85
	コンピュータ応用演習	演習		2									(河野 稔)	86
語 学 系	英語	演習		2									[Michael. H. FOX]	87
	英語	演習		2									[Michael. H. FOX]	88
	英語	演習		2									[Michael. H. FOX]	89
	フランス語	演習		2									[本多 雄一郎]	90
	フランス語	演習		2									[本多 雄一郎]	91
	ドイツ語	演習		2									[竹内 節]	92
	ドイツ語	演習		2									[竹内 節]	93
	中国語	演習		2									[佟 曉寧]	94
	中国語	演習		2									[佟 曉寧]	95
	韓国語	演習		2									[高 秀美]	96
韓国語	演習		2									[高 秀美]	97	
体 育 系	健康・スポーツ科学（講義）	講義		2									(三宅 一郎)	98
	健康・スポーツ科学（講義）	講義		2									(徳田 泰伸)	99
	健康・スポーツ科学（演習）	演習		2									(三宅一)・(徳田)・(榎本)・(矢野)	100
	健康・スポーツ科学（演習）	演習		2									(三宅一)・(徳田)・(榎本)・(矢野)	101
キ ャ リ ア 系	特別講義	講義		2										
	私のためのキャリア設計	講義		2									[森本 次郎]	102
	就職基礎能力	講義		2									不開講	
	就職基礎能力	講義		2									不開講	

は栄養士免許必修科目
は管理栄養士国家資格必修科目
は栄養教諭必修科目

食品衛生管理者・食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。…… A

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちの方が医療技術の進歩に合わせて考え方をえざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《テキスト》

市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考図書》

『生命倫理学入門 [第3版]』今井道夫、産業図書、2011
『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業の到達目標》

- ・生命倫理学とは何か説明できる。
- ・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
- ・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《授業時間外学習》

授業で視聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《成績評価の方法》

(1) 毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。(80%)
(内訳：記述形式 40%、記述内容40%) (2) 定期試験 (20%)

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴って生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴って生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

科目名	生涯発達心理学				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） 3-4 常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）				

《授業の概要》

発達とは何か、生涯発達とは何かについて考える。発達に及ぼす生得性と環境に影響やその重要性について学ぶ。乳児期から老年期までの各発達段階ごとの認知的・社会的特徴や発達課題や段階特有の問題やその対処などについて学ぶ

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

授業中随時紹介する

《授業の到達目標》

- * 発達・生涯発達とはなにか、について説明できる
- * 発達心理学で用いられる基礎的な用語や概念について説明できる
- * 発達におよぼす遺伝や環境の要因について説明できる

《授業時間外学習》

授業内容を復習しておく・・・次回授業での内容・用語についての質問に答えられるようにしておく

《成績評価の方法》

試験 100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション生涯発達心理学とは	オリエンテーション 発達の概念 発達の原理 発達観の変遷
2	発達と環境が発達に及ぼす影響	遺伝と環境 野生児の記録 家系研究 双生児研究 親の養育態度
3	乳児期の心理 1	乳児期の認知 感覚運動的知能 脱馴化 愛着 基本的信頼感/不信
4	幼児期の心理 1	幼児の認知 前概念思考期 直観的思考期 象徴機能 3項関係 心の理論ことばの獲得
5	幼児期の心理 2	社会性の発達 遊びの発達 自律性/恥・疑惑 主導性/罪悪感
6	児童期の心理 1	児童期の認知発達 具体操作期 クラスの概念 脱中心化 勤勉性/.等感
7	児童期の心理 2	ギャング集団 道徳性の発達 向社会的行動の発達 学校ストレス 心身症
8	青年期の心理 1	過渡期 文化相対論 自我の覚醒 自主自律の要求 異議申し立て 精神的離乳
9	青年期の心理 2	第 2 反抗期 脱衛星化 感情の論理 理想主義 自己主張・自己顕示
10	青年期の心理 3 成人期の心理 1	自我・一性の確立 再衛星化 職業への準備 恋愛と結婚 青年から成人へ仕事と家庭
11	成人期の心理 2	一家を構える 親意識 仕事における自己拡大 仕事と家庭 親密性/孤立 愛
12	中年期の心理 1	個性化 第 2 の人生 生活の再構造化 体力・性的能力・人間関係・思考の危機
13	中年期の心理 2	生殖性/停滞 世話 更年期 自殺 夫婦の危機 子どもの成長と独立
14	老年期の心理 1	加齢と老化 統.性/絶望 英知 高齢者のパーソナリティ
15	老年期の心理 2 まとめ	引退の危機 健康の危機 死の危機 サクセスフルエイジング

科目名	人間関係論（含カウンセリング）				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） 3-4 常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）				

《授業の概要》

発達とは何か、生涯発達とは何かについて考える。発達に及ぼす生得性と環境に影響やその重要性について学ぶ。乳児期から老年期までの各発達段階ごとの認知的・社会的特徴や発達課題や段階特有の問題やその対処などについて学ぶ

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

授業中随時紹介する

《授業の到達目標》

- * 発達・生涯発達とはなにか、について説明できる
- * 発達心理学で用いられる基礎的な用語や概念について説明できる
- * 発達におよぼす遺伝や環境の要因について説明できる

《授業時間外学習》

授業内容を復習しておく・・・次回授業での内容・用語についての質問に答えられるようにしておく

《成績評価の方法》

試験 100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション生涯発達心理学とは	オリエンテーション 発達の概念 発達の原理 発達観の変遷
2	発達と環境が発達に及ぼす影響	遺伝と環境 野生児の記録 家系研究 双生児研究 親の養育態度
3	乳児期の心理 1	乳児期の認知 感覚運動的知能 脱馴化 愛着 基本的信頼感/不信
4	幼児期の心理 1	幼児の認知 前概念思考期 直観的思考期 象徴機能 3項関係 心の理論ことばの獲得
5	幼児期の心理 2	社会性の発達 遊びの発達 自律性/恥・疑惑 主導性/罪悪感
6	児童期の心理 1	児童期の認知発達 具体操作期 クラスの概念 脱中心化 勤勉性/.等感
7	児童期の心理 2	ギャング集団 道徳性の発達 向社会的行動の発達 学校ストレス 心身症
8	青年期の心理 1	過渡期 文化相対論 自我の覚醒 自主自律の要求 異議申し立て 精神的離乳
9	青年期の心理 2	第 2 反抗期 脱衛星化 感情の論理 理想主義 自己主張・自己顕示
10	青年期の心理 3 成人期の心理 1	自我・一性の確立 再衛星化 職業への準備 恋愛と結婚 青年から成人へ仕事と家庭
11	成人期の心理 2	一家を構える 親意識 仕事における自己拡大 仕事と家庭 親密性/孤立 愛
12	中年期の心理 1	個性化 第 2 の人生 生活の再構造化 体力・性的能力・人間関係・思考の危機
13	中年期の心理 2	生殖性/停滞 世話 更年期 自殺 夫婦の危機 子どもの成長と独立
14	老年期の心理 1	加齢と老化 統・性/絶望 英知 高齢者のパーソナリティ
15	老年期の心理 2 まとめ	引退の危機 健康の危機 死の危機 サクセスフルエイジング

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》

哲学の主要テーマである「真理」と「知識」の問題についてどのような哲学的議論があるか概説し、哲学的思考の特徴を理解できるようにする。それを基に、哲学上の自然主義と反自然主義の各立場が知識と言語、言語と行為、意志と行為、心身問題といったテーマにおいてどのように展開されているかについて考察する。また、個人と社会（社会哲学）、実存の問題についても若干の考察を試みたい。

《授業の到達目標》

「哲学」とはどのような営みであるかについて理解できるようにする。人間が持ち得る「知識」の成り立ちについて、分析的に把握できるようにする。心身問題について理解できるようにする。個人と社会、公共の利益と社会契約という視座について理解できるようにする。個人の実存とコミュニケーションの成立に関して、客観的な視座を持てるようになる。

《成績評価の方法》

平常の課題レポート（60%）および学期末のレポート（40%）で評価する。

《テキスト》

門脇俊介著『現代哲学』産業図書

《参考図書》

授業中に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

- ・テキストの予習と復習を通して、哲学論文の要旨を読解できるよう練習する。
- ・授業で紹介する哲学者の思想について復習するとともに、参考図書や各哲学者の著作に触れてみることで理解を深めるように努める。

《備考》

- ・提出するレポートは必ずホッチキス止めをすること。
- ・その他受講上必要な注意事項については、最初の授業およびその都度授業内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	～哲学への誘い～ 哲学とは何か	授業進行のためのガイダンス 「哲学」の開始、古代自然哲学から近代の知識論へ
2	「知識」に関する自然主義と反自然主義の問題	人間が何かについて「知る」ということについての2つの異なる態度について
3	「知識」とは何か	「知識」とは何であり、どのようにして成立するのかについて
4	「知識」の2つのあり方	ア・プリオリな知識とア・ポステリオリな知識について
5	「信念」の正当化と知識	「信念」の正当化に関する異なる立場、心理主義と規約主義について
6	「知識」はどこに成立するのか	实在論と観念論の対立
7	「信念」はいかにして正当化されるのか	基礎づけ主義と整合説の対立
8	「知識」と「言語」の問題	「真理」と「知識」の基盤としての言葉の意味の由来、要素還元主義について
9	「言語」と「行為」の問題	言語規則と言語行為論について
10	「知識」はどこに成立するのか	知識論と心身問題
11	心身問題の異なる立場	随伴現象説、同一説および機能主義について
12	「意志」と「行為」の問題	行為の因果説と反因果説について
13	社会と哲学の問題	自由意志と一般意志について
14	社会と哲学の問題	一般意志と社会契約説について
15	個人の実存の問題 まとめ	コミュニケーションと正当化の問題および人間の現実存在（実存）の問題について

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、事実を超えてさまざまな世界を構築し、そこに触れる人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学及び現代小説を取り上げるが、各作品における言葉の持つ面白さや意味について考え、また作品のテーマについても考察する。

《テキスト》

毎回、作品の一部をコピーして配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

さまざまな文学作品に接して、それらの言葉を読み解き、作品のテーマについて考えることで、言葉というものについての理解を深める。またそのことにより、現代社会を生きていく上で参考となる、言葉によって表現された多様な価値観について自ら考える力を身につける。

《授業時間外学習》

配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

授業時の意見文やレポートなどを提出することによる平常点（30%）、及び、定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方とその生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	源氏の武将たちの戦い方と生き方について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らの生き方と死に方について考え、また『平家物語』のテーマである無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
6	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてふりかえり、言葉について考える。

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

日本の美術を知ることは、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物の資料をはじめ、視聴覚資料を多く提示し、受講生がこれまで気付かなかった日本美術の面白さを発見する手がかりとなる授業をめざします。

《授業の到達目標》

日常生活にある行事や習慣のなかに日本の美を見出すことができる。日本の文化について広く関心を持ち、自ら学ぶことができる。芸術全般を楽しむことができる。

《成績評価の方法》

日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの提出（100%）により評価します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介 授業内容説明	教員の版画制作の経験と日本美術との関連性について聞くとともに、講義の今後のありかたについての説明を理解する。
2	現代の美術作家紹介-1	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
3	現代の美術作家紹介-2	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
4	現代の美術作家紹介-3	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
5	現代の美術作家紹介-4	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
6	日本の信仰	自然崇拜 神道 仏教が美術に及ぼした影響を知り、日常生活にあるしきたりや習慣のなかにある日本の美を発見することができる。
7	仏教美術-1	仏教伝来から天平時代までの仏像を中心に鑑賞し、中国から朝鮮を経て日本に伝えられた仏像が、日本に定着していく過程の変化と魅力を感じ取ることができる。
8	仏教美術-2	平安時代の密教と鎌倉時代の禅宗について知り、それぞれに大きく異なる仏教信仰のありかたと、美術への表れを、鑑賞から感じ取ることができる。
9	日本の美術-1	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。曼陀羅 倭絵 水墨画
10	日本の美術-2	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。画卷
11	日本の美術-3	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。狩野派 等伯
12	日本の美術-4	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。琳派
13	日本の美術-5	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。奇想の絵師
14	日本の美術-6	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。浮世絵
15	日本の美術-7	日本美術の特質について、そのいくつかをイメージすることができる。

《テキスト》

なし。

《参考図書》

『日本美術の特質』矢代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》

各授業時に所定の内容を指示します。

《備考》

レポートの作成と提出の要領については、12月中旬の授業時に連絡する予定です。

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・ 課題レポート（100%）

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代 ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス 印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派 現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクタにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験の観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%レポート・小テストなど10%受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣
 (とても詳しく、心理学全般の内容が記載されています)

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
 ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説。《序章 §1～9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ。《第1章 §1～2, §6～7》
3	覚えているって、どういつこと？(記憶)	記憶のプロセス、記憶にまつわるいくつかの事象。《第3章 §4》
4	どうやって、学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方。条件づけなど。《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方。《第2章 §5～9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	私たちが欲するものを分類。《第2章 §1～3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	欲求の階層。思うようにいかないときの行動。《第2章 §2～4》
8	君って、どんな人？(性格)	性格についての心理学の見方。《第4章 §1, 第5章》
9	君って、どんな人？(性格)	質問紙による性格検査の実施。《第4章 §1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観。《第4章 §2～3》
11	あの人が、きつこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質。《第6章 §1～2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果。《第6章 §4》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論。心理療法にも言及。《第5章 §4, 第8章》
14	これまで何を学んだか？(振りかえり)	これまでの内容の振りかえり。
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解。

科目名	宗教と文化 (仏教)				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性をもち、労を惜みず物事に進んで取り組む力(フォローアップ力・共感力を含む) 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力(観察力と分析力) 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力(コミュニケーション力)				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
 現代仏教についての理解をめざす
 仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
 浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約30%
 定期テスト 約40%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の手習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

科目名	宗教と文化（キリスト教）				
担当者氏名	塚本 潤一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

なぜ人間は対立するのか、なぜ国際社会は緊張状態が続くのか。それはこの世界が多様な価値観に満ちているにも関わらず、それを知らず、受け止めようとしなからである。まず多様な価値観を理解し、相手を受け入れるところから、共存関係は始まる。本講義では、キリスト教について学ぶ。そしてキリスト教が本来内包していたはずの、異なった価値観の人々を受け入れる視点を、講義を通して身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

- *キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。
- *キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

- *毎回の講義後に配布するレポート用紙を用いて、次回の講義に提出する復習レポート（60%）、および期末レポート（40%）を合算して評価する。
- *授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。ビデオを使って、世界の諸問題およびキリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	世界の「今」を知る	この世界にはさまざまな問題がひしめいている。人口問題、環境問題、水・食糧問題、貧困と格差、民族間・宗教観対立など、世界の「今」を知る。
3	中東問題をひもとく	一向に解決のきざしの見えてこない中東問題。特に、パレスチナ・イスラエル問題を三千年以上にわたる歴史をひもときながら解決の糸口を探る。
4	旧約聖書を学ぶ（1）	奴隷で始まり、奴隷に終わってしまった旧約聖書の悲しみの歴史を学ぶ。力と富による繁栄は一瞬で過ぎ去り、すべてを失ってしまったことを学ぶ。
5	旧約聖書を学ぶ（2）	力と富をひたすら求めてきた旧約聖書の民は、すべてを失った時に、大きな価値観の転換を迫られる。自分たちが本当に求めるべきものはなにであったのか？
6	旧約聖書を学ぶ（3）	力と富ではなく、神の言葉が必要であると気づいた民に、神は「救い主」を送ることを約束する。「救い主」とは何なのか、その驚きのイメージを学ぶ。
7	新約聖書を学ぶ（1）	今から二千年前に一人の人が生まれた。その名は「イエス」。30年あまりの短い生涯であったが、その存在は世界を動かすことになった。その生涯を学ぶ。
8	新約聖書を学ぶ（2）	イエスの言葉、行い、他者との関わりについて学び、その独創性に触れる。そしてイエスの伝えなかった「愛」「罪の赦し」について考える。
9	新約聖書を学ぶ（3）	イエスはたった一年の活動で、逮捕され、無実であったにもかかわらず、十字架刑という死刑で息を引き取る。なぜイエスは殺されなければならなかったのかを探る。
10	キリスト教の成立	十字架の上で死んだイエスは復活し、その愛は時を越え普遍的なものとなった。こうして、旧約聖書の「救い主」とは、イエスであったと受け止めるキリスト教が成立する。
11	ユダヤ教、イスラム教、キリスト教の関係を知る	現代において対立関係にあるように見えるユダヤ教、イスラム教、キリスト教が、実は同じ旧約聖書を正典とする親戚関係にあることを学ぶ。
12	キリスト教の諸教派について学ぶ	キリスト教の成立以降、ローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテスタント教会と様々な教派が生まれてきた。それらを見渡し、整理していく。
13	キリスト教の歴史の光と影	キリスト教の二千年間の歴史は、素晴らしい光の側面があり、同時に世界に様々な影を落としてきた。その功罪を歴史的に振り返る。
14	対立を乗り越えるために	文明は衝突したままなのか、諸宗教は対立を続け、常に国際関係は緊張状態が続くのか。対立を乗り越え、世界が共存関係を築くためには何が必要なのか、共に考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であることを整理する。また国際理解をどのように深めていけばよいのか整理する。

《テキスト》

プリント（毎授業ごとに配布する）

《参考図書》

- 『よくわかるキリスト教』土井かおる著（PHP研究所）2004、
- 『不思議なキリスト教』橋爪大三郎×大澤真幸（講談社現代新書）2011、
- 『キリスト教との出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、
- 『旧約聖書に強くなる本改訂新版』浅見定雄著（日本キリスト教団出版局）2010

《授業時間外学習》

- *その日の復習レポートをまとめ、次回の授業に提出する。（レポート用紙は授業ごとに配布する）
- *日頃からキリスト教の正典である聖書を読んでおく。
- *配布する資料が散在しないように整理しておく。
- *新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

*私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

科目名	宗教と文化（イスラム教）				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

世界におけるムスリム（イスラム教徒）の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク（イスラムの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラムに関心を持ち、激動期に入ったイスラムをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる現状を把握できる。
- ・イスラムに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・授業終了後に課すレポート(50%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	結婚、葬礼におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面からイスラムと民主主義の関係について考察する。
14	国際理解とイスラム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラム	日本とイスラム圏の交流を歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考図書》

白杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか』青土社、2011/ 河田尚子『イスラムと女性』国書刊行会、2011/小杉泰・長岡慎介『イスラムを知る12 イスラム銀行金融と国際経済』山川出版社、2010/ 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003/ レザー・アスラン『変わるイスラム 源流・進展・未来』藤原書店、2009

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムとの接点を持つ（例：モスクの見学）。

《備考》

- ・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	生活とデザイン				
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

我々の生活は携帯電話から超高層ビルに至るまで、たくさんの「もの」に取り囲まれています。それらは実用的価値を満たすだけでなく、社会的価値、美的価値が反映された、価値観の総体として捉える事ができます。本講義では、このような身の回りのデザインと価値との関連について多面的に考察します。

《授業の到達目標》

デザイン一般に関する基礎知識を身につける。
 デザインが決定されるに至った背景、要因について分析的に理解する能力を身につける。
 デザインが生活における価値観の反映である事を理解する。

《成績評価の方法》

授業中に毎回実施するレポート(70%)、及び、学期末に実施する学期末レポート(30%)によって評価します。また授業ノートの提出が単位認定の必要条件になります。

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考図書》

- 以下のような文献が授業の理解を深めます。
- ・『世界デザイン史』阿部 公正、美術出版社,1995
 - ・『近代椅子学事始』島崎 信、ワールドフォトプレス,2002
 - ・『20世紀ファッションの文化史』成実 弘至、河出書房新社,2007

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査しておいてください。
- ・復習の方法:授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作して下さい。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、一切出席回数に含めません。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デザインとは何か	実用品と贅沢品と芸術作品について(ガイダンス)
2	建築のかたちは何によって決まるか	住宅と家族の生活の関わり
3	携帯電話デザインの変遷	携帯電話のデザインにみるマーケティング手法
4	材料と椅子のデザイン	椅子のデザインを通じて考える材料・技術の発展
5	デザインと地域性	北欧デザインにみるデザインと社会体制の関連
6	デザインの歴史(1)	クラシックなデザインの系譜(ギリシア・ローマ期からゴシックの様式)
7	デザインの歴史(2)	科学技術の発展を背景としたデザインの変化(ルネサンスから新古典様式)
8	デザインの歴史(3)	社会の変化とデザインの関わり(アーツ・アンド・クラフツからモダニズム)
9	映像の構成方法	映画・ドラマにみる映像作品の構造と文法
10	自動車の発展とデザイン	自動車デザインの歴史とパラダイムシフト
11	近代以降のファッションの歴史	20世紀ファッションの系譜と大衆化現象
12	都市のデザインと思想	世界の都市における都市形態の決定要因
13	和風デザインの系譜	懐石料理と茶室の背景
14	授業のまとめ	デザインと価値観の関わりについて
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーションと講評

科目名	色彩学				
担当者氏名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力(コミュニケーション力)				

《授業の概要》

私達の生活は色に囲まれた色彩化の時代となり、衣・食・住など生活環境はカラフルになっている。色は用い方を間違えると視覚上や心理面において、むしろ不快感を感じさせる場合もある。授業では快い色の調和を得るには、どのように考えればよいのか、また色彩が私達の生活にどのような影響を与えるのか解説する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『生活と色彩』(朝倉書店)

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「カラーシステム」「色の見え方」「色の感情効果」「配色調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を理論だけでなく「色」でも理解しなければ、色彩学を理解した事にはならない。色彩理論の理解だけでなく、色で活用し応用する事ができなければ、その理論の知識は全く意味の無いものになってしまいます。理論を色でも理解することがポイントです。

《授業時間外学習》

「非常出口」の表示はベース(地色)のが白と緑色の2種類あるが、その違いは？フランスの国旗の青・白・赤、理髪店の赤・青・白のそれぞれの色は何を表わしているのか？子供の可愛らしい色はどのような色が注意して見ておくこと。

《成績評価の方法》

小テスト(50点)、カラーリング課題(50点)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。
2	「住」の色	「騒音」という言葉があるように、環境において「騒色」という言葉がある。それはどのようなことなのか解説する。
3	色の感情効果(1)	赤、橙、黄、青などそれぞれの色相がもっている、色の感情効果について。
4	色の感情効果(2)	色の連想、象徴について解説し、色の好みと性格について説明する。
5	色彩体系(カラーシステム)	色彩学の基礎となる色の三属性を基に、カラーシステムの成り立ちを解説する。
6	色名	平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。
7	色のイメージ	同じ人でも着用する色によってその人のイメージが異なる。どのような色調がどのようなイメージ表現できるのかを学ぶ。
8	色の見え方の現象	日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故そのような現象が起こるのか考える。
9	配色調和(1)	美しい調和の配色を得るには、配色調和の基本形式を理解し、その調和理論に従って実際にカラーカードで配色を作成する。
10	配色調和(2)	「可愛い」「落ち着いた」感じなど、色相、トーンなどのカラーシステムを基本に、自分が思い描くイメージをカラーカードで作成する。
11	色の伝達性	言葉とか文章ではなく、色だけによって何かを伝える事ができる。色が私達の行動に与える影響について事例をもとに説明する。
12	色彩と文化	国によって色の捉え方が異なることを説明する。例えばリンゴは日本では赤をイメージするがフランスではアップルグリーンという色名があるように全く異なる。
13	「衣」(ファッション)の色彩	各シーズン(春、夏、秋、冬)に発表される流行色はどのようにつくられるのかについて解説する。
14	「食」の色	美味しそうに見える料理の配色について、また色と栄養価の関係から捉えた、食の五原色について説明。
15	色の見え方	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され脳で感じているという色知覚について学ぶ。

科目名	音楽表現				
担当者氏名	田中 敬子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む） 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》

音楽の3大要素のリズム・メロディー・ハーモニーのうち、まず音符が読めなくてもできるリズムから授業を始めます。リズムアンサンブル、ボディーパーカッション、ボイスパーカッションでリズムで表現できる様々な音楽活動を行います。単旋律の活動としてハンドベル、カウベル、トーンチャイムなどのアンサンブルをします。最終的にはハーモニーをつけてのアンサンブルを行います。

《授業の到達目標》

さまざまなリズムが理解できるようになる。
共同活動を通して、自分の役割を理解できるようになる。
アンサンブルを行うことで、より深く音を聞くようになる。
アンサンブルの音楽活動の楽しさを知る。
自らアレンジすることができるようになる。

《成績評価の方法》

授業態度30%（座席指定。積極的な授業参加を評価）。
授業中に実施の学期末発表50%（定期試験は実施しない）。学期末発表は全員の前での実技発表（個人発表、グループ発表など任意）
レポート20%

《テキスト》

適宜プリントを配布

《参考図書》

《授業時間外学習》

原則的に予習の必要はない（必要な時のみ事前に指示する）。
毎回の授業時の実践が一番大切である。
復習については毎回の授業内容を再確認して不明な点があれば質問して下さい。

《備考》

1. 授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。2. 講義室の使用上の注意事項を厳守し、特に室内は飲食厳禁、携帯電話の使用厳禁（発覚時は減点）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽表現』授業内容の説明と実践	シラバスを用いての詳細説明。リズムについての説明と簡易なアンケート調査。
2	リズムでアンサンブル	2グループによるリズムアンサンブル。リズム打ち+リズム打ち、ピアノとリズム打ち、歌唱とリズム打ち、等
3	リズムでアンサンブル	3～4グループによるリズムアンサンブル。「釣られたら負けよ」勝ち抜き合戦。
4	ボディーパーカッション	初級ボディーパーカッション～中級ボディーパーカッション
5	ボディーパーカッション	上級ボディーパーカッション。創作してみよう。
6	ボイスパーカッション	ボイスパーカッションのみのアンサンブル。ボイスパーカッション+ボディーパーカッション。
7	アルプスの楽器	カウベル、木のスプーンの楽器紹介。カウベルアンサンブル。カウベル1人演奏。アルプスの曲を演奏しよう。
8	ハンドベル	ハンドベルの楽器紹介。ハンドベルで楽曲を演奏するまでの準備について。ハンドベルアンサンブル。
9	ハンドベルの復習 トーンチャイム	ハンドベルの復習。トーンチャイムの楽器紹介。トーンチャイムを鳴らしてみよう。
10	トーンチャイム	トーンチャイムで楽曲を演奏するまでの準備について。トーンチャイムアンサンブル。
11	トーンチャイムの復習、 学期末発表について	トーンチャイムの復習。学期末発表の構想。
12	学期末発表の練習	個人またはグループで練習。
13	学期末発表の練習	個人またはグループで練習。
14	学期末発表	全員の前で個人またはグループで実技発表。
15	総合復習とレポート提出	総まとめとレポート作成・提出。

科目名	アメリカ文学				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

19世紀半ば、アメリカ合衆国が文化的にも物質的にもイギリス本国やヨーロッパから独立し、新興国として世界に台頭し始めた時代、アメリカ・ルネサンス期（1830 - 60）の文学に関して考察します。この時代の思潮や文化的背景のイメージをつかむために、作家・思想家の紹介ビデオや解説を参考にしながら、実際に英文テキストを精読しアメリカ文学作品を味わってみたいと思います。

《授業の到達目標》

アメリカ・ルネサンス期に輩出した思想家・作家並びにその作品群を紹介し、異文化的なアメリカ合衆国の文化・社会の基底をなす精神性を主体的に解することができるようになることを目標とします。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》

配布されるプリントの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	アメリカ文学史の概要	1776年に独立を宣言をしたアメリカ合衆国の文学史を概観します。
2	アメリカ・ルネサンスの概要	1800年代半ば多くの思想家や作家を輩出したアメリカ・ルネサンス期を概観します。
3	思想家 Emerson	Ralph Waldo Emerson (1803 - 82) の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
4	EmersonのNature	EmersonのNatureの基底をなす思想を紹介・解説します。
5	EmersonのEssays	EmersonのEssaysの中心となる概念を紹介・解説します。
6	思想家 Thoreau	Henry David Thoreau (1817 - 62) の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
7	ThoreauのWalden	ThoreauのWaldenの基底をなす思想を紹介・解説します。
8	ThoreauのCivil Disobedience	ThoreauのCivil Disobedienceの中心となる概念を紹介・解説します。
9	作家 Hawthorne	Nathaniel Hawthorne (1804 - 64) の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
10	HawthorneのThe Scarlet Letter (1)	HawthorneのThe Scarlet Letterの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
11	HawthorneのThe Scarlet Letter (2)	HawthorneのThe Scarlet Letterの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
12	作家 Melville	Herman Melville (1819 - 91) の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
13	MelvilleのMoby-Dick (1)	MelvilleのMoby-Dickの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
14	MelvilleのMoby-Dick (2)	MelvilleのMoby-Dickの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、具体的な成果を説明することができるように総括します。

科目名	論説と評論				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

この授業では、新書などを中心に、現代社会におけるさまざまな問題を論じた文章を扱う。そこで述べられている多様な意見を読み、その内容を論者の立場に立って理解し、それに対して、自分たちの意見を持つように心懸ける。

《テキスト》

毎回、コピーを配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

論説文の読解力を身につけ、できるだけ論理的に物事を考え、自らの意見を持てるようにする。

《授業時間外学習》

配布したプリントを熟読し、分からない言葉は辞書を引いておくこと。

《成績評価の方法》

授業中に提出する意見文（30%）と定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業方法の説明	15回の授業で取り上げる文章や、授業の流れについて説明する。
2	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、日本の伝統文化などについての評論を読む。
3	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、日本の伝統文化などについての評論を読む。
4	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、日本の伝統文化などについての評論を読む。
5	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困、競争、市場経済についての評論を読む。
6	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困、競争、市場経済についての評論を読む。
7	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困、競争、市場経済についての評論を読む。
8	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化社会についての評論を読む。
9	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化社会についての評論を読む。
10	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化社会についての評論を読む。
11	人間の身体についての評論を読む	日本人の身体とはどのようなものか、についての評論を読む。
12	人間の身体についての評論を読む	日本人の身体とはどのようなものか、についての評論を読む。
13	近代とは何かについての評論を読む	明治時代に西欧から導入された近代のさまざまな仕組みのゆがみが指摘されているが、そのことについての評論を読む。
14	近代とは何かについての評論を読む	明治時代に西欧から導入された近代のさまざまな仕組みのゆがみが指摘されているが、そのことについての評論を読む。
15	授業のまとめ	これまで読んできた評論の内容について振り返り、まとめる。

科目名	歴史学				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

歴史って、嫌だよな。奇々怪々な暗記にウンザリしたよな。あの、年表ってヤツもヤナ奴だよな。でも、安心して！ この講義じゃ、「物知り歴史」や「暗記物の歴史」は扱わないからね。覚えるんじゃないで、感じて欲しいんだ、「人間の変わらない思考方法」を。扱う主な事象は、人間の感性が最も鮮やかになる「自由＝非日常・反秩序のアヤシゲな時空間」です。日本の前近代を多く取り扱います。

《授業の到達目標》

1. 時代・地域・文化が異なれば、全く異なる異なる思考・価値観が存在することを納得できる。2. 現代人の魂の根に、そのような思考・価値観との共通項が潜んでいることに気づき、共感することができる。3. 人間の価値感の根にある「自由」について一生をかけて考え続けて行く「シード（種）」を獲得できる。

《成績評価の方法》

学期の最後に行うペーパーテストで評価します。自筆ノート（ワープロ書き不可、コピー不可）と直接配布したレジュメ（コピー不可）の持ち込みのみ可とします。

《テキスト》

なし

《参考図書》

勝俣鎮夫『戦国時代論』 学術書だけど、読みやすくブツ飛んだ内容。ノ網野善彦『増補 無縁・公界・楽』 必読教養書。危険な内容。ノ橋爪大三郎『はじめての構造主義』 「柔らかく頭」のための基本書。ノ今村仁司『排除の構造』 頭痛に襲われたいという方へ。ノ『週間朝日百科 日本の歴史』 前衛的な内容を平易でグラフィカルに読みやすく。

《授業時間外学習》

この講義に出席するにあたっては、常識を一度捨て、柔軟な思考ができる状態になるよう、頭の柔軟運動をしてください。その際には、前回の講義をよく思い出し、反芻してください。そして、参考文献を一読してみることをお奨めします。格段に講義が理解しやすくなります。

《備考》

常識と衝突します。常識的価値観・思考で十分という方には不向きです。大学教員の責務として、最新の研究成果を反映させます。故に授業計画とは完全に一致しない場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	当該講義の目的
2	歴史の捉え方・時間のイメージ	「直進的な時間」と「循環する時間」、「西洋の時間」と「東洋の時間」。
3	歴史の見方	アナール歴史学＝社会史における、見方・考え方。
4	反秩序の場 1	「市」「盛り場」「遊郭」「悪所」「アジール（避難所）」と「聖なる場」・「性なる場」
5	反秩序の場 2	荒ぶる神仏の場＝後戸空間、下級宗教者、芸能民
6	反秩序の場 3	「辺境」「マージナル・マン」「倭寇」
7	反秩序の時	「祭」「小正月」「盆」
8	中心と周縁 1	「王と乞食」「第三項排除」「排除の構造」「均質化原理」「差異化原理」
9	中心と周縁 2	「権力」「自由」
10	自由の図像学	「絵巻物」「乞食」「市」「寺社」
11	自由からの闘争	「ナチス」「大政翼賛会」「強制収容所」「監獄国家」
12	新自由主義への批判	「交換」「互酬」「再配分」「自由主義」「ロイック＝ヴァカン」「軽犯罪法」
13	歴史は終焉するか	「フランス＝フクシマ」「中国化する日本」「宋」「市場の連鎖」「均質化原理」「差異化原理」
14	総括 1	全体を振り返る
15	総括 2	全体を振り返る

科目名	日本語表現法				
担当者氏名	野田 直恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力） 3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー） 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力） 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

論文やレポートの基本的な書き方を、実践を通して身につけることが目標である。具体的には、さまざまな論文に接しながら、文体や様式・資料の収集法・資料に基づく問題の発見の仕方・論旨の展開法といったことを学び、各自でもテーマに沿った文献調査や発表という段階を踏んで論文の完成を目指す。そのほか、言語知識を深めるための課題演習も行う。本講義は「日本語（読解と表現）」の応用発展編にあたる。

《授業の到達目標》

論文やレポートの一般的なスタイルについて説明できる。
 状況に応じて用語を使い分けできる。
 基本的な手順にそって論文やレポートを作成できる。
 資料調査を通じて問題点を発見できる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内における発表等（質疑応答も含む）の内容および姿勢30%
- (2) 課題等の提出状況およびその内容20%
- (3) 定期試験（レポート試験）50%

《テキスト》

『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）小笠原喜康、講談社、2009
 その他、必要に応じてプリントも配布する。

《参考図書》

『国語表現ハンドブック 新訂版』長谷川泉他（編著）、明治書院、1986
 『ゼミ・論文発表のためのPowerPoint』富士通オフィス機器株式会社、FOM出版、2006

《授業時間外学習》

- (1) 授業時に配布する課題プリント等を指定時までには仕上げる。こと。（提出または提示を求める。）
- (2) 教科書の指定箇所や配付資料等を指定時までに通読しておくこと。（理解度確認のための小テストを課すことがある。）

《備考》

授業内容をふりかえって不明な点が出てきた場合は、遠慮なく質問してください。（授業時以外も可。メールでの質問も受け付けます。）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	論文の種類	さまざまな分野における論文のスタイルの共通点と相違点を理解する。
2	論文の鉄則	論文を書くにあたって守らねばならないことを理解する。
3	論文の構造	「第1回」で扱った論文の共通点から、それらの基本的な構造を理解する。
4	論者の視点	「第1回」で扱った論文の論者の立場で論者が問題意識を持った経緯を考え、論者が問題を把握するまでの過程を理解する。
5	論者の工夫	「第1回」で扱った論文の論者がどのように問題を論じているかを読みとり、その論者なりの問題を論じ方を理解する。
6	論文の善し悪し	さまざまな論文を読み、わかりやすい論文の特徴について理解する。
7	テーマの模索	「第5回」までの学習内容に基づき、各自の論文のテーマを模索する。
8	資料の収集	各自のテーマに基づいて必要と思われる資料を想定し、それらの入手方法を検討する。
9	資料の取捨	各自で集めた資料の要素を類別し、論の構成に必要なものと参照にとどめるものを選択吟味する。
10	構想を立てる	「第3回」・「第4回」の学習内容をふまえ、論のおおまかな展開を考えて構想を立てる。
11	全容の確認	構想に基づいて下書きを結論部分まで仕上げ、論の全体の流れを確認する。
12	論点の整理	「第5回」・「第6回」の学習内容をふまえ、論点をさらに明確にするための工夫を試みる。
13	客観性の獲得	下書きに基づいて発表を行い、質疑応答を通じて客観的に論の整合性を検討する。
14	文の推敲	下書きをいったん清書し、最終的な修正に取り組む。
15	まとめ	完成した論文を提出し、これまでの学習内容を再確認する。

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》

目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考図書》

適宜指示する

《授業の到達目標》

リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》

予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》

授業態度（40%）および定期試験による評価（60%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道德、法の適用
2	基本的人権	プライバシー権
3	基本的人権	表現の自由
4	基本的人権	生存権
5	基本的人権	自己決定権
6	基本的人権	信教の自由
7	基本的人権	法の下での平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法	結婚・離婚、内縁
11	家族と法	親子、親権
12	家族と法	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

定期試験期間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	社会の規範、法の種類、法システム、国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	明治憲法の成立過程と特質、日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	人権の特色・種類、「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	「法の下での平等」原則について、また、「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	「象徴天皇制」の意義・内容、選挙制度の内容、「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	国会の組織・権能、内閣の組織・権能、議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	司法権独立の意義、裁判所の組織・権能、司法の民主的統制、また、「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）				

《授業の概要》

現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》

様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。
 差別を見抜く力を身につけましょう。
 人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。
 人権感覚を豊かにしましょう。いのちとは何かを総括します。

《成績評価の方法》

定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》

テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

共生教育のすすめ 仲田 直
 これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座 上杉聡
 これでなっとく！部落の歴史 続私のダイガク講座 上杉聡

《授業時間外学習》

配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》

出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます。
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考えます。
5	日本近世の身分制について	土農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくられたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	性差別の歴史	「元始女性は太陽であった」にも関わらず、女性差別はいつからつくられ、固定概念しての男女の様々な性差別を考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） 3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー） 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

政治学のボキャブラリーを使用して、現実には起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年他の参考文献は講義をすすめるながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

（1）予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。（2）復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	国際関係論				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） 3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー） 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》

自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。

20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本 [帝国主義～現代] 篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史 - 世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
2	前史・帝国主義時代（1）	19世紀末の世界状況
3	帝国主義時代（2）	列強による世界分割
4	帝国主義時代（3）	アジアの近代
5	第1次世界大戦（1）	列強の対立・再編
6	第1次世界大戦（2）	開戦・終戦処理
7	戦間期の時代（1）	ヴェルサイユ体制
8	戦間期の時代（2）	ワシントン体制
9	第2次世界大戦（1）	世界恐慌、ファシズムの台頭
10	第2次世界大戦（2）	極東の危機、日中戦争
11	第2次世界大戦（3）	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
12	冷戦構造（1）	戦後処理、米ソ対立
13	冷戦構造（2）	中東戦争、ベトナム戦争
14	第3世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
15	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、分かった社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。
 (配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
 定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。
 (配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵(2007,有斐閣アルマ)

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也(2000,日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析(1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、..と他者
3	行為の分析(2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析(3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析(4)正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類 社会的カテゴリー
6	行為の分析(5)予言の..成就	予言の..成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析(6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイム
8	社会集団と秩序(1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序(2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序(3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序(4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる(1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる(2)国家と..民社会	個人と社会、..由と連帯、..民社会、共同体、私的領域と公共領域 公的領域、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	(適宜指示を行う)
15	学習の総まとめ(2)	(適宜指示を行う)

科目名	ジェンダー論				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること/男であること」の文化的・社会的側面について多面的に理解する。まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点をういながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)作業シートによって、知識の定着を確認するとともに、社会問題へのジェンダーの視点によるアプローチを身につける。

《授業の到達目標》

- (1) ジェンダーについて社会的に語るができるようになる。
- (2) 日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できるようになる。
- (3) 講義のなかから、分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できるようになる。

《成績評価の方法》

毎回実施する「作業シート」の提出（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）
 「学習のまとめ」シート（「持ち込み可」）を完成させること（配点：協力して学ぶ力、データを読む力、社会問題に取り組みようとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ジェンダー論の基礎(1)	ジェンダーとは何か？（ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス/ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学）
2	ジェンダー論の基礎(2)	「性」の多様性と「女らしさ/男らしさ」の形成
3	結婚・家族はどう変わったか(1)	少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択：少子化とジェンダー
4	結婚・家族はどう変わったか(2)	男の子育て/女の子育て：ケアとジェンダー
5	結婚・家族はどう変わったか(3)	高齢者の生活実態：ケアとジェンダー
6	学習のまとめとワークショップ	(適宜、学習内容を提示します)
7	女の時間/男の時間(1)	アンパイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン：労働とジェンダー
8	女の時間/男の時間(2)	非正規雇用、雇用管理、賃金格差：雇用とジェンダー：雇用とジェンダー
9	学習のまとめとワークショップ	(適宜、学習内容を提示します)
10	学校の中のジェンダー(1)	ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム：教育とジェンダー
11	学校の中のジェンダー(2)	進路形成と進学、専攻分野の分化：教育とジェンダー
12	マスメディアとジェンダー(1)	メディアのなかの女性像/男性像、メディア行動、メディア産業：情報社会とジェンダー
13	学習のまとめとワークショップ	(適宜、学習内容を提示します)
14	性・こころ・からだ(1)	性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ：性とジェンダー
15	性・こころ・からだ(2)	セクシュアリティと暴力、性の商品化：性とジェンダー

《テキスト》

『女性のデータブック 第4版』井上輝子・江原由美子編

《参考図書》

『ジェンダーの社会学』江原由美子（放送大学教育振興会）
 『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄/牟田和恵編（世界思想社）
 『社会学がわかる事典』森下伸也（日本実業出版社）『ジェンダー入門』加藤秀一（朝日新聞社）『女性学・男性学』伊藤公雄/樹村みのり/國信潤子（有斐閣）

《授業時間外学習》

(1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。(2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。(3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）				

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう(1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう(2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割(1)	競争の市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割(2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう(1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう(2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう(3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

科目名	物理学				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

シラバスを登録するシステムに問題があるため、詳細な内容については初回授業時に説明するが、概要は以下のとおり。

この授業では物理の考え方を知るために、簡単な例とともに、「物理学はどのようにものを見るのか」から始まり、「物理学とは何か」・「物理学の考え方とはどのようなものか」に向かって話を進める。なお、受講生の状態により内容あるいは進行方法を多少変更することもある。

《授業の到達目標》

この授業では物理学の考え方の基本を身に付け、一見複雑な現象あるいはお互いに何の関係もないように見える複数の現象の影に隠されている真理や共通性を見抜こうという姿勢を身に付けることを目標とする。とりわけいくつかの具体例において、物理学的な観点から理由を挙げて説明できるようになることを目指す。

《成績評価の方法》

毎回の授業への取り組み（20%）、レポート及びペーパーテスト等（80%）により評価する予定であるが、詳細はオリエンテーションにおける履修者の意見も交えて決定する。

なお、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

未定

《参考図書》

シラバスを登録するシステムに問題があり、正確に登録できないため、詳細な内容については初回授業時に説明する。

《授業時間外学習》

シラバスを登録するシステムに問題があるため、詳細な内容については初回授業時に説明する。

《備考》

人類が持つ「世界観・考え方」は多様ですが、その中でも物理的世界観・考え方は最も幅広く強力なものの一つであり、自然科学分野の基礎となっています。ぜひ挑戦してみてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の進め方についての説明と履修者の意見の確認、及び、評価方法の決定（大切なので履修希望者は必ず出席のこと）
2	物理の考え方（1）	物理学の考え方と数学の簡単な復習（1） 教学システムに問題があるため、詳細な内容については授業時に説明（以下同様）
3	物理の考え方（2）	物理学の考え方と数学の簡単な復習（2）
4	力学の初歩と基本定理（1）	静止状態と力の計算
5	力学の初歩と基本定理（2）	力の釣り合いと慣性の法則および作用反作用の法則
6	力学の初歩と基本定理（3）	加速度と運動方程式（1）
7	力学の初歩と基本定理（4）	加速度と運動方程式（2）
8	力学の初歩と基本定理（5）	運動量とその保存
9	力学の初歩と基本定理（6）	簡単な例を少し数式で考える
10	電磁気学（1）	光や波の性質について（1）
11	電磁気学（2）	光や波の性質について（2）
12	相対論	時空間4次元の世界
13	身のまわりの物理学	統計力学・熱力学、非平衡系の物理学
14	総合演習（1）	問題演習と実験
15	総合演習（2）	これまでのまとめ

科目名	化学				
担当者氏名	薬師寺 大二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3~4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度(知的好奇心・探究心)				

《授業の概要》

原子や分子の構造、化学結合、物質の状態、有機化学など、化学の基礎から応用までをパワーポイントを使って、視覚的にわかりやすく解説します。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

- ・「新・物質科学ライブラリ1 基礎 化学」 梶原篤・金折賢二 共著 (サイエンス社)
- ・「一般化学」 長島弘三・富田功 共著 (裳華房)

《授業の到達目標》

生活に必要な衣服や日用品、医薬品など、我々は化学の恩恵を受けています。本講義では、化学が我々にとって必要かつ身近なものだと感じてもらい、また化学の理解を通じて科学的思考を養います。

《授業時間外学習》

授業で配布されたプリントを必ず見直し、分からなかったところは参考書を見るなどして確認してください。

《成績評価の方法》

定期試験により評価(100%)します。

《備考》

積極的な授業参加を期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	化学の歴史的背景を踏まえ、化学の基本法則や原子の構成について解説する。
2	原子軌道	原子軌道のエネルギー準位や多電子原子の構成原理について解説する。
3	元素と周期律	元素の周期性、イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度などについて解説する。
4	共有結合と分子軌道	共有結合の形成、分子軌道のエネルギー、結合と結合などについて解説する。
5	分子の形と混成軌道	メタン、エチレン、アセチレンの形と混成軌道について解説する。
6	種々の化学結合(1)	ファンデルワールス力、配位結合、水素結合などについて解説する。
7	種々の化学結合(2)	金属結合と金属結晶、イオン結合とイオン結晶などについて解説する。
8	物質の三態	理想気体の状態方程式、実在気体、蒸気圧曲線などについて解説する。
9	混合物の状態変化	濃度、ドルトンの分圧の法則、蒸気圧降下、浸透圧などについて解説する。
10	化学反応(1)	酸・塩基反応について解説する。
11	化学反応(2)	酸化還元反応について解説する。
12	有機化学の基礎	飽和炭化水素、不飽和炭化水素、IUPAC命名法などについて解説する。
13	立体化学	立体構造の表示法、構造異性体、立体異性体などについて解説する。
14	低分子有機化合物	官能基、アルコール化合物、カルボン酸化合物などについて解説する。
15	学習のまとめ	これまで学習してきた内容の総括を行う。

科目名	生物学				
担当者氏名	石井 禎基				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

講義全体をとおして、生物に共通する原理や生命活動を支えるしくみを理解できるように、「エネルギー」、「情報伝達」、「システム」をキーワードにして概説していく。

《授業の到達目標》

この生物学の講義の各テーマを自分なりに自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。また、生物学はただ単に生物に関する学問でなく、現代の社会背景を考える一助となる学問である。そのため、この講義が新聞記事やテレビ番組などのさまざまな内容をより深く理解する手助けとなることを期待する。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト（70%）と平常点（30%）により評価する。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 南雲保 編集（羊土社）
 フォトサイエンス生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

《参考図書》

ケイン生物学 石川統 監訳（東京化学同人）
 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 和田勝 著（羊土社）
 理系総合のための生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 編集（羊土社）
 エッセンシャル細胞生物学 中山桂子・松原謙一 監訳（南江堂）
 ヒューマン・イマジネーション 坂井建雄・岡田隆夫 監訳（医学書院）

《授業時間外学習》

生物学の用語とその定義を理解し、その用語を利用しながら生物学の事象を自分の言葉で説明できるように復習をする。

《備考》

常に考えながら講義を聴くこと。大切だと思うところはメモをとること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物学について	生物学におけるものの考え方と生物学の階層構造について。
2	生物とは	生命の歴史の概観、生物の分類体系、生物の共通する特徴など。
3	生命系の化学的構成部品	生物は、共通する基本的な物質からできている。
4	細胞膜と浸透圧	生命の基本単位である細胞をを形作る細胞膜の特性と細胞に作用する物理的現象について。
5	細胞内外への物質の出入り	細胞は、細胞膜を通して必要な物質を取り入れ不必要なものを排出する。また、産生した物質を分泌する。
6	生物・環境間のエネルギーの流れ	生態系においてエネルギーと物質は循環している。
7	代謝・酵素・共役反応	生命活動におけるエネルギーの受け渡しはどうやって行われるのか。
8	細胞内のエネルギーの流れ	細胞内でエネルギーはどのような形で利用されるのか。
9	細胞間の情報伝達	多細胞生物は、細胞どうし互いに連絡をとっている。
10	細胞内の情報伝達	他の細胞から送られた情報が細胞内でどのように伝達されるのか。
11	遺伝情報	子孫に伝えられる特徴の情報とは何か。
12	遺伝情報の伝達	遺伝情報はどのように伝達されるのか。
13	運動のシステム	運動は、骨・関節と神経と筋肉の働きで起こる。
14	生体内環境維持のシステム	ヒトの内部環境の変動は小さい。
15	身体を守るシステム	生物は、外からの侵入者や自分でないものに対して防御する。

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》

- ・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
- ・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
- ・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
- ・遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明：食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)：栄養・栄養素の定義	栄養・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)：栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)：栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)：家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)：環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活(2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《テキスト》

「食生活論 第3版」福田靖子、小川宣子編（朝倉書店）

《参考図書》

「食生活論」遠藤金次他編（南江堂）「健康と食生活 改訂版」吉田勉編（学文社）「私たちの食と健康」吉田勉監修（三共出版）

《授業時間外学習》

- ・毎回、テキストをしっかりと読んで勉強してくること。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
- ・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》

授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

科目名	コンピュータ応用演習				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー） 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力） 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

「コンピュータ演習」の学習成果である「情報リテラシー」を發展させ、これからの情報社会に適応できる能力である、「情報フルーエンシー」を身につけることが目標です。大学生活や社会生活に必要な、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実践的な活用方法を修得します。毎回の授業は、問題解決のために各自が自分のペースで主体的に取り組む、自学自習形式で進めます。

《授業の到達目標》

読みやすさに配慮した書式や適切なレイアウト設定をした文書を作成できる。
 各種データを加工し集計し、それらの特徴や傾向を読み取るために表やグラフにまとめられる。
 文章やデータなどの情報をまとめ、図表やグラフなど適切な表現を用いた口頭発表の資料を作成できる。

《成績評価の方法》

課題の提出物80点、授業中に出题する質問への回答（ミニッツペーパーに記入）20点の合計100点満点のうち、60点以上を合格とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価など/eラーニングの利用
2	文書作成(1)	ワープロによる文書作成の基礎
3	文書作成(2)	図と図形を利用した文書の作成
4	文書作成(3)	表を利用した文書の作成
5	文書作成(4)	文書全体のレイアウト
6	データ処理(1)	表形式データの基本的な処理
7	データ処理(2)	関数を利用したデータ処理
8	中間のまとめ	文書作成とデータ処理（ここまで）のふり返り
9	データ処理(3)	さまざまなグラフの作成
10	データ処理(4)	グラフ作成とワープロとの連携
11	データ処理(5)	データベース機能
12	プレゼンテーション(1)	一般的な発表用スライドの作成
13	プレゼンテーション(2)	視覚的な効果の活用
14	プレゼンテーション(3)	口頭発表に関連する技術
15	授業全体のまとめ	これまでの学習のふり返り

《テキスト》

授業内容は、eラーニングのシステムや専用のWebサイトで公開します。
 その他に必要な資料は、適宜配布します。

《参考図書》

矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社。
 奥村晴彦(2007)『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社。
 その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業時間外学習》

提出課題を仕上げるのが、主な授業時間外学習となります。復習としては、各ソフトの操作方法や活用上のポイントなどの技能を自ら扱えるように練習してください。また、その技能を扱えることがその回以降の授業で前提となるので、復習することが予習にもなります。

《備考》

パソコンやインターネットを自分の道具として使いこなすには、日ごろからパソコンなどを積極的に利用すること、つまり「習うより慣れる」ことが重要です。

科目名	英語				
担当者氏名	Michael.H.FOX				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力(コミュニケーション力)				

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切的な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 2』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction/Orientation	教員紹介・自己紹介。
2	Unit 7: At a supermarket	スーパーで買い物。
3	Unit 7: Clothes & colors	洋服とファッションの話。
4	Unit 8: Shops and Stores	海外で買い物のHow To.
5	Unit 8: Places in Town	方向を説明すること。
6	Unit 9 Hobbies	趣味の話し。
7	Unit 9: Indoor Exercise	Sportsについての話。
8	Unit 10: Travel Plans	旅行をすること。
9	Unit 10: Trip Preparations	旅行の計画・準備。
10	Unit 11 Quantities	数量・分量を述べること。
11	Unit 11: Cooking	料理を作る等。
12	Unit 12: Job Skills	仕事に重大な能力・手腕。
13	New Year's Holidays	お正月の話。
14	Unit 12: Artistic Talents	芸術の世界。
15	Review and Self-Evaluation	復習と自己評価

科目名	英語				
担当者氏名	Michael.H.FOX				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力(コミュニケーション力)				

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

教科書『Four Corners Book 1』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	自己紹介をする
2	Are you a Student ?	仕事を聞くこと。
3	Names and Jobs	仕事を聞くこと。Part 2
4	People and Places	国籍・住所を訪ねること
5	Phone Numbers and Email	電話番号・メールアドレスを聞くこと
6	Family	家族を説明すること。
7	Family and Friends	家族を説明すること。Part 2
8	Clothing	洋服を語る
9	Favorite Things	大切なものを喋る。
10	Getting Around	日常交通を語る。
11	What time is it?	時間を指示すること。
12	My Routine	日常癖を述べる事。
13	My Weekend	週末の話。
14	Online Habits	オンラインの生活
15	Review and Survey	復習・アンケートを実施。

《基礎・教養科目 教養科目 語学系》

科目名	英語				
担当者氏名	Michael.H.FOX				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力(コミュニケーション力)				

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得する可能性がある。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切に指導し、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

教科書『Four Corners Book 1』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	自己紹介をする
2	My Interests	興味・興味を述べる
3	Talking About Sports	暇と活動
4	Geography	地理学を語る
5	Weather	気候や天気を述べる
6	Everyday Activities	日常活動を喋る
7	Life Experiences	人生の主な体験を語る
8	School Subjects	学内の教科・科目について語る
9	At School	大学にて。。話し合い
10	Phone Messages	電話で英語を
11	Favors and Requests	依頼とお願いを述べる
12	Wishes	将来の希望
13	Opinions	意見を述べる事
14	Getting Away	海外へ旅行
15	Review and Self-Evaluation	復習と自己評価

科目名	フランス語				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。そのために、まずフランス語の発音の特徴や単語の読み方を習得し、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行うことで自己紹介や日常の会話表現を覚えていきながらフランス語の運用能力を養成していきます。

《テキスト》

『やさしいサリュ』 田辺保子他（著）、駿河台出版、2008

《参考図書》

《授業の到達目標》

普段のあいさつができる。自分の紹介や人の紹介をしたり、簡単な質疑応答ができる。

《授業時間外学習》

毎時間、前回の会話表現の確認をするので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《成績評価の方法》

(1) 授業中に会話の応答が出来ているか、筆記問題が出来ているかという授業中の参加度(50%) (2) 定期試験(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発音とあいさつ	アルファベットの紹介、 日常のあいさつを覚える。
2	発音とつづり字	つづり字の読み方
3	名前・職業について	自分や相手の名前・仕事を言ったり、たずねる。
4	国籍をめぐる表現	自分や相手の国籍をたずねたり、答える。
5	言葉をめぐる表現	話せる言葉をたずねたり、自分の話す言葉をいう。
6	勉強について	何を学んでいるかを言ったり、相手にたずねる。
7	親族について	家族構成について言ったり、相手にたずねる。
8	年齢について	年齢をたずねたり、自分の年齢を言う。
9	食事をめぐる表現	食べる、飲む表現、レストランでの注文。
10	趣味をめぐる表現	趣味や好き嫌いを言ったり、相手にたずねる
11	疑問詞の用法（誰）	たずねる（あなたは誰ですか？）
12	形容詞の用法	人や物の姿・形を描写する。
13	疑問詞の用法（何）	たずねる（それは何ですか？）
14	疑問詞の用法（どんな）	たずねる（その人はどんな人ですか？）
15	まとめ	自己表現の総括

科目名	フランス語				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力(コミュニケーション力)				

《授業の概要》

フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。この授業では、1年に引き続き、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行いながら、日常生活の表現や自分の願望や考えを述べる表現を習得してフランス語の運用能力をさらに養成していきます。

《テキスト》

『やさしいサリュ』 田辺保子他(著)、駿河台出版、2008

《参考図書》

《授業の到達目標》

普段の生活の様々な状況において必要な表現を身につけ、日本についてフランス人に説明したりできる表現力を養う。

《授業時間外学習》

毎時間、前回の会話表現の確認をするので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《成績評価の方法》

(1)授業中に会話の応答が出来るか、筆記問題が出来るかという授業中の参加度(50%) (2)定期試験(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	普段の行動の表現	様々な場所へ行く表現
2	時刻の表現	いつどんなことをするかを言う。
3	時刻をめぐる疑問	何時にどうするかたずねる。
4	簡単な過去の表現	近い過去(～したばかりです)
5	簡単な未来の表現	近い未来(～するつもりです)
6	理由をめぐる表現	理由を尋ねたり、答える。
7	自分の生活の表現	自分の日常の暮しを言ったり、相手にたずねる。
8	天候の表現	時候のあいさつ
9	道案内をめぐる表現	フランスや日本での乗り物の乗り方や道順をたずねたり、答える。
10	命令・依頼の表現	様々な状況でひとに命令・依頼する表現を覚える。
11	比較の表現	日本とフランスの比較を表現する。
12	過去の表現	過去の様々な経験を言う。
13	過去の具体的な表現	過去の旅行について語る。
14	未来の表現	これからの希望を語る。
15	まとめ	日常生活の表現の総括

科目名	ドイツ語				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって、さまざまな文化に触れることができるでしょう。

《テキスト》

在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考図書》

適宜資料を配布する

《授業の到達目標》

今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《授業時間外学習》

必ず予習をして聴講すること

《成績評価の方法》

事前に告知して小テスト（20％）を行うほか、ノートの提出（30％）、それに期末試験（50％）によって評価する。

《備考》

教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってこること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音	アルファベット、母音と子音の発音。
2	つづりの読み方と発音、動詞と文章	動詞の人称変化、文の作り方。
3	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞	名詞の文法上の性と定冠詞、不定冠詞。
4	つづりの読み方と発音、格の用法	名詞と冠詞の格変化。
5	つづりの読み方と発音、前置詞	前置詞の格支配。
6	つづりの読み方と発音、名詞の複数形	名詞の複数形の作り方と格変化
7	つづりの読み方と発音、冠詞の仲間	冠詞類の格変化。所有冠詞と否定冠詞。
8	つづりの読み方と発音、補足準備編 1	不規則変化動詞と命令形。
9	つづりの読み方と発音、話法の助動詞	話法の助動詞の人称変化、文の作り方。
10	つづりの読み方と発音、未来形	未来形の作り方と用法。
11	つづりの読み方と発音、複合動詞	分離動詞と非分離動詞、文の作り方。不定詞句。
12	つづりの読み方と発音、人称代名詞、再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞の格変化。再帰動詞。
13	つづりの読み方と発音、形容詞	形容詞の用法と格変化。
14	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する変化	名詞、冠詞などと格変化の復習。
15	つづりの読み方と発音、動詞に関する変化	動詞の人称変化、話法の助動詞、命令形などの復習。

科目名	ドイツ語				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって英語にはない新しい次元が開けます。

《テキスト》

在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考図書》

適宜資料を配布する

《授業の到達目標》

今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《授業時間外学習》

必ず予習をして聴講すること

《成績評価の方法》

事前に告知して小テスト（20％）を行うほか、ノートの提出（30％）、それに期末試験（50％）によって評価する。

《備考》

教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってこること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する復習	名詞の性、定冠詞と不定冠詞。格変化。
2	つづりの読み方と発音、動詞に関する復習	規則変化動詞、不規則変化動詞の人称変化。
3	つづりの読み方と発音、動詞の三基本形	過去形の作り方、過去人称変化。
4	つづりの読み方と発音、過去分詞	過去分詞の作り方と用法。
5	つづりの読み方と発音、現在完了形	現在完了形の人称変化、完了の助動詞。文の作り方。
6	つづりの読み方と発音、受動形	受動形の人称変化、受動文の作り方。
7	つづりの読み方と発音、補足準備編 2	副文と接続詞。並列の接続詞、従属の接続詞。副文の作り方。
8	つづりの読み方と発音、接続法 1	接続法第一式の人称変化と用法。
9	つづりの読み方と発音、接続法 2	接続法第二式の人称変化と用法。
10	つづりの読み方と発音、発展編 1	zu 不定詞句とその用法。
11	つづりの読み方と発音、発展編 2	形容詞の比較変化とその用法。
12	つづりの読み方と発音、発展編 3	関係代名詞。副文の復習。
13	つづりの読み方と発音、発展編 4	接続法に関する復習。
14	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習 1	名詞と冠詞、冠詞類の格変化。
15	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習 2	動詞の人称変化。

科目名	中国語				
担当者氏名	佟 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・ 授業態度20%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《備考》

- ・ 中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる
- ・ 授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 復母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

科目名	中国語				
担当者氏名	佟 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

この講義は中国語初級・中国語 の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語 』
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
会話 簡単な日常会話ができる。
中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・ 授業態度20%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・ 中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる
- ・ 授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	数の言い方 ・ お金の言い方 形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	量詞（ものの数え方） 動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	時刻の言い方 状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	時間量の言い方 完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	前置詞「給」 助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	現在進行形の言い方 助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語				
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める

《授業の到達目標》

- 1.ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
- 2.簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
- 3.韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
油谷幸利 他編著 小学館、2004年
『パスポート朝鮮語小事典』
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音 基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音 子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音 子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音 二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音 子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えろと意味)について勉強する。
6	文化項目(1)：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか(합니체)、～は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何か。	～です・ですかの(해요체)、～が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語				
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語(文法編)』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
- 『パスポート朝鮮語小事典』 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
- 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞)について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2): 韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字: 日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性をもち、労を惜みず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《成績評価の方法》

価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《授業時間外学習》

<予習方法>
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
<復習方法>
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性を持ち、労を惜みず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》

受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配布する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院) 『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) 『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院) 『からだの「仕組み」のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出、レポート課題
小テスト（20％）各分野の学習後に課すレポート課題（60％）平常点（20％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	1年 期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自1日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	10週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しよう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
15	学習	学習のまとめ

科目名	健康・スポーツ科学（演習）				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク 等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》

<予習方法> シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法> 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《基礎・教養科目 教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学（演習）				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性を持ち、労を惜みず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
随時テーマに対するレポート提出(20%)
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業時間外学習》

<予習方法>
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法>
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	森本 次郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー）				

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら体験的に「キャリアデザイン」を学ぶ。

《テキスト》

寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房、2012年

《参考図書》

講義中適宜指示する

《授業の到達目標》

自分自身やキャリアについて様々なワークを通じて学ぶことにより、有意義な大学生活を過ごすための力や、将来のキャリアを考える力を身につける。

《授業時間外学習》

予習については、テキストのねらい・予備知識の部分をシラバスの進行に合わせて事前に読んでおく。
復習については、毎回の授業の課題等を整理し、文書化して自身のキャリアデザイン・就職活動に活用できるようにまとめる。

《成績評価の方法》

平常点（受講態度等） 50%、毎回実施するレポート 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業のねらい
2	自分のキャリアを考える	大学時代のキャリア形成
3	自分のキャリアを考える	かなえたい夢について考える
4	自己理解を深める	現在の自己の全体像を知る
5	自己理解を深める	自我状態を知る
6	自己理解を深める	自分の性格を知る
7	自己理解を深める	歩んできた道を振り返る
8	自己理解を深める	将来像を考える
9	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
10	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
11	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
12	社会人基礎力を身につける	社会で求められる能力を知る
13	社会人基礎力を身につける	論理的思考（ロジカルシンキング）を身につける
14	社会人基礎力を身につける	創造的思考（クリエイティブシンキング）を身につける
15	まとめ	自己理解をまとめる

平成 25 (2013) 年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成25年度（2013年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当 (数字は週当り授業時間)				平成25年度の担当者	ページ			
			必修	選択					1年	2年	3年	4年					
									1	2	3	4					
専門教育科目 群（領域に関する科目）	基礎ゼミ	演習	2						2						*1	107	
	基礎ゼミ	演習	2						2						*1	108	
	栄養のための基礎生物化学	講義	2					ⓑ	2						本澤 真弓	109	
	実験基礎演習	演習	2						2						亀谷 小枝	110	
	調理基礎演習	演習	2						2						富永 しのぶ	111	
	調理基礎演習	演習	2	2					2						富永 しのぶ	112	
	医学概論	講義	2					Ⓔ	2						[村田 幸生]	113	
	コミュニケーション論	講義	2						2						[脇本 忍]	114	
	バイオテクノロジー	講義	2					Ⓔ					2				
	食料経済	講義	2										2				
	健康科学	講義	2						2						松村 末夫	115	
	専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）	健康情報処理演習	演習	2						2						湯瀬 晶文	116
		情報処理と栄養統計	講義	2	2						2						
		情報処理と栄養統計	講義	2	2							2					
		公衆衛生学（公衆衛生）	講義	2					Ⓓ				2				
		公衆衛生学（健康管理）	講義	2										2			
		社会福祉概論	講義	2										2			
		生化学	講義	2					ⓑ	2						本澤 真弓	117
		生化学	講義	2					ⓑ		2						
		生化学実験	実験	1					ⓑ			3					
		生化学実験	実験	1					ⓑ				3				
		栄養解剖学・人体生理学	講義	2					ⓑ	2						大西 隆仁	118
		栄養解剖学・人体生理学	講義	2					ⓑ		2						
		栄養解剖学実験	実験	1								3					
		人体生理学実験	実験	1									3				
		臨床病態学	講義	2					Ⓔ		2						
		臨床病態学	講義	2					Ⓔ			2					
		生体防御論	講義	2					Ⓒ				2				
		食品学	講義	2					ⓑ	2						中井 玲子	119
		食品学	講義	2					Ⓒ				2				
食品学実験		実験	1					ⓑ		3					中井 玲子	120	
食品学実験		実験	1					ⓑ					3				
食品衛生学		講義	2					Ⓓ			2						
食品衛生学実験		実験	1					Ⓓ				3					
食品機能論		講義	2										2				
調理学	講義	2						2						松尾 千鶴子	121		
調理学実験	実験	1							3					松尾 千鶴子	122		
調理学実習	実習	1								3							
調理学実習	実習	1									3						

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成25年度(2013年度)入学者対象
()は兼担、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		栄養士	管理 栄養士	栄養 教諭 一種	食品 衛生 管理者 等	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担 当 者	ページ	
			必修	選択					1年	2年	3年	4年			
専 門 教 育 科 目 (群 に 関 す る 科 目)	基礎栄養学 (健康栄養)	講義	2				㊦	2						松村 未夫	123
	基礎栄養学 (基礎栄養)	講義	2				㊦	2						松村 未夫	124
	栄養学実習	実習	1				㊦		3						
	応用栄養学 (ライフステージ栄養)	講義	2				㊦		2						
	応用栄養学 (スポーツ・環境栄養)	講義		2								2			
	栄養管理学	講義	2				㊦			2					
	栄養管理学実習	実習		1							3				
	基礎栄養教育論	講義	2				㊦			2					
	健康栄養教育論	講義		2							2				
	基礎栄養教育実習	実習		1							3				
	健康栄養教育実習	実習		1								3			
	実践栄養教育演習	演習		2									2		
	臨床栄養学	講義	2								2				
	臨床栄養学	講義		2								2			
	臨床栄養学実習	実習		1									3		
	臨床栄養管理学	講義		2								2			
	臨床栄養管理演習	演習		2									2		
	公衆栄養学	講義	2				㊦				2				
	公衆栄養学	講義		2								2			
	公衆栄養活動実習	実習		1									3		
	給食経営管理論	講義		2								2			
	メニュー管理実習	実習		1									3		
	給食管理実習	実習		1			㊦						3		
	フードサービスマネジメント演習	演習		2									2		
	総合演習	演習		2										2	
	卒業演習	演習		2										2	
	卒業演習	演習		2										2	
	給食管理臨地実習(校外実習)	実習		1								2			
	臨床栄養臨地実習	実習		2									4		
	公衆栄養臨地実習	実習		1									2		
	学校栄養教育論	講義		2								2			
	学校栄養教育論	講義		2									2		
卒業研究	演習		3										3		
卒業研究	演習		3										3		

は栄養士免許必修科目

は管理栄養士国家資格必修科目

は栄養教諭必修科目

表中の科目以外にフードスペシャリスト養成科目として、4年 期に「フードスペシャリスト論」

「フードコーディネイト論」を開講する。

食品衛生管理者等(食品衛生管理者・食品衛生監視員)欄の㊦～㊧は食品衛生法施行規則 第50条 別表第14及び第15に指定された科目である。

㊦～㊩別表第14にかかげた科目・㊧は別表第15にかかげた科目

㊦化学関係(教養科目「化学」)修得のこと) ㊧生物化学関係 ㊨微生物関係 ㊩公衆衛生学関係 ㊪その他関連科目

㊦～㊩群から1科目以上、最低修得単位数(㊦+㊧+㊨+㊩)22単位以上

最低修得単位数合計(㊦+㊧+㊨+㊩+㊪)40単位以上

欄外の 印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

*1 大西・内田・須見・松村・亀谷・前田

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成25年度(2013年度)入学者対象
()は兼担、[]は兼任講師

業 目 の 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		栄 養 士	管 理 栄 養 士	栄 養 教 諭 一 種	食 品 衛 生 管 理 者 等	学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)				平 成 25 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ	
			必 修	選 択					1 年	2 年	3 年	4 年			
栄 養 教 諭 一 種 免 許 取 得 に 関 する 科 目	教職概論	講義	2					2					[砂子 滋美]	125	
	教育原理	講義	2					2					(廣岡 義之)	126	
	教育史	講義	2								2				
	教育心理学	講義	2							2					
	教育制度論	講義	2					2					(廣岡 義之)	127	
	教育課程論(道徳・特別活動を含む)	講義	2							2					
	教育方法・技術論	講義	2							2					
	生徒指導論(進路指導を含む)	講義	2							2					
	教育相談(カウンセリングを含む)	講義	2					2						(原 志津)	128
	事前事後指導	講義	1									1			
	栄養教育実習	実習	1									3			
	教職実践演習(栄養教諭)	演習	2									2			

は栄養教諭必修科目、 は栄養教諭選択科目

教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法(2単位)、体育(2単位)、外国語コミュニケーション(2単位)、情報機器の操作(2単位)について、指定の科目を修得すること。

欄外の 印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《専門教育科目 群（領域に関する科目）》

科目名	基礎ゼミ				
担当者氏名	大西 隆仁、内田 亨、須見 登志子、松村 末夫、亀谷 小枝、前田 典子				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

大学では自ら学ぶ姿勢が必須である。しかし、自ら学ぶには必要な情報を探して取り入れ、思考・分析し、適切に表現する必要があり、これらを達成するためには様々な能力を必要とする。また、学ぼうとする意識も不可欠である。そこで、この基礎ゼミでは学ぶための基礎力養成を目指す。授業はチャータークラスごとに行い、毎回のテーマは共通であるが、対象や方法は担当者によって異なることもある。

《授業の到達目標》

上記のようなねらいのもと、この基礎ゼミではその中でも特に2つの点に重点を置いて授業を行う。ひとつは、「聴く」「読む」ことであり、もう一つは学ぶ姿勢を維持するための専門家への動機づけである。これによって、継続して必要な情報を自ら取り入れるために必要な基礎能力育成を目標とする。

《成績評価の方法》

レポート等提出物（50%）、および、毎回の授業態度と筆記試験（50%）で評価する。ただし、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてプリント配布、ファイル配付等を行う）。なお、ノートに関する指示があるので注意すること。

《参考図書》

『知へのステップ』 学習技術研究会編著 くろしお出版
『新・知の技法』 小林康夫・船曳建夫編 東京大学出版 『理科系の作文技術』 木下是雄 各種国語辞典・辞書（電子辞書含む）

《授業時間外学習》

毎回のように課題が出されるので、次回授業までに完成させておくこと。基本的に欠席しないことを前提としているが、万一の場合は、次回授業までに授業内容や課題内容を確認するとともに、内容を理解して課題を完成させておくこと。すなわち、次の授業時に「まだできていない」というような発言の無いようにしておくこと。

《備考》

ひとこと：本当の学びにはおもしろさがあります。教員とともに、学ぶ楽しさを感じていきましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	基礎ゼミ1の授業形態と授業内容の説明、およびクラスについての説明
2	大学生の学び	高校生までの勉強と大学生としての学びの違いを知る
3	聴き方（1）	「聞く」と「聴く」の違いと授業の聴き方
4	聴き方（2）	「聴く」ために
5	2種類の文章	異なるタイプの文章（論理的な文章と小説）本学科の学生としてこれから多く触れる文章の特徴を知る
6	論理的な文章の読み方（1）	論理的な文章の読み方の着目点を知る「聴く」と「読む」ことの相違点を知る
7	論理的な文章の読み方（2）	論理的な文章の読み方の手順を知る
8	論理的な文章を読む	論理的な文章を読む
9	論理的な文章の要約	論理的な文章を要約するための着目点を知る
10	管理栄養士概論（1）	管理栄養士に関する理解を深め、自ら目指す管理栄養士像をもつ
11	管理栄養士概論（2）	管理栄養士に関する理解を深め、自ら目指す管理栄養士像をもつ
12	管理栄養士概論（3）	管理栄養士に関する理解を深め、自ら目指す管理栄養士像をもつ
13	管理栄養士概論（4）	管理栄養士に関する理解を深め、自ら目指す管理栄養士像をもつ
14	管理栄養士概論（5）	管理栄養士に関する理解を深め、自ら目指す管理栄養士像をもつ
15	まとめ	大学生としての心構えのまとめ

《専門教育科目 群（領域に関する科目）》

科目名	基礎ゼミ				
担当者氏名	大西 隆仁、内田 亨、須見 登志子、松村 末夫、亀谷 小枝、前田 典子				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

大学では自ら学ぶ姿勢が必須である。しかし、自ら学ぶには必要な情報を探して取り入れ、思考・分析し、適切に表現する必要があり、これらを達成するためには様々な能力を必要とする。また、学ぼうとする意識も不可欠である。そこで、この基礎ゼミでは学ぶための基礎力養成を目指す。授業はチュータークラスごとに行い、毎回のテーマは共通であるが、対象や方法は担当者によって異なることもある。

《授業の到達目標》

上記のようなねらいのもと、この基礎ゼミではその中でも特に2つの点に重点を置いて授業を行う。ひとつは、「書く」「話す」ことであり、もう一つは自らが目指す将来像（管理栄養士像）を確立することである。これによって、継続的に必要な情報を自ら取り入れ伝えるために必要な基礎能力育成を目標とする。

《成績評価の方法》

レポート等提出物（50%）、および、毎回の授業態度（50%）で評価する。ただし、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてプリント配布、ファイル配付等を行う）。

《参考図書》

『知へのステップ』 学習技術研究会編著 くろしお出版
『新・知の技法』 小林康夫・船曳建夫編 東京大学出版 『理科系の作文技術』 木下是雄 各種国語辞典・辞書（電子辞書含む）

《授業時間外学習》

毎回のように課題が出されるので、次回授業までに完成させておくこと。基本的に欠席しないことを前提としているが、万一场、は、次回授業までに授業内容や課題内容を確認するとともに、内容を理解して課題を完成させておくこと。すなわち、次の授業時に「まだできていない」というような発言の無いようにしておくこと。

《備考》

ひとこと：教員とともに、学ぶ楽しさを体験してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション タイムマネジメント(1)	基礎ゼミ2の授業形態と授業内容の説明、およびクラスについての説明 大学生としての学びを成り立たせるためのタイムマネジメントを知る
2	タイムマネジメント(2)	タイムマネジメントに向けて、実際の生活を把握する
3	レポートとは(1)	レポートとは何かレポートの文章と内容、考察などについて知る
4	レポートとは(2)	わかりやすい文章を知る 効果的なアカデミック・ライティングのために
5	レポートとは(3)	わかりやすい文章を知り、実践する(1)
6	レポートとは(4)	わかりやすい文章を知り、実践する(2)
7	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションとは何か プレゼンテーションの種類と特徴を知る
8	プレゼンテーションの補助ツールについて	プレゼンテーションの補助ツールを知る プレゼンテーションの流れを知る
9	プレゼンテーションの準備	テーマを決めてプレゼンテーションの準備をする
10	プレゼンテーション実践(1)	プレゼンテーションを行う(1)
11	プレゼンテーション実践(2)	プレゼンテーションを行う(2)
12	大学生としての学習のまとめ	大学生としての心構えのまとめ
13	視野を大きく広げる(1)	研修会に参加(1) 栄養士を目指す学生のための研修会
14	視野を大きく広げる(2)	研修会に参加(2) 栄養士を目指す学生のための研修会
15	視野を大きく広げる(3)	研修会に参加(3) 栄養士を目指す学生のための研修会

《専門教育科目 群（領域に関する科目）》

科目名	栄養のための基礎生物化学				
担当者氏名	本澤 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

外界から摂取した物質を利用して生命を維持する栄養という営みを理解するうえで基盤となる各種栄養素や生体成分の化学構造および特性、身体の基本単位である細胞についての基本的事項を学習する。

《テキスト》

『化学・生化学－人体の構造と機能』（栄養管理と生命科学シリーズ） 大村正史、山田一哉、本三保子共著、理工図書、2011

《参考図書》

特に指定しない。（授業時に適宜指示する）

《授業の到達目標》

生体における複雑な生命現象の理解の基礎となる人体の構造と機能について、細胞レベルや物質・分子レベルで理解できるよう、細胞に関する基礎知識および生体成分の化学構造に関する基礎知識を身につける。（1）細胞の構造とオルガネラの機能、（2）生体成分の糖質、脂質、タンパク質、核酸などの有機化合物の基本構造と特徴が説明できる。

《授業時間外学習》

各回の授業毎に復習し、学習内容を再確認し、授業内容の整理と知識の定着をこころがけて下さい。質問や相談は授業終了後に、教室または研究室で受け付けます。

《成績評価の方法》

授業展開に応じて複数回実施する筆記試験（70%）および定期試験期間中の筆記試験（30%）の合計評価点により成績評価を行う。出席率は評価対象としない。

《備考》

授業進行の妨げになるので、私語は厳禁です。授業には積極性と集中力をもって望んで下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞（1）	細胞を基本単位とする生体の生体の階層性（組織、器官、系、個体にいたる階層性）について理解する。
2	細胞（2）	細胞小器官（オルガネラ）の構造とその役割について理解する。
3	細胞（3）	生体膜（細胞膜）の構造と膜タンパク質の役割について理解する。
4	栄養素、生体成分等の有機化合物の基本（1）	各栄養成分の生理的意義、栄養素の分類（生理的役割に基づく分類、化学構造に基づく分類）について理解する。
5	栄養素、生体成分等の有機化合物の基本（2）	有機化合物の基本となる炭素骨格、共有結合などの有機化学の基礎知識をふまえ、栄養素や生体成分の化学構造式について理解する。
6	糖質の化学（1）	糖質の分類、単糖類の基本構造、異性体、各種誘導体の化学構造について理解する。
7	糖質の化学（2）	二糖類とその結合様式およびホモ多糖とヘテロ多糖（グリコサミノグリカンなど）について理解する。
8	脂質の化学（1）	脂質の分類、脂肪酸の基本構造、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸の化学構造について理解する。
9	脂質の化学（2）	トリアシルグリセロール（TG）、リン脂質、糖脂質の化学構造について理解する。
10	タンパク質の化学（1）	アミノ酸の基本構造とその結合様式、アミノ酸の分類について理解する。
11	タンパク質の化学（2）	タンパク質の構造と1次、2次、3次、4次構造の特徴について理解する。
12	タンパク質の化学（3）	タンパク質の分類（成分による分類、機能による分類など）について理解する。
13	核酸の化学	ヌクレオチドの基本構造、五炭糖および塩基の種類、核酸の構造について理解する。
14	ビタミンの化学	水溶性ビタミンおよび脂溶性ビタミンの化学構造上の特徴について理解する。
15	まとめ	上記学習内容を再確認・整理し、各有機化合物の化学構造上の特徴について理解する。

《専門教育科目 群（領域に関する科目）》

科目名	実験基礎演習				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力）				

《授業の概要》

栄養マネジメント学科では多種類の化学実験が開講されるため化学実験に必要な基礎的な知識や技術の素養を身につける必要がある。そこで本演習では、一般的な実験器具、試薬類の分類と特徴、物質および物質濃度の単位について学び、化学実験に不可欠な化学計算に慣れると共に試薬溶液の調製方法、代表的な分析手技の実例などの項目を組み合わせ、学生各自がこれらの基本的事項を習熟できるように演習形式で実施する。

《授業の到達目標》

- ・一般的な実験器具、試薬類の分類や特徴について理解し、説明できる。
- ・実験に必要な濃度表示について理解し、濃度計算ができる。
- ・簡単な試薬の調製ができる。
- ・容量分析、比色分析の原理や方法を理解し、実験を実施することができる。併せて、その実験結果に基づいたレポートを指定した書式や内容を守って期限内に提出することができる。

《成績評価の方法》

課題および実験レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記試験：50%の割合で成績評価を行う。

《テキスト》

随時、プリントを配付する。

《参考図書》

「身のまわりの食品分析実験」安藤達彦・吉田宗弘編（三共出版）

《授業時間外学習》

- ・配布する資料プリントを読んで、理解してこること。
- ・適宜課題を出すので、その課題をやってくるここと。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
- ・実験結果については、データを整理・分析して、レポートを作成すること。

《備考》

授業初回到に講義・演習・実験時および実験室でのルール（規則、注意事項）について説明する。そのルールが守られない場合は成績評価を行わないことがあるので注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明	授業展開・成績評価方法の説明、安全・防災上の諸注意について理解する。
2	器具の種類と用途	反応用ガラス器具、保存用ガラス器具、測容用ガラス器具、その他の器具の特徴や用途、洗浄・乾燥方法等について理解する。
3	測定の体系	測定の表記法、物理量と単位、有効数字について理解する。
4	溶液の濃度の表し方	溶液の概念および溶液の濃度の表し方（主に%濃度とモル濃度）について理解する。
5	濃度表示の確認	物理量や単位、有効数字、溶液の濃度について、演習問題に取り組みながら再確認し、理解を深める。
6	規定濃度の理解	規定濃度について、%濃度やモル濃度との違いを確認し、演習問題に取り組みながら規定濃度について理解する。
7	試料採取と重量測定(1)	天秤や器具の扱い方、規定濃度について再確認し、実際に0.1N水酸化ナトリウム溶液を作成する。
8	試料採取と重量測定(2)	標準液について理解するとともに、第7週とは異なる天秤や器具の扱い方について確認し、実際に0.1Nリン酸標準液を作成する。
9	酸と塩基、pHの概念	酸と塩基、pHの概念について、演習問題に取り組みながら理解する。
10	pHと緩衝液	pHや緩衝作用、緩衝液について理解し、実際にリン酸緩衝液を作成し、緩衝作用を確認する。
11	容量分析(1)	容量分析の理論を理解し、0.1Nリン酸標準液による0.1N水酸化ナトリウム溶液の標準実験を行う。
12	容量分析(2)	中和滴定による未知試料中の酸濃度の測定を行い、容量分析の原理や方法、実験手技について理解を深める。
13	比色分析(1)	比色分析の理論および分光光度計の原理や使用方法について理解する。
14	比色分析(2)	比色分析を用いて、実際に溶液の吸光度を測定し、検量線の作成と未知試料中の特定成分の測定を行う。
15	学習のまとめ	提出した課題やレポートをもとに演習問題に取り組み、学習内容を再確認する。

《専門教育科目 群（領域に関する科目）》

科目名	調理基礎演習				
担当者氏名	富永 しのぶ				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

食品を好ましい形に変え、整える調理はすばらしい作業である。おいしい料理を作るためには水、熱、そして道具を使い限られた時間の中で、自己の心と技と感性で作られる。料理を作るためにはさまざまな調理技術が必要となる。最も基本となる技術は包丁を使いこなすことである。授業を通してさまざまな食品に対応できる、包丁を使いこなす技術を体得できるよう繰り返し演習を行う。

《授業の到達目標》

食品を料理に適した切り方ができるようになるため、切り方を覚える。包丁を使いこなす技術として、目的に応じた切り方を判断して、速く、きれいにそろった切り方ができるようになる。料理ごとの基本調味を理解して正しく調味ができるようになる。

《成績評価の方法》

・実技試験50%、筆記試験50%

《テキスト》

調理学実習 基礎から応用
高橋敦子・安原安代・松田康子 編（女子栄養大学出版社）

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》

調理技術、調理操作は授業で習ったら習得できるものではなく、経験を重ねて身に付くものであることから、日・生活の中で日々調理の機会をつくること、一番の近道である。そこで、技術上達のため調理する機会を毎日つくり、授業で行った調理操作を練習しておくこと。

《備考》

実習着は清潔にしてアイロンを当てたものを着用すること。頭髪は帽子から出ないようにし、爪は短く整えること。30分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で1回欠席とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	調理基礎演習 の授業内についての説明、実集室の使い方。授業評価の方法。
2	調理の基礎知識	調理の基礎確認テスト
3	基本の切り方	切り方の名称包丁の持ち方と扱い方切り方
4	基本の切り方	切り方の名称包丁の持ち方と扱い方切り方2
5	プロの調理技術に学ぶ	プロの料理人による講演と調理のデモンストレーション
6	基本の切り方	せん切り1 酢の物
7	基本の切り方	せん切り 2 和え物
8	基本の切り方 調味の基本	せん切り 3 だしのとり方 計量（調味料の容量と重量）
9	基本の切り方 調味の基本	せん切り 4 だしのとり方 計量（調味料の容量と重量）
10	基本の切り方 調味の基本	せん切り 5 だしのとり方 計量（調味料の容量と重量）
11	基本の切り方 調味の基本	せん切り 6 だしのとり方 計量（調味料の容量と重量）
12	基本の切り方 基本調味	せん切り 7 味付けの基本
13	調理の基礎知識	調理の基礎確認テスト
14	実技試験	実技試験 （切り方、基本調味）
15	まとめ	要点確認

《専門教育科目 群（領域に関する科目）》

科目名	調理基礎演習				
担当者氏名	富永 しのぶ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む） 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》

おいしい料理を作るための調理手法別に調理の特性を理解し実践する。料理に応じた食材の適量の把握、基本調味を理解して基本献立の組み合わせについて演習を行う。

《テキスト》

期に購入済み

《参考図書》

調理と理論（同文書院）

《授業の到達目標》

期に続き包丁を使いこなす技術の向上をめざす。速く、きれいに作業ができるようになる。料理ごとの常用量の把握と基本調味を理解して適切な調味ができるようになる。1食の基本献立を作成できるようになる。

《授業時間外学習》

調理技術、調理操作は授業で習ったら習得できるものではなく、経験を重ねて身に付くものであることから、日常生活の中で日々調理の機会をつくること、一番の近道である。そこで、技術上達のため調理する機会を毎日つくり、授業で行った調理操作を練習しておくこと。

《成績評価の方法》

・実技試験50%、筆記試験50%

《備考》

実習着は清潔にしてアイロンを当てたものを着用すること。頭髪は帽子から出ないようにし、爪は短く整えること。30分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で1回欠席とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	調理基礎演習 の授業内についての説明、実集室の使い方。授業評価の方法。
2	基本の切り方	食材の切り方、包丁の手入れ
3	プロの調理技術	プロの料理人による料理の基本と調理技術指導
4	基本の切り方 調理操作と調味	食材の切り方、汁の特徴 和風だし1（昆布、かつお）、汁物1
5	基本の切り方 調理操作と調味	食材の切り方、汁の特徴 和風だし2（煮干だし）、汁物2
6	基本の切り方 調理操作	食材の切り方、青菜のゆで方、和え物・酢の物・浸し物1
7	基本の切り方 調理操作	食材の切り方、和え物・酢の物・浸し物2
8	基本の切り方 調理操作	食材の切り方、焼き物
9	基本の切り方 調理操作	食材の切り方、煮物1 煮物特徴と種類
10	基本の切り方 調味の基本	食材の切り方、煮物2 煮物の要点と調味割合・調味時期
11	基本の切り方 調理計画	食材の切り方 料理の作業手順と作業計画
12	調理計画 献立献立	料理の作業手順2 作業計画基本献立の献立作成1
13	調理計画 基本献立	基本献立の献立作成2
14	実技試験	実技試験
15	筆記試験・まとめ	調理に関わる基礎知識について（テスト）、要点確認

《専門教育科目 群（領域に関する科目）》

科目名	医学概論				
担当者氏名	村田 幸生				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

医療は現在、多くの問題に直面している。それらを各論としてとらえるのではなく、「医療とは何か」「健康とは何か」という原点に返り、講義したい。ただし医学の各論的知識なく総論を聞くのは困難と思われるので、各回疾患をとりあげる。自分たちの将来の「健康」の中における役割と目的を考えてほしい。

《授業の到達目標》

現代社会における医療・医学・介護・看護システムおよびその問題点を学習する。自分が将来これらに仕事として携わる時に、何を目的とするのか、「考える」ことのできることを授業全体の目標とする。

《成績評価の方法》

学期末に筆記試験を行う（全評価の90%）。中間の時期にて、レポートの提出を求め、評価を行う（全評価の10%）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食と健康 ～動脈硬化の機序～	日本人の食事と健康の関係について考え、動脈硬化の発生機序について講義する。
2	生活習慣病（1） ～脂質代謝異常～	脂質代謝異常と食事、生活習慣について考える。
3	生活習慣病（2） ～高血圧～	高血圧の診断と、生活習慣ガイドラインについて講義する。
4	メタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームの診断基準および生活習慣について学習する。
5	動脈硬化予防ガイドライン	心筋梗塞、脳梗塞予防の生活習慣ガイドラインについて考える。
6	高齢者の特徴と疾患	日本の高齢者の特徴および疾患、病態について学習する。
7	日本の介護制度	日本の介護制度及びその問題点について考える。
8	高齢者と栄養	高齢者の栄養による疾患予防と、胃瘻などの栄養補給について考える。
9	医療崩壊 ～現代医療の問題点～	救急診療、地方診療、医療訴訟などについて解説する。
10	その他の病気（1）	消化器、呼吸器、循環器疾患について概説する。
11	その他の病気（2）	がん、神経筋疾患の栄養、介護の問題点について概説する。
12	ドックと職場健診	職業と健康、健康診断について学習する。
13	感染症	感染症の治療と生活習慣について考える。
14	医療におけるコミュニケーション	医者患者関係のコミュニケーションの難しさについて考える。
15	死生観 ～ロスタイムライフ論～	終末期医療、介護の目的、「老い」「健康」の意味について考える。

《テキスト》

特になし。

《参考図書》

『医療の限界』小松秀樹著（新潮新書）
『スーパー名医が医療を壊す』村田幸生著（祥伝社新書）
『平穏死のすすめ』石飛幸三（講談社）

《授業時間外学習》

講義中に提示した医療、健康に対する考えを、みなさんのお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんにも話してあげて、感想をまた授業やレポートでフィードバックしていただければ幸いです。

《備考》

おそらくみなさんの「健康」「栄養」「老い」に対する考えは、これから毎年変化してゆきます。将来「あの時の話、これのことだったのかな」と思い出していただければ幸いです。

《専門教育科目 群（領域に関する科目）》

科目名	コミュニケーション論				
担当者氏名	脇本 忍				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

社会心理学のコミュニケーション領域について講義をおこなう。特に、私たちの日常生活における、人と人の対人関係。さらに二者間における対人魅力や相互作用に関するメカニズムについて、先行研究や映像資料の紹介を交えながら授業展開する。

《テキスト》

指定しない。適時資料を配布する。

《参考図書》

社会心理学（培風館）他。

《授業の到達目標》

コミュニケーションに関する理論と応用について習得し、日常生活における人間関係形成の一助になること。

《授業時間外学習》

必要の際、適時説明する。

《成績評価の方法》

定期試験 60% 提出レポート40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義内容と授業運営
2	心理学の種類	周辺領域との関係性についての解説
3	心理の要素	ヒトの感情・認知・行動などの各要素についての解説
4	遺伝と環境	ヒトの感情・認知・行動などの各要素の源泉について、遺伝説環境説の立場からの解説
5	コミュニケーション1.	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション1.
6	コミュニケーション2.	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション2.
7	対人識別判断	心理学実験の実施
8	社会的態度	価値観・ライフスタイルに関する心理アセスメントの実施
9	社会的感情	心理アセスメントと臨床心理学との関係性
10	社会的認知	対人認知と対人コミュニケーション
11	社会的動機	心理学実験の紹介を中心に解説
12	対人魅力1.	恋愛に関する理論と心理アセスメントの実施
13	対人魅力2.	対人関係の形成と崩壊
14	復習および検証	講義一連の確認と復習
15	まとめ	コミュニケーション論のまとめ

《専門教育科目 群（領域に関する科目）》

科目名	健康科学				
担当者氏名	松村 末夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

健康とは何かに始まり、食生活、運動、睡眠、こころ、年齢、環境など、健康状態に影響を与える諸条件・因子がどうあるべきかを理解する。

《テキスト》

『改訂 ライフスキルのための健康科学 改訂第2版』成和子 編著 宮本慶子・城川美佳共著（建帛社）2010

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

健康とは何かを理解し、何をどうすれば、健康の維持・増進に役立ち、あるいは、健康をそこなうことになるのかを理解する。

《授業時間外学習》

あらかじめ、テキスト中の各週の授業内容に対応する部分を読んでおくこと。その日、何についてどのような説明があったのかを理解し、記憶すること。

《成績評価の方法》

定期試験(100%)の結果によって評価する。

《備考》

分からないことがあれば質問すること。授業時間外の質問も受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康について	健康の定義、ライフサイクルにおける健康上の課題について説明する。
2	健康について	保健福祉サービス、生活習慣病について説明する。
3	日常生活と健康	食生活 健康な食生活について説明する。
4	日常生活と健康	食生活 - わが国の食生活の現状、健康志向と健康食品、食行動における選択について説明する。
5	日常生活と健康	日常生活活動 - エネルギー必要量の算定、運動習慣の必要性、適正体重の維持について説明する。
6	日常生活と健康	睡眠 - 睡眠および睡眠障害について説明する。
7	日常生活と健康	喫煙、飲酒、薬物乱用等の健康関連行動について説明する。
8	日常生活と健康	こころの健康 ストレス、心身症、うつ病等について説明する。
9	ライフステージと健康	家族計画、思春期・青年期の健康問題について説明する。
10	ライフステージと健康	壮年期、高齢期の健康問題について説明する。
11	環境と健康	感染症、食中毒について説明する。
12	環境と健康	地球環境問題、ノーマライゼーションについて説明する。
13	トピックス	救急蘇生法、臓器移植、海外渡航に関わる問題、安楽死について説明する。
14	トピックス	ドメスティック・バイオレンス、児童虐待、内分泌攪乱化学物質について説明する。
15	学習のまとめ	上記、各テーマの要点を復習する。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	健康情報処理演習				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） 3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー）				

《授業の概要》

「情報社会」等という言葉をよく耳にするが、こうした言葉に踊らされることなく、かつ正確に対応するためには道具（コンピュータ全般）について慣れ親しむことも不可欠である。

授業では、コンピュータでどのような作業ができるのか、どういった場面で有用であるかを判断して利用できるようになることをめざし、複数のアプリケーションを用いた演習を行う。なお、内容は講義の進捗状況等により多少変更することもある。

《授業の到達目標》

この演習では、マニュアルなどを利用しながらコンピュータを利用して自力で問題を解決する能力の涵養を基本に考える。そして、この道具としてのコンピュータという観点からコンピュータを動作させるための手順の総体としてのソフトウェアを中心に計算機そのものであるハードウェアも含めたコンピュータの知識（コンピュータリテラシー）の初歩的な部分の習得を目標とする。

《成績評価の方法》

毎回の課題への取り組みおよびレポートを主として評価する（100%）が、詳細は初回授業時に決定する。

なお、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてオンラインでのファイル配付等を行う）。

《参考図書》

『体系的に学び直す パソコンのしくみ』 日経BP社
『コンピュータの仕組み』 尾内理紀夫著 朝倉書店
『コンピュータはなぜ動くのか』 矢沢久雄著 日経BP社
『コンピュータ概説』 宮崎他著 共立出版
「統計学」、「コンピュータリテラシー」、「オフィスソフト」についての各種解説書

《授業時間外学習》

毎回のように入課題が出るので、時間をかけて取り組む必要がある。

授業は毎回出席し前回までの課題を完成させていることを前提に行われる。そのため、万一授業を欠席する場合は、次回の授業までに授業内容を確認し、課題を完成させておくこと。

《備考》

コンピュータはとにかく触ってみることが大切です。適切な情報を仕入れて自らの頭で考えながらコンピュータと向かい合えば、1年ほどでスペシャリストになることも可能です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の目的や概要の説明（大切なので履修希望者は必ず出席のこと） 課題などと成績に関する説明、履修者の意見の確認
2	電子メールと情報検索	本学の電子メールシステムならびに情報検索の復習 情報源とその特性
3	コンピュータのハードウェア	コンピュータの基本要素とハードウェア
4	コンピュータのソフトウェア	n進数と情報表現 情報量と文字コード
5	ワープロソフト	ワープロソフトにおけるアプリケーションの連携 伝えたい情報を限られた範囲でまとめる
6	プレゼンテーションソフト（1）	テーマに沿って伝えたい内容を考え、基礎情報を集める ワープロソフトとの違いを確認しプレゼンテーションソフトに載せる準備をする
7	プレゼンテーションソフト（2）	より詳細な情報を収集し、プレゼンテーションソフトに向けてまとめる
8	表計算ソフト（1）	数式や関数についての基本を知る 検索関数を用いたデータの検索（1）
9	表計算ソフト（2）	より高度な関数の利用 検索関数を用いたデータの検索（2）
10	表計算ソフト（3）	関数を用いた栄養価計算の方法を知る
11	表計算ソフト（4）	食事摂取基準の調査を行う 栄養価の計算結果をよりわかりやすく表示する
12	表計算ソフト（5）	表計算ソフトにおけるグラフの使い分けについて知る
13	総合演習（1）	栄養価計算の結果をプレゼンテーションソフトで表現する
14	総合演習（2）	プレゼンテーションを行う
15	総合演習（3）	データの安全性 これまでのまとめ

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	生化学				
担当者氏名	本澤 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力）				

《授業の概要》

生化学とは広範で複雑、多岐にわたる種々の生命現象を、細胞レベル、物質・分子レベルで解明する学問である。本講義では、栄養を理解する上で特に必須となる生化学の諸分野に重点をおき、各栄養素の細胞内での代謝反応を中心課題とする。これによって、生体の基本単位である細胞、酵素および主要生体成分の合成・分解反応とそれらの調節機構について理解する。栄養素の生体内での種々の代謝過程とその意義を理解する。

《授業の到達目標》

種々の生命現象のうち、栄養素摂取にともなう生体反応である各栄養素の細胞内での代謝過程についての専門知識を身につける。これにより、酵素の触媒作用による糖質・脂質・タンパク質の代謝過程（合成反応および分解反応）とその意義、さらに相互の関係性を理解し、細胞レベルおよび物質レベルで把握できる。

《成績評価の方法》

授業展開に応じて複数回実施する筆記試験（70%）および定期試験期間中の筆記試験（30%）の合計評価点により成績評価を行う。出席率は評価対象としない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	酵素の構造と特性（1）	生体における化学反応に必要な活性化エネルギーと酵素の触媒作用、酵素の構造上の特徴、酵素反応の補助因子等について理解する。
2	酵素の構造と特性（2）	酵素の基質特異性（作用特異性）や、酵素活性に影響を及ぼす種々の因子とその効果について理解する。
3	酵素の構造と特性（3）	生体の多様な化学反応に対応した酵素作用の分類およびその働き、酵素反応の調節の仕組みについて理解する。
4	生体エネルギー学と代謝の概要（1）	自由エネルギー、異化反応・同化反応の解説を通してATPの役割を理解し、高エネルギーリン酸化合物の特徴を学習する。
5	生体エネルギー学と代謝の概要（2）	糖質、脂質、タンパク質の生体におけるエネルギー代謝の全体像を理解する。
6	糖質の代謝（1）	グルコース代謝の概要、解糖系および基質レベルのリン酸化によるATPの生成について理解する。
7	糖質の代謝（2）	グルコースの嫌氣的代謝およびクエン酸回路－電子伝達系を含む好氣的代謝を比較し、その特徴を理解する。
8	糖質の代謝（3）	糖新生過程およびグリコーゲン代謝を理解する。
9	糖質の代謝（4）	五炭糖リン酸経路およびコリ回路などについて、理解する。
10	脂質の代謝（1）	脂質代謝の概要、脂肪酸の合成およびエイコサノイドの合成、脂肪酸の分解（ β -酸化系）について理解する。
11	脂質の代謝（2）	トリアシルグリセロール（TG）およびリン脂質の合成・分解について理解する。
12	脂質の代謝（3）	コレステロールの合成およびケトン体の生成機序について理解する。
13	アミノ酸の代謝（1）	アミノ酸プールを中心とするアミノ酸代謝から、アミノ基転移反応、酸化的脱アミノ反応、尿素回路について学習し、アミノ酸の異化過程を理解する。
14	アミノ酸の代謝（2）	体内合成可能な可欠アミノ酸の合成過程およびアミノ酸から生成される種々の含窒素化合物について理解する。
15	アミノ酸の代謝（3） まとめ	アミノ酸の炭素骨格の利用（糖原性アミノ酸とケト原性アミノ酸）についての学習を通して、糖質および脂質代謝との相互関係を理解する。

《テキスト》

『化学・生化学－人体の構造と機能』（栄養管理と生命科学シリーズ） 大村正史、山田一哉、本三保子共著、理工図書、2011

《参考図書》

特に指定しない（生化学および栄養生化学に関係する書籍を学生各自が参考にすること）

《授業時間外学習》

1年1期開講科目「栄養のための基礎生物化学」の学習内容を基礎とするので、各週の授業で扱う有機化合物について、事前に学習して下さい。また、各回の授業毎に復習し、学習内容を再確認して、内容の整理と知識の定着を心がけて下さい。質問や相談は授業終了後に、教室または研究室で受け付けます。

《備考》

授業進行の妨げになるので私語は厳禁です。授業には、積極性と集中力をもって望んで下さい。各回授業の復習は理解度の向上に効果的です。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	栄養解剖学・人体生理学				
担当者氏名	大西 隆仁				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

細胞と組織、消化器系、呼吸器系、循環器系等の構造と機能について概説する。

《テキスト》

栄養解剖学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能（志村二三夫、岡純、山田和彦編、羊土社）

《参考図書》

系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 第7版（坂井建雄、岡田隆雄著、医学書院）、人体の構造と機能 第2版（佐藤昭夫著、医歯薬出版）

《授業の到達目標》

適切な栄養指導を行うためには、病態を理解する必要があり、正常な人体の構造と機能に関する知識が不可欠である。この科目では、管理栄養士に必要な人体の構造と機能について理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

学習教科内容の予習、復習をする。レポートを作成し期限内に提出する。

《成績評価の方法》

授業出席回数、授業実施回数の2/3未満の者は、成績評価対象外とする。レポートや筆記試験により評価する。

《備考》

私語を慎むこと。その他、講義室でのルールを守らない場合は、成績評価を行わない場合もあるので注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	栄養を理解するための解剖生理学に向けて
2	細胞と組織 (1)	細胞の構造と機能
3	細胞と組織 (2)	人体組織の構造と機能
4	細胞と組織 (3)	器官の構造と機能
5	消化器系 (1)	口腔、咽頭、食道、胃の構造と機能
6	消化器系 (2)	小腸、大腸の構造と機能
7	消化器系 (3)	肝臓、胆嚢と膵臓の構造と機能
8	呼吸器系 (1)	呼吸器の構造と機能
9	呼吸器系 (2)	呼吸の調節
10	循環器系 (1)	心臓の構造と機能
11	循環器系 (2)	血管の構造と機能
12	循環器系 (3)	血圧の調節
13	血液、造血器、リンパ系 (1)	血液、リンパ系と骨髄
14	血液、造血器、リンパ系 (2)	血液の細胞成分と血漿成分
15	まとめ	復習と問題

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品学				
担当者氏名	中井 玲子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

食を扱う者の基礎知識である食品「成分」の特徴を中心に学ぶ。食生活の歴史の変遷、現在の食生活とその問題点の概略から学習をスタートし、食品に含まれる成分の科学つまり栄養上の役割やおいしさに関わる成分、その他の生体調節機能物質や有害成分についても学ぶ。また保存、調理や加工時の変色など様々な変化の原因となる食品成分の変化についてそのしくみや「食感」に関係の深い食品の物性についても学習する。

《授業の到達目標》

「食品成分の特徴」を説明できるようになる。
 「食品と身体の関わり」概要を説明できるようになる。
 「調理、加工時に伴う食品成分の変化」について説明できるようになる。
 「食品の物性」について説明できるようになる。

《成績評価の方法》

・授業開始時刻より30分以上の遅刻は入室を認めない（但し、遅延証明書等の届がある場合は考慮する）。
 ・成績評価点数 = 各項目評価(各得点率% × 100) / 評価項目数
 (項目：レポート課題等の提出物評価、筆記試験)

《テキスト》

『食品学』菅原龍幸・福澤美喜男編著（建帛社）
 『最新日本食品成分表』医歯薬出版編（医歯薬出版）

《参考図書》

《授業時間外学習》

予習の方法:教科書の指定の箇所を読んでおくこと。
 復習の方法:毎回講義終了後にノート整理をするなど内容の再確認を行うこと。不明な点は質問するなり自分で調べるなりして「ほったらかし」にならないように。

《備考》

本科目は、高校までの化学知識をベースとして話が展開する。特に食品成分の多くは有機化合物であるため、有機化学の基礎を十分に学習しておく必要がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コース・ガイダンス人間と食品	コース概略と受講上の注意などを理解する。「人間と食品」の領域について理解する。
2	食品成分表	「食品成分表」について理解する。
3	食品成分の化学（一次機能）	食品中の「水分」について理解する。
4	食品成分の化学（一次機能）	食品中の「炭水化物」について理解する。
5	食品成分の化学（一次機能）	脂質（1）食品中の「脂質」の基本について理解する。
6	食品成分の化学（一次機能）	脂質（2）食品中の「脂質」の周辺知識について理解する。
7	食品成分の化学（一次機能）	食品中の「タンパク質」について理解する。
8	食品成分の化学（一次機能）	食品中の「無機質とビタミン」について理解する。
9	嗜好成分の化学（二次機能）	食品中の「色、香り、味」に関する物質について理解する。
10	前半の振り返り	理解度の確認を目的としてテストを実施し、また補足解説を行う。
11	食品中の機能性成分（三次機能）と有毒成分	食品中の「機能性成分（三次機能）」と「有毒成分」について理解する。
12	食品成分の変化	食品中の調理、加工、保存時における「炭水化物」と「脂質」の変化について理解する。
13	食品成分の変化	食品中の調理、加工、保存時における「褐変、光酸化、酵素反応」について理解する。
14	食品の物性	食品の「コロイド、レオロジー」、「官能検査」について理解する。
15	コースのまとめ	理解度の確認を目的としてテストを実施し、また補足解説を行う。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品学実験				
担当者氏名	中井 玲子				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力） 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

本科目において受講者は、講義「食品学」で学んだ内容のうち、特に食品成分表を主要な題材として取り上げ、食品成分表に記載されている一般成分および微量成分の分析値はどのようにして測定されるのか、各成分の化学的性質はどのようなものなのかということについて実験を通して理解を深めることをめざす。また、実験データと共に食料調達の現状について情報整理することで社会科学的視野の養成も図る。

《授業の到達目標》

「食品成分表」に掲載されている一般成分の分析方法を説明できるようになる。
「一般成分の特徴」について説明でき、その検出方法を習得する。
「地球温暖化と食料問題」について主体的に考え、伝え、適切な行動を取ることができるようになる

《成績評価の方法》

・授業開始時刻より30分以上の遅刻は入室を認めない（但し、遅延証明書等の届がある場合は考慮する）。
・成績評価点数 = 各項目評価(各得点率% × 100) / 評価項目数 (項目：レポート課題等の提出物評価、筆記試験)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コース・ガイダンス炭水化物（糖質）	コース概略と受講上の注意（化学実験上の諸注意および安全対策など）を理解する。炭水化物（糖質）について定性実験を通して理解を深める。
2	タンパク質	タンパク質について定性実験を通して理解を深める。
3	タンパク質	定量実験（1）分解：タンパク質の定量法「ケルダール法」について理解を深める。
4	タンパク質	定量実験（2）蒸留・滴定：タンパク質の定量法「ケルダール法」について理解を深める（継続）。
5	脂質	定性実験：脂質について定性実験を通して理解を深める。定量実験（1）抽出：脂質の定量法「ソックスレー抽出法」について理解を深める。
6	脂質	定量実験（2）測定：脂質の定量法「ソックスレー抽出法」について理解を深める（継続）。
7	水分 確認テスト	水分の定量実験（1）測定1回目：水分の定量法「常圧加熱乾燥法」について理解を深める。確認テスト：前半の内容を振り返り、理解度を確認する。
8	水分 灰分	水分の定量実験（2）測定2回目：「常圧加熱乾燥法」について理解を深める（継続）。灰分の定量実験（1）灰化：灰分の定量法について理解を深める。
9	灰分 エネルギー値算出	定量実験（2）測定：灰分の定量について理解を深める（継続）。エネルギー値算出法について理解を深める。
10	定性実験の復習実験	炭水化物、タンパク質、脂質について定性実験のポイントを復習し理解を深める。
11	ビタミンC及びフードマイレージ学習の概要説明	ビタミンC定量実験の概略を理解し、「フードマイレージ」「地産地消」「旬産旬消」をキーワードとして、地球温暖化防止の問題と食料調達の現状について学習を深める。
12	ビタミン C	定量実験（1）サンプル溶液の調製ビタミンCの定量法について理解を深める。
13	ビタミン C	定量実験（2）オサゾン生成・抽出ビタミンCの定量法について理解を深める（継続）。
14	ビタミン C	定量実験（3）H PLC測定ビタミンCの定量法について理解を深める（継続）。
15	コースのまとめ	コースで学んだ内容を振り返り、総合考察を行う。また、理解度を確認するため、確認テストに取り組む。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

『最新日本食品成分表』医歯薬出版編（医歯薬出版）
『食品学』菅原龍幸・福澤美喜男編著（建帛社）
『5訂日本標準食品成分表 分析マニュアルの解説』日本食品分析センター（編）、中央法規出版
『基礎からの食品・栄養学実験』村上俊男（編著）、建帛社
『食品分析機器のてびき』山田次良、三共出版

《授業時間外学習》

予習の方法：配付した実験書（プリント）を読んでくこと。また、適宜課題を出すので、その課題をやってくこと。
復習の方法：毎回行った実験の内容の再確認を行い、観察や測定結果、感じたこと、疑問等を詳細に実験ノートに記録すること。各自の実験記録を基にして極力詳しいレポートを作成すること。

《備考》

・実験の都合上、所定の時間割コマ数（2コマ）を超えて実験を行うこともあるので留意すること。ただし、時間割上、次の授業が続いて開講されている場合には配慮する。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	調理学				
担当者氏名	松尾 千鶴子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

人間が食べるという行動には、生理的・精神的意義があり生活の原点です。調理の過程における変化や調理に関する事柄を科学的に究明し、食生活の実践・指導に必要な基礎知識を習得することを目指しています。

《授業の到達目標》

・調理学の文化的・科学的側面を理解して、食生活の実践指導の際に活用することができる。

《テキスト》

『調理学』 川端 晶子、畑 明美（建帛社）

《参考図書》

『日本食品大事典』 杉田 浩一他編（医薬出版）
『総合調理科学辞典』 調理科学研究会（光生館）
『日本食品標準成分表 2010』 香川 芳子（女子栄養大学出版部）

《授業時間外学習》

まず、予習としてテキストをよく読んで授業に臨むことが基礎的事項の理解につながると思います。

《成績評価の方法》

定期試験 70%、小テストや課題レポート等 30%

《備考》

授業の妨げになるようなことは慎み、前向きに取り組むことを望みます。わからないことは質問してください。出欠は点呼または出席票でとります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	調理学の概要（調理と調理学、調理文化）	調理学は、どういう学問なのかについての基本的な考え方を理解し、「どのような食べ方をしたらよいか」を理解する。
2	調理学の概要（食事計画）	食事の意義、食事構成の基礎知識を理解し、健康な生活のための食事計画を理解する。
3	おいしさの科学（おいしさとは何か、評価）	食事がおいしいということは健康状態が良好の証しといわれる。食べ物のおいしさが形成される要素とその評価方法について理解する。
4	食品の調理機能 植物性食品(1)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、穀類、イモ類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
5	食品の調理機能 植物性食品(2)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、豆類、野菜類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
6	食品の調理機能 植物性食品(3)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、野菜類、果実類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
7	食品の調理機能 植物性食品(4)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、きのこ類、海藻類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
8	食品の調理機能 動物性食品(1)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、肉類、魚類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
9	食品の調理機能 動物性食品(2)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、肉類、魚類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
10	食品の調理機能 動物性食品(3)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、卵類、乳類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
11	食品の調理機能 抽出食品素材(1)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、でん粉類、油脂類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
12	食品の調理機能 抽出食品素材(2)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、ゲル化素材（寒天、ゼラチン等）の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
13	食品の調理機能 調味料等	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、調味料、野菜類、果実類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
14	調理操作と調理機器(1)	調理の過程で行われる操作は種々あるが、食品材料と目的とする料理に最も適応した調理操作が必要であることを理解する。
15	調理操作と調理機器(2)	調理の意義を踏まえ、各種の調理操作や多様な調理器具類についての基礎知識を理解する。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	調理学実験				
担当者氏名	松尾 千鶴子				
授業方法	実験	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力） 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》

調理に関する理論を実験によって検証し、基礎知識の理解を高め、また、着実な実験方法の修得、協調性を養うことを目指しています。

《テキスト》

『クッキング エクスペリメント』 四宮 陽子（学建書院）

《参考図書》

適宜、紹介します。

《授業の到達目標》

- ・食品の組成が、調理の過程においてどのように変化するかを科学的に理解し、調理の際に活かすことができる。
- ・正確な実験試料の調製、実験方法がその実験結果に与えることを認識することができる。
- ・実験の結果(現象)について論理的に説明することができる。

《授業時間外学習》

テキストによって実験の目的、方法等を把握して授業に臨み、実験結果の考察には、関連する書籍を調べましょう。

《成績評価の方法》

定期試験 65%、課題レポート等の提出物 35%

《備考》

授業における諸注意を厳守し、食べ物（食品の状況や調理性など）に関心を持ちましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のはじめにあたって計量について	食品の容量と重量との関係を理解し、実験の試料調製には正確な計量、計測が重要であることを理解する。
2	嗜好性に関する実験	官能検査の実施にかかわる基礎知識を理解し、識別・嗜好試験を通して食べ物の基本的な味を習得する。
3	米の調理機能	洗米、浸漬、炊飯における熱の伝わり方、米の変化等の観察を通して理解し、さらに飯としての官能評価をする。
4	小麦粉の調理機能	たんぱく質(グルテン)の採取、パン又はうどんの調製を通して、小麦粉の調理機能について理解する。
5	卵の調理性(1)	鮮度の判定法の習得、加熱による殻付き卵・卵液の凝固性について理解する。
6	卵の調理性(2)	卵白の起泡性、卵黄の乳化性について理解し、さらに顕微鏡観察によりその性状を把握する。
7	肉(魚)類の調理性	調理操作、加熱温度、調味液等による肉質の変化について理解する。
8	乳類・乳製品の調理性	牛乳組成の特性、生クリームの起泡性とバターへの構造上の変化を理解する。
9	豆の調理性	餡の調製を通して、種類による組織・成分の違いや適応する調理について理解する。顕微鏡観察により餡の状態を把握する。
10	調理と温度(1)	食品の温度変化は調理と深くかかわること、また食べ物の温度の適否はおいしさの要因の1つであることを理解する。
11	調理と温度(2)	飲み物の好ましい温度の計測、及びでん粉添加汁物の保温性を観察し、その結果をエクセル表を用いて集計し判定をする。
12	調理と色(1)	食塩による野菜の放水、食品の天然の色の保持に関する基礎的知識を理解する。
13	調理と色(2)	メイラード反応、カラメル化反応を把握し、調理過程で生成される新たな色について理解する。
14	ゼリーの物理的性質	寒天とゼラチンゼリーを調製し、それぞれのゼリーの特性を理解する。（官能評価、テクスチャー試験器について）
15	乾物類の調理特性	日常食によく用いられる乾物の調理特性を理解するとともに、調理に際し、それぞれの料理に適応する量を把握する。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	基礎栄養学（健康栄養）				
担当者氏名	松村 末夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

私たち、生物（動物）は、食物を摂取しなければ生きていけない。食物には私たちが生きていくために必要なさまざまな栄養素が含まれている。私たちが摂取した食物中の栄養素が、体内でどのように加工され、利用されているのかを学習し、理解する。

《授業の到達目標》

下の授業計画中に記載した栄養学に関係した諸項目・事項の内容を理解し、それぞれの項目・事項の要点が説明できるようにする。

《成績評価の方法》

定期試験(100%)の結果により評価する。

《テキスト》

『Nブックス 基礎栄養学 第3版』林淳三編著（建帛社）2010

《参考図書》

『サクセス管理栄養士受験講座6基礎栄養学』全国栄養士養成施設協会・日本栄養士会監修（第一出版）/『系統看護学講座 専門基礎分野生化学人体の構造と機能2』三輪、中恵著（医学書院）/『統看護学講座専門基礎解剖生理学人体の構造と機能1』坂井、岡田著（医学書院）2010 /『最新栄養学第9版専門領域の最新情報』木村・小林翻訳監修 / 建帛社

《授業時間外学習》

あらかじめ、テキスト中の各週の授業内容に相当する部分を読んでおくこと。その日、何についてどのような説明があったのかを理解し、記憶すること。

《備考》

分からないことがあれば質問すること。授業時間外の質問も受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養の概念とその歴史	栄養の意味と意義、生体の成り立ち（細胞と生体成分）とその機能を説明する。
2	栄養の概念とその歴史	栄養学の歴史（栄養素と消化酵素の発見、体内酵素と代謝作用の発見）を説明する。
3	摂食行動	食欲がどのようにして生じるのか、食欲と摂食行動のサーカディアンリズムを説明する。
4	摂食行動 / 栄養と生体防御	栄養と病気の関係を説明する。
5	消化・吸収と栄養素	消化器系の構造と機能、消化液、消化酵素の種類と栄養素を説明する。
6	消化・吸収と栄養素	消化の調節と吸収機構、栄養素の体内動態、栄養素の生物学的利用度について説明する。
7	糖質の栄養	糖質の構造と働き、糖質の消化・吸収、血糖とその調節について説明する。
8	糖質の栄養	糖質の代謝経路を説明する。
9	糖質の栄養	糖質がどのようにしてエネルギー源として利用されるのか、糖質と他の栄養素との関係を説明する。
10	脂質の栄養	脂質の構造と性質、脂質の消化と吸収の過程を説明する。
11	脂質の栄養	脂質の代謝と移動・輸送の過程、脂肪酸および脂質の栄養機能を説明する。
12	脂質の栄養	脂質と肥満の関係、インスリン抵抗性にかかわる因子と臓器、食事摂取基準と栄養摂取状況を説明する。
13	タンパク質の栄養	タンパク質とアミノ酸の構造と働きを説明する。
14	タンパク質の栄養	タンパク質の消化と吸収の過程、タンパク質の代謝経路を説明する。
15	学習のまとめ	上記、各テーマの要点を復習する。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	基礎栄養学（基礎栄養）				
担当者氏名	松村 末夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

基礎栄養学の後半部分であり、授業のねらい及び概要は基礎栄養学と同じ。

《テキスト》

『Nブックス 基礎栄養学 第3版』林淳三編著（建帛社）2010

《授業の到達目標》

下の授業計画中に記載した栄養学に関係した諸項目・事項の内容を理解し、それぞれの項目・事項の要点が説明できるようにする。

《参考図書》

『サクセス管理栄養士受験講座6基礎栄養学』全国栄養士養成施設協会・日本栄養士会監修（第一出版）/『系統看護学講座 専門基礎分野生化学人体の構造と機能2』三輪、中恵著（医学書院）/『統看護学講座専門基礎解剖生理学人体構造と機能1』坂井、岡田著（医学書院）2010/『最新栄養学第9版専門領域の最新情報』木村・小林翻訳監修（建帛社）

《授業時間外学習》

あらかじめ、テキスト中の各週の授業内容に対応する部分を読んでおくこと。その日、何についてどのような説明があったのかを理解し、記憶すること。

《成績評価の方法》

定期試験(100%)の結果により評価する。

《備考》

分からないことがあれば質問すること。授業時間外の質問も受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	タンパク質の栄養	タンパク質の栄養価、タンパク質と他の栄養素との関係、タンパク質の食事摂取基準、タンパク質の不足と過剰について説明する。
2	ビタミンの栄養	ビタミンの種類と構造について説明する。
3	ビタミンの栄養	ビタミンの代謝と栄養学的機能、ビタミンと他の栄養素との関係について説明する。
4	無機質（ミネラル）の栄養	無機質の一般的機能、カルシウム、リン、マグネシウムの機能、摂取基準について説明する。
5	無機質（ミネラル）の栄養	カリウム、ナトリウム、他の微量元素の機能、摂取基準について説明する。
6	水、電解質	水の機能、電解質の代謝、酸塩基平衡の調節について説明する。
7	エネルギー代謝	エネルギーの変換、エネルギーの必要量と消費量、エネルギー代謝の測定について説明する。
8	エネルギー代謝	基礎代謝、活動時エネルギー量、食品のエネルギー量について説明する。
9	栄養と遺伝子	遺伝病、栄養と遺伝子、遺伝子多型について説明する。
10	栄養と遺伝子	俊約遺伝子、栄養と癌、酸化ストレスと栄養素について説明する。
11	生理機能をもつ非栄養素	食物繊維、難消化性オリゴ糖について説明する。
12	生理機能をもつ非栄養素	糖アルコール、アルコール、その他の非栄養素について説明する。
13	栄養と健康	わが国の栄養と健康状況の推移、栄養評価について説明する。
14	栄養と健康	栄養摂取適量、食と健康21について説明する。
15	学習のまとめ	上記、各テーマの要点を復習する。

《教職に関する科目》

科目名	教職概論				
担当者氏名	砂子 滋美				
授業方法	講義	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教員になりたい人、教職課程を歩むことを考えている人、教員になることを迷っている人にとって、最終的に教員になることを決意するための動機づけがこの授業である。その時々教育という営みがいかに大きな影響力を子どもたちに与えているか考える必要がある。教員になるための基礎的なものを身につける。

《授業の到達目標》

教員に必要な資質、知識、能力を身につけ、教師としてそれらを幅広く活用する人間を育成する。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい教職概論・教育原理』
関西学院大学出版会 2008年

《参考図書》

小・中・高等学校学習指導要領（文部科学省）
解説教育六法（三省堂）
教職論（宮崎和夫編著）ミネルヴァ書房
現代教職論（土屋基規編著）学文社
教育基礎論・教職論（唐澤勇編著）学事出版

《授業時間外学習》

多くの質的体験をすることを心がける必要がある。具体的には、教育関係のボランティア活動を遂行するよう平日頃から心がけておく必要がある。

《成績評価の方法》

積極的な授業参加40%、定期試験50%、課題10%、これらの評価を総合して評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教職概論オリエンテーション	本講義の概要や目標を示し、授業の進め方について解説する。進路選択に資する各種の機会の提供等
2	教職の歴史	古代から近世までの学校と教員の起源とその展開を理解する。
3	教職観と理想の教師像	さまざまな観点から理想の教師像を探っていく。
4	教職の意義と教員の役割	教職の意義、教員の適性と社会的使命について考察し、教師の使命を理解する。
5	進路指導の意義と課題	教員組織を理解し、キャリア教育の指導における教師力とは何かを理解する。
6	教員養成と免許制度	師範学校制度と戦後の開放性教員養成との比較を試み、現代日本において求められる教員養成とは何かを吟味し、求めるべき教員像について考えてみる。
7	教育職員の服務	教育職員の服務の根本基準、職務上の義務、身分上の義務、身分保障と分限、懲戒等について理解する。
8	教師の仕事と役割	教員の種類と階層、カリキュラムと教師の役割、学習指導について考察する。
9	教師の仕事と役割	生徒指導と生活指導、教育相談、カウンセリング、学校・学級経営について考察する。
10	初等・中等教育と教員	初等教育と中等教育の連続一貫性が強調される時代・社会の特徴を十分に理解して、それぞれの教員の役割分担を明確にする。
11	管理職・主任の役割	学校組織の改革後多くの種類の教員が設けられた。それらの役割について理解する。
12	教員の採用と研修について	教員採用に至るまでの就職活動と教員採用試験の制度について探究するとともに教員研修にはどのようなものがあるのか理解する。
13	現代の教員養成の課題と今後の発展について	教員養成の資質・能力の向上が常に望まれるが、今後取り組むべき課題について考える。
14	教育の今日的課題	道徳教育、特別活動、キャリア教育、開かれた学校づくり、家庭、地域との連携、幼・小・中間の接続等を考察する。
15	教員免許更新制及び今期のの講義を振り返る。	10年ごとの教員免許更新制について理解する。講義全体のまとめをする。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本講義では、人間形成の意義と課題を教育原理的側面から論じてゆきたい。そのうえで、多くの教育問題が発生する今日的課題として、ポルノーの教育思想を中心として、様々な教育思想家の主張を援用し、学校生活を含めた人間関係の深化、生きる意味を探究する援助者としての教師論などを論ずる。

《テキスト》

広岡義之著『ポルノー教育学入門』（風間書房）2012年

《参考図書》

広岡義之編著、『教職をめざす人のための教育用語・法規』、ミネルヴァ書房、2012年

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析することができるようにすることを目指す。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	講義の開始に当たり、どのような姿勢で受講すべきかを理解する。
2	教育の目的と目標 1	教育を通していかにして人間形成が可能となるかを考察する。
3	教育の目的と目標 2	個人主義的な教育と集団主義的な教育のかかわりについて考察する。
4	教育における信頼について	教員に求められる教育的愛情、使命感、責任感について理解する。親と子どもの信頼関係についても説明することができる。
5	林竹二の教育実践論	林竹二の「深さのある授業」について、具体的事例を説明することができる。
6	教育における徳論の重要性について	教師の信念、謙虚さ、畏敬の念等の教育的意味を考察することができる。
7	言語と教育について	言語教育の重要性が新学習指導要領でも指摘された。それを受けて言葉の教育的課題を理解する。
8	連続的形式と非連続的形式の教育	主としてポルノーの『実存哲学と教育学』で展開される両者の特徴について考える。
9	家庭教育について	家庭教育の重要性について「私的空間」という切り口で考察する。
10	平和教育について	平和教育の重要性がこれほど問われている時代はない。そのため平和教育の土台づくりを教育学的に考察する。
11	高齢者教育について	高齢化社会に突入した現代にあって、高齢者教育のポイントがどこにあるのか理解する。
12	環境教育について	今ほど環境の大切さを考えることが求められている時代はない。特に環境倫理との関連において説明することができる。
13	生命尊重について	生命軽視の風潮が教育界においても問題となっている。人間の生死について本質的な概念が説明できる。
14	練習することの意義	問題解決学習等で、地道にこつこつと練習することの意義がやや忘れられがちになっている。改めて練習することの教育学的意義を哲学的に説明することができる。
15	総括	これまでの主題について振り返り、教職の第一歩として、どのような教育的心構えができたかについて説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

「テキスト」欄に挙げてある『教育の制度と歴史』の中から重要と思われる項目を中心に、考察を加えて行く。学校の歴史、教育制度の概念、現行の学校教育制度、学校制度（学校体系）の枠組み、学校教育の機能と性格、社会変化と学校教育などにみられる主要原理と課題を分析・検討する。

《テキスト》

『教育の制度と歴史』 広岡義之著
ミネルヴァ書房 2007.

《参考図書》

『教育用語付教育法規』広岡義之編著
ミネルヴァ書房 2012.

《授業の到達目標》

わが国の教育の将来的な改革・再編成の方向を本質的に理解するためには、教育制度の歴史的位置についての認識が必要となる。そこで受講生は、教育制度を鳥瞰することにより、なに故必然的に現代のこうした日本の教育形態や制度が形成されるに至ったのかについて主体的に考えることができるようになる。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	本講義の進め方、受講態度等、予習の仕方について説明することができる。
2	西洋古代・中世の教育制度と教育の歴史	古代・中世の教育の変遷について詳細に理解する。
3	ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史	なぜ中世が終わると宗教改革が生じ、ルネサンスが開いたのか？ この点について教育の営みを軸に論じることができる。
4	17・18世紀の教育制度と教育の歴史	17世紀の教育思想の代表者コメニウスの教育思想を中心に理解する。18世紀は啓蒙の時代であり、近代社会の先駆的特徴を持つため、その点を説明することができる。
5	西洋近代公教育制度の発達	公教育の、無償性、就学義務、宗派的対立等の原則についての議論を理解する。
6	19・20世紀の教育制度と教育の歴史	フランス革命の自由・等思想に基づく国民の自由主義が前面に押し出されるようになる。代表的教育者フレーベルを中心に彼の教育思想を理解する。
7	西洋「新教育運動」の展開と現代教育制度の動向	新教育運動の代表として、シュタイナー、田園教育舎系の教育者の思想を理解する。また現代教育制度として欧米の教育システムを比較検討することができる。
8	日本古代・中世の教育制度と教育の歴史	大和時代、奈良時代、平安時代、中世の社会変化とそれに伴う教育制度について理解する。
9	日本近世の教育制度と教育の歴史	江戸時代の教育思想、武士の教育制度と教育機関について理解する。
10	近代国家の確立と教育	森有礼と学校令について、教育勅語について、師範学校について詳細に説明することができる。
11	大正デモクラシーと教育	大正自由教育運動について、八大教育主張について、教育制度の拡充について理解する。
12	戦時体制下の教育制度と教育	国民学校と青年学校、学徒動員、学校機能の停止等、戦時体制下の特徴を説明することができる。
13	戦後日本の教育改革および教育制度改革 1	占領軍の管理政策、アメリカ教育使節団、教育法規の制定、単線型学校体系について説明を加えることができる。
14	戦後日本の教育改革および教育制度改革 2	終戦から1940年代まで、1950年代の教育制度の状況、1960年代の教育爆発の時代、1970～80年代の特徴について理解する。
15	現代日本の教育改革	2000年以降の教育改革の諸相を理解する。特に改正教育基本法の特徴について解説することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育相談(カウンセリングを含む)				
担当者氏名	原 志津				
授業方法	講義	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

近年の学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐることがあげられる。このような状況に対して日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろうか。しっかり見て、耳を傾けて子どもたちの声を聴き、子どもたちの気持ちを汲み取り、短い言葉で要約して返すというやりとり、すなわちカウンセリングの技術を学ぶことは、現在の教育現場においても、古くて新しい意味があるように思われる。

《授業の到達目標》

- ・カウンセリングの基本技術を学ぶ
- ・自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ
- ・子どもたちのサインに気づく
- ・こころの成長・変化のプロセスを知る

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト20%
 授業内容の理解 50%

《テキスト》

指定しない。必要な資料は毎回配布する。

《参考図書》

「スクールカウンセラーがすすめる112冊の本」滝口俊子・田中慶江編 創元社1400円＋税 「特別支援教育のための100冊」特別支援プロジェクトチーム 創元社1800円

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとり読んでほしい。自分の最も興味ある一冊を選んで、用紙は問わないが、手書きで5枚の感想文を最終授業日まで提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	15回の授業のオリエンテーション	人の話しをきくということをめぐる
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライアント中心療法について
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習(ロールプレイ)
4	カウンセリングのプロセスについて	カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「体験過程」から、自分の内面に焦点化することを学ぶ フォーカシングの実習も含む
6	自分自身のテーマを知る	自分にとって役に立つ心理テスト
7	発達の臨床と教育相談	人の人生と発達課題に関して学ぶ
8	軽度発達障害に関して	学校現場で出会う子どもたちの発達障害について学ぶ
9	こころの発達理論	思春期以降の生徒のこころの問題を理解するために、関係性について学ぶ
10	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ
11	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景との理論について学ぶ
12	こころの治癒過程を知る	箱庭療法のDVDから、こころの治癒過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師に、できることと・できないことは何かを知り、専門機関と連携する上でたいせつなことを知る
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりの対処の仕方を考える
15	まとめ	授業での学びをふり返し、今後活かすべきことは何かを考える

平成 24 (2012) 年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成24年度(2012年度)入学者対象

()は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の担当者	ページ
			必修	選択					1年	2年	3年	4年		
群(領域に関する科目)	基礎ゼミ	演習	2						2					
	基礎ゼミ	演習	2						2					
	栄養のための基礎生物化学	講義	2					Ⓑ	2					
	実験基礎演習	演習	2						2					
	調理基礎演習	演習	2						2					
	調理基礎演習	演習	2	2					2					
	医学概論	講義	2					Ⓔ	2					
	コミュニケーション論	講義	2						2					
	バイオテクノロジー	講義	2					Ⓔ				2		
	食料経済	講義	2									2		
健康科学	講義	2						2						
専門教育科目 群(専門基礎に関する科目)	健康情報処理演習	演習	2						2					
	情報処理と栄養統計	講義	2	2						2				湯瀬 晶文 133
	情報処理と栄養統計	講義	2	2						2				湯瀬 晶文 134
	公衆衛生学(公衆衛生)	講義	2					Ⓓ			2			
	公衆衛生学(健康管理)	講義	2	2							2			
	社会福祉概論	講義	2	2							2			
	生化学	講義	2					Ⓑ	2					
	生化学	講義	2	2				Ⓑ	2					野田 千征子 135
	生化学実験	実験	1					Ⓑ		3				亀谷 小枝 136
	生化学実験	実験	1					Ⓑ			3			野田 千征子・亀谷 小枝 137
	栄養解剖学・人体生理学	講義	2					Ⓑ	2					
	栄養解剖学・人体生理学	講義	2	2				Ⓑ		2				大西 隆仁 138
	栄養解剖学実験	実験	1							3				大西 隆仁 139
	人体生理学実験	実験	1								3			内田 亨 140
	臨床病態学	講義	2					Ⓔ		2				内田 亨 141
	臨床病態学	講義	2					Ⓔ			2			内田 亨 142
	生体防御論	講義	2					Ⓒ			2			
	食品学	講義	2					Ⓑ	2					
	食品学	講義	2	2				Ⓒ			2			
	食品学実験	実験	1					Ⓑ	3					
	食品学実験	実験	1					Ⓑ				3		
	食品衛生学	講義	2					Ⓓ			2			[島田 邦夫] 143
	食品衛生学実験	実験	1					Ⓓ				3		
	食品機能論	講義	2									2		
	調理学	講義	2						2					
	調理学実験	実験	1							3				
調理学実習	実習	1								3			富永 しのぶ 144	
調理学実習	実習	1									3		富永 しのぶ 145	

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成24年度(2012年度)入学者対象
()は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の担当者	ページ	
			必修	選択					1年	2年	3年	4年			
専門教育科目 (群・専門に関する科目)	基礎栄養学 (健康栄養)	講義	2				㊦	2							
	基礎栄養学 (基礎栄養)	講義	2				㊦	2							
	栄養学実習	実習	1				㊦		3					松村 末夫	146
	応用栄養学 (ライフステージ栄養)	講義	2				㊦		2					須見 登志子	147
	応用栄養学 (スポーツ・環境栄養)	講義		2								2			
	栄養管理学	講義	2				㊦			2				眞鍋 裕之	148
	栄養管理学実習	実習		1							3				
	基礎栄養教育論	講義	2				㊦			2				矢筈 みどり	149
	健康栄養教育論	講義	2							2				[藤田 裕子]	150
	基礎栄養教育実習	実習	1							3				富永 しのぶ	151
	健康栄養教育実習	実習	1								3				
	実践栄養教育演習	演習		2									2		
	臨床栄養学	講義	2								2			増村 美佐子	152
	臨床栄養学	講義	2								2			須見 登志子	153
	臨床栄養学実習	実習	1									3			
	臨床栄養管理学	講義	2									2			
	臨床栄養管理演習	演習	2										2		
	公衆栄養学	講義	2				㊦				2			嶋津 裕子	154
	公衆栄養学	講義	2									2			
	公衆栄養活動実習	実習	1										3		
	給食経営管理論	講義	2								2			前田 典子	155
	メニュー管理実習	実習	1									3			
	給食管理実習	実習	1				㊦					3			
	フードサービスマネジメント演習	演習	2										2		
	総合演習	演習	2											2	
	卒業演習	演習	2											2	
	卒業演習	演習	2											2	
	給食管理臨地実習(校外実習)	実習	1									2			
	臨床栄養臨地実習	実習	2										4		
	公衆栄養臨地実習	実習	1										2		
学校栄養教育論	講義	2									2				
学校栄養教育論	講義	2										2			
卒業研究	演習		3										3		
卒業研究	演習		3										3		

は栄養士免許必修科目

は管理栄養士国家資格必修科目

は栄養教諭必修科目

表中の科目以外にフードスペシャリスト養成科目として、4年 期に「フードスペシャリスト論」

「フードコーディネータ論」を開講する。

食品衛生管理者等(食品衛生管理者・食品衛生監視員)欄の㊦～㊧は食品衛生法施行規則 第50条 別表第14及び第15に指定された科目である。

㊦～㊩別表第14にかかげた科目・㊧は別表第15にかかげた科目

㊦化学関係(教養科目「化学」)修得のこと) ㊧生物化学関係 ㊨微生物関係 ㊩公衆衛生学関係 ㊪その他関連科目

㊦～㊩群から1科目以上、最低修得単位数(㊦+㊧+㊨+㊩)22単位以上

最低修得単位数合計(㊦+㊧+㊨+㊩+㊪)40単位以上

欄外の 印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成24年度（2012年度）入学対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

業 目 の 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		栄 養 士	管 理 栄 養 士	栄 養 教 諭 一 種	食 品 衛 生 管 理 者 等	学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)				平 成 25 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
			必 修	選 択					1 年	2 年	3 年	4 年		
栄 養 教 諭 一 種 免 許 取 得 に 関 する 科 目	教職概論	講義	2					2						
	教育原理	講義	2					2						
	教育史	講義	2								2			
	教育心理学	講義	2							2			(大平 曜子)	156
	教育制度論	講義	2					2						
	教育課程論(道徳・特別活動を含む)	講義	2							2			[新井野 久男]	157
	教育方法・技術論	講義	2							2			(河野 稔)	158
	教育方法論	講義	2								2			
	生徒指導論(進路指導を含む)	講義	2						2				[新井野 久男]	159
	教育相談(カウンセリングを含む)	講義	2					2						
	事前事後指導	講義	1								1			
	栄養教育実習	実習	1									3		
	教職実践演習(栄養教諭)	演習	2									2		

は栄養教諭必修科目、 は栄養教諭選択科目

教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法(2単位)、体育(2単位)、外国語コミュニケーション(2単位)、情報機器の操作(2単位)について、指定の科目を修得すること。

欄外の 印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	情報処理と栄養統計				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） 3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー） 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力）				

《授業の概要》

統計学あるいは統計的視点は、非常に広範な領域で不可欠のものとなっており、当然栄養分野もその例外ではない。

統計学は、大きく「記述統計学」と「推測統計学」の2つに分けることができる。この授業ではそれぞれのごく基礎の部分、とりわけ記述統計学の基礎に重点を置き、講義だけではなくコンピュータを用いた演習も行う。なお、カリキュラム検討中のシラバス締切のため、内容が大幅変更となる可能性もある。

《授業の到達目標》

この授業は、栄養分野におけるデータの基本的な分析で利用される初歩的な統計的手法や考え方について学ぶ。そのことを通して、以下の2点の修得を目標とする。

(1) 記述統計学の基礎的な内容に基づき、データの特徴を要約統計量で記述できるようになる

(2) 推測統計学の基礎的な内容に基づき、標本データから母集団全体の簡単な特徴を推測できるようになる

《成績評価の方法》

毎回の課題への取り組みとレポート（70%）および筆記試験（30%）を主として評価する予定であるが、詳細はオリエンテーションにおける履修者の意見も交えて決定する。

なお、私語や携帯機器の利用、授業に不必要な作業など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

未定（後日連絡）。
 （必要に応じてプリント配布、ファイル配付等も行う）

《参考図書》

『日本食品標準成分表2010』 文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会
 他は、必要に応じて適宜指示する。

《授業時間外学習》

毎回のように課題が出るので、時間をかけて取り組む必要がある。授業は前回までの内容を十分に理解し、課題を完成させていることを前提に行われる。

万一授業を欠席する場合は、次回授業までに授業内容を十分確認し、課題を完成させておくこと。

《備考》

統計もコンピュータもすぐに理解できなくても、粘り強くせめて卒業するまで使い続けてください。そうするうちに慣れも手伝って次第に使えるようになってくるはずですよ。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の進め方についての説明と評価方法の決定（大切なので履修希望者は必ず出席のこと）ならびに統計学について
2	表計算ソフトの基礎（1）	表計算ソフトの簡単な復習（1）
3	表計算ソフトの基礎（2）	表計算ソフトの簡単な復習（2）
4	統計データについて	統計データの種類と体系、統計データの見方
5	データの可視化（1）	データの分布の分析（度数分布表）
6	データの可視化（2）	データの分布の分析（ヒストグラム、集中や不均衡）
7	データの要約（1）	代表値とは 代表値を用いて要約する
8	データの要約（2）	いくつかの代表値とその特性
9	データの要約（3）	いくつかの散布度とその特性
10	確率と分布（1）	確率とは
11	確率と分布（2）	確率分布とは
12	正規分布（1）	正規分布の重要性と中心極限定理
13	正規分布（2）	正規分布を用いた推定
14	正規分布（3）	正規分布を用いた検定（2つの仮説と統計的検定）
15	まとめ	これまでの成果確認

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	情報処理と栄養統計				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力） 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

情報処理と栄養統計Ⅰに引き続き、他の多くの分野同様に栄養分野でも不可欠なものとなっている統計学あるいは統計的視座を学ぶ。この授業では、とりわけ推測統計学の基礎に重点を置き、講義だけではなくコンピュータを用いた演習も併用することにより効果的な修得を目指す。

なお、学科カリキュラム検討中に本シラバス内容が締切られているため、授業内容が大幅変更となる可能性もある。

《授業の到達目標》

この授業は、栄養分野におけるデータの基本的な分析で利用される初歩的な統計的手法や考え方について学ぶ。そのことを通して、

(1) 推測統計学の基礎的な内容に基づき、標本データから母集団全体の簡単な特徴を推測できるようになる

(2) 具体的なデータに対し統計的な判断できるようになることを目標とする。

《成績評価の方法》

毎回の課題への取り組みとレポート（70%）および筆記試験（30%）を主として評価する予定であるが、詳細はオリエンテーションにおける履修者の意見も交えて決定する。

なお、私語や携帯機器の利用、授業に不必要な作業など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

未定（後日連絡）。
（必要に応じてプリント配布、ファイル配付等も行う）

《参考図書》

必要に応じて、適宜指示する。

《授業時間外学習》

毎回のよう課題が出るので、時間をかけて取り組む必要がある。授業は前回までの内容を十分に理解し、課題を完成させていることを前提に行われる。

万一授業を欠席する場合は、次回授業までに授業内容を十分確認し、課題を完成させておくこと。

《備考》

この科目は情報処理と栄養統計Ⅰに続く科目です。
努力を惜しまず授業に臨むとともに、自分の頭で考えながら統計を使い続けてください。次第に理解度も向上するはずで

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の進め方についての説明と評価方法の決定、情報処理と栄養統計Ⅰの振り返り（大切なので履修希望者は必ず出席のこと）
2	統計データについて 2次元データ	データ間の関係の可視化と分析（2次元データとその可視化）
3	正規分布	推定と信頼区間 母集団と標本の情報
4	統計的検定（1）	カイ2乗値とカイ2乗分布
5	統計的検定（2）	カイ2乗検定（1）
6	統計的検定（3）	カイ2乗検定（2）
7	統計的検定（4）	平均の差と平均差の信頼区間
8	統計的検定（5）	t検定（対応なし）
9	統計的検定（6）	対応とは t検定（対応あり）
10	分散分析（1）	t検定と分散分析 t検定が使えない
11	分散分析（2）	分散分析（1要因）
12	分散分析（3）	交互作用
13	分散分析（4）	分散分析（2要因）
14	総合的演習	実際に用いられるいくつかの統計
15	まとめ	全体のまとめ

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	生化学				
担当者氏名	野田 千征子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

生化学の中でも細胞生物学・分子生物学と相互に深く関わっている分野を取り上げる。すべての生物は細胞から成る。細胞がもつ機能を分子で理解することにより、生命現象を理解することを目的とする。生物の中でも真核生物の遺伝情報の伝達と遺伝情報の発現、恒常性維持における細胞の情報伝達と細胞応答に重点を置いて概説する。「生き物はうまくできているなあ」と感じ、その仕組みに興味をもって欲しい。

《授業の到達目標》

(1) 細胞の構造と機能(細胞膜、細胞小器官の構造)と働きを説明できる。(2) DNAとRNAの構造を理解し、遺伝情報を子孫へ伝達する、あるいは細胞が増えるときに新たな細胞へ伝達する仕組みを理解する。(3) 細胞と細胞間の情報伝達が生命を維持するために重要であることを理解する。さらに、細胞が情報を受容し、細胞内の機能を調節する仕組みを理解する。

《成績評価の方法》

定期試験(100%)で評価する。

《テキスト》

『サクセス管理栄養士講座 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち』佐々木康人他(著)、第一出版 2011

《参考図書》

『マッキー生化学 第4版』市川厚(監修)、化学同人 2009
 『リップンコットシリーズイラストレイテッド生化学』石崎泰樹・丸山敬(監訳)、丸善株式会社 2008
 『分子生物学講義中継 part1』井出利憲著、羊土社 2010
 『分子生物学講義中継 part2』井出利憲著、羊土社 2011

《授業時間外学習》

(1) 予習:授業計画に沿って講義を行うので、教科書を読んでおくこと。
 (2) 復習:ノートと教科書を判読して授業内容を再確認し、不明な点を調べ、理解を深めること。復習のためのプリント(問題)を随時配布するので、これを活用すること。

《備考》

人体のことに興味をもって下さい。暗記ではなく「理解して納得する」ように心がけると、楽しく学ぶことができ、知識が自ずと身につきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人体の構造と機能の概要	まず、生物とはなにか考えてみよう。人体を構成する成分についてすでに習得済みではあるが、本授業を進めていく上で必要な基礎的なことを復習する。
2	細胞の構造	人体はどのような細胞から成り立っているのだろうか、細胞の種類と構造について学ぶ。
3	細胞の構造: 細胞膜、細胞小器官	細胞を構成している膜、細胞の中に存在している多様な構造体(細胞小器官)とはどのような物質からなり、どのような働きをしているのかについて学ぶ。
4	細胞の増殖	細胞が増えるしくみ、すなわち細胞が分裂・増殖するしくみを理解する。
5	脂質の代謝: 脂質の輸送と蓄積	食物として摂取した脂質ならびに人体でつくられた脂質は、どのような形で体の隅々まで運ばれ、そこでどのようにして取り込まれるのかを理解する。
6	アミノ酸、たんぱく質の代謝(1)	体内のたんぱく質は絶えず、分解と合成されていることを理解し、細胞内でたんぱく質がどのようにして分解されるのか、そのしくみについて理解する。
7	アミノ酸、たんぱく質の代謝(2)	たんぱく質を構成しているアミノ酸はたんぱく質合成の材料となるだけでなく、重要な働きをもつ特殊な化合物の生成材料となることについて学習する。
8	核酸の構造	核酸(DNA・RNA)はヌクレオチドの重合体である。ヌクレオチドの構造、さらにDNA・RNAの構造を理解する。
9	ヌクレオチドの代謝	ヌクレオチドは体の中でなくてはならないものである。ヌクレオチドが、どのような経路でつくられるのか、分解されたら何になるのかについて学習する。
10	遺伝子とは何か DNAの複製	遺伝子の構造と働きについて学ぶ。 遺伝子が細胞から細胞へ、親から子へ受け継がれるしくみを理解する。
11	遺伝子の発現: 転写	遺伝子発現の第一段階である「転写」(DNAを鋳型としてRNAを合成すること)のしくみを理解する。
12	遺伝子の発現: 翻訳	転写に引き続いて、遺伝情報をどのようにしてたんぱく質に変えるのか、「翻訳」(RNAの塩基配列をアミノ酸配列に変換すること)のしくみを理解する。
13	恒常性維持とその調節機構: 細胞間情報伝達	細胞におけるシグナル伝達とは何か、細胞外からシグナルを受容する仕組みを理解する。
14	恒常性維持とその調節機構: 細胞内情報伝達	細胞がシグナルを受容したあと、細胞内部に情報が伝達されるしくみについて理解する。シグナル伝達のカスケード反応について理解を深める。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、生命を維持するしくみについて理解を深める。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	生化学実験				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力）				

《授業の概要》

生化学および栄養生化学的な講義内容を基礎として、それらの科学的事象に関する種々の項目を実験的手法によって確認し、理解を深める。併せて機器を用いた分析の原理および技術を習得する。主に、生体成分各種の化学的特性、酵素および酵素反応諸相の特性、尿および血液成分の分析、免疫に関する実験を実施する。

《授業の到達目標》

- ・タンパク質・糖質の定性実験、酵素に関する実験、尿・血液成分の分析、免疫実験をとおして、各々の実験原理や方法、生体成分の特性について理解し、説明できる。
- ・実際に実験を行うことで、各種の実験手法を身につけることができる。
- ・課題やレポートについて、指定した書式や内容を守って期限内に提出できる。

《成績評価の方法》

課題および実験レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記試験：50%の割合で成績評価を行う。

《テキスト》

随時、プリントを配付する。

《参考図書》

「生化学実験」林淳三編（建帛社）「生化学実験」田代操編（化学同人）「はじめてみよう生化学実験」山本克博編（三共出版）

《授業時間外学習》

- ・事前に配布する資料プリントをしっかりと読んで、実験の目的や原理を理解しておくこと。
- ・実験内容について再確認し、不明な点や疑問点は質問したり自分で調べたりすること。
- ・実験結果については、データを整理・分析して期限内にレポートを作成すること。

《備考》

授業初回に実験時および実験室でのルール（規則、注意事項）について説明する。そのルールが守られない場合は成績評価を行わないことがあるので注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	タンパク質の定性実験	ビウレット反応、硫化鉛反応、キサントプロテイン反応の原理や方法を理解するとともに、タンパク質・アミノ酸の化学的な特性を確認する。
2	糖質の定性実験	フェーリング反応、銀鏡反応、セリワーノフ反応の原理や方法を理解するとともに、糖質の化学的な特性を確認する。
3	酵素に関する実験(1)	酵素活性の諸因子による変化および唾液アミラーゼによる消化実験の原理や方法について理解する。
4	酵素に関する実験(2)	唾液アミラーゼを用いた酵素濃度によるデンプン分解の変化について確認する。
5	酵素に関する実験(3)	唾液アミラーゼを用いた反応時間によるデンプン分解の変化について確認する。
6	酵素に関する実験(4)	唾液アミラーゼを用いた反応温度によるデンプン分解の変化について確認する。
7	尿成分の分析 (1)	尿成分および尿成分の分析に必要な実験原理や方法、使用機器について理解する。
8	尿成分の分析 (2)	クレアチニンの定量実験の原理や方法について理解し、尿中のクレアチニン量を測定する。
9	尿成分の分析 (3)	尿素の定量実験の原理や方法について理解し、尿中の尿素窒素と尿素量を測定する。
10	尿成分の分析 (4)	ビタミンB1とビタミンCの定性実験の原理や方法について理解し、尿中のビタミンB1とビタミンCの存在を確認する。
11	尿成分の分析 (5)	ビタミンB2の定性実験の原理や方法について理解し、尿中のビタミンB2の存在を確認する。
12	免疫（抗原・抗体反応）に関する実験	免疫（抗原・抗体反応）についての基礎知識およびオクタロニー法による抗原抗体反応の原理や方法を理解し、動物血清を用いて抗原抗体反応を確認する。
13	血液成分の分析	血液の成分および電気泳動分析の原理や方法を理解し、セルロースアセテート膜電気泳動による血清タンパク質の分離を確認する。
14	学習のふり返り	タンパク質・糖質の定性実験、酵素実験、尿・血液成分の分析実験、免疫実験から得られた知見を確認し、各々の実験原理や生体成分の特性について理解を深める。
15	学習のまとめ	提出した課題やレポートをもとに問題に取り組み、学習内容を再確認する。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	生化学実験				
担当者氏名	野田 千征子、亀谷 小枝				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

この授業の主眼は、「生化学I」・「生化学II」の授業で学んだことを（1）実験を通じてより深い理解を得ること、（2）生化学の基本的な実験技術を修得することである。生物とは何かと考えたとき、さまざまな働きを担っている物質の中で、主要な物質として、たんぱく質と遺伝情報をもつDNAを挙げる事ができる。講義とは違う角度から、これらの生体成分について関心を高めて欲しい。

《授業の到達目標》

- ・実験の方法と原理を十分に理解し、その手技を習得する。
- ・実験によって得られたデータからどのようなことがわかるのかを考察することによって、考える力を養う。

《成績評価の方法》

課題および実験のレポート：50%、筆記試験：50%で評価する。

《テキスト》

プリントを配付する。

《参考図書》

- 『生化学実験』林淳三編著、建帛社
- 『生化学実験』田代操編著、化学同人
- 『基礎生化学実験 第4巻 核酸・遺伝子実験 基礎編』日本生化学会編、東京化学同人

《授業時間外学習》

- (1) 予習：配布物を読み、当日の実験内容を把握して授業に臨む。
- (2) ほぼ毎回レポート提出が義務づけられるので、参考書やその他の図書を活用し、充実した内容のレポートを作成することを心がける。

《備考》

実験の方法と原理を十分に理解し、各段階での操作の意味を考えながら実験を行うように心がける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	酵素反応速度論に関する実験(1)	トリプシンを用いた酵素反応速度論に関する実験の原理を理解し、酵素実験に必要なp-ニトロアニリンの検量線を作成する。
2	酵素反応速度論に関する実験(2)	トリプシンを用いた酵素反応速度と時間経過および酵素反応速度と酵素量の関係について確認する。
3	酵素反応速度論に関する実験(3)	トリプシンを用いた酵素反応速度と基質濃度の関係について確認する。
4	酵素反応速度論に関する実験(4)	酵素反応速度と基質濃度の関係から最大反応速度とミカエリス定数について理解する。
5	酵素反応速度論に関する実験のまとめ	酵素に関する基礎知識を理解するとともに、酵素反応速度論に関する実験から得られた知見を再確認し、酵素反応速度論に関する理解を深める。
6	タンパク質の定量(1)	3種類のタンパク質溶液を用いて、タンパク質の定量法である紫外外部吸収法とLowry法の原理や特性(長所と短所)について理解する。
7	タンパク質の定量(2)	3種類のタンパク質溶液を用いて、タンパク質の定量法である色素結合法の原理や特性(長所と短所)について理解する。
8	タンパク質の分離・精製(1)	ヘモグロビンおよびシトクロームcをゲルろ過カラムクロマトグラフィーによって分離し、その原理を理解する。
9	タンパク質の分離・精製(2)	ヘモグロビンおよびシトクロームcをCM-セルロース(陽イオン交換体)カラムクロマトグラフィーによって分離し、その原理を理解する。
10	核酸に関する実験(1)	DNA二重らせんおよびRNAの模型を作成し、核酸の構造を理解する。
11	核酸に関する実験(2)	DNAの定量法を習得し、2本鎖DNAを加熱すると、1本鎖となること(DNAの変性)を確かめ、さらに室温にもどすと再結合することも調べる。
12	核酸に関する実験(3)	アガロース電気泳動法を習得する。組み替えDNA作成法について学習する。
13	核酸に関する実験(4)	DNA塩基配列決定法とポリメラーゼ連鎖反応法(PCR法)について学習する。
14	まとめ	たんぱく質分離・精製法、DNAに関する実験方法について、復習し理解を深める。
15	予備日	予備日

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	栄養解剖学・人体生理学				
担当者氏名	大西 隆仁				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

泌尿器系、内分泌系、神経系、生殖系などの構造と機能について概説する。

《テキスト》

栄養解剖学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能（志村二三夫、岡純、山田和彦編、羊土社）

《参考図書》

系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 第7版（坂井建雄、岡田隆雄著、医学書院）、人体の構造と機能 第2版（佐藤昭夫著、医歯薬出版）

《授業の到達目標》

適切な栄養指導を行うためには、病態を理解する必要がある、正常な人体の構造と機能に関する知識が不可欠である。この科目では、管理栄養士に必要な人体の構造と機能について理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

学習教科内容の予習、復習をする。レポートを作成し期限内に提出する。

《成績評価の方法》

授業出席回数、授業実施回数の2/3未満の者は、成績評価対象外とする。レポートや筆記試験により評価する。

《備考》

私語を慎むこと。その他、講義室でのルールを守らない場合は、成績評価を行わない場合もあるので注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	体液の調節と尿の生成（1）	腎臓の構造と機能
2	体液の調節と尿の生成（2）	体液の調節、酸塩基平衡、脱水、電解質の異常
3	内臓機能の調節（1）	自律神経系による調節
4	内臓機能の調節（2）	内分泌系による調節
5	内臓機能の調節（3）	内分泌系による調節
6	からだの支持と運動（1）	骨の構造と機能
7	からだの支持と運動（2）	筋肉の構造と機能
8	情報の受容と処理（1）	脳と脊髄
9	情報の受容と処理（2）	脳神経と脊髄神経
10	情報の受容と処理（3）	視覚、聴覚
11	情報の受容と処理（4）	平衡覚、味覚、嗅覚、疼痛
12	外部環境からの防御	皮膚の構造と機能、体温の調節
13	生殖・発生と老化のしくみ（1）	男性生殖器、女性生殖器の構造と機能
14	生殖・発生と老化のしくみ（2）	受精と胎児の発生、成長と老化
15	まとめ	復習と問題

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	栄養解剖学実験				
担当者氏名	大西 隆仁				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力）				

《授業の概要》

人体の各臓器の構造を理解するため、人体模型の観察やラットの解剖、組織標本のスケッチなどを系統的に組み込んだ実験を行う。

《テキスト》

栄養解剖学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能（志村二三夫、岡純、山田和彦編、羊土社）

《参考図書》

系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 第7版（坂井建雄、岡田隆雄著、医学書院）、人体の構造と機能 第2版（佐藤昭夫著、医歯薬出版）

《授業の到達目標》

傷病者に対して適切な栄養指導を行うためには、それぞれの病態とその病態に対する栄養素の効果を熟知しておく必要がある。病態を理解するには正常な人体の構造と機能に関する知識が不可欠である。この科目では、人体各部の器官や組織の名称を知り、位置関係や構造を理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

学習教科内容の予習、復習をすること。レポートやスケッチを作成し期限内に提出すること。

《成績評価の方法》

授業出席回数、授業実施回数の2/3未満の者は、成績評価対象外とする。レポート（スケッチ含む）と筆記試験で評価する。

《備考》

実験用白衣を必ず着用し、筆記用具・色鉛筆等を持参すること。下記授業内容の1週は、学則に基づいた4時間分で行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人の体について	人体模型の観察とスケッチ
2	顕微鏡の取り扱い	上皮組織、支持組織
3	結合組織	筋組織、血管、血液細胞
4	消化器系（1）	唾液腺（顎下腺、耳下腺、舌下腺）、食道
5	消化器系（2）	胃、小腸（十二指腸、空腸、回腸）、大腸
6	消化器系（3）	肝臓、膵臓
7	解剖（1）	ラットの解剖とスケッチ（1）（前半）
8	解剖（2）	ラットの解剖とスケッチ（2）（後半）
9	呼吸器系	気管支、肺
10	尿路系	腎臓、尿管、膀胱
11	生殖系	男性生殖器、女性生殖器
12	皮膚組織	表皮と真皮
13	その他	内分泌系、腫瘍組織など
14		
15		

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	人体生理学実験				
担当者氏名	内田 亨				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）				

《授業の概要》

様々な疾患について、細胞レベルでの機能異常という観点から解説する。毎回のテーマは、それぞれは独立したものではなく、それぞれが密接に関連したものであり、基礎的な理解を基に、自分で考えて発展させていく力を養うことを目的とする。

《授業の到達目標》

身体の様々な部位の計測や機能測定の意味と原理を理解できる。
正常の人体機能と、その調整機構を理解できる。

《成績評価の方法》

(1)レポート 55% (2)定期試験 45%の割合で評価する。

《テキスト》

実験プリント（適宜配布）

《参考図書》

メディカルノート 検査の基本（下条文武 編、西村書店）
解剖生理学 人体の構造と機能 第2版（河田光弘・三木健寿 著、講談社サイエンティフィック）
図説組織学（溝口史郎 著、金原出版）

《授業時間外学習》

レポートの作成が必須である。感想文や結果だけのレポートにならないように注意すること。実験で得られた結果を基に、そこから発生した疑問について自分なりに調べて考察すること。

《備考》

本実験は、4号館2階212教室（生理学実験室）で行う。実験用白衣を必ず着用し、A4版レポート用紙・筆記用具・色鉛筆・電卓等を持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	身体計測に関する実験	身長・体重・皮下脂肪厚等の測定による栄養状態の推定法について理解する。
2	バイタルサインの測定	血圧、脈拍、体温、呼吸数の測定による健康状態の推定法について理解する。
3	循環器系に関する実験	心電図の測定、心音の聴取および評価について理解する。
4	呼吸器系に関する実験	肺機能検査、肺活量の測定を通じて肺疾患について理解する。
5	エネルギー代謝に関する実験	安静時代謝量の測定結果より必要エネルギーの推定を行う。また、InBodyを用いた体成分分析について理解する。
6	神経に関する実験	神経に関する実験（視野、反射、自律神経）
7	ホルモンに関する実験	マウスにインスリン・グルカゴン・アドレナリンなどのホルモンを投与し、血糖値に対する作用を理解する。
8	血液に関する実験	マウスの血液を染色し、赤血球・白血球・血小板など様々な血球成分について理解する。
9	脳に関する実験	マウスの大脳を解剖し、その構造について理解する。
10	レントゲン検査に関する実験	実際のレントゲン写真を読影し、検査の意義と診断について理解する。
11	腹部エコー検査に関する実験	腹部エコー写真と腹部CT写真を読影し、検査の意義と診断について理解する。
12	内視鏡検査に関する実験	内視鏡写真を読影し、検査の意義と診断について理解する。
13	発汗に関する実験	様々な負荷による発汗の変化を実験し、しくみを理解する。
14	なし	なし
15	なし	なし

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	臨床病態学				
担当者氏名	内田 亨				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

様々な疾患について、細胞レベルでの機能異常という観点から解説する。毎回のテーマは、それぞれは独立したのではなく、それぞれが密接に関連したものであり、基礎的な理解を基に、自分で考えて発展させていく力を養うことを目的とする。

《授業の到達目標》

細胞から臓器・個体まで、その構造・機能を理解できる。これらの機能不全の評価・原因・症状・治療について理解し、考えることができる。
様々な病態において、どのような栄養管理が適切であるかを考えることができる。

《成績評価の方法》

(1) 小テスト 14% (2) レポート 36% (3) 定期試験 60%の割合で評価する。

《テキスト》

講義で使用する資料を教員フォルダ(uchidat)で配布するので、各自でプリントして持参すること。

《参考図書》

人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅠ（第一出版）人体の構造と機能および疾病の成り立ち（第一出版）

《授業時間外学習》

講義で使用する資料を教員フォルダ(uchidat)で事前に配布する。各自でプリントし、予習・復習に使用すること。

《備考》

第6回講義後にレポート課題を提示するので、2週間以内に手書きレポートを提出すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ミトコンドリア	エネルギー産生の場合ミトコンドリアでどのようにATPが合成されていくかを理解する。
2	染色体	染色体中の遺伝情報がどのように利用されているかを理解する。
3	酸化ストレスと加齢・死	どうして個体は老いていくのか、どうすれば老いないのか、を理解する。
4	インスリン	栄養学には最も重要なホルモンのひとつである。その作用を細胞別に理解する。
5	コルチゾル	ストレスに対抗するホルモンである。その作用を基に様々な疾病を理解する。
6	ウイルス	一般的なウイルス感染症 - インフルエンザ - を例にして、ウイルスとは何なのかを理解する。
7	自然免疫と獲得免疫	一般的な免疫システムについて理解する。
8	免疫異常・アレルギー	免疫異常による疾病について理解する。
9	メタボリック症候群	肥満に起因する疾患の代表としてメタボリック症候群について理解する。なぜ肥満になると不健康になっていくのかを理解する。
10	脂質代謝異常	体内での脂質代謝について理解し、脂質異常症にいたる機序を理解する。
11	糖代謝異常	体内での糖代謝について理解し、糖原病の症状および治療法を理解する。
12	レニン・アンギオテンシン・アルドステロン系	体内でどのようにして血圧がコントロールされているか理解する。
13	浸透圧	浸透圧という言葉の定義を理解する。これが様々な生命現象に利用されていることを理解する。
14	アルコール・薬物中毒	依存症の発症機序を理解し、そうならないためにどうすればよいか、そうなったらどうすればよいか、を理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認する。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	臨床病態学				
担当者氏名	内田 亨				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

様々な疾患について、細胞レベルでの機能異常という観点から解説する。毎回のテーマは、それぞれは独立したのではなく、それぞれが密接に関連したものであり、基礎的な理解を基に、自分で考えて発展させていく力を養うことを目的とする。

《テキスト》

講義で使用する資料を教員フォルダ(uchidat)で配布するので、各自でプリントして持参すること。

《参考図書》

人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅠ（第一出版）人体の構造と機能および疾病の成り立ち（第一出版）

《授業の到達目標》

細胞から臓器・個体まで、その構造・機能を理解できる。これらの機能不全の評価・原因・症状・治療について理解し、考えることができる。様々な病態において、どのような栄養管理が適切であるかを考えることができる。

《授業時間外学習》

講義で使用する資料を教員フォルダ(uchidat)で事前に配布する。各自でプリントし、予習・復習に使用すること。

《成績評価の方法》

(1) 小テスト 14% (2) レポート 36% (3) 定期試験 60%の割合で評価する。

《備考》

第6回講義後にレポート課題を提示するので、2週間以内に手書きレポートを提出すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	糖尿病の発症機序	糖尿病の分類と、それぞれの発症機序の違いを理解する。
2	糖尿病の発症機序・併症	糖尿病による急性期および慢性期・併症について理解する。
3	糖尿病治療薬	糖尿病の発症機序を理解した上で、様々な治療薬の作用を体系付けして理解する。
4	浸透圧調節とその異常	浸透圧の調節機構の破綻による疾患をまとめ理解する。
5	甲状腺ホルモン	代謝を亢進するホルモンである。その作用を基に様々な疾病を理解する。
6	アミノ酸・核酸代謝異常	小児マスキング対象疾患や高尿酸血症について理解する。
7	酸塩基平衡の基礎	酸塩基平衡の定義と、それを調節するシステムについて理解する。
8	酸塩基平衡の異常	酸塩基平衡の異常を来す疾患について理解する。
9	心肺蘇生法	心肺蘇生の方法とA E D使用法について理解する。
10	食欲調節と神経性食思不振症	食欲の調節メカニズムと摂食障害について理解する。
11	性ホルモンと更年期障害	性周期の調節システムとその破綻による身体的影響について理解する。
12	骨代謝	骨再構築と血中カルシウムの調節機序について理解する。
13	貧血	様々な種類の貧血の分類と発症機序を理解する。
14	血液凝固	止血のシステムと、その異常による疾患について理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認する。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品衛生学				
担当者氏名	島田 邦夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

「食品から生命を衛（まもる）」食品衛生は、食のグローバル化によりますます重要となっている。生肉ユッケによる腸管出血性大腸菌O111感染、原発事故による放射能汚染、農薬汚染など食の安全を脅かす問題が相次いで発生している。食品衛生行政における食の安全に対する取り組みなど、最近の話題も含め食の専門家として知っておくべき基礎と実際を学習する。

《テキスト》

「新入門食品衛生学」、和泉喬・小田隆弘・貞包治夫・堀井正治・松岡麻男 共著（南江堂：最新版）

《参考図書》

『食品安全の事典』、日本食品衛生学会 編（朝倉書店）
； <学生版> 『新訂 原色食品衛生図鑑』、細貝祐太郎・菅原龍幸・松本昌雄・川井英雄 編集（建帛社）

《授業の到達目標》

食品の安全性確保のためのシステムを理解・説明できる（国内産食品・輸入食品の比較）。食中毒の分類、食品汚染物質、食による感染症などの理解とそれら防止対策の方法を提言できる。主要な食品衛生関連法規の理解と事象の根拠を説明できる。

《授業時間外学習》

(1) 予習：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等をノートに整理する。不明点は授業中に質問し、理解を深める。
(2) 復習：授業内容の再確認、不明点は、さらに質問または自分で調べること。(3) 国内と海外での食品衛生対策はどのように違いがあるのか調べてみる。

《成績評価の方法》

(1) 受講態度、学習意欲 20%（小試験の成果により評価）。(2) 定期試験 80%（なお、試験は教科書等の「持ち込み不可」にて実施する）。

《備考》

食とは人を良く（健康に）することであり、本科目を通じ、食の安全性と健康管理に関する知識と技術を身につける。また、日常生活の中で事象観察にも目を向けるよう心掛ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション、食品衛生学へのいざない	「食品衛生学」で何を学ぶのか・・・？ジェリーミートの原因と考えられるクドア（原虫）による食中毒微増・・・？
2	食品衛生の概念と定義	プロジェクター（映像）を使い、食品衛生学の全体像を把握し、理解を深める。
3	食品衛生行政	行政システム、食品衛生監視員・食品衛生管理者（責任者）、国産食品と輸入食品
4	食品衛生関係法規	食品衛生法・食品安全基本法・健康増進法など、消費期限と賞味期限、表示マーク、国際規格、特別用途食品、特定保健用食品
5	食品と微生物	微生物の種類と性状、微生物の増殖と環境、食品微生物
6	食品の変質とその防止	変質の概要、微生物による変質・腐敗、化学的な変質・油脂の酸敗、変質の防止法
7	食中毒	定義と分類、発生状況、微生物・自然毒・化学物質による食中毒、マスターテーブル法（疫学的方法）
8	食品と感染症	経口感染症の概要、主要な経口感染症
9	経口的寄生虫疾患	寄生虫感染の実態、食品原料別にみる寄生虫
10	有害物質による食品汚染	カビ毒、農薬、有害な金属、内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）、放射性物質など
11	食品添加物	食品添加物の概念、種類と用途、成分表示、安全性評価
12	食品用の器具・容器包装	食品用の器具とは・・・？容器包装材料の特性、台所用洗剤の種類・安全性
13	食品衛生管理	食品衛生対策（家庭内・給食施設など含む）、食品製造総合衛生管理過程、危害分析重要管理点（HACCP）、
14	食品の安全性問題	輸入食品の安全性、牛海綿状脳症（狂牛病、BSE）、遺伝子組換え食品の安全性、放射線照射食品の安全性
15	まとめ（総括）	これまでの学習内容と得られた知識を再認識し、その具体的な事象について説明することができる。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	調理学実習				
担当者氏名	富永 しのぶ				
授業方法	実習	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む） 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》

調理とは、食品を栄養的に衛生的かつ嗜好にあうように処理し、食べ物として作る操作である。調理学の理論を基礎に食品の特性、栄養価を十分に知り調理の基礎的技術を習得することを目標とする。さらに、実習を通して食事の重要性を認識し献立構成、食品の目安量、常用量、調味割合などを理解することで献立作成の技術、知識を身につけ栄養教育、給食管理に活かせる知識と技術を身につけることをめざす。

《授業の到達目標》

実習を行うことで調理の基本操作、食品素材の調理性と扱い方、調理設備・器具の取り扱いなど調理の基礎技術を学び、調理過程でおこる様々な化学変化を理解し、安全で衛生的、しかも栄養的な美味しい食べ物を作る技術と知識を身につけることができる。また、日本料理、西洋料理、中国料理の様式の実習を通して、様式毎の献立構成や歴史など文化的な背景や食事マナー等を身につけることができる。

《成績評価の方法》

筆記試験50%、実技試験20%、レポート30%

《テキスト》

『たのしい調理 基礎と実習』粟津原宏子他（医歯薬出版）
『新カラーガイド食品成分表』（大修館書店）
その他プリント配布

《参考図書》

『調理と理論』山崎清子他（同文書院）
『コツと科学の調理事典』河野友美他（医歯薬出版）
『日本食品大事典』杉田浩一他（医歯薬出版）

《授業時間外学習》

調理操作、技術の修得は実習時間だけで身に付くものではないため、各自自宅で調理する機会を積極的に持つことが必要である。実習前には、料理の材料、手順を理解して作業効率を考えて実習できるよう予習を必ずすること。

《備考》

食品衛生、公衆衛生の立場から実習時は、手指・服装・頭髮などの身支度に留意する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	調理実習 の概要 基礎知識の確認	基礎調理額実習の概要説明 調理基礎知識に関するテスト
2	日本料理	日本料理の基本 飯の炊き方、だしのとり方（すまし汁）
3	日本料理	季節料理（春） たけのこ料理
4	西洋料理	包丁の扱い方、野菜の切り方 みじん切り、せん切り、さいの目切り、その他
5	中国料理	青菜のゆで方、鉄鍋の扱い方
6	日本料理	乾物のもどし方
7	西洋料理	魚のおろし方
8	西洋料理	肉料理の特性、洋風だしのとり方、ゼラチンの調理
9	日本料理	もち米の調理、揚げ物、寒天の調理
10	中国料理	中国だしのとり方、卵の調理、砂糖の過熱調理
11	西洋料理	いもの調理、小麦粉の調理（ルウ）
12	日本料理	すし飯の炊き方、合わせ酢
13	中国料理	麺の調理、小麦粉の調理
14	基礎知識の確認	調理基礎知識に関するテスト まとめ
15	実技試験	調理技術と知識に関する実技テスト

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	調理学実習				
担当者氏名	富永 しのぶ				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む） 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》

食の管理を担う者として、調理に関する基礎知識、基礎調理操作、食事環境等を通して、多様な調理への応用力を養います。日本料理、西洋料理、中国料理の実習をとうして献立構成を理解し、調理技術の向上と献立作成、作業計画・管理ができるように実習を行う。

《授業の到達目標》

実習を通して調理の理論と実習を関連づけ、食品の調理生、調理操作の向上を図る。食品の特性、料理の常用量を把握し、調味料割合を理解し適正な調味ができる。料理の組み合わせを理解し、献立作成ができる。調理作業手順を考え高率のよい作業、行動ができる。

《成績評価の方法》

筆記試験70% レポート30%

《テキスト》

『たのしい調理 基礎と実習』 購入済み
『食品成分表』 購入済み
その他プリント配布

《参考図書》

『調理と理論』山崎清子他（同文書院）
『コツと科学の調理事典』河野友美他（医歯薬出版）
『日本食品大事典』杉田浩一他（医歯薬出版）

《授業時間外学習》

調理操作、技術の修得は実習時間だけで身に付くものではないため、各自自宅で調理する機会を積極的に持つことが必要である。実習前には、料理の材料、手順を理解して作業効率を考えて実習できるよう予習を必ずすること。

《備考》

食品衛生、公衆衛生の立場から実習時は、手指・服装・頭髮などの身支度に留意する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	調理実習の概要 筆記試験	授業内容の説明、成績評価の方法、提出レポートについて 調理に関する基礎テスト
2	日本料理	秋の献立 煮魚、青菜の扱い方（煮物）
3	中華料理	四川料理
4	西洋料理	乾麺の料理 基本の焼き菓子
5	日本料理	米の調理（すしの応用）
6	日本料理	米の調理（丼物の基本） 郷土料理
7	西洋料理	小麦粉の調理（ルウ・ベシャメルソース） 油脂を使った米料理（バターライス）
8	中華料理	小麦粉の調理（イーストの調理）
9	西洋料理	行事食（クリスマス料理） 獣鶏肉類の調理
10	自主献立	献立作成 食品構成から献立作成、発注
11	日本料理	行事食（正月料理）
12	自主献立	自主献立実習 作ってみよう自主献立
13	まとめ	振り返り
14	実技試験 筆記試験	切り方、調味割合と計量、1品料理 調理に関する基礎テスト
15	実技試験 筆記試験	切り方、調味割合と計量、1品料理 調理に関する基礎テスト

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	栄養学実習				
担当者氏名	松村 末夫				
授業方法	実習	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》

実験動物を、すべての栄養素を含む食餌及び限定した栄養素を含む食餌、または限定した量の食餌で飼育し、ラットの体重や体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、諸臓器等の変化を観察・測定し、観察・測定結果をもとに、各種栄養素のはたらきを理解する。また生体成分の分析・消化酵素の作用についての実習を行う。

《授業の到達目標》

各種栄養素の過不足により、どのような変化が生じ、なぜそのような変化が生じるのかを考えることができる。

《成績評価の方法》

実習態度（20%）、レポート（80%）により評価する

《テキスト》

なし、実習資料を配布予定

《参考図書》

『Nブックス 実験シリーズ 基礎栄養学実験』木元幸一・鈴木和春編著（建帛社）2009
『小動物を用いる栄養実験』細谷憲政・印南敏・五島孜朗編著（第一出版）1980

《授業時間外学習》

実習の説明をよく聴き、実習内容をよく理解しておくこと。実習資料の内容を理解しておくことレポートを作成すること。ラットの飼育と観察。

《備考》

注意深く実習・実験を行い、注意深く観察・測定を行い、観察・測定結果が何を意味するものであるのかをしっかりと考えてみましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	実習・実験についての説明、討議
2	ラットの飼育	食餌の調製とラットの飼育の開始
3	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定
4	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定
5	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定
6	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定観察・測定結果についての討議。異なった食餌の調製とラットの飼育の開始
7	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定
8	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定。
9	ラットの飼育・観察・測定、生体成分の分析	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定。測定結果についての討議。ラット諸臓器ならびに食品の成分分析。
10	ラットの飼育・観察・測定、生体成分の分析	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定、測定結果についての討議。ラット諸臓器ならびに食品の成分分析。
11	ラットの飼育・観察・測定、生体成分の分析	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定観察・測定結果についての討議。ラット諸臓器の成分分析。
12	生体成分の分析、消化酵素の作用	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定観察・測定。ラット諸臓器の成分分析。栄養素の消化酵素による消化と消化産物の分析
13	ラット諸臓器の成分分析	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定観察・測定。ラット諸臓器の成分分析。栄養素の消化酵素による消化と消化産物の分析
14	実習のまとめ 1	実習内容および実習結果について要点をまとめる。
15	実習のまとめ 2	実習内容および実習結果について要点をまとめる。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	応用栄養学（ライフステージ栄養）				
担当者氏名	須見 登志子				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

ライフステージ別特性からヒトの一生を分類し、各ステージにおける身体状況や生理的特徴、生活環境などを学ぶ。即ち妊娠や発育、加齢などによる人体の構造や機能の変化について、そしてそれに伴う栄養の在り方とともに栄養に関連した疾患についても学修し、栄養状態の評価・判定からケアについて学ぶ「栄養管理学」へと繋げることを目標とする。

《授業の到達目標》

○ヒトの胎生期から高齢期にいたる各ライフステージ毎の発育・発達、加齢に伴う生理的、形態的特性や環境の変化について。○各ライフステージにおける栄養に関連した疾患について。○身体と栄養素の関係や健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能について。以上の項目について理解する

《成績評価の方法》

定期試験の結果を中心とし、レポート、小テスト、受講態度を総合的に評価する。配分は、定期試験70%、小テスト20%、その他（レポートや受講態度など）10%を原則。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	応用栄養学について	授業内容と受講時における決まりごとの説明。発育・発達・加齢変化と栄養について
2	成長期の栄養	新生児期・乳児期の特性、栄養補給
3	成長期の栄養	新生児期・乳児期における栄養関連の疾患
4	成長期の栄養	幼児期の特性
5	成長期の栄養	幼児期における栄養関連疾患
6	成長期の栄養	学童・思春期の特性
7	成長期の栄養	学童・思春期における栄養関連疾患
8	成人期の栄養	成人期の特性
9	成人期の栄養	成人期と生活習慣病
10	母性栄養	妊娠期の特性
11	母性栄養	妊娠期における栄養関連疾患
12	母性栄養	授乳期の特性と栄養関連疾患
13	更年期の栄養	更年期の特性と栄養関連疾患
14	高齢期の栄養	高齢期の特性
15	高齢期の栄養	高齢期における栄養関連疾患

《テキスト》

『ライフステージからみた人間栄養学 応用栄養学』森基子,玉川和子他著医歯薬出版、『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会編 第一出版

《参考図書》

『応用栄養学』戸谷誠之,伊藤節子,渡邊令子編 南江堂
『新しい臨床栄養学』後藤昌義,瀧下修一著 南江堂
『応用栄養学』江指隆年,中嶋洋子編著 同文書院
『日本人の食事摂取基準2010年版』 第一出版

《授業時間外学習》

授業後の復習や次回の授業範囲を予習したり、専門用語の意味などを理解しておくこと。必要に応じて参考文献について授業中に示すので、読んでおくこと。

《備考》

定期試験の出題範囲は知らせる。小テスト等の予告は、原則としてしない。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	栄養管理学				
担当者氏名	眞鍋 祐之				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力） 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）				

《授業の概要》

わが国では、国民の生涯にわたる健康づくりを目指しており、運動・栄養・休養が重要視されており、とくに栄養管理はその基本となる。人びとの栄養状況を正しく評価し、健康づくりを総合的に推進するため、ライフステージごとの基礎知識を基にして、栄養上の特徴、栄養状態の評価・判定および適切な栄養管理の在り方を学修する。

《授業の到達目標》

- 健康の維持・増進に向けた栄養と身体状況の関係を知る。
- 「栄養管理」の基本的事項について理解する。
- 「応用栄養学」で学んだライフステージごとの基礎知識を基に、各ライフステージにおける栄養状態を総合的に評価・判定し、身体状況に応じた栄養管理の在り方を理解できる。

《成績評価の方法》

定期試験の結果により成績評価を行う。

《テキスト》

『応用栄養学 ライフステージ別・環境別』木戸康博, 眞鍋祐之編 医歯薬出版
『日本人の食事摂取基準2010年版』 第一出版

《参考図書》

『栄養ケア・マネジメント』木戸康博, 小倉嘉夫, 眞鍋祐之編 医歯薬出版
『栄養食事療法の実習 栄養アセスメントと栄養ケア』本田佳子編 医歯薬出版
『国民健康栄養の現状』健康・栄養情報研究会編 第一出版

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法: 次回講義該当部分に目を通し、全体的学習内容を把握しておくこと。
- (2) 復習の方法: その日の講義内容に目を通し、ノート等で不十分な部分は教科書等を元に加筆するなど、内容を再確認すること。
- (3) 忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養管理学とは	栄養ケア・マネジメントの概要
2	栄養アセスメント	主観的栄養アセスメントと客観的栄養アセスメントの違いとそれぞれの内容を理解するとともに、実際に活用できるように知識を習得する。
3	栄養アセスメント	以後の栄養マネジメントに活用できる情報を得るために、客観的栄養アセスメントによりどのような情報を得る必要があるかを知る。
4	栄養ケア・プログラムと評価	栄養ケア・プログラムにおける目標設定と計画立案において必要な知識と技術について学ぶ。
5	食事摂取基準	総論
6	食事摂取基準	総論
7	食事摂取基準	各論：エネルギー
8	食事摂取基準	各論：たんぱく質
9	食事摂取基準	各論：脂質
10	食事摂取基準	各論：ミネラルとビタミン
11	ライフステージ別栄養管理	妊娠期・授乳期における栄養ケア・マネジメント
12	ライフステージ別栄養管理	新生児期・乳児期における栄養ケア・マネジメント
13	ライフステージ別栄養管理	発育期（幼児期・学童期・思春期）における栄養ケア・マネジメント
14	ライフステージ別栄養管理	成人期・更年期における栄養ケア・マネジメント
15	ライフステージ別栄養管理	高齢期における栄養ケア・マネジメント

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	基礎栄養教育論				
担当者氏名	矢埜 みどり				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

国民栄養の現状と問題点を明確にし、栄養管理が疾病予防や健康増進に深く関わることを学び、栄養管理の重要性を理解する。さらに、食知識・食態度、実際の調理技術(スキル)や社会資源の活用、周囲の行動・態度、社会・生活環境の影響をうけて段階的に形成されることを理解し、食行動変容に必要な理論を学ぶ。また、適切な食行動形成と健康増進に必要な栄養教育の理論と方法論についても理解をすすめる。

《授業の到達目標》

- (1) 食行動が個人のみならず、環境の影響もうけて形成されることを理解し説明できる。
- (2) 行動変容実現に必要な 問題行動の要因分析と健康的食行動の実践を誘導する行動科学理論、教育計画の企画・立案に必要な教育学、個別教育に必要なカウンセリングスキル、に関する基礎知識を習得する。

《成績評価の方法》

定期試験の結果により成績評価を行う(なお、試験は教科書・ノート等の「持ち込み不可」として実施する)。

《テキスト》

『エッセンシャル 栄養教育論』春木 敏編、医歯薬出版、2009

《参考図書》

『栄養指導のためのヘルスカウンセリング』宗像恒次編、医歯薬出版、2003『実践ヘルスカウンセリング』宗像恒次編、医歯薬出版、2001『平成21年度国民健康・栄養調査報告書』厚生労働省、2011

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：次回講義の該当部分に目を通し、全体的な学習内容の把握をしておくこと。
- (2) 復習の方法：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。

《備考》

日常生活の中で「？」と考える瞬間を持つように心がけてること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養教育の概要	栄養教育の目的、目標を理解し、ライフステージ・スタイル、健康状態からどのように対象者を捉え、どのような場を設定しなければならないかを把握できる
2	食行動変容と行動科学	行動科学からみた食行動変容の機序を理解し、学習者の課題や状況に応じた適切な理論を選択できるようになる
3	食行動変容と行動科学	レスポンド条件付けやオペラント条件付けの基本となる刺激-反応理論やヘルスピーリーフモデルの基本的理念を理解する。
4	個人の態度と行動変容に関する理論	保健信念モデル、行動変容段階モデル、行動意思理論について理解する
5	個人の態度と行動変容に関する理論の応用	行動変容段階モデル(ヘルスピーリーフモデル)が体重コントロール、高脂肪食の改善、適正飲酒や運動の影響など、種々の生活改善に応用できることを説明できる
6	個人間の関係と行動変容に関する理論	社会的認知理論(社会的学習理論)が人の行動を通して、環境や行動が人との間で相互関係にあることを理解する。
7	行動療法に基づく健康支援の方法	行動療法のプロセスを理解し、問題行動の特定、高校分析、行動技法の選択と適用、結果の確認とフィードバックができるようになる。
8	個人間の関係と行動変容に関する理論の応用	ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポートの応用について理解する。
9	集団や社会の行動変容に関する理論の応用	社会変革モデル、コミュニケーションモデルの応用について理解する。
10	プリシード・プレシードモデル	社会・疫学アセスメントの基となる対象の情報から、目標設定・課題の優先順位・実施方法の検討・計画設定、さらに各段階でのアセスメントを行う必要性を理解する。
11	情報収集の方法	情報収集の方法を理解し、得られた情報をプリシード、プロシードモデルにあてはめて問題点を明確にする方法を理解する
12	カリキュラムの立案	明らかになった問題点に対し、目標を設定し、カリキュラムの立案する方法を理解する。
13	教育方法、形態の選択	学習の方法や形態を理解し、今回の事例においてどの方法及び形態が良いか理解することができる。
14	プリシード・プレシードモデル	11～13回で、計画したプリシード・プロシードモデルを用いて、評価の方法を理解する。
15	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的態度及び技術について理解する。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	健康栄養教育論				
担当者氏名	藤田 裕子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

栄養教育の実践基礎知識を学ぶだけに留まらず、管理栄養士として自らの食生活管理や、健康づくりのための身体活動量の目標設定、実践を行う。このことで、対象者側の気持ちを理解しつつ、説得力のある健康栄養教育の実践力を培う。

栄養教育の実際として、ライフステージ別の具体的な教育事例を様々な教材を使用し学んでいく。コーチング等を理解することで対象者の自発的な行動を促す支援方法を学ぶ。

《授業の到達目標》

食事バランスガイドを説明でき、適正量を理解した上で、食事バランスを整えることができる。

健康づくりのための身体活動量を理解し、現在の身体活動量についてのチェックができる。自らの身体活動量の目標達成のために、工夫して活動量を増やすことができる。

ライフステージ別の栄養教育の実践に必要な知識と技術について理解できる。

《成績評価の方法》

定期試験(60%)

課題等の提出物・授業中に実施する小テスト・レポート(40%)

《テキスト》

『エッセンシャル 栄養教育論』 春木敏 編（医歯薬出版）
必要に応じてプリント・教材を配布

《参考図書》

『「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル』日本栄養士会 第一出版 / 『ニュートリションコーチング』柳澤厚生 医歯薬出版 / 『赤ちゃんのごはん』おむすびの会 かもがわ出版 / 『ライフスキルを育む 食生活教育』JKYB研究会 東山書房 / 『子どもの医学シリーズ 食事で子どもを変える本』二木武 世界文化社

《授業時間外学習》

- (1) 予習方法：教科書の次回授業範囲を読んでおくこと。
- (2) 自らの食生活管理や、健康づくりのための身体活動量の目標設定と実践を行うこと。
(課題としてセルフモニタリングを数回実施)

《備考》

この授業を通して、自分自身が適切な食事や運動を心がけられるようになりましょう。そのことが、健康栄養教育の基盤につながります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食行動から捉える栄養教育	現代人の食行動にみられる問題点の背景について理解できる。楽しいゲーム的な栄養教育の体験。
2	栄養教育のための実践基礎知識	3食品群、6つの基礎食品群、食事バランスガイドなど、わかりやすい食事チェック教材がマスターできる。
3	栄養教育のための実践基礎知識	健康づくりのための運動指針を理解できる。自身の活動量をモニタリングし、健康的な身体活動計画を立てることができる。
4	栄養教育の方法	栄養教育に必要なスキル、効果的な教材の特徴が理解できる。
5	コーチングの栄養教育への適用	コーチングの概要と特徴がわかる。コーチングを栄養教育に適用した事例のロールプレイを行うことで対象者の気持ちの理解と、コーチングの効果を実感できる。
6	妊娠期を対象とする栄養教育	「妊婦の食事相談」のロールプレイを行うことで、妊娠期の栄養教育の特徴と留意事項、指導の流れがわかる。
7	授乳期を対象とする栄養教育	乳汁栄養と離乳食の特徴と留意事項がわかる。離乳期の食事相談には、どのようなものがあり、どのように答えたらよいかがわかる。
8	幼児期を対象とする栄養教育	幼児期の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。遊び食べや野菜嫌いなどの食事相談にはどう答えるべきかが説明できる。
9	児童期を対象とする栄養教育	児童期の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。「おやつを選択」をテーマにした授業案を行い、児童目線で栄養教育を捉えることができる。
10	思春期を対象とする栄養教育	思春期の栄養教育の特徴と留意点がわかる。「丈夫な骨を作ろう」というテーマの授業案を体験し、カルシウム等の摂取について、自己管理能力を高められる。
11	成人期を対象とする栄養教育	成人期の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。「生活習慣病予防」をテーマにした模擬指導を体験し、セルフモニタリングを行うことで理解を深めることができる。
12	成人期を対象とする栄養教育	特定健診に伴う保健指導の特徴と流れがわかる。行動変容段階に応じた健康・栄養教育の進め方を理解することができる。
13	高齢者を対象とする栄養教育	高齢期の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。「お腹をすかしておいしく食べよう」という指導案を楽しく行うことで、指導展開を理解できる。
14	障がい者及び疾病者を対象とする栄養教育	障がい者、疾病者の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。それぞれの対象者にとって必要とされる栄養教育はどのようなものであるかを、自分なりに考えることができる。
15	食環境づくりと栄養教育	食料自給率の動向や、食の安全・安心への取り組みなどについて学び、食環境づくりにおける栄養教育の在り方を考えることができる。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	基礎栄養教育実習				
担当者氏名	富永 しのぶ				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

基礎栄養教育論で学んだ基礎知識を基に栄養教育の実際を実習する。栄養教育は対象者の食生活の実態や健康状態を把握して問題点を明らかにし具体的な改善策、指導計画を作成する。学生が自分自身を対象者として食生活の実態を把握・分析し問題点を抽出し、具体的な栄養計画をたてる栄養マネジメントのアセスメントからプランニングを行い、実習を通して栄養教育に必要な基礎能力を身につける。

《授業の到達目標》

学生が自分自身を対象者として栄養アセスメントからプランニングを行うことで栄養教育の一連の流れが理解でき、栄養教育に必要な基礎知識と技術を身につけることができる。食事調査より栄養価算出を行うことで食事食品成分表の適正な活用、食品の常用量や概量の把握ができる。結果を分析することで自己の食生活の問題点を明らかにし改善のため行動変容することが目標である。

《成績評価の方法》

筆記試験70% レポート30%

《テキスト》

『すぐわかる栄養指導実習』（萌文書林）
『知ってトクする調理のためのベーシックデータ』（女子栄養大学出版社）

《参考図書》

・『食品成分表』1年次に購入済
・『日本人の食事摂取基準2010年版』（第一出版）

《授業時間外学習》

各種の調査は自宅で行うことが多くなる。次回の授業に必要な資料となるので課題は必ず済ませて準備する必要がある。

《備考》

電卓を準備すること。（速く正確に計算するため操作しやすいサイズを準備すること）自己管理ができてはじめて他者への指導ができることから積極的に行動変容につなげよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基礎栄養教育実習の概要	授業展開のあらまし、成績評価方法の説明栄養計算の方法
2	栄養調査	栄養調査のいろいろ（食事調査、生活時間調査）
3	栄養調査	栄養計算 私のある1日の栄養素摂取量算出
4	アセスメント	生活時間調査集計（消費エネルギー量算出、身体活動レベル判定）身体状況調査（体格判定）
5	アセスメント	栄養診断 栄養摂取と消費エネルギーの比較
6	アセスメント	栄養診断 3日間の栄養価計算（コンピュータ処理）
7	プランニング	食事摂取基準の算定
8	プランニング	食品構成作成
9	アセスメント	栄養診断診断 食事調査と比較して
10	プランニング	栄養計画 目標設定
11	プランニング	モデル献立作成
12	プランニング	モデル献立作成
13	栄養教育	個別指導 指導計画作成
14	栄養教育	個別指導 個別指導実習
15	まとめ	筆記試験

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養学				
担当者氏名	増村 美佐子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

臨床栄養学の意義と目的、疾患と栄養、医療と臨床栄養、福祉・介護と臨床栄養および内分泌・代謝疾患、消化器疾患の定義、病因・病態、診断、治療について学び、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適切な栄養管理と栄養教育ができる基礎能力を身につける。

《授業の到達目標》

臨床栄養学の基礎知識の説明が可能となる。
各疾患の定義、病因・病態、症状、診断、食事療法が理解できる。

《成績評価の方法》

- (1)小テスト30%
- (2)定期試験70%
- (3)試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨床栄養の概念	臨床栄養学の意義と目的、医療従事者としての心構え、医療・介護制度の基本、医療と臨床栄養、福祉・介護と臨床栄養についての基本を学びます。
2	医療と臨床栄養	治療における栄養マネジメントの意義、チーム医療、クリニカルパス、入院時食事療養制度と栄養食事指導料について学びます。
3	消化器疾患 （口腔と食道の疾患）	口内炎、胃食道逆流症、食道がんの定義・原因・症状・治療について学びます。
4	消化器疾患 （胃の疾患）	胃炎、胃・十二指腸潰瘍の定義・原因・症状・治療について学びます。
5	消化器疾患 （胃の疾患）	胃癌、胃切除後症候群の定義・原因・症状・治療について学びます。
6	消化器疾患 （大腸の疾患）	クローン病、潰瘍性大腸炎の定義・原因・症状・治療について学びます。
7	消化器疾患 （大腸の疾患）	下痢、便秘、過敏性腸症候群、大腸がんの定義・原因・症状・治療について学びます。
8	消化器疾患 （膵臓疾患）	膵炎・膵臓がんの定義・原因・症状・治療について学びます。
9	代謝性疾患 （肥満症）	肥満症・るいそうの定義・原因・症状・治療について学びます。
10	代謝性疾患 （糖尿病）	糖代謝について学びます。
11	代謝性疾患 （糖尿病）	糖尿病の定義・原因・症状・治療について学びます。
12	代謝性疾患 （脂質異常症）	脂質代謝について学びます。
13	代謝性疾患 （脂質異常症）	脂質異常症の定義・原因・症状・治療について学びます。
14	代謝性疾患 （高尿酸血症・痛風）	高尿酸血症・痛風の定義・原因・症状・治療について学びます。
15	まとめ	講義内容を総復習します。

《テキスト》

『新しい臨床栄養学』後藤昌義他編、南江堂
『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病学会編

《参考図書》

『人体の構造と機能および疾病の成り立ち 疾病の成因・病態・診断・治療』竹中優編、医歯薬出版
『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック』奈良信雄著、医歯薬出版
『病気がみえるシリーズ』メディックメディア

《授業時間外学習》

1. テキストの次回の授業範囲を事前に読んでおくこと。
2. 教科書や配布プリントを必ず復習しておくこと。

《備考》

講義中に小テストを行う。
新聞やニュースなどから発信される医療や栄養情報に関心を持ちましょう。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養学				
担当者氏名	須見 登志子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

管理栄養士は、傷病者の療養のため栄養管理や栄養教育（指導）を業とする。そのため病気についての知識を必要とする。「臨床栄養学」では、疾病の成り立ちを主として、肝疾患、循環器疾患、腎疾患を中心に各種疾患の定義、病態、臨床検査など診断、栄養食事療法などの治療について学び、「臨床栄養管理学」「臨床栄養学実習」「臨床栄養学演習」へとつなげていくための基礎能力を身につける。

《授業の到達目標》

- 臨床栄養学の基礎知識の説明が可能となる。
- 各疾患の定義、病因、病態、症状、診断、治療が理解できる。

《成績評価の方法》

定期試験の結果を中心とし、小テスト、レポート、受講態度を総合的に評価する。配分は定期試験70%、小テスト20%、その他(レポートや受講態度など)10%を原則。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	肝・胆道疾患	肝臓の形態と機能：正常と病的変化 肝臓障害の主要症状
2	肝・胆道疾患	肝炎、肝硬変、肝がんなど肝臓疾患の成り立ちと定義、病態、症状、治療について
3	肝・胆道疾患	胆のう疾患（胆石症、胆のう炎）の成り立ちと定義、病態、症状、治療について
4	循環器疾患	動脈硬化症の成り立ちと定義、病態、症状、治療について
5	循環器疾患	心臓疾患、脳疾患の成り立ちと定義、病態、症状、治療について
6	循環器疾患	高血圧症の成り立ちと定義、病態、症状、治療について
7	腎臓疾患	腎臓の形態と機能：正常と病的変化 腎臓障害の主要症状 急性腎炎、ネフローゼ症候群の成り立ちと定義、病態、症状、治療について
8	腎臓疾患	CKDや各種腎疾患の成り立ちと定義、病態、症状、治療について
9	腎臓疾患	人工透析と透析食について 腎臓病食品交換表について
10	呼吸器疾患	呼吸器の構造と肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺結核、肺がんなどの成り立ちと定義、病態、症状、治療について
11	筋・骨格疾患	骨粗鬆症、骨軟化症など筋骨格疾患の成り立ちと定義、病態、症状、治療について
12	血液疾患	血液成分と機能について。貧血の成り立ちと定義、病態、症状、治療について。その他の血液疾患（白血病、出血傾向凝固障害）についてふれる。
13	免疫とアレルギー	免疫反応とアレルギー反応について。アレルギー疾患、自己免疫疾患、免疫不全症候群の成り立ちと定義、病態、症状、治療について
14	発熱・感染症	発熱について。感染症の成り立ちと定義、病態、症状、治療について
15	がん	がんの成り立ちと定義、病態、症状、治療について

《テキスト》

『新しい臨床栄養学』後藤昌義、瀧下修一著 南江堂
『腎臓病食品交換表』黒川清監修中尾俊之他編 医歯薬出版

《参考図書》

『臨床栄養学』中村丁次、小松龍史他編 南江堂
『栄養食事療法の実習』本田佳子編 医歯薬出版
『病気の成り立ちとからだ』『病気の成り立ちとからだ』
中野昭一編 医歯薬出版
『目でみるからだの仕組み』堺章 医学書院
『臨床検査ハンドブック』奈良信雄 医歯薬出版

《授業時間外学習》

授業後の復習や次回の授業範囲を予習したり、専門用語の意味などを理解しておくこと。必要に応じて参考文献について授業中に示すので読んでおくこと。医学や栄養の情報に関心を持ちましょう。

《備考》

定期試験の出題範囲は知らせる。小テストなどの予告は原則としない。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	公衆栄養学				
担当者氏名	嶋津 裕子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

本授業は、3年次履修の公衆栄養学とともに公衆栄養活動実習ならびに公衆栄養臨地実習の前提科目である。地域・国・地球レベルでの健康増進と疾病予防を目指す栄養政策や公衆栄養活動について学ぶことができる。地域の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養うことができる。

《授業の到達目標》

管理栄養士を取り巻く環境、法律・制度の意義を理解し説明できる。各健康づくり施策の意義、内容について説明できる。国民健康・栄養調査の概要、結果の評価と活用ができる。健康づくり施策を担当する行政組織の役割と連携が説明できる。地域における食環境づくりの方法が説明できる。国際栄養について概説できる。

《成績評価の方法》

課題（提出物）・小テスト（10%）、定期試験（90%）

《テキスト》

「サクセス 公衆栄養学」（社）日本栄養士会編 第一出版

《参考図書》

「国民衛生の動向2013 / 2014」 厚生労働統計協会

《授業時間外学習》

復習として小テストを行うので、授業内容の振り返りをしておくこと。

《備考》

ニュース、新聞などにより、健康や栄養に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆栄養学の概念	ガイダンス 栄養士制度の歴史と栄養士法（栄養士・管理栄養士の免許や業務等）について説明できる。
2	管理栄養士を取り巻く社会環境、法律・制度	国民の疾病構造の変化と栄養の関連や少子・高齢化における栄養問題を的確に捉え、説明することができる。
3	介護、高齢者、母子保健等の制度と栄養	健康増進法や食育基本法の制定の経緯・社会背景を踏まえ、その意義と内容を説明できる。介護、高齢者、母子保健等の制度と栄養との関連が説明することができる。
4	健康づくり施策の推移と展開	健康づくり活動の歴史的経緯を踏まえ、現在の健康づくり運動の意義と目的が説明できる。健康日本21策定の背景、目的、目標、評価について説明することができる。
5	健康づくり施策の推移と展開	地域における健康増進計画、健康づくり活動と生活習慣病予防対策と具体的な活動の内容や目標について説明することができる。
6	健康づくり施策の推移と展開	食生活指針の歴史的経緯を踏まえ、目的、内容について説明できる。健康づくりのための運動指針、休養指針、食事バランスガイド策定の背景、目的、内容を説明できる。
7	健康づくり施策の推移と展開	地域における食育推進計画と具体的な活動の内容や目標について説明できる。
8	健康づくり施策の推移と展開	特定健診・特定保健指導制度の策定の背景、目的、内容について説明できる。
9	国民健康・栄養調査の概要、結果の評価と活用	国民健康・栄養調査の意義、法的位置づけ、目的、方法、調査の組織体制について説明できる。調査結果の解釈、評価と活用法や経年推移と疾病構造の推移を説明できる。
10	健康づくり政策の行政について	国、県、市町村の行政組織の役割を説明できる。地域における行政栄養士の業務や社会資源を理解し、それぞれの役割を説明できる。
11	健康づくりに関連する組織について	地域の関連組織の連携や育成の必要性を理解し、連携方法が説明できる（コミュニティ・オーガニゼーション、エンパワメントを踏まえ説明できる）。
12	地域における食環境づくり	地域における食料の生産・流通に関する諸組織に対し、地域住民の健康増進およびQOL向上の視点から提言や助言ができるように事例を参考に理解することができる。
13	地域における食環境づくり	食環境の概念、食料需給の現状把握、地域の食生活改善への効果の可能性について説明できる。食物および情報へのアクセス面の食環境づくりの方法を説明できる。
14	国際栄養の理解	栄養に関する主な国際機関（WHO、FAO、UNICEF、WFP等）の名称をあげ、その概要を概説できる。諸外国における栄養変遷の動向を概説できる。
15	国際栄養の理解	開発途上国、先進国における課題と栄養面での対策を概説できる。WFPの学校給食プログラムや国連のミレニアム開発宣言の概要と栄養のかかわりについて概説できる。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	給食経営管理論				
担当者氏名	前田 典子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力） 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力） 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》

3年次に履修する「給食管理実習」における前提科目です。高度な専門知識をもって特定給食施設の栄養管理業務を理解するとともに、マーケティング原理を生かし経営に関わる基本と管理手法を習得する。

《テキスト》

『改定新版給食管理』 鈴木久乃他編（第一出版）

《参考図書》

『日本人の食事摂取基準』（2010年版）給食経営と管理の科学 井川聡子他編（理工図書）

《授業の到達目標》

特定給食施設の現場事例を交え管理栄養士の実務内容を理解する。給食業務の管理者として栄養管理、経営管理、安全・衛生管理、施設や労務管理の基本的理念を学修するとともに 対象者への適切な栄養管理法を修得し、食育実践の重要性を認識する。

《授業時間外学習》

次週の予習を行い、質問課題を持って参加すること。

《成績評価の方法》

定期試験（80％） 平常時の受講態度（10％）講義後に実施する小テスト（10％）小テストは復習として実施する。遅刻3回で1回欠席とする。

《備考》

管理栄養士・栄養士の実務として最も重要な領域です。基礎知識をもとに特定給食施設の特徴を理解することができる教科です。3年次の実習に自信を持ってつなげましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	給食経営管理の概要	定義・関係法規
2	各特定給食施設における給食管理の特徴	福祉施設（幼児・高齢者）・委託給食まとめ
3	経営管理	マネジメント・組織
4	経営管理	マーケティング・原価管理
5	栄養管理	アセスメント・栄養計画
6	栄養管理	給食計画・献立計画
7	生産管理	食材購入計画
8	生産管理	作業計画
9	衛生・安全管理	人・食・施設・設備
10	衛生・安全管理	危機管理・H A C C P・新調理システム・大量調理施設衛生管理マニュアル
11	施設管理	厨房機器と機能
12	施設管理	食環境・栄養教育
13	給食管理の評価	評価の機能・方法
14	各特定給食施設における給食管理の特徴	事業所・学校・病院（院外給食）
15	特定給食施設	管理栄養士・栄養士の役割

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育科学の一分野として、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問です。受講者は、心理学的領域の理解をめざすとともに、人間科学的な視点を養います。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などの学びを通して、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得と専門領域の教育に応用する方法を学習します。

《授業の到達目標》

教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。

自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめる。

教育効果の検証（評価）ができる。

教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30%）、定期試験（70%）

《テキスト》

テキストは使用しない。
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

「絶対役立つ教育心理学」藤田哲也編著 ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。
授業の中で提示した課題については、参考文献等に目を通し、期限内に作成し提出する。

《備考》

目的意識を持ち、主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。「本時の振り返り」の記入提出で、出席を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達、発達課題
5	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
6	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念
7	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
8	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
9	教授過程	学習指導法、授業の最適化
10	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示
11	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ
12	教育評価（2）	測定と評価の実際
13	不適応行動	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害
14	教育における心理学の働き	教育相談、集団の機能と構造、人間関係
15	まとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論(道徳・特別活動を含む)				
担当者氏名	新井野 久男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育課程全般についての知識や学習指導要領に沿ってどのように教育内容を展開していくかを学ぶ。学習指導要領がどのように歴史の変遷を経て改訂されたかも学ぶ。各校種別の教育課程の内容や編成の手順、実際にどのように実施されているかについて学ぶ。また、特別活動、道徳教育の目標や意義について講義する。実際に学校現場での教育課程の具体的実施事例について提示する。

《授業の到達目標》

教育課程全般についての知識と幼小中高における教育課程の内容を理解し、教員として教育課程を編成、評価、改善していくための基礎を培うことを目標とする。また、教育課程を実施していく上での具体的事項を実際の事例をもとに研究するなかで、学校現場の実情を理解する。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%)、レポート(40%)、その他(提出物、出席状況、授業への取り組む姿勢等)(20%)を基本的に総合的に評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	養育課程について(1)	教育課程の目的、方針、評価等や教育課程の意義と今日的課題について学ぶ。
2	教育課程について(2)	教育課程に関する法律、学校教育の目的、目標について理解する。
3	教育課程の歴史の変遷	学習指導要領改訂の歴史並びに改訂の経緯や基本方針について理解する。
4	我が国の教育施策と教育課程	教育施策の具体例の提示から教育行政について知る。
5	教育課程編成の手順	教育課程編成の具体的手順について学び、指導計画の事例の研究をする。
6	小学校教育課程の編成と実施	小学校(幼稚園含む)教育課程の目標と目的、特徴を理解し、編成の手順と具体例を知る。
7	中学校教育課程の編成と実施	中学校(高等学校含む)教育課程の目標と目的、特徴を理解し、編成の手順と具体例を知る。
8	総合的な時間の取り扱い	趣旨、ねらい、計画、具体的な学習活動について学び、学習活動展開上の配慮事項を理解する。
9	道徳教育について	道徳教育の意義、目標と内容について学ぶ。
10	特別活動について	特別活動の意義、目標と内容について学ぶ。
11	教育課程実施上の配慮事項	小学校配慮事項(12項目)、中学校配慮事項(14項目)について理解する。
12	教育課程実施上の具体例(1)	生徒指導の充実(いじめ問題の対応を事例研究する)
13	教育課程実施上の具体例(2)	生徒指導の充実(不登校の現状と課題を理解し、不登校生への対応について事例研究する)
14	教育課程実施上の具体例(3)	気になる児童生徒への対応について学校現場の実情を学ぶ。
15	新学習指導要領のポイント	学習指導要領の改訂の動向やポイントなどについて理解する。

《テキスト》

- ・小学校学習指導要領解説 総則編 H20.8 文科省 東洋館出版
- ・中学校学習指導要領解説 総則編 H20.9 文科省 ぎょうせい

《参考図書》

自作した教材や教育課程に関する資料を提供する。

「授業ノート」をこちらで用意する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを提出する。これを提出することで出席を確認する。また、この「授業のまとめ」が試験やレポートの資料になるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す意志と意欲が、授業のなかで感じられる学生であること。受講態度については大学生として常識を持って臨むものとする。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

現代的な教育の方法や技術について扱う。何かを教える方法をどのように計画し、そのための材料をどのように準備し、成功したかどうかをどのように確かめるかを体験的に学習する。授業設計の系統的アプローチに基づいて教材を自作するための方法を解説し、毎回の授業で段階的に教材を作成し、受講生が相互に教材をチェックすることで、「独学を支援する教材」を設計・作成・評価・改善ができることを目指す。

《授業の到達目標》

教材作成に関わる専門用語と手法について説明できるようになる。
 授業設計の系統的アプローチを、自分の専門となる領域での個別学習教材の自作に活用できる。
 独学を支援する教材の自作体験を通して、他の形態の指導にも系統的アプローチを応用できる。

《成績評価の方法》

自作した教材、および、教材企画書・作成報告書（50%）
 小テストの結果（30%：3回実施予定）
 ワークシート作成等の作業、討論への参加態度（20%）

《テキスト》

鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル 独学を支援するために』北大路書房。

《参考図書》

稲垣忠・鈴木克明編著(2011)『授業設計マニュアル 教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房。
 中学校・高等学校の学習指導要領等及び解説書
 その他の文献や資料は、適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、教科書の次の回の授業範囲を読んで、教材の企画・作成・評価の手順と方法を把握しておくこと。
 復習としては、授業で学習した成果をもとに、教材および教材企画書・報告書の作成の作業を進めておく。また、小テストでは教材作成に関する専門知識や手法について出題するので、教科書を自学自習しておくこと。

《備考》

パソコンで教材および教材企画書・報告書を作成するので、ワープロなど各種ソフトや情報システムを日ごろから利用し、活用方法を習得しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明 / 教材をイメージする / キャロルの学校学習モデル
2	教材作りをイメージする	系統的な教材設計・開発の手順 / キャランドラのたとえ話
3	教材のアイデアを交換する	独学を支援する教材のアイデア交換 / 教材企画書の書き方
4	教材の責任範囲を明らかにする	小テスト（第3、4章） / 学習目標と3つのテスト
5	テストを作成する	学習課題の種類 / 教材企画書の作成
6	教材企画書を作成する	教材企画書の作成 / 教材企画書の相互チェック
7	教材の構造を見きわめる	小テスト（第5～7章） / 教材企画書の提出 / 課題分析
8	独学を支援する作戦をたてる	ガニエの9教授事象と指導方略表
9	教材パッケージを作成する(1)	形成的評価の7つ道具
10	教材パッケージを作成する(2)	形成的評価の7つ道具の相互チェック
11	教材パッケージを作成する(3)	7つ道具チェックリストの提出
12	形成的評価を実施する(1)	小テスト（第8、9章） / 形成的評価の方法
13	形成的評価を実施する(2)	形成的評価の実施 / 教材作成報告書の書き方
14	教材を改善する	教材の改善とその手順 / 教材作成報告書の作成
15	情報活用能力と独学を支援する教材 / まとめ	情報活用能力と独学を支援する教材 / 教材作成報告書の提出 / 学習の振り返り

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論(進路指導を含む)				
担当者氏名	新井野 久男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

生徒指導は学習指導要領に以下のように定められている。一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。生徒指導の意義と課題を確認した上で、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関係する法的制度、家庭、地域、関係機関との連携など生徒指導全般について学ぶ。さらに生徒指導上の諸問題について具体的事例をもとに研究していく。

《授業の到達目標》

小学校から高等学校までの生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等について、学校現場で教職員が共通理解を図り、組織的な取り組みが実践できるための内容について知る。将来教員を目指す者として、生徒指導上、求められる資質や能力は何かを自分のものとする必要がある。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%),レポート(40%),その他(提出物、出席状況、授業への取り組み姿勢等)(20%)を基本に総合的に評価する。

《テキスト》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。毎回、自作の「講義用テキスト」を提供しそれをもとに講義を進めていく。また、生徒指導に関する様々な情報資料をその都度提供する。

《参考図書》

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを提出する。これを提出することで出席の確認とする。「授業のまとめ」は試験やレポートの資料となるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す強い意志と意欲が授業の中で感じられる学生であること。受講態度については大学生としての常識を持って臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導の意義と課題	学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で充実したものなることを目指し、学校の教育目標を達成するための生徒指導の意義と課題について学ぶ。
2	教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導は、教育課程のすべての領域において機能することが求められる。教育課程における生徒指導の位置づけについて詳しく学ぶ。
3	学校における生徒指導体制と組織	個々の児童生徒に対し、組織的な生徒指導を展開していくため、校内の生徒指導体制をどのように構築していくかなどを考察する。
4	生徒指導の方法と進め方	生徒指導を実際に進めていくためには、生徒指導の意義や課題、組織などの考え方を踏まえて学校などの実態に応じて、どのように進めるか学ぶ。
5	生徒指導と進路指導	生徒自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力を身につけさせるための指導・援助について学ぶ。
6	道徳教育における生徒指導	児童生徒の道徳性の育成を目的とする道徳教育と、生徒指導との関係について考えていく。
7	生徒指導に関する法規について	校則や懲戒、体罰、出席停止や非行少年の処遇など、生徒指導との関連について、法的にどのような制度になっているかについて学ぶ。
8	生徒指導と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導は、学校だけで実践するのではなく、常に家庭・地域との連携を欠かせない。学校としてどのように学校・家庭・地域と関わっていくか考える。
9	問題行動の指導について	様々な問題行動に対し、一人一人の児童生徒に応じた効果的な生徒指導とは何かについて考察する。
10	生徒指導上の諸問題(1)	「いじめ」についての実態や構造などを研究し、いじめ問題の対応などについて考察する。
11	生徒指導上の諸問題(2)	「不登校」の実態を学び、不登校生への対応など、関わりや対策などについて考察する。
12	生徒指導上の諸問題(3)	「規範意識」の醸成のために必要とされる指導などについて考察する。
13	生徒指導上の諸問題(4)	「保護者対応」学校と家庭が連携して児童生徒が健全に育成していくための方策などを考える。また、理不尽な要求など指導困難な保護者等への対応についても考える。
14	事例研究(1)	学校現場で起こった生徒指導上の具体的事例をもとに、実際にどのように指導し対応したかを学ぶ。
15	事例研究(2)	具体事例をもとに、生徒指導上の問題が起こったとき、どう対応するかなどを、小グループで事例研究をする。

平成 23 (2011) 年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成23年度(2011年度)入学者対象

()は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の担当者	ページ	
			必修	選択					1年	2年	3年	4年			
群(領域に関する科目)	基礎ゼミ	演習	2						2						
	基礎ゼミ	演習	2						2						
	栄養のための統計学入門	講義		2					2						
	栄養のための基礎生物化学	講義	2					Ⓑ	2						
	実験基礎演習	演習	2						2						
	医学概論	講義	2					Ⓔ	2						
	臨床心理学	講義		2						2					
	コミュニケーション論	講義		2					2						
	栄養と薬物	講義		2								2		[溝邊 雅一]	165
	バイオテクノロジー	講義		2				Ⓔ					2		
	食料経済	講義		2									2		
	健康科学	講義	2						2						
専門教育科目 群(専門基礎に関する科目)	健康情報処理演習	演習	2						2						
	情報処理と栄養統計	講義		2						2					
	情報処理と栄養統計	講義		2						2					
	公衆衛生学(公衆衛生)	講義	2					Ⓓ			2			(多田 章夫)	166
	公衆衛生学(健康管理)	講義		2								2		(多田 章夫)	167
	社会福祉概論	講義		2							2			(竹内 一夫)	168
	生化学	講義	2					Ⓑ	2						
	生化学	講義		2				Ⓑ		2					
	生化学実験	実験		1				Ⓑ		3					
	生化学実験	実験		1				Ⓑ			3				
	栄養解剖学・人体生理学	講義	2					Ⓑ	2						
	栄養解剖学・人体生理学	講義		2				Ⓑ		2					
	栄養解剖学実験	実験		1						3					
	人体生理学実験	実験		1							3				
	臨床病態学	講義		2				Ⓔ		2					
	臨床病態学	講義		2				Ⓔ			2				
	生体防御論	講義		2				Ⓒ				2		[島田 邦夫]	169
	食品微生物学	講義		2				Ⓒ				2		不開講	
	食品学	講義	2					Ⓑ	2						
	食品学	講義		2				Ⓒ				2		細川 敬三	170
	食品学実験	実験		1				Ⓑ		3					
	食品学実験	実験		1				Ⓑ				3		細川 敬三	171
	食品衛生学	講義	2					Ⓓ			2				
	食品衛生学実験	実験		1				Ⓓ				3		中井 玲子	172
食品機能論	講義		2									2			
調理学	講義	2						2							
調理学実験	実験		1						3						
調理学実習	実習		1						3						
調理学実習	実習		1								3				

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成23年度(2011年度)入学者対象
()は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の担当者	ページ	
			必修	選択					1年	2年	3年	4年			
専門教育科目 (群・専門に関する科目)	基礎栄養学 (健康栄養)	講義	2				㊦	2							
	基礎栄養学 (基礎栄養)	講義	2				㊦	2							
	栄養学実習	実習	1				㊦		3						
	応用栄養学 (ライフステージ栄養)	講義	2				㊦		2						
	応用栄養学 (スポーツ・環境栄養)	講義		2								2			
	栄養管理学	講義	2				㊦			2					
	栄養管理学実習	実習		1							3			須見 登志子	173
	基礎栄養教育論	講義	2				㊦			2					
	健康栄養教育論	講義		2							2				
	基礎栄養教育実習	実習		1							3				
	健康栄養教育実習	実習		1								3		矢埜 みどり	174
	実践栄養教育演習	演習		2									2		
	臨床栄養学	講義	2							2					
	臨床栄養学	講義		2							2				
	臨床栄養学実習	実習		1								3		増村 美佐子	175
	臨床栄養管理学	講義		2								2		増村 美佐子・[岩田 隆男]	176
	臨床栄養管理演習	演習		2									2	増村 美佐子	177
	公衆栄養学	講義	2				㊦				2				
	公衆栄養学	講義		2								2		嶋津 裕子	178
	公衆栄養活動実習	実習		1								3		嶋津 裕子	179
	給食経営管理論	講義		2							2				
	メニュー管理実習	実習		1								3		福本 恭子・前田典子	180
	給食管理実習	実習		1			㊦					3		前田 典子・福本 恭子	181
	フードサービスマネジメント演習	演習		2									2	福本 恭子	182
	総合演習	演習		2									2		
	卒業演習	演習		2									2		
	卒業演習	演習		2									2		
	給食管理臨地実習(校外実習)	実習		1								2		福本 恭子	183
	臨床栄養臨地実習	実習		2									4	増村 美佐子	184
	公衆栄養臨地実習	実習		1									2		
学校栄養教育論	講義		2								2		松尾 千鶴子・[宮田 さと子]	185	
学校栄養教育論	講義		2									2	[宮田 さと子]	186	
卒業研究	演習		3									3			
卒業研究	演習		3									3			

は栄養士免許必修科目

は管理栄養士国家資格必修科目

は栄養教諭必修科目

表中の科目以外にフードスペシャリスト養成科目として、4年 期に「フードスペシャリスト論」

「フードコーディネート論」を開講する。

食品衛生管理者等(食品衛生管理者・食品衛生監視員)欄の㊦～㊧は食品衛生法施行規則 第50条 別表第14及び第15に指定された科目である。

㊦～㊩別表第14にかかげた科目・㊧は別表第15にかかげた科目

㊦化学関係(教養科目「化学」)修得のこと) ㊧生物化学関係 ㊨微生物関係 ㊩公衆衛生学関係 ㊪その他関連科目

㊦～㊩群から1科目以上、最低修得単位数(㊦+㊧+㊨+㊩)22単位以上

最低修得単位数合計(㊦+㊧+㊨+㊩+㊪)40単位以上

欄外の 印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成23年度(2011年度)入学者対象
()は兼担、[]は兼任講師

業 目 の 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学 年 配 当 (数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担 当 者	ペー ジ	
			必修	選択					1年	2年	3年	4年			
栄養教諭一種免許取得に関する科目 教職に関する科目	教職概論	講義	2					2							
	教育原理	講義	2					2							
	教育史	講義	2								2		(岡本 洋之)	187	
	教育心理学	講義	2							2					
	教育制度論	講義	2					2							
	教育課程論(道徳・特別活動を含む)	講義	2							2					
	教育方法・技術論	講義	2							2					
	教育方法論	講義	2									2		(廣岡 義之)	188
	生徒指導論(進路指導を含む)	講義	2						2						
	教育相談(カウンセリングを含む)	講義	2					2							
	事前事後指導	講義	1								1			亀谷 小枝・前田 典子	189
	栄養教育実習	実習	1									3			
	教職実践演習(栄養教諭)	演習	2									2			

は栄養教諭必修科目、 は栄養教諭選択科目

教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法(2単位)、体育(2単位)、外国語コミュニケーション(2単位)、情報機器の操作(2単位)について、指定の科目を修得すること。

欄外の 印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《専門教育科目 群（領域に関する科目）》

科目名	栄養と薬物				
担当者氏名	溝邊 雅一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》

栄養評価や栄養による健康の管理の専門家を目指すものにとっては、健康の維持・増進に不可欠な薬物の知識を学習することは非常に重要である。本授業では、薬物の体内の動きや作用のしくみなどを学んだのち、主な疾病に用いられる薬物を各論的に学習する。講義の中で、食品や栄養との関連を講述し、管理栄養士として、健康管理や栄養指導がトータル的に実践できる薬物の基礎知識の習得を目指す。

《授業の到達目標》

薬物の投与方法、体内の動き、作用のしくみなどの基礎知識を習得し、重要事項について説明できる。
 栄養との関連性が深い疾患名が列挙でき、その治療に用いられる主な薬物の作用機序などが概説できる。
 栄養指導における薬物の重要性と治療効果に影響する食物の影響を理解でき、概説できる。

《成績評価の方法》

定期試験 70%、平常評価 30%（授業における質問への対応、課題への取り組み、出席状況など）

《テキスト》

『薬理学 - 疾病のなりたちと回復の促進 2』大鹿英世、吉岡充弘著 医学書院

《参考図書》

『薬理学』鈴木正彦 医学芸術社 『くすりの地図帳』伊賀立二、小瀧一、澤田康文監修 講談社 『わかりやすい栄養学』中村美知子、長谷川恭子編 ヌーベルヒロカワ 『くすりのしくみ事典』野口實、岡島重孝著 日本実業出版社

《授業時間外学習》

教科書・参考書及び配布レジュメによる予習・復習の自己学習を確実に講義に臨むこと。また、講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。課題の提出は期限を厳守すること。

《備考》

能動的に学習に取り組み、不明な事項は自ら調べ、積極的に質問すること。私語、携帯電話、飲食、出入り等の迷惑行為は厳禁であり、注意しても守れない場合は退席してもらう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	薬物の作用と薬物治療	薬物治療の目的、薬物の投与経路、薬物の作用・副作用など
2	薬物の体内動態と効果	薬物の吸収・代謝・排泄、食品との相互作用など
3	有害作用と薬物の管理	薬物のもつ有益性と有害性、薬物管理など
4	感染症治療薬	抗菌薬各論、感染症治療の問題点など
5	抗がん薬	がん治療における問題点、抗がん薬各論など
6	免疫治療薬	免疫反応のしくみ、免疫治療薬、予防接種薬など
7	抗アレルギー薬・抗炎症薬（1）	抗アレルギー薬、非ステロイド性抗炎症薬など
8	抗アレルギー薬・抗炎症薬（2）	ステロイド性抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風治療薬など
9	末梢神経に作用する薬	交感神経作用薬、副交感神経作用薬、局所麻酔薬など
10	中枢神経に作用する薬（1）	全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗うつ薬など
11	中枢神経に作用する薬（2）	パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、鎮痛薬など
12	物質代謝に作用する薬	ホルモン、ビタミン剤など
13	心臓・血管に作用する薬（1）	抗高血圧薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬、強心薬など
14	心臓・血管に作用する薬（2）	利尿薬、脂質異常症治療薬、血液に作用する薬物など
15	呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬	気管支喘治療薬、鎮咳薬、消化性潰瘍治療薬、性ホルモン薬など

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	公衆衛生学（公衆衛生）				
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

公衆衛生学は、人々が生活する環境において健康の障害となる要因を明らかにし、社会の組織的な活動により集団の疾病予防と健康の保持・増進を目指す学問である。衛生統計や疫学手法など、宿主・病因・環境の相互関係から健康を理解し、集団の健康を維持するための基本的知識とその方法論を学ぶことが求められる。

《テキスト》

「シンプル衛生・公衆衛生学2013」 鈴木庄亮・久道茂

《参考図書》

国民衛生の動向：厚生統計協会編（校正統計協会）
各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 公衆衛生学の概念と意義について説明できる
- 2 疫学的思考と方法について説明できる
- 3 現代社会の環境問題及びその対策について説明できる
- 4 主な保健統計指標について説明できる

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握する
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解する
- 3 健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努める

《成績評価の方法》

定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する
私語、講義中に他の科目の課題を行う等、他人の迷惑になる行為や授業の風紀を損なう行為を行った者は欠席もしくは減点とする

《備考》

この講義は管理栄養士を目指す学生にとって重要な科目であり、授業の障害となったり、風紀を乱すことのない学生が履修登録することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康の概念、公衆衛生の概念と歴史	健康とはどのような状態であるか、そして公衆衛生学カバーする領域、公衆衛生学が発達してきた歴史的な経緯を理解する。
2	環境と健康（1）生態系の中の人間生活	健康に影響を及ぼす物理的因子（温熱、放射線等）、化学的因子およびそれらによる健康被害を説明できる。
3	環境と健康（2）生態系の中の人間生活	健康に影響を及ぼす化学的因子、生物学的因子およびそれらによる健康被害を説明できる。
4	環境と健康（3）環境汚染（大気、水質等）	大気汚染を引き起こす成分とその健康被害、上水道・下水道・環境中の水質基準と水質汚染、廃棄物処理とリサイクルについて説明できる。
5	環境と健康（4）環境汚染（公害、地球環境）	日本で過去に発生した代表的な公害（水俣病等）、現在、地球規模で問題となっている環境問題（地球温暖化等）についてそれぞれ、原因や健康問題を説明できる。
6	環境と健康（5）食品衛生	食中毒、食品安全関連法律、食品安全性確保のための政策（ポジティブリスク、HACCP、食品安全委員会等）について説明できる。
7	環境と健康（6）環境管理	モニタリングとサーベイランスの相違、リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションについて説明できる。
8	小テスト	第1週～第7週までの内容の範囲から試験を行う。
9	保健統計・人口統計	国勢調査、人口動態調査、患者調査、国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査等の保健統計について、調査実施方法、法的根拠、調査内容について説明
10	保健統計・保健統計指標	保健統計の意義を理解するとともに、出生率、合計特殊出生率、老年化率、老年化指数等の保健統計指標を説明できるようになる。
11	保健統計指標	罹患率と有病者率との相違、死亡率、年齢調整死亡率、平均寿命、平均余命等の保健統計指標について説明できる。
12	疫学の概念・バイアス・交絡因子	疫学の概念、疫学における因果関係、バイアスと交絡因子、研究デザインにおける交絡因子のコントロールについて説明できる。
13	疫学の方法・疫学の指標	各疫学的研究法（記述疫学、コホート調査、症例対照研究、介入研究等）の手法、特徴、利点欠点を説明でき、オッズ比や相対危険度を求めることができ
14	感染症（1）	感染症の感染経路、免疫、アウトブレイクの種類やの疫学的調査、院内感染について説明できる。
15	感染症（2）	感染症予防対策として予防接種ワクチンの種類や予防接種法の変遷、感染症拡大防止対策として、新感染症法及び学校安全衛生法に基づく感染者の隔離について説明できる。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	公衆衛生学（健康管理）				
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

公衆衛生学（健康管理）においては、地域で生活する人々の疾病予防や健康の保持増進のために、個人や個人をとりまく社会が何をすべきかを学ぶことが授業の狙いである。具体的には、生活習慣の実態と問題、疾患予防の疫学と予防、社会環境（保健・医療・福祉）の実態について学習する。

《テキスト》

「シンプル衛生・公衆衛生学2013」 鈴木庄亮・久道茂

《参考図書》

国民衛生の動向：厚生統計協会編（校正統計協会）
各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 生活習慣の現状と課題について説明できる
- 2 主要な疾患の疫学について説明できる
- 3 健康維持に関する行政や地域保健のしくみについて説明できる
- 4 社会保障制度や医療保健に関連する法規や役割などに関する基礎的知識を習得する

《授業時間外学習》

健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努める
次回の授業範囲を予習し毎回授業後、ノートを整理し内容を把握する

《成績評価の方法》

定期試験80%、小テスト20%の割合で評価する
私語、講義中に他の科目の課題を行う等、他人の迷惑になる行為や授業の風紀を損なう行為を行った者は欠席もしくは減点とする

《備考》

この講義は管理栄養士を目指す学生にとって重要な科目であり、授業の障害となったり、風紀を乱すことのない学生が履修登録することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	疾病の予防、スクリーニング	疾病予防の段階（一次予防、二次予防、三次予防）、集団検診におけるスクリーニングの精度を示す指標（感度、特異度、カットオフ値）について説明できる。
2	健康づくりと健康日本21	健康づくりの変遷（プライマリヘルスケア、ヘルシーシティ）及び健康日本21について説明できる。
3	生活習慣の現状と対策（栄養・運動）	健康日本21における運動・身体活動及び栄養・食生活分野における健康指標及びその達成状況について説明できる。
4	生活習慣の現状と対策（休養・喫煙・飲酒）	健康日本21における休養、喫煙、飲酒分野における健康指標及びその達成状況及び対策について説明できる。
5	生活習慣の現状と対策（歯科保健）	健康日本21における歯の健康分野における健康指標及びその達成状況及び8020運動について説明できる。
6	地域保健	地域保健の変遷及び地域保健法施行後の保健所と保健センターの業務の相違について説明できる。
7	母子保健・老人保健	母子保健の目的、水準、母子保健施策、子育て支援、老人保健法から高齢者の医療の確保に関する法律への変遷について説明できる。
8	小テスト	第1週～第7週までの内容の範囲から試験を行う。
9	主要疾患の疫学と予防対策（悪性新生物）	がん死亡と罹患状況、主要な悪性腫瘍（胃がん、肺がん、子宮がん、乳がん、大腸がん等）の疫学、リスク要因、一次予防、二次予防について説明できる。
10	主要疾患の疫学と予防対策（循環器疾患）	循環器疾患による死亡や罹患状況、主要な循環器疾患（高血圧、虚血性心疾患、脳血管疾患）についてリスク要因や予防法について説明できる。
11	主要疾患の疫学と予防対策（糖尿病）	代謝性疾患による死亡や罹患状況、主要な代謝性疾患（糖尿病、高脂血症、痛風）についてリスク要因や予防法について説明できる。
12	その他疾患の疫学と予防対策	骨・関節疾患、消化器疾患、腎臓疾患、呼吸器疾患、自殺等のリスク要因や予防法について説明できる。
13	精神疾患と精神保健	精神障害の定義、主な精神疾患、精神保健福祉活動、精神医療、精神保健福祉法成立経緯について説明できる。
14	保健・医療・福祉	医療制度の仕組み、医療法、医療圏、医療計画、医療提供施設、医療従事者、病院機能評価について説明できる。
15	社会福祉と社会保障	社会保障、社会保険、公的扶助、社会福祉、国民医療費、医療保険給付制度について説明できる。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	社会福祉概論				
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

今我が国において、社会福祉は、その人がいかなる状況にあるうとも、その人の個性性に応じた、より良き生活（well-being:福利）を手に入れる支援の一つとして位置づけられている。本講ではまず、社会福祉の理論と実践の方法を学び、次に人々の生活がさまざまな法律によって、どのように保護されているのかを学んでいく。さらに、対人援助専門職として必要な、人々の生活に関する幅広い視野と深い洞察力の涵養を目指す。

《授業の到達目標》

人々の生活の在り様が理解でき、食と健康にかかわる専門職として、個々人の全人的な理解（精神的、身体的、社会的）に取り組みめるようになる。

対人援助専門職として、利用者の話を聴き取ることができるようになる。

「利用者の立場に立つ」ことの意味が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

授業中の小テスト、課題レポートによる評価 20%

授業への取り組み、参加度 30%

定期試験（すべて持ち込みなし） 50%

以上の3点からの総合計で評価とする。 の授業への取り組みの内容には出席状況（遅刻、早退も含む）、授業中の態度が大きく関与するものと理解されたい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉と社会保障の関連性を学ぶ	憲法第25条に規定されている、国民の生存権を担保するための3要素として規定された社会福祉、社会保障、公衆衛生の関連性について検討する。
2	現代社会における人々の生活を理解する	少子超高齢社会の中における人々の生活の特徴、生活意識変化、抱える問題の本質について、人の発達段階に合わせて検討を加えていく。
3	社会福祉の目指すものについて理解する	illfareからwelfareへ、welfareからwell-beingへと変化してきた社会福祉の考え方を検証しながら、これからの社会福祉が目指すものについて検討を加える。
4	社会福祉の歴史をたどる：イギリスの足跡	社会福祉の原型をたどると、人類の歴史の始まり時点ということになるが、ここでは現代の社会福祉の原点といわれるイギリスの歴史から現代の福祉を俯瞰する。
5	社会福祉の歴史をたどる：我が国の足跡	我が国の社会福祉の歴史を、第2次世界大戦前と後に分けて、恩恵としての福祉から権利としての福祉へ、さらに現状の契約に基づく福祉への変化の過程を検証していく。
6	我が国における社会保障制度の現状を学ぶ	我が国の社会保障を構成する4つの要素のうち、ここでは社会保険について学びを進める。
7	我が国における社会保障制度の現状を学ぶ	我が国の社会保障を構成する4つの要素のうち、ここでは公的扶と社会福祉の2要素について学びを進める。
8	我が国における社会保障制度の現状を学ぶ	我が国の社会保障を構成する4つの要素のうち、ここでは公衆衛生及び医療について学びを進める。
9	社会福祉の法体系と関連制度を学ぶ	社会福祉6法及び関連法規について、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法を中心に、分野別に検討するとともに、今後の課題について概観する。
10	社会福祉の法体系と関連制度を学ぶ	社会福祉6法及び関連法規について、知的障害者福祉法、老人福祉法、母子及び寡婦福祉法を中心に、分野別に検討するとともに、今後の課題について概観する。
11	介護保険の仕組みと栄養士による利用者支援	介護保険の概要、サービス提供における専門職間の連携の在り方、また、介護予防での健康維持に果たす栄養士の重要な役割についても言及する。
12	福祉行財政の組織と社会福祉援助の在り方を学ぶ	社会福祉援助を実施していくうえでの財政基盤とその運営組織について学ぶ。加えて公的な支援としての社会福祉援助の在り方についても検討する。
13	相談援助の方法	個人や家族を中心とした個別援助技術の展開の仕方、カウンセリングなどの支援技法について講義する。
14	相談援助の方法	患者会や家族会などのグループを支援するグループワーク、また、介護保険でのケアマネジメントによる支援の展開について講義する。
15	地域の再構成と地域を基盤にした援助の在り方	21世紀の社会福祉の展開について検討するとともに、ますます弱体化する地域の福祉力を強化し、地域を基盤とする支援の展開に必要な施策の在り方について検討する。

《テキスト》

改訂「社会福祉概論」三浦文夫 建帛社 2011

《参考図書》

4訂「栄養士・管理栄養士を目指す人の社会福祉」岩崎珠美・三谷嘉明編（株）みらい 2012

《授業時間外学習》

各種報道メディアの医療と福祉の情報には常に関心を払い、専門誌、雑誌等の記事にも目を注いでおくこと。また学生諸君の身近で展開されている人々の生活、地域社会の状況、通学途上で出会う子供たちや社会人の行動にも常に関心を払っておくこと。

《備考》

対人援助専門職は、熱意と誠意が常に要求される。自己管理をしっかりと行い、欠席、遅刻がないように心がけてほしい。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	生体防御論				
担当者氏名	島田 邦夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

私達の体には、意思とは無関係に外敵や異物を排除し、病気にかからないで健康を保とうとする機構が備わっている。「免疫」という生体防御である。微生物による感染症とその防止対策について習得する。併せて保健医療サービス(臨床栄養)の担い手である管理栄養士が適切な栄養対策を立てるために知っておくべき専門的な知識の習得を目的とする。

《授業の到達目標》

生体防御の破綻によって起こる疾患を説明できる。
 免疫システムの構成成分とその役割を理解・説明できる。
 栄養・運動・老化による生体防御への影響を説明できる。
 主要な病原体とその感染症の病態と特徴を理解・説明できる。

《成績評価の方法》

- (1) 受講態度・学習意欲 20%（小試験により評価）
- (2) 定期試験 80%（なお、試験は記述式が中心となる）

《テキスト》

『管理栄養士講座：感染と生体防御』
 酒井 徹・森口 寛・山本 茂 編著（建帛社：最新版）

《参考図書》

『戸田新細菌学（最新版）』吉田眞一・柳 雄介・吉開泰信 編（南山堂）
 『一目でわかる微生物学と感染症』
 S.H.Gillespie, K.B.Bamford 著、山本直樹 他 5名監訳（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

《授業時間外学習》

- (1) 日本での感染症、世界での感染症を調べてみる。
- (2) 予習：次回授業内容を理解するために、教科書に目を通しておく、不明点は授業時に質問する。復習：授業内容を再確認する。不明な点は質問するなり自分で調べるなりして整理まとめる。「聞く」は一時の恥、「聞かざる」は一生の恥！

《備考》

本科目履修にあたり生化学や病理学、臨床栄養学、公衆衛生学等関連科目を十分に学修しておくことが必要である。話題になる感染症について、日頃から関心を高めておく。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション, 「生体防御」へのいざない	感染とは・・・？ 感染から身体を守るシステム（生体防御）
2	生体防御とは・・・？	プロジェクター(映像)を用い、生体防御論の全体像を把握・理解する。病原体を良く知り、逆襲に備え、その戦略をねる。
3	免疫と生体防御	健康を守る警備隊(免疫)が、たえずパトロールしながら体内を監視している。それが生体防御。
4	感染防御機構の破綻	体液性免疫・細胞性免疫、サイトカイン、外敵と戦う生体、破綻すると何が起きるのか？
5	アレルギー疾患	食物アレルギー（特定原材料、花粉症と果実アレルギー）、自己免疫疾患
6	老化と免疫	加齢に伴う免疫能の変化
7	栄養と生体防御	生体内脂質は傷害が防御か・・・？精神的ストレス・栄養不全と生体防御、マラズムスとクワシオコール
8	運動と生体防御、健康保持・増進と運動	運動性貧血はなぜ起きる・・・？免疫力回復、病魔に負けない強い体を作るには・・・？
9	感染症と法律	感染症予防法、学校感染症、検疫感染症、予防接種法
10	細菌感染症	細菌とは・・・？主要な細菌による感染症と検査法（遺伝子診断）
11	ウイルス感染症	ウイルスとは・・・？主要なウイルスによる感染症と検査法（遺伝子診断）
12	その他の感染症、消毒と滅菌	クラミジア・リケッチア感染症、真菌感染症、原虫感染症（寄生虫疾患）、消毒と滅菌の違いは・・・？
13	性行為感染症、院内感染症	性行為の多様化に伴う性感染症（STD）、医療現場における感染症
14	新興感染症・再興感染症	地球環境開発に伴う感染症と有史以来の感染症、新興・再興とは・・・？
15	人獣共通感染症、感染経路	動物から感染する感染症、感染症を引き起こす病原体の侵入門戸（経口・経皮・経気感染）

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品学				
担当者氏名	細川 敬三				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

(1)「食品学」で学んだ食品の栄養成分・成分の反応性・物性などの知識を基にし、個々の食品素材とこれらを原料とする加工食品について理解する。(2)食品の変質を制御するための保蔵（保存）方法の原理を変質と関連づけながら食品の変質について学ぶ。

《授業の到達目標》

(1)いろいろな食品素材の生物学的分類・栄養学的特徴・化学的性状・用途について学ぶ。(2)食品の保蔵（保存方法）の原理と実際について学ぶ。(3)加工食品の製造方法の原理と実際について学ぶ。(4)以上の内容を学び、食品素材と加工食品の生産から消費にいたる過程を正しく認識・理解することにより、食品をよりよく利用できるようになる。

《成績評価の方法》

定期試験(100%)により評価を行います。

《テキスト》

テキストは使用しない。適時プリントを配付する。

《参考図書》

食品学，菅原龍幸ら編（建帛社）、食品学，菅原龍幸ら編（建帛社）、食品学各論，高野克己編（樹村房）、食品学加工学及び実習，筒井知巳編（樹村房）、食べ物と健康，管理栄養士国家試験教科研究会編（第一出版）、食品学 食品成分と機能性-，久保田紀久枝ら編（化学同人）、食べ物と健康 食品学・食品機能学・食品加工学，長澤治子編著（化学同人）

《授業時間外学習》

講義終了後、その日の内に復習し、ノートの整理をして疑問点を残さないようにして下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の概要と食品の現状 食品の加工と保蔵の意義	食品学 で学習する内容と食品・加工食品の現状およびその保存の意義について概説する。
2	食品の変質	食品の変質にともなう劣化の要因について概説する。
3	食品保蔵の原理（1） ：水分の除去と浸透圧	食品保蔵のための具体的方法である「水分の除去と浸透圧」についてその原理と実際の例について学ぶ。
4	食品保蔵の原理（2） ：pHの調節・低温貯蔵	食品保蔵のための具体的方法である「pHの調節・低温貯蔵」についてその原理と実際の例について学ぶ。
5	食品保蔵の原理（3） ：殺菌方法	食品保蔵のための具体的方法である「殺菌方法」についてその原理と実際の例について学ぶ。
6	農産食品（1） ：穀類・いも類・豆類	穀類・いも類・豆類に含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
7	農産食品（2） ：野菜類	野菜に含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
8	農産食品（3） ：果実類・種実類など	果実類・種実類などに含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
9	水産食品（1） ：魚類	魚類に含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
10	水産食品（2） ：藻類・貝類など	藻類・貝類などに含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
11	畜産食品（1） ：鳥獣肉類	鳥獣肉類に含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
12	畜産食品（2） ：乳類・卵類	乳類・卵類に含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
13	油脂類・発酵食品	食用油脂原料の特徴とその油脂の製造・特性について学ぶ。発酵食品の製造方法について学ぶ。
14	嗜好品・甘味料類	嗜好品・甘味料類の種類とその製造方法について学ぶ。
15	インスタント食品・調理済食品・コピー食品	現在利用されているインスタント食品・調理済食品・コピー食品の種類と製造方法について学ぶ。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品学実験				
担当者氏名	細川 敬三				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

(1) 食品成分中のカルシウムがどのような方法で測定されていかを知るために、日本食品標準成分表で使用されている方法により測定を行う。

(2) 加工食品（授業計画に示した7品目）の原料に含まれる成分の特性を知り、原料に含まれるどの成分の特性が加工食品の製造に利用されているかを考え、実際に製造する。

(3) 3カ所の工場見学を予定している。

《授業の到達目標》

(1) 食品中のカルシウムの量を原子吸光光度計を用いて測定する。(2) 「食品学」で学んだ中から代表的な加工食品の製造を体験し、加工食品の製造方法の理解を深めるとともに、原料となる食品素材の成分がどのように加工食品の製造に寄与しているのかを理解する。(3) 加工食品の実際の生産現場を知るため工場見学を行ない、その理解を深める。食品中のカルシウムの量を原子吸光光度計を用いて測定する。

《成績評価の方法》

実験のレポート(70%)・定期試験(30%)で評価を行う。実験態度等が適切でない場合は、減点します。

《テキスト》

必要に応じ資料を配布する。

《参考図書》

訂日本食品標準成分表分析マニュアルの解説,財団法人日本分析センター編(中央法規)基礎からの食品・栄養学実験,村上俊男編(建帛社)食品加工学の実習・実験,茶珍和雄ら(化学人)食品学加工学及び実習,筒.知巳編(樹村房)

《授業時間外学習》

実験終了後、その日の内にノートの整理をしてレポートを作成して下さい。なお、レポートの提出は、各実験が終了後、1週間以内です。

《備考》

(1) 実験材料の入荷状況で実験の順番が入れ替わることがあります。(2) 工場見学は、時間割に示した日時以外に実施しますので、日時が決まり次第連絡します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実験概要説明と準備、検量線作成方法と利用方法	食品学実験 で実験する内容を概説する。カルシウムの測定に必須である検量線の作成と利用方法について学ぶ。
2	カルシウムの測定(1) 測定用試料の調製	カルシウム量の測定に使用する標準試料と濃度.知の試料の調製を行う。
3	カルシウムの測定(2) 原子吸光光度計で測定	原子吸光光度計で測定し、濃度.知試料のカルシウム量を算出する。
4	リンゴジャムの製造とジャムの糖濃度の測定	加工用リンゴ(紅玉)を原料としてジャムを製造し、ペクチンのゲル化の要因を理解する。実習で製造したジャムの糖濃度を測定する。
5	うどんの製造	中力粉を原料としてうどんを製造し、小麦粉に含まれるグルテンの特性を理解する。
6	蕎麦の製造	そば粉を原料として蕎麦を製造し、小麦粉に含まれるグルテンの特性との対比をする。
7	木綿豆腐の製造	大豆を原料として木綿豆腐を製造し、大豆タンパクと苦汁の特性を理解する。
8	絹ごし豆腐の製造	大豆を原料として絹ごし豆腐を製造し、大豆タンパクとグルコノデルタラク톤の特性を理解する。
9	蒲鉾の製造	魚肉を原料として蒲鉾を製造し、魚肉タンパク(アクトミオシン)の特性を理解する。
10	ソーセージの製造	豚肉を原料としてソーセージを製造し、畜肉タンパク(アクトミオシン)の特性を理解する。
11	バター・カッテージチーズの製造	牛乳を原料としてバター・カッテージチーズを製造し、乳脂肪・乳タンパク(カゼイン)の特性を理解する。
12	ナチュラルチーズ理解と利用	牛乳を原料としたナチュラルチーズの特性を理解する。
13	旨味の効果に関する実験	アミノ酸系と核酸系の旨味について理解するとともに、その効果について学ぶ。
14	工場見学	加工食品の実際の生産現場を知るため工場見学を行ないその理解を深める。
15	工場見学	加工食品の実際の生産現場を知るため工場見学を行ないその理解を深める。

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品衛生学実験				
担当者氏名	中井 玲子				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力） 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

本科目において受講者は、食品衛生学の中でも特に重要な食中毒に関連した細菌類、食品添加物の検査を、実際に自分の手で行うことにより、基本操作を習得する。更に、自身の身体や食材に付着した細菌類の採取および検査を行い、日常生活における汚染状態の把握とその防止に対する理解を深め、市販の食材から食品添加物の検出を試みることで、市場における使用状況を実感として理解できるようになることを目指す。

《授業の到達目標》

「食中毒に関連した主要な細菌類」の特徴とその検出方法が説明、実践できるようになる。
「食中毒の実際とその予防」について説明、実行できるようになる。
「汎用されている食品添加物」の特徴とその検出方法が説明、実践できるようになる。

《成績評価の方法》

・授業開始時刻より30分以上の遅刻は入室を認めない（但し、遅延証明書等の届がある場合は考慮する）。
・成績評価点数 = 各項目評価(各得点率% × 100) / 評価項目数
(項目：レポート課題等の提出物評価、筆記試験)

《テキスト》

前編として「微生物学編」、後編として「化学編」を詳しく、平易に記載した実験書（プリント）を配付する。

《参考図書》

「食品衛生実験」東京顕微鏡院（編）、三共出版
「食品衛生ハンドブック」藤原・栗飯（監修）、南江堂
「原色食品衛生図鑑」細貝他3.（編）、建帛社
「カラーアトラス環境微生物」山崎（編）、オーム社

《授業時間外学習》

予習の方法：配付した実験書（プリント）を読んでくこと。また、適宜課題を出すので、その課題をやってくこと。
復習の方法：毎回行った実験の内容の再確認を行い、観察や測定結果、感じたこと、疑問等を詳細に実験ノートに記録すること。各自の実験記録を基にして極力詳しいレポートを作成すること。

《備考》

・実験用の白衣（実験着。なるべく調理系実習等に併用しないもの）を必ず着用すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コース・ガイダンス 基本操作の確認(1)	コース概略と受講上の注意（微生物実験の諸注意および安全対策など）を理解する。標準菌の接種・培養の手法について理解する。
2	基本操作の確認(2)(3) 応用実験(1)	標準菌の培養観察、単染色と顕微鏡観察の手法について理解する。鼻腔常在細菌の培養検査の手法について理解する。
3	基本操作の確認(4) 応用実験(2)	グラム染色と顕微鏡観察の手法について理解する。鼻腔常在細菌の培養観察の手法について理解する。
4	応用実験(3)(4)	食肉の雑菌検査（接種・培養）の手法について理解する。手指・手の平の雑菌検査（接種・培養）の手法について理解する。
5	応用実験(5)(6)	食肉の雑菌検査（培養観察）の手法について理解する。手指・手の平の雑菌検査（培養観察）の手法について理解する。
6	微生物編のまとめ	微生物編で学んだ内容を振り返り、総考察を行う。また、理解度を確認するため、確認テスト に取り組む。
7	化学編のガイダンス	化学編実験の諸注意を理解し、試薬調製など実験準備に取り組む。
8	漂白剤	漂白剤（亜硫酸塩、次亜塩素酸塩）の検出法について理解する。
9	着色料(1)	毛糸染色法：合成着色料の分離・同定法を理解する。
10	着色料(2) 保存料	薄層クロマトグラフィー：合成着色料の分離・同定法を理解する（継続）。保存料（ソルビン酸）の検出法について理解する。
11	発色剤	発色剤（亜硝酸塩）の検出法について理解する。
12	油脂の酸化とその防止 (1)	過酸化物質の検出法について理解する。
13	油脂の酸化とその防止 (2)	過酸化物質の検出法について理解する（継続）。
14	化学編のまとめ	化学編の実験データを整理し、内容を振り返り、総括考察を行う。
15	コースのまとめ	コースで学んだ内容を振り返り、総合考察を行う。また、理解度を確認するため、確認テスト に取り組む。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	栄養管理学実習				
担当者氏名	須見 登志子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》

「応用栄養学」、「栄養管理学」で学んだことを基に、対象者の身体状況、栄養状態、生活習慣を把握し、また身体計測、臨床検査値から健康状態を評価して、栄養ケアができることを目標に、個々人の適切な栄養補給や食事計画について、実習および献立作成を通じて学ぶ。またライフステージにおける栄養管理のための媒体や資料を作成するとともに、常に「食」への関心を持つように食に関する記事を探求し、討議、レポートする。

《授業の到達目標》

○各ライフステージにおける対象者の特性を理解して調理、献立作成ができる。○設定された対象を把握し栄養ケアプランを考え、伝えることができる。○栄養管理のための媒体や資料作成ができる。○食と健康への関心を深める。

《成績評価の方法》

レポートや試験の結果を中心とし、実習時の服装身だしなみ、受講態度を総合的に評価する。配分は、試験とレポート合わせて80%、その他（服装や受講態度など）20%を原則とする。

《テキスト》

『応用栄養学 栄養マネジメント演習・実習』竹中優,土江節子編 医歯薬出版、『日本食品標準成分表2010』医歯薬出版
『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会編 第一出版

《参考図書》

『ライフステージからみた人間栄養学 応用栄養学』森基子,玉川和子他著 医歯薬出版、
『栄養食事療法の実習 栄養アセスメントと栄養ケア』本田佳子編 医歯薬出版
『日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版

《授業時間外学習》

授業後の復習や次回の授業範囲を予習したり、専門用語の意味などを理解しておくこと。必要に応じて参考文献について授業中に示すので、読んでおくこと。

《備考》

レポートは、提出期日の厳守。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	「栄養管理学実習」がイン	授業内容と実習時における決まりごとの説明
2	乳児期の栄養	説明と実習：調乳と離乳食初期
3	乳児期の栄養	説明と実習：離乳食
4	乳児期の栄養	栄養管理：「栄養ケアについて」および離乳食献立作成
5	幼児期の栄養	幼児期食実習
6	幼児期の栄養	栄養管理：「栄養ケアについて」および幼児食献立作成
7	幼児期の栄養	学生献立実習
8	学童期の栄養	学童期食実習
9	学童期の栄養	栄養管理：「栄養ケアについて」および学童期食献立作成
10	成人期の栄養	生活習慣病予防食実習
11	成人期の栄養	栄養管理：「栄養ケアについて」および生活習慣病予防食献立作成
12	成人期の栄養	生活習慣病の食教育リフレット作成
13	高齢期の栄養	高齢期食実習
14	高齢期の栄養	高齢期食実習とくに嚥下困難食
15	高齢期の栄養	栄養管理：「栄養ケアについて」および高齢期食献立作成

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	健康栄養教育実習				
担当者氏名	矢埜 みどり				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力）				

《授業の概要》

本実習は、2年生履修の「栄養教育論」の知識をもとに、実際に栄養教育に取り組む科目です。個別及び集団栄養教育に必要な対象者のニーズアセスメント、指導計画の立案、教材作成を行い、実践力を養います。

《テキスト》

『エッセンシャル 栄養教育論:』春木敏 編（医歯薬出版）
（2年時に購入済み）

《参考図書》

『健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論』丸山千鶴子、足達淑子、武見ゆかり、南江堂『医療・保健スタッフのための件行動理論の基礎』松本千明医歯薬出版

《授業の到達目標》

ニーズアセスメントから、計画、実施、評価を行うことで、マネジメントサイクルの流れを理解する。また本人の知識だけでなく、行動のスキル、周囲の人々の協力、環境などの要因の解決が必要な事を実感できる。

《授業時間外学習》

指示されたテキストの内容は必ず、理解して参加する事また、ニーズアセスメントの方法、教育の立案、教材作成など時間外にも作成する必要があります。

《成績評価の方法》

個別・集団の栄養教育に必要なアセスメントの内容（10点）、教育計画案（10点）、教育内容（10点）、評価（10点）、最終レポート（10点）で採点する。

《備考》

知識の伝達だけでは、行動が変化しない難しさを実感し、行動変容に何が大切なのかを意識する事。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養教育におけるマネジメントサイクルの理解	栄養マネジメントの流れを理解し、プリシード・プロシードモデルを復習し理解を深める。
2	個別の栄養教育（ニーズアセスメント）	個別の栄養教育を実施するための、必要なアセスメント項目を整理し、問診票の作成及び食事調査を実施する。
3	個別の栄養教育（栄養教育計画）	食事調査及び問診の結果から、対象者のQOL、健康、問題行動、問題行動を引き起こす要因を分析し、教育の優先順位を決定する。
4	個別の栄養教育（栄養教育計画）	相手の行動段階を把握し、活用できる行動モデルを選択する。1ヶ月の期間を決めて、長期、中期、短期、経過目標及び評価項目を作成する。
5	個別の栄養教育（栄養教育の教材）	市販されている教材やオリジナルの教材を各自1つ選択し、プレゼンテーションを行う。
6	個別の栄養教育（栄養教育の教材作成）	3回の教育計画を作成し、前回の授業の教材を参考に教育に必要な教材を準備する。
7	個別の栄養教育（栄養教育計画と実施）	教育計画をもとに、第1回目の個別の栄養教育を実践する。指導は、6人一組で行い、他人の栄養教育を観察することで指導に必要な技術をつかむ
8	個別の栄養教育（実施と評価）	1週間後の変化を問診し、栄養教育の経過評価を行なったのち、計画案を推敲し第2回の栄養教育を実践する。
9	個別の栄養教育 集団の栄養教育	第3回の個別の栄養教育の実践。 大学生の食生活の問題点をプレストを用いて整理する（ニーズアセスメント）。
10	個別の栄養教育 集団の栄養教育	1カ月後の個別の栄養教育の効果を評価項目をもとに評価・改善する。 整理した問題点を基に、プリシード、プロシードモデルを用いてアンケート項目の検討
11	集団の栄養教育（ニーズアセスメント1）	アンケートを作成し、実施する。アンケート結果についての統計処理の方法を説明し、分析を行う。
12	集団の栄養教育（ニーズアセスメント2）	アンケートの分析結果のについてプレゼンテーションに必要なパワーポイントの原稿を作成する。
13	集団の栄養教育（ニーズアセスメント3）	各班、ニーズアセスメントの分析結果についてプレゼンテーションを行う。
14	集団の栄養教育（健康教育の計画）	ニーズアセスメントに基づいた3回シリーズの健康教育を計画する。
15	集団の栄養教育（まとめ）	まとめ

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養学実習				
担当者氏名	増村 美佐子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》

食事は、命を繋ぐために不可欠であり、入院患者にとっては楽しみの一つである。病態に応じた適切な栄養管理（食事提供）は患者の治療効果を上げ、QOLを高める。そのためには、疾患の概要を十分理解し、栄養スクリーニング、栄養アセスメントを行い、患者の嗜好や各学会の診療ガイドラインに沿った栄養ケアプランを作成する必要がある。作成した栄養ケアプランに従った調理、試食は患者理解に繋がる。

《授業の到達目標》

病態別の栄養ケアプラン（栄養基準、食品構成、食品の選択、調理法）の説明および実施が可能となる。
限られた時間内で業務をこなす力を身につける。

《成績評価の方法》

- (1)授業態度10% (2)課題提出40% (3)定期試験50%
(4)試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する。

《テキスト》

『臨床栄養学 食事療法の実習 臨床アセスメントと栄養ケア第8版』本田佳子編、医歯薬出版、『臨床調理 第5版』玉川和子著、医歯薬出版 *別紙確認のこと

《参考図書》

『エッセンシャル 臨床栄養学 第5版』佐藤和人他編、医歯薬出版
『改定 臨床栄養管理 - 栄養ケアとアセスメント』渡辺早苗他、建帛社
『栄養科学シリーズ 臨床栄養管理学実習』塚原丘美編、講談社
『臨床栄養』月間、医歯薬出版
『栄養食事療法シリーズ』渡邊早苗編、建帛社

《授業時間外学習》

授業に必要な課題（自作献立）を作成すること。
実習終了後はレポートを作成し、復習に努めること。
治療効果を高める食事提供や栄養教育を実施するには、調理知識・技術、食品学の知識（成分、機能）にも精通しておく必要があります。日常生活の中で、常に食を意識する習慣をつけましょう。

《備考》

計算機を毎回持参すること。
提出物は期限を厳守のこと。
白衣・帽子を忘れた場合は実習に参加できません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養ケアの概要	栄養補給法とその種類、栄養必要量の算定(エネルギー、たんぱく質、炭水化物、脂質)、栄養ケアプランの概要について学びます。
2	栄養スクリーニング 栄養アセスメント	低栄養患者症例について栄養スクリーニング、栄養アセスメントを実施します。栄養アセスメントキットにより、身体計測を行います。
3	治療食作成 (摂食・嚥下障害)	摂食・嚥下のメカニズムを食品を使って確認後、摂食・嚥下症患者に適した食事を調理実習します。作成した食事と市販食品との比較も行います。
4	治療食作成 (肝臓病)	肝臓病症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び、肝臓病治療食を作成します。
5	治療食作成 (膵臓病)	膵臓病症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び、肝臓病治療食を作成します。
6	糖尿病の食事療法	糖尿病症例について、栄養アセスメントを実施後、栄養ケアプランの立て方を学びます。糖尿病食品交換表の説明後、献立作成を行います。
7	治療食作成 (脂質異常症)	脂質異常症症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び、脂質異常症の治療食を作成します。
8	治療食作成 (高血圧)	高血圧症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び、減塩食の治療食を作成します。
9	治療食作成 (糖尿病食)	糖尿病自作献立(朝・昼・夕・間食)に基づいた、治療食を作成します。献立については、他者からの評価を行います。
10	腎臓病の食事療法	腎臓病症例について栄養アセスメントを実施後、栄養ケアプランの立て方を学びます。腎臓病食品交換表の使い方を説明後、献立作成を行います。
11	治療食作成 (鉄欠乏性貧血)	鉄欠乏性貧血症例について栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び、鉄補給食のための治療食を作成します。
12	治療食作成 (食物アレルギー)	食物アレルギーの概要、栄養ケアプランの立て方を学びます。三大アレルゲンを除去した間食について治療食を作成します。
13	治療食作成 (腎臓病食)	腎臓病自作献立(朝・昼・夕・間食)に基づいた、治療食を作成します。献立については、他者からの評価を行います。
14	実施疾患についてのプレゼンテーション	学修してきた疾患について、各自の栄養ケアプランを発表します。
15	まとめ	栄養補給法についてのまとめを行います。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養管理学				
担当者氏名	増村 美佐子、岩田 隆男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

臨床栄養の専門職として、医療、保健、介護福祉などの施設において、他職種の専門職とともに協力し合い、チーム医療に参画できる知識や技術を習得する。傷病者の病態や栄養状態の特徴を学び、適切な栄養評価を行い、栄養計画、栄養教育などの栄養管理ができる能力を身につける。

《授業の到達目標》

各疾患の病態、特徴を把握し理解できる。
臨床検査の種類、正常値を把握し、病態、病期が判定できる。
栄養評価を実施し、栄養計画、栄養教育が実施できる。
治療用特殊食品、病者用食品などの栄養価、特性についての知識を習得し、栄養マネジメントが実施できる。
栄養サポートチームなどの栄養医療に参画できる。

《成績評価の方法》

(1)小テスト20% (2)定期試験80%
(3)試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する。

《テキスト》

『三訂 臨床栄養管理』渡邊早苗他著（建帛社）
必要に応じてプリントを配布

《参考図書》

『検査値に基づいた栄養指導』ポケット版、足立加代子著、
チーム医療
『目で見る栄養栄養学 UPDATE』中村丁次他著、医歯薬出版

《授業時間外学習》

1. テキストの次回の授業範囲を事前に読んでおくこと。
2. 教科書や配布プリントを必ず復習しておくこと。

《備考》

各疾患の栄養療法の基礎知識と、臨床検査値の読み方の復習が必要です。身近な人々の健康や疾患に関心を持ち、身近な情報を得ながら学習する習慣をつけましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨床栄養の概念	臨床栄養学の意義と目的、医療・介護保険制度、医療と臨床栄養学、福祉・介護と臨床栄養について学ぶ。
2	臨床栄養管理の基礎	栄養評価・栄養アセスメントの方法、血液・尿・便・生理機能などの臨床検査値の見かた、内分泌検査、免疫機能検査などの臨床検査値の見かたについて学ぶ。
3	臨床栄養管理の実施	日本人の食事摂取基準2010年版、栄養必要量の算定、栄養素の補給、栄養素材の機能、食物が医薬品に及ぼす影響などについて学ぶ。
4	内分泌・代謝性疾患・肥満	肥満症、脂質異常症・メタボリックシンドロームと特定保健指導について学び、これらの危険因子を把握し栄養指導が実施できる技能を身につける。
5	内分泌・代謝性疾患・糖尿病	糖尿病の病態と分類、小児糖尿病の病態を理解し、症例から栄養指導、糖尿病教室の運営の方法などを身につける。
6	内分泌・代謝性疾患・糖尿病の合併症	糖尿病と糖尿病の3大合併症（糖尿病神経障害、糖尿病網膜症、糖尿病腎症）について学び、それぞれの病期に適した栄養管理、栄養指導が実施できる技能を身につける。
7	内分泌・代謝性疾患・多様な代謝機能異常	高尿酸血症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、先天性代謝異常症について学び、栄養管理、栄養指導が実施できる技能を身につける。
8	循環器系疾患	動脈硬化症、高血圧症、心疾患、脳梗塞、認知症、パーキンソン病、慢性閉塞性肺疾患（COPD）の病態を把握し、栄養管理、栄養指導が実施できる技能を身につける。
9	腎臓疾患	急性・慢性腎炎：CKD、腎不全、人工透析療法の病態について学び、それぞれの病期に適切な栄養管理、栄養指導方法を身につける。
10	消化器疾患 1	口腔・食道疾患、胃・十二指腸潰瘍の栄養管理について学ぶ。
11	消化器疾患 2	炎症性腸疾患、クローン病の病態について学ぶ。
12	消化器疾患 3	胃癌、胃手術前・後の病態、治療食と栄養管理について学ぶ。
13	消化器疾患 4	急性・慢性肝炎、肝硬変、肝不全、脂肪肝、胆嚢炎、膵臓疾患の病態と栄養管理について学ぶ。
14	嚥下障害の栄養法	嚥下障害の病態、濃厚流動食の選択などの栄養マネジメント、褥瘡対策の指針、食物アレルギーと除去食品、代替食品などについて学ぶ。
15	血液疾患、感染症、骨代謝疾患	神経性食慾不振症の病態、血液疾患の種類、感染症と熱性疾患、骨粗鬆症の病態について学ぶ。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養管理演習				
担当者氏名	増村 美佐子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

疾患の治療や予防に必要な栄養管理法が選択できる技術を学修する。現在までに習得した臨床栄養学、栄養管理学、栄養教育の知識と技術を駆使し、提示した病態症例について栄養スクリーニングを行い、その結果に基づいて適切な栄養ケアプランを作成する。また、模擬患者体験、高齢者疑似体験、治療食の試食を通じて傷病者への理解及およびコミュニケーション力を身につけることを目的とする。

《授業の到達目標》

病態の判定に必要な検査値が理解できる。
病態に応じた栄養アセスメントができる。
傷病者に配慮したコミュニケーション法を身につける。

《成績評価の方法》

(1)小テスト15% (2)課題提出15% (3)定期試験70%
(4)試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する。

《テキスト》

『臨床栄養学 食事療法の実習 臨床アセスメントと栄養ケア第8版』本田佳子編、医歯薬出版
『臨床調理 第5版』玉川和子著、医歯薬出版

《参考図書》

『栄養科学シリーズ 臨床栄養管理学実習』塚原丘美編、講談社
『改定 臨床栄養管理 - 栄養ケアとアセスメント』渡辺早苗他、建帛社
『改訂3版 すぐに役立つ 栄養指導マニュアル』中村丁次、日本医療企画

《授業時間外学習》

(1)予習の方法：授業内に指示された項目について予習しておく。また、適宜課題を指示する。
(2)復習の方法：授業内容を再確認し、不明な点は質問および自学すること。

《備考》

講義中に数回小テストを行う。
計算機を毎回持参すること。
提出物は時間厳守のこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養状態の評価判定	栄養ケアプランの立て方および栄養状態の評価判定について説明できる。効果的な面接法について説明、実践することができる。
2	肥満症の栄養管理	肥満症の病態、特徴を把握し、病因などが理解できる。肥満症例の検査値から、病態および病期が判定でき、適切な栄養管理ができる。
3	肥満症の栄養管理	前回は検討した肥満症例に対する栄養ケアプラン、栄養教育が実施できる。
4	糖尿病の栄養管理	糖尿病の病態、特徴を把握し、病因などが理解できる。糖尿病症例の検査値から、病態および病期が判定でき、適切な栄養管理ができる。
5	糖尿病の食事療法	前回は検討した糖尿病症例に対する栄養ケアプラン、栄養教育が実施できる。
6	胃疾患の栄養管理	胃疾患の病態、特徴を把握し、病因などが理解できる。胃疾患症例の検査値から、病態および病期が判定でき、適切な栄養管理ができる。
7	胃疾患の栄養管理	前回は検討した胃疾患症例に対する栄養ケアプラン、栄養教育が実施できる。
8	肝疾患の栄養管理	肝疾患症例の病態、特徴を把握し、病因などが理解できる。肝疾患症例の検査値から、病態および病期が判定でき、適切な栄養管理ができる。
9	肝疾患の栄養管理	前回は検討した肝疾患症例に対する栄養ケアプラン、栄養教育が実施できる。
10	腎疾患の栄養管理	腎疾患症例の病態、特徴を把握し、病因などが理解できる。腎疾患症例の検査値から、病態および病期が判定でき、適切な栄養管理ができる。
11	腎疾患の栄養管理	前回は検討した腎疾患症例に対する栄養ケアプラン、栄養教育が実施できる。
12	高齢者の栄養管理	高齢者疑似体験装具を着用し、高齢者の身体機能の低下を疑似体験することで、高齢者への接し方、食生活状況を理解できる。
13	高齢者の栄養管理	高齢者施設の管理栄養士から、現場でのアセスメントと栄養指導の実際について学び、理解するとともに、実践に結びつけることができる。
14	高齢者の栄養管理	高齢者症例の病態、特徴を把握し、病因などが理解できる。高齢者症例の検査値から、病態、病期が判定でき、適切な栄養管理ができる。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、具体的に説明することができる。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	公衆栄養学				
担当者氏名	嶋津 裕子				
授業方法	講義	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

本授業では、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。さらに各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。

《授業の到達目標》

地域社会の健康・栄養問題および関連要因の把握、課題分析を行い、地域社会の関係者・関係機関の横断的な連携・協働を促進し、健康・栄養施策の計画立案、実践、評価、フィードバックを行う公衆栄養マネジメント能力の基礎を修得することができる。

地域の健康・栄養施策の立案に栄養疫学の科学的根拠を活用する方法について理解し、活用できる。

《成績評価の方法》

小テスト・提出物（課題）（20％）、定期試験（80％）

《テキスト》

「サクセス 公衆栄養学」（社）日本栄養士会編 第一出版

《参考図書》

「2013年度版 管理栄養士・栄養士必携」

（社）日本栄養士会編

第一出版

「国民衛生の動向2013 / 2014」

厚生労働統計協会

《授業時間外学習》

復習として小テストを行うので、授業内容の振り返りをしておくこと。

《備考》

ニュース、新聞などにより、健康や栄養に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆栄養学の概念の復習	ガイダンス 公衆栄養活動の復習テスト
2	栄養疫学の地域の健康・栄養活動への活用	地域の健康・栄養活動における栄養疫学の必要性と意義を説明できる。
3	栄養疫学の地域の健康・栄養活動への活用	地域の健康・栄養施策の立案に栄養疫学の科学的根拠を活用する方法について理解し、活用できる。
4	地域の栄養マネジメント	地域の実態把握・診断のための調査の基本を理解し、実施。定量的・定性的調査の基本的な方法の理解、実際の調査計画の立案、データを解析して課題を抽出できる。
5	地域の栄養アセスメント	他の授業で既習の栄養アセスメントの目的と方法を復習し、地域の実態把握・診断ができる（食事摂取基準の地域集団への活用、社会調査法、食事調査法等）。
6	既存の統計資料の活用と課題抽出	地域の実態把握のために既存の統計資料を活用し、課題が抽出できる。
7	目標設定	課題と要因の中から、優先的課題を選定し、地域の目標として設定できる。
8	計画	目標達成のための取り組みについて体系的に考えることができる。優先すべき対象、セッティング（場）を明確にすることができる。
9	計画	栄養教育・食育、および食環境づくりの取り組みの中から、優先すべき取り組みを選択することができる。
10	計画	優先すべき取り組みについて、ソーシャルマーケティングの方法などを応用して、具体的かつ魅力的な事業計画をたてることができる（誰が、いつ、何をするのかなど）。
11	評価	地域の健康・栄養活動の評価の種類・方法を理解し、評価することができる。
12	情報管理・個人情報保護	地域の健康・栄養活動における情報管理・個人情報保護・倫理的な配慮のポイントを理解する。
13	公衆栄養活動プログラムの展開	公衆栄養活動プログラムの展開について、プログラムの背景、目的、対象、内容を概説できる。
14	公衆栄養活動プログラムの展開	公衆栄養活動プログラムの展開について、プログラムの背景、目的、対象、内容を概説できる。
15	まとめ	健康・生活上の課題とその要因の分析を理論モデル（プリシード・プロシードモデルや社会心理学モデルなど）と疫学（科学的根拠）を用いて行うことができる。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	公衆栄養活動実習				
担当者氏名	嶋津 裕子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

本実習では、公衆栄養等の現場における地域住民が抱える健康・栄養・食生活上の諸問題に対し、それらに携わる管理栄養士等の専門職の仕事に接する機会である公衆栄養臨地実習に先立ち、実習に必要な基本的事項について理解・修得する。地域住民を対象とした健康教育の企画、広報、実施、評価、フィードバック等の一連のプロセスを実践し、臨地実習へ向けて学習内容を統合する。

《授業の到達目標》

実際の調査計画の立案、データを解析して課題を抽出し、その要因の分析を理論モデルと疫学を用いて行うことができる。優先的課題を選定し目標設定し、具体的かつ魅力的な事業計画をたてることができる。地域の健康・栄養活動の評価の種類や方法を理解し、評価することができる。個人情報保護・倫理的な配慮のポイントを理解することができる。

《成績評価の方法》

個人課題（40%）、グループ課題（40%）、授業時間内に行う筆記試験（20%）

《テキスト》

公衆栄養学、で使用したテキスト（既学年で購入済み）
進行にあわせて適宜プリントを配布する。

《参考図書》

「2013年度版 管理栄養士・栄養士必携」
（社）日本栄養士会編 第一出版
「国民衛生の動向2013 / 2014」 厚生労働統計協会

《授業時間外学習》

個人課題は、各自取り組むこと。
グループでの健康教育の実践（ロールプレイング）時の媒体準備やリハーサル等を各グループで調整実施しておくこと。

《備考》

グループ活動では、メンバーとの連絡や情報交換を怠らないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆栄養活動の定義	ガイダンス 公衆栄養活動と栄養マネジメントについて復習
2	管理栄養士の役割	管理栄養士の使命や役割、協働する関連職種との関わりを説明できる。協働する他職種を例挙し、各職種の役割を説明できる。
3	個人情報の保護・情報管理	対象者の基本的権利、インフォームドコンセント、個人情報の保護（守秘義務）について説明できる。対象者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。
4	栄養行政機関の役割と業務内容	保健所、保健センターの役割・業務の概要と両者の関係を説明できる。地域住民の健康や福祉等に関わる業務内容とその主な役割を理解する。
5	健康・栄養マネジメントのプロセス	地域住民を対象とした健康教育、例えば「健康・栄養教室」等の企画、広報、実施、評価、フィードバック等の一連のプロセスを概説できる。
6	健康教育の課題抽出と目標設定	現象を的確に捉えて問題点を把握し、課題解決に向けた目標を設定することができる。
7	健康教育の企画・計画	地域住民を対象とした健康教育、例えば「健康・栄養教室」（講話のある健康教育や試食のある健康教育）等の企画、計画を立てることができる。
8	健康教育の実施	地域住民を対象とした健康教育を実施（媒体づくり、講話のある健康教育のロールプレイング）することができる。
9	健康教育の実施	地域住民を対象とした健康教育を実施（媒体づくり、講話のある健康教育のロールプレイング）することができる。
10	健康教育の評価	第8回、第9回のロールプレイングについて、評価シートやVTRなどの結果を解析して評価を行い、それらを報告書や論文に取りまとめることができる能力を修得する。
11	健康教育の実施	地域住民を対象とした健康教育、例えば「健康・栄養教室」等の企画、計画を立て、実施（試食のある健康教育のロールプレイング）することができる。
12	健康教育の実施	地域住民を対象とした健康教育、例えば「健康・栄養教室」等の企画、計画を立て、実施（試食のある健康教育のロールプレイング）することができる。
13	健康教育の評価	第11回、第12回のロールプレイングについて、評価シートやVTRなどの結果を解析して評価を行い、それらを報告書や論文に取りまとめることができる能力を修得する。
14	報告書作成・個人課題	適切な身だしなみ、言葉遣いや礼儀について、実際の行動で実践できる。業務日誌、報告書作成等の基本事項を理解する。課題の発見と解決への態度と能力を修得する。
15	まとめ・個人課題	食育・健康増進（学校、保健所、保健センターなど）の健康事業の概説ができる。管理栄養士の職務について総合的に理解する。臨地実習前の基礎的実践力を修得する。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	メニュー管理実習				
担当者氏名	福本 恭子、前田 典子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》

給食経営管理論の知識をもとに、特定給食施設を想定した大量調理の実務を理解し、管理栄養士として必要な専門的知識・技能を図る。

《テキスト》

『給食経営管理実習の手引き』（給食管理実習共通テキスト）

《参考図書》

『給食管理』鈴木久乃他編、第一出版、『調理のためのベーシックデータ』女子栄養大学出版部、『大量調理施設衛生管理のポイント』中央法規出版、『日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版

《授業の到達目標》

大量調理の特性を理解した献立作成の基本と、安全で効率的な生産（調理）方法を理解する

《授業時間外学習》

円滑な実習運営のため、給食経営管理の理論を十分に理解しておくこと。

《成績評価の方法》

演習課題作成（60％）課題に取り組む姿勢と態度（10％）理解度テスト（30％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	実習の概要説明
2	メニュー作成	主食
3	メニュー作成	主菜
4	メニュー作成	副菜
5	メニュー作成	汁物
6	メニュー作成	デザート
7	献立作成	給与栄養目標量・食品構成表
8	献立作成	献立作成（基本メニュー）
9	献立作成	献立作成（塩分コントロールメニュー）
10	献立作成	献立作成（エネルギーコントロールメニュー）
11	献立作成	献立作成（危機管理）
12	生産管理	市場調査
13	生産管理	生産計画（調理・作業工程）
14	生産管理	生産計画（作業区域と作業動線）
15	まとめ	課題の再提出とまとめ

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	給食管理実習				
担当者氏名	前田 典子、福本 恭子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力） 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力）				

《授業の概要》

2年時に学んだ給食経営管理論での知識を生かし、特定給食施設の管理栄養士・栄養士として実際の給食施設を想定しながら「経営管理」や「給食運営」の実践を行う。実際の給食施設での管理の機能を学び管理者の役割を理解し技能を修得する。

《テキスト》

『給食管理』鈴木久乃他編（第一出版）2年次 期に使用
『知ってトクする調理のためのベーシックデータ』『給食経営管理実習の手引き』（初回に購入する500円）

《参考図書》

『大量調理衛生管理ポイント』（中央法規出版）『日本人の食事摂取基準』[2010版] 『最新日本食品成分表』1年次に購入済み 『臨床栄養管理－栄養アセスメント－』

《授業の到達目標》

集団を対象とした、栄養管理や食事計画、食品管理等 大量調理での作業計画の実際を実務する。栄養管理・食事管理及びサービスを効果的かつ安全に運営するためのシステムを構築、顧客管理の意義を理解しマーケティングをより効果的に行うなかで管理者としての役割(組織の統括) 学び、技能(手法)を習得する。

《授業時間外学習》

栄養教育のための媒体作成や購入物資の検収は事前準備が必要となる。当日の作業が円滑に実践できるように管理者としての配慮は常に必要とされる。約束された食事提供時間に合わせた業務の開始は授業時間外に設定することになる場合もある。実習後の反省会、実習室の清掃等時間の延長も考えられる。

《成績評価の方法》

実践力と態度（30%）・管理者としての役割や統制能（30%）・マーケティング戦略能力（20%）・給食経営管理実習に伴う帳票作成（10%）・理解度テスト（10%）

《備考》

実習はグループでの取組となります。コミュニケーション能力を発揮し成果を高め、多くの達成感を得る事ができるよう積極的に参加すること。専用シューズ・食費負担必要

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総合オリエンテーション	実習の概要説明 グループ編成 作業分担
2	総合評価	各グループの発表・全体の報告会
3	事前準備 試作検討	各種計画表作成（献立表、発注・日計表、衛生管理計画表、栄養教育媒体など）
4	調理・給食実習	（食材の検収、調理、供食、後片付け、栄養教育媒体計画）
5	反省会	（調理、供食実習のまとめ、会計報告、帳票作成）
6	事前準備	試作検討・各種帳票作成
7	給食実習	調理実習（実践活動）
8	反省会	（評価報告・会計報告等）
9	事前準備	試作検討・各種帳票作成
10	給食実習	調理実習（実践活動）
11	反省会	（評価報告・会計報告等）
12	事前準備	試作検討・各種帳票作成
13	給食実習	調理実習（実践活動）
14	反省会	（評価報告・会計報告等） *第3週～第5週の実践活動を書くグループに分かれ、ローテーションで作業を進め、1グループが4回程度厨房内の授業を経験する。
15	総合オリエンテーション	栄養計画（献立計画）各種帳票内容説明

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	フードサービスマネジメント演習				
担当者氏名	福本 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》

外食産業や中食産業の発展がめざましい中、給食市場においても競争が激化しており、経営的感覚を持った管理栄養士が求められている。授業ではこのような社会のニーズをふまえ、管理栄養士として必要な経営学の基礎と演習を行う。

《テキスト》

『食品の消費と流通』日本フードスペシャリスト協会編、建帛社
『給食管理』鈴木久乃他編、第一出版（2年次 期給食経営管理論使用テキスト）

《参考図書》

『フードシステムの経済学』時子山ひろみら著、医歯薬出版
『給食マネジメント実習』松月弘恵ら編、医歯薬出版

《授業の到達目標》

給食経営管理の概念（経営管理の概要・給食とマーケティング・給食経営と組織）および給食の生産（原価・購買・提供）給食の人事（雇用・教育訓練）を中心とし、演習を通じてさらに理解を深める。

《授業時間外学習》

わが国の経済動向や食品業界の問題について常に関心を払うこと。授業内容を復習し、理解を深めておくこと。

《成績評価の方法》

授業態度(10%)、個人演習(40%)、定期試験(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 食生活の外部依存	演習の概要説明、食事形態の分類と位置づけ
2	食生活の変化	外食の分類と市場規模、食の外部化をもたらした要因
3	食生活の変化	中食について
4	食生活の変化	食料品の品目別消費の変化、所得弾性値、価格弾性値、栄養素摂取の変化、加工食品の変化、付加価値
5	給食における経営管理	経営管理、マネジメントサイクル、経営資源、
6	給食における経営管理	人事労務管理、教育・訓練、外部委託
7	給食における経営管理	原価管理（原価の3要素）
8	給食における経営管理	原価管理（原価計算の分析と評価）
9	給食における経営管理	原価管理（原価計算の分析と評価）
10	給食における経営管理	外部講師による講演（管理栄養士として知っておくべき経済・経営の仕組み）
11	給食における経営管理	マーケティング
12	給食における経営管理	マーケティング
13	給食における経営管理	食品の流通
14	給食における経営管理	食品の流通
15	食品消費と環境問題 食品消費と安全	廃棄物問題、輸入食品、HACCP、トレーサビリティ

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	給食管理臨地実習(校外実習)				
担当者氏名	福本 恭子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む） 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力） 3-4 常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）				

《授業の概要》

事業所・福祉施設などの特定給食施設における1週間の臨地実習をとおして管理栄養士・栄養士として具備すべき知識や技能を修得する。また、課題発見とその解決、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントに必要な専門的知識・技能の統合を図ることをめざす。

《テキスト》

「平成25年度臨地実習ノート」

《参考図書》

「平成25年度臨地実習ノート」に記載の参考図書

《授業の到達目標》

学内での給食管理実習と特定給食施設における実際の現場実習との違いや課題を発見し、その対処方法を考えることが出来る。

《授業時間外学習》

給食経営管理、給食管理実習等、学内での関連教科の理解を深め、習得したいことを見出し、そのことについて予習しておくことが実習施設において積極的な学習に繋がると考えます。

《成績評価の方法》

実習施設の評価表60%、臨地実習ノート等提出物20%、事前・事後指導（報告会を含む）への取組み20%

《備考》

平素から実習生、社会人としてのマナーを、覚し、健康管理に留意してください。心身に不安がある場合は、学内の健康管理センターで相談してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
2	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
3	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
4	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
5	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
6	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
7	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
8	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
9	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
10	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
11	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
12	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
13	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
14	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
15	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養臨地実習				
担当者氏名	増村 美佐子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-4 常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）				

《授業の概要》

実習前教育を通じて、管理栄養士としての素養を磨く。臨地実習では、現在までに学習してきた知識・技術を元に、医療現場における管理栄養士の役割の理解、チーム医療における管理栄養士の専門性の認識、入院から退院までの栄養アセスメント、栄養ケアの理解、献立立案から提供までの一連の作業を体験し、今後備えるべき知識・技術の方向性を修得する。

《授業の到達目標》

臨床現場での管理栄養士の役割が説明できるようになる。
 チーム医療での管理栄養士の役割が説明できるようになる。
 病態に応じた栄養アセスメント、栄養ケアプラン（栄養補給法）の立て方が説明できるようになる。
 ベッドサイド、集団・個別での栄養管理や栄養・食事指導が理解できるようになる。
 他職種との関わりが理解できるようになる。

《成績評価の方法》

- (1)臨地実習（実習指導管理栄養士の評価）60%
- (2)事前・事後指導への取組み20%
- (3)臨地実習ノートの提出20%

《テキスト》

『平成24年度臨地実習ノート』
 必要に応じて資料を配布する
 1、2、3年次使用テキスト

《参考図書》

1、2、3年次使用テキスト
 『臨地実習マニュアル [臨床栄養学] 第4版』寺本房子編著、建帛社
 『NST完全ガイド 栄養療法の基礎と実践』東口高志編、照林社

《授業時間外学習》

- ・臨床栄養学に関する基礎知識について復習しておくこと。
- ・実習前は、臨地実習ノート「予習編」について自学し発表すると共に提出する。提出者のみ、実習受講が認められる。
- ・実習後はすみやかに臨地実習ノート「実習編」および実習施設での課題等についてまとめ、提出する。リーダーについては、臨地実習報告書も提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地実習事前教育1 オリエンテーション	臨床栄養臨地実習の目的など概要説明
2	臨地実習事前教育2	先輩栄養士の臨地実習報告会
3	臨地実習事前教育3	先輩栄養士の臨地実習報告会
4	臨地実習事前教育4	臨地実習予習内容発表会
5	臨地実習事前教育5	臨地実習予習内容発表会
6	臨地実習事前教育6	臨地実習予習内容発表会
7	臨地実習事前教育7	臨床現場管理栄養士による講話
8	臨地実習事前教育8	外部講師による講話 ・人権に関する講話
9	臨地実習事前教育9	外部講師による講話 ・マナー：手紙の書き方
10	臨地実習事前教育10	外部講師による講話 ・マナー：礼儀作法
11	臨床臨地実習1	臨床現場管理栄養士の指導による実習
12	臨床臨地実習2	臨床現場管理栄養士の指導による実習
13	臨床臨地実習3	臨床現場管理栄養士の指導による実習
14	臨床臨地実習4	臨床現場管理栄養士の指導による実習
15	臨地実習事後指導 1	臨床栄養臨地実習のまとめと発表

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	学校栄養教育論				
担当者氏名	松尾 千鶴子、宮田 さと子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

子どもの発達や栄養の特性及び食と健康に関する基礎知識、さらに、学校教育の中で、食にかかわる指導・管理の内容と位置づけ等を十分理解し、栄養教諭(管理栄養士・教育職員)として具備すべき教育力を培うことを目指しています。

《授業の到達目標》

・食を取り巻く社会の変化に伴う学童の食生活・栄養摂取状態、肥満や痩身志向、アレルギー等について論理的に説明ができる。
・学校組織における栄養教諭の位置づけや職務と役割を学び、学校給食の管理運営、他教科ならびに家庭と地域とのかかわりの実際を理解することができる。

《成績評価の方法》

定期試験 70%、課題レポート等の提出物 30%

《テキスト》

『改訂 三訂栄養教諭論』金田 雅代編著、建帛社、2012

《参考図書》

『栄養教諭とはなにか - 「食に関する指導」の実践 - 』女子栄養大学教諭研究会編（女子栄養大学出版部）
『子どもの栄養・食教育ガイド』坂本 元子（医歯薬出版）
『栄養教諭（季刊）』全国学校栄養士協議会編（日本文教出版）

《授業時間外学習》

教育および子どもの健康や食に関する動向に関心を持ち、問題点や課題を見出せるようにすることが望ましい。

《備考》

欠席しないように、また、わからないことは質問を。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養教諭の制度と役割	栄養教諭制度創設の経緯を十分把握した上で、栄養教諭の職務及び内容を正しく理解し、果たすべき役割をしっかりと習得する。
2	栄養教諭の制度と役割	栄養教諭制度創設の経緯を十分把握し、栄養教諭の職務及び内容、食育基本法(学校における食育)を正しく理解し、食の指導者としての役割をしっかりと習得する。
3	学校給食の教育的意義と役割	学校給食法、学校給食の教育的意義と役割、学校組織における栄養教諭の位置づけ等を十分理解し、それらを踏まえた教育、指導ができるようにする。
4	学校組織と栄養教諭の位置づけ	学校組織、学校給食の組織と栄養教諭の位置づけ等を理解し、栄養教諭の役割を踏まえた教育、指導ができるようにする。
5	学校給食と食文化の変遷	学校給食の歴史を十分把握し、その変容を食文化の視点から考慮し、将来への展望を考へることは、現在の学校給食において必要であることを理解する。
6	学校給食と食料	家庭・地域との連携を考慮し、学校給食及び家庭食の食材について、地域の食文化・産物、食料自給率等の面を十分把握し、教育、指導ができるようにする。
7	子どもの発達と食生活	児童・生徒の発達、健康状態、栄養素摂取の状況、食生活の実態などについて、正しく説明ができる知識の習得が重要であることを理解する。
8	子どもの発達と食生活	栄養のあり方は社会の変化に伴って変化する。正確な栄養学を理解し、児童・生徒等に正しく説明できるようにする。
9	学校給食と栄養管理	給食の管理とともに栄養管理を踏まえ、子どもの健康にかかわる食の指導力を身につける。
10	食に関する指導（全体計画）	学校内外において食に関する指導を推進する際に、全体計画の作成に積極的に参加・参画し、食に対する専門家としての役割を果たすことが重要であることを理解する。
11	食に関する指導（全体計画・展開）	食に関する指導の全体計画を作成することの意義、作成手順・方法について理解する。
12	食に関する指導（カリキュラムと指導計画）	食に関する指導を行い、その効果をあげるために子どもの実態に応じた指導、教科等との絡みを考慮したカリキュラムの作成、その成果と評価のあり方等を習得する。
13	給食の時間における食の指導と実際	給食時間は、食に関する実践活動の時間である。献立を通して地域の食文化、産業や自然環境等に関する指導のため、献立作成には創意工夫が必要であることを理解する。
14	給食の時間における食の指導と実際	給食時間で行う食の指導について十分理解した上で、その指導の実際を習得する。
15	食に関する指導と食生活学習教材	年齢別の学習能力とその特性を把握し、発達に応じた適切な教材や学習方法を修得するため、食生活学習教材の作成能力を培う。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	学校栄養教育論				
担当者氏名	宮田 さと子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力）				

《授業の概要》

学校栄養教諭は、食に関する指導に係る全体計画策定のための企画・立案をする能力が必要となる。ここでは、給食・各教科（家庭科、体育科、生活科など）における目標や内容を学修した上で、食に係る指導の充実のため、学校・家庭・地域との連携の中でどのような指導を行っていくとよいかを考えながら指導案を作成し、作成した媒体を用いた模擬授業を行う。

《授業の到達目標》

給食・各教科における目標や内容、学校・家庭・地域との連携が理解できる。

食に関する指導を通じて、教材研究や指導案の作成ができる。

《テキスト》

『栄養教諭論 理論と実際』金田雅代編著、建帛社、2012
『小学校 学習指導要領』平成20年3月告示、文部科学省

《参考図書》

『栄養教諭のための 学校栄養教育論』笠原賀子、医歯薬出版
『食育指導ガイドブック』中村丁次監修、丸善株式会社
『季刊 栄養教諭』社団法人全国学校栄養士協議会編、日本文教出版
『子どもの栄養と食育がわかる辞典』足立己幸、成美堂出版

《授業時間外学習》

各教科に対する指導案を各自で作成しますので、計画的に教材研究を進めておいて下さい。

《成績評価の方法》

(1)レポート20% (2)模擬授業20% (3)筆記試験60%

《備考》

毎日、新聞やニュースに目を通し、子どもを取巻く現状や、栄養・健康・社会情勢についての情報を収集し、スクラップする習慣を身につけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食に関する指導に係わる全体的な計画の作成	・食に関する年間指導計画の策定方法を学ぶ ・食に係わる指導の評価法を学ぶ
2	給食の時間における食に関する指導	・給食の時間における食に関する指導を学ぶ ・地場作物を活用した食に関する指導を学ぶ
3	家庭科、技術・家庭科における食に関する指導	・学習指導要領における関係教科の目標および内容を学ぶ ・食に関する領域・内容における指導方法等を学ぶ
4	体育、保健体育科における食に関する指導	・学習指導要領における関係教科の目標および内容を学ぶ ・食に関する領域・内容における指導方法等を学ぶ
5	道徳、特別活動における食に関する指導	・学習指導要領における道徳、特別活動の目標および内容を学ぶ ・食に関する領域・内容における指導方法等を学ぶ
6	食生活の時間における食に関する指導	・学習指導要領における食生活の時間の目標および内容を学ぶ ・食に関する領域・内容における指導方法等を学ぶ
7	総合的な学習の時間における食に関する指導	・学習指導要領における総合的な学習の時間の目標および内容を学ぶ ・課題設定、指導計画、指導案づくり、指導方法等を学ぶ
8	個別栄養相談指導	・食物アレルギー食等に関する特別な指導 ・児童・生徒、保護者に対する個別指導等を学ぶ
9	学校、家庭、地域が連携した食に関する指導	・家庭や地域との連携の必要性と取組み方を学ぶ ・連携する地域との関係機関・団体等を学ぶ
10	実践演習（1）	・食に関する指導の指導案の作成方法を学ぶ
11	実践演習（2）	・作成した指導案を発表し、相互評価する
12	実践演習（3）	・模擬授業を行い、指導効果を評価する
13	実践演習（4）	・模擬授業を行い、指導効果を評価する
14	実践演習（5）	・模擬授業を行い、指導効果を評価する
15	総括（まとめ）	・食に関する領域・内容における指導方法のまとめを行う

《教職に関する科目》

科目名	教育史				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業では、「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけでなく、子どもの遊び、子育て、大人と子どもの関係、海外留学など、広くとらえ、みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることをおさえる。

具体的には、受講生は日ごろ読んでいる本の中から、教育史的内容を含むものを1冊以上選び、その本の中の教育史的内容と考察を順次口頭で発表する。

《授業の到達目標》

教育史は、文字通り教育の歴史である。しかし歴史というと、無味乾燥な暗記物というイメージが付きまとう。誤った歴史教育がそのようなイメージを生んでしまったのは残念である。

本授業では、みなさんに暗記してもらうことは一つもない。その代わりに教育史に関する文献を自分で見つけ、それについて発表することにより、教育史を身近に感じてもらうことが、本授業の目的である。

《成績評価の方法》

提出物(30%)と、発表への評価(70%)による。ただし、大学教育の基本である「個に応じた指導」の原則に基づき、変更することがある。

《テキスト》

とくに定めない。

《参考図書》

妹尾河童『少年H』, さくらももこ『まる子だった』, 黒柳徹子『窓際のトットちゃん』, 司馬遼太郎『竜馬がゆく』, ヘッセ『車輪の下』, サンテグジュペリ『星の王子さま』, 童門冬二『上杉鷹山』, 乙武洋匡『五体不満足』, ほか。

《授業時間外学習》

自力で文献を読むことは言うまでもないが、その他は必要に応じて指示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	発表文献選定のための個別指導(1)	文献リスト作り等
3	発表文献選定のための個別指導(2)	発表内容の詰め等
4	口頭発表(1)	文献例: 妹尾河童『少年H』
5	口頭発表(2)	文献例: さくらももこ『まる子だった』
6	口頭発表(3)	文献例: 黒柳徹子『窓際のトットちゃん』
7	口頭発表(4)	文献例: 司馬遼太郎『竜馬がゆく』
8	口頭発表(5)	文献例: H・ヘッセ『車輪の下』
9	口頭発表(6)	文献例: A・サンテグジュペリ『星の王子さま』
10	口頭発表(7)	文献例: 童門冬二『上杉鷹山』
11	口頭発表(8)	文献例: 乙武洋匡『五体不満足』
12	口頭発表(9)	文献例: E・ケストナー『エーミールと探偵たち』
13	口頭発表(10)	文献例: 東上高志『教育革命』
14	口頭発表(11)	文献例: 三好京三『子育てごっこ』
15	口頭発表(12)	文献例: 李潤福『ユンボギの日記』

《教職に関する科目》

科目名	教育方法論				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本講義では、さまざまな教育思想家の教育方法について比較しながら検討していく。とくに学校教育制度が発展していく中で、どのような教育方法の変遷があるのかに注目しつつ、分析を進める。また授業で使用する資料の教育方法と指導案作成についても解説する。

《テキスト》

広岡義之著『新しい教育学概論』 創言社

《参考図書》

講義の中で紹介してゆく。

《授業の到達目標》

本講義では、それぞれの教育思想家が提言した教育方法論がどうした理由でその時代に必要とされたのかを客観的に理解してゆく。また指導案作成についても理解する。

《授業時間外学習》

毎回、予習する個所を明示するので、その領域を事前に調べておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。

《備考》

私語や遅刻はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講義のオリエンテーション
2	指導案作成	読み物資料の指導方法と指導案の作成方法
3	指導案作成	読み物資料の指導方法と指導案の作成方法
4	指導案作成	読み物資料の指導方法と指導案の作成方法
5	プラトンの教育方法論	プラトンの「洞窟の比喩」における教育方法論をボルノー教授に即しつつ説明する。
6	ソクラテスの教育方法論	ソクラテスの「助産術」的教育方法論をボルノー教授に即しつつ説明する。
7	ブーバーの教育方法論	ブーバーにおける「我と汝」の教育方法論をボルノー教授に即しつつ説明する。
8	伝統的教育学の教育方法論	伝統的教育学の連続的形式における教育方法論をボルノー教授に即しつつ説明する。
9	実存哲学の教育方法論	実存哲学の非連続的形式における教育方法論をボルノー教授に即しつつ説明する。
10	死の準備教育の教育方法論	死の準備教育における教育方法論をデーケン教授に即しつつ説明する。
11	家庭教育の教育方法論	家庭教育における教育方法論をボルノー教授に即しつつ説明する。
12	主体的な生き方・あり方の教育方法論	主体的な生き方・あり方における教育方法論をボルノー教授に即しつつ説明する。
13	人生の意味を考える教育方法論	人生の意味を考える教育方法論を فرانクル教授に即しつつ説明する。
14	「人間形成」的教育方法論	「人間形成」的教育方法論をフランクル教授に即しつつ説明する。
15	まとめと総括	まとめと総括を対話的授業の中で展開する。

《教職に関する科目》

科目名	事前事後指導				
担当者氏名	亀谷 小枝、前田 典子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

栄養教育実習の概要を説明するとともに、学校教育における食に関する指導の重要性を確認する。栄養教諭としての専門性の向上及び、児童・生徒の理解のための観点や心得、教育者としての資質や能力の育成、研究的視点と実習における各自の目標設定など、栄養教育実習の位置付けを確認します。事後指導では、反省点を捉え直し、知識・技術の定着のために課題や問題点を明確にしていきます。

《授業の到達目標》

栄養教諭としての専門性の向上のみならず、児童・生徒の理解のための観点や心得、教育者としての資質や能力の育成、研究的視点と実習における各自の目標の策定など、栄養教育実習の位置づけを確認することができます。事後指導に於いては、実習報告書を作成するとともに、受講生の前で発表することで、他の学生の経験を共有することが出来るとともに、実習経験をより確実なものにすることができます。

《成績評価の方法》

授業中の態度（40％）及び報告会のプレゼンテーション（30％）、報告書（30％）で評価する。

《テキスト》

栄養教育実習ノートを作成し配布する。

《参考図書》

『栄養教育論 理論と実習』 金田雅代編著（建帛社）
 『栄養教諭とはなにか 食に関する指導の実践』 女子大学栄養教諭研究会編（女子栄養大学出版）
 『あすからの「子どもの食育」にすぐ役立つ本』 「食生活」編集部編（（株）ガサン）

《授業時間外学習》

実習校への事前訪問、事後訪問も含まれる。事前訪問までに実習校の歴史、規模、教育方針も調べておくこと。

《備考》

事後指導は4年次の教育実習後に行う。成績の最終評価は、教育実習・事後指導後に行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	3年 期 事前指導-1 オリエンテーション	教育実習に向けての心得や授業の概要を理解する。
2	3年 期 事前指導-2 実習に関する書類作成	実習要領を理解する。実習に関する必要書類の確認を行い、実際に書類を作成する。
3	3年 期 事前指導-3 事前時間指導	実習校への事前訪問の仕方及び実習ノートへの記入方法を理解する。
4	3年 期 事前指導-4 実習手続き	実習手続きの方法を理解し、実習に必要な書類の作成を行う。
5	3年 期 事前指導-5 実習に関する注意事項	実習に関する注意事項を理解する。
6	4年 期 事前指導-6 直前指導	教育実習に向けての心得や実習内容及び書類の再確認を行う。
7	4年 期 事後指導-1 実習報告書作成	教育実習報告書の作成方法の確認及び報告書の作成を行う。
8	4年 期 事後指導-2 実習報告会	教育実習の内容をまとめ、各自発表する。発表内容に対し意見交換を行い、実習内容の理解を深める。
9	4年 期 事後指導-3 まとめ	教育実習の事前・事後指導をふりかえり、事前指導、実習、事後指導で身についたこと等を確認する。
10		
11		
12		
13		
14		
15		

平成 22 (2010) 年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成22年度(2010年度)入学者対象

()は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食衛生管理者等	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の担当者	ページ	
			必修	選択					1年	2年	3年	4年			
群(領域に関する科目)	基礎ゼミ	演習	2						2						
	基礎ゼミ	演習	2						2						
	栄養のための統計学入門	講義		2					2						
	栄養のための基礎生物化学	講義	2					ⓑ	2						
	実験基礎演習	演習	2						2						
	医学概論	講義	2					Ⓔ	2						
	臨床心理学	講義		2						2					
	コミュニケーション論	講義	2						2						
	栄養と薬物	講義	2								2				
	バイオテクノロジー	講義	2					Ⓔ				2		[森田 尚文]	195
	食料経済	講義	2									2		(池本 廣希)	196
	健康科学	講義	2						2						
専門教育科目(専門基礎に関する科目)	健康情報処理演習	演習	2						2						
	情報処理と栄養統計	講義		2						2					
	情報処理と栄養統計	講義	2								2				
	公衆衛生学(公衆衛生)	講義	2					Ⓐ			2				
	公衆衛生学(健康管理)	講義	2								2				
	社会福祉概論	講義	2								2				
	生化学	講義	2					ⓑ	2						
	生化学	講義	2					ⓑ		2					
	生化学実験	実験	1					ⓑ		3					
	生化学実験	実験	1					ⓑ			3				
	栄養解剖学・人体生理学	講義	2					ⓑ	2						
	栄養解剖学・人体生理学	講義	2					ⓑ		2					
	栄養解剖学実験	実験	1							3					
	人体生理学実験	実験	1								3				
	臨床病態学	講義	2					Ⓔ		2					
	臨床病態学	講義	2					Ⓔ			2				
	生体防御論	講義	2					Ⓒ				2			
	食品微生物学	講義	2					Ⓒ				2			
	食品学	講義	2					ⓑ	2						
	食品学	講義	2					Ⓒ				2			
	食品学実験	実験	1					ⓑ	3						
	食品学実験	実験	1					ⓑ				3			
	食品衛生学	講義	2					Ⓓ			2				
	食品衛生学実験	実験	1					Ⓓ				3			
食品機能論	講義	2									2		[登成 健之介]	197	
調理学	講義	2						2							
調理学実験	実験	1							3						
調理学実習	実習	1								3					
調理学実習	実習	1									3				

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当(数字は週当たり授業時間)				平成25年度の担当者	ページ	
			必修	選択					1年	2年	3年	4年			
															1年
専門教育科目(群(専門に関する科目))	基礎栄養学 (健康栄養)	講義	2					㊦	2						
	基礎栄養学 (基礎栄養)	講義	2					㊦	2						
	栄養学実習	実習	1					㊦		3					
	応用栄養学 (ライフステージ栄養)	講義	2					㊦		2					
	応用栄養学 (スポーツ・環境栄養)	講義	2									2		眞鍋 祐之	198
	栄養管理学	講義	2					㊦		2					
	栄養管理学実習	実習	1								3				
	基礎栄養教育論	講義	2					㊦		2					
	健康栄養教育論	講義	2							2					
	基礎栄養教育実習	実習	1								3				
	健康栄養教育実習	実習	1								3				
	実践栄養教育演習	演習	2									2		矢埜 みどり	199
	臨床栄養学	講義	2								2				
	臨床栄養学	講義	2								2				
	臨床栄養学実習	実習	1									3			
	臨床栄養管理学	講義	2									2			
	臨床栄養管理演習	演習	2									2			
	公衆栄養学	講義	2					㊦			2				
	公衆栄養学	講義	2								2				
	公衆栄養活動実習	実習	1									3			
	給食経営管理論	講義	2								2				
	メニュー管理実習	実習	1									3			
	給食管理実習	実習	1					㊦				3			
	フードサービスマネジメント演習	演習	2									2			
	総合演習	演習	2									2		*1	200
	卒業演習	演習	2									2		*1	201
	卒業演習	演習	2									2		*1	202
	給食管理臨地実習(校外実習)	実習	1									2			
	臨床栄養臨地実習	実習	2									4			
	公衆栄養臨地実習	実習	1									2		嶋津 裕子	203
学校栄養教育論	講義	2								2					
学校栄養教育論	講義	2									2				
卒業研究	演習	3										3	*2	204~210	
卒業研究	演習	3										3	*2	211~217	

は栄養士免許必修科目

は管理栄養士国家資格必修科目

は栄養教諭必修科目

表中の科目以外にフードスペシャリスト養成科目として、4年 期に「フードスペシャリスト論」

「フードコーディネート論」を開講する。

食品衛生管理者等（食品衛生管理者・食品衛生監視員）欄の㊦～㊧は食品衛生法施行規則 第50条 別表第14及び第15に指定された科目である。

㊦～㊧別表第14にかかげた科目・㊧は別表第15にかかげた科目

㊦化学関係（教養科目「化学」）修得の（こと） ㊧生物化学関係 ㊨微生物関係 ㊩公衆衛生学関係 ㊪その他関連科目

㊦～㊩群から1科目以上、最低修得単位数(㊦+㊧+㊨+㊩)22単位以上

最低修得単位数合計(㊦+㊧+㊨+㊩+㊪)40単位以上

欄外の 印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

*1 野田・本澤・細川・矢埜・大西・内田・須見・松村・松尾・眞鍋・富永・増村・湯瀬・中井・亀谷・嶋津・福本・前田

*2 細川・矢埜・大西・内田・増村・中井・亀谷

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成22年度(2010年度)入学者対象

()は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の担当者	ページ
			必修	選択					1年	2年	3年	4年		
栄養教諭一種免許取得に関する科目 教職に関する科目	教職概論	講義	2					2						
	教育原理	講義	2					2						
	教育史	講義	2								2			
	教育心理学	講義	2						2					
	教育制度論	講義	2					2						
	教育課程論(道徳・特別活動を含む)	講義	2						2					
	教育方法・技術論	講義	2						2					
	教育方法論	講義	2								2			
	生徒指導論(進路指導を含む)	講義	2						2					
	教育相談(カウンセリングを含む)	講義	2						2					
	事前事後指導	講義	1								1			
	栄養教育実習	実習	1									3	亀谷 小枝・前田 典子	218
	教職実践演習(栄養教諭)	演習	2									2	矢基 みどり・[山本 啓子]	219

は栄養教諭必修科目、 は栄養教諭選択科目

教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法(2単位)、体育(2単位)、外国語コミュニケーション(2単位)、情報機器の操作(2単位)について、指定の科目を修得すること。

欄外の 印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《専門教育科目 群（領域に関する科目）》

科目名	バイオテクノロジー				
担当者氏名	森田 尚文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

食の科学を修得する上で原材料およびその利用・活用にに関する技術的な展開を理解することは食の安全・安心にも関連して必須と言える。特にバイオテクノロジーの全般的な理解と将来の展望が見込める学識を身につけさせたい。

《テキスト》

バイオが開く人類の夢（藤目幸擴、法律文化社）

《参考図書》

《授業の到達目標》

バイオテクノロジーの歴史的な歩みを知る
バイオテクノロジーの基礎技術・技法の理解
食に関わるバイオテクノロジーの実例

《授業時間外学習》

食品バイオ産業(工場等)の工場見学

《成績評価の方法》

筆記試験(70%)、小テスト(30%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	バイオテクノロジーの歴史	我が国におけるバイオテクノロジーの発展についての概説
2	組織培養の基本(1)	植物の病気からの脱出
3	組織培養の基本(2)	クローン植物の育成
4	組織培養の基本(3)	洋ランの大量増殖と人口種子
5	組織培養の基本(4)	遺伝資源の長期保存
6	組織培養の基本(5)	バイオで植物の再生
7	植物の遺伝子操作(1)	遺伝子操作による品種の改良
8	植物の遺伝子操作(2)	肥料いらすの農業
9	バイオによる有用物質の生産(1)	エチレンによる青果物の成熟と貯蔵
10	バイオによる有用物質の生産(2)	香りや色の創造
11	バイオによる有用物質の生産(3)	植物バイオによる医薬品の生産への応用
12	バイオを応用した植物育成	夢の果物を作ったり、花の色の改良、新しい野菜の生産について
13	バイオテクノロジーの成果	有用微生物による日常食する食糧生産への利用
14	遺伝子組み換え技術による畜産、水産への利用	良質の畜産、養豚および魚類の増産などへの利用について
15	バイオテクノロジーの将来展望	まとめ

《専門教育科目 群（領域に関する科目）》

科目名	食料経済				
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

世界人口の急増と食のグローバル化の中で、TPPやFTAAP等の環太平洋圏にかかわる自由貿易協定の動向をにらみ、「地産地消」「食育」「学校給食」「食と健康」「食物連鎖」「食の安全・安心」「フードコーディネーターの役割」等について学習する。また、今後の日本農業のあり方や各家庭の食卓のあり方、工業と農業の違いや農産物価格形成の特性について授業し、市場経済の有効性と市場の失敗についても理解を深める。

《授業の到達目標》

「食べるということ」の意味を深く理解し、「食と健康」に関する問題を発見・分析・解決する力を鍛え、管理栄養士として現場で活躍できる実践力を身につける。

《テキスト》

なし

《参考図書》

池本廣希著『地産地消の経済学』 新泉社 2008年

《授業時間外学習》

新聞から食料問題に関する記事を集める。

《成績評価の方法》

授業中の課題提出 30% 試験 70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	「食べるということ」について問題提起 - 人口と食料 - から
2	序章 はじめに	「食料と経済」の課題と問題点
3	第1章 今なぜ、地産地消か 食とくらし	これでいいのかわが家の食卓（パワーポイント使用）
4	「食の安全・安心」について	地域「食の安全・安心」のあり方について食のグローバル化と食のローカル化を対峙し考える
5	食料と市場経済について	農業と工業の相違を理解し、食料と市場経済について考える
6	食と環境	食の栄養循環と食環境について考える
7	自然と土に触れる生活	水や土に触れることの大切さを食農教育として体験する意義について考える
8	第2章 日本の食料・農業政策と経済政策	戦後復興と学校給食
9	日本の食料・農業政策と経済政策	高度経済成長と農業・食料
10	日本の食料・農業政策と経済政策	高度経済成長と日米貿易
11	日本の食料・農業政策と経済政策	円高と食料自給率の急落
12	日本の食料・農業政策と経済政策	第3の開国と自由貿易の強化
13	第3章 21世紀の食料問題	遠産遠消と食のグローバル化—TPP問題から—
14	21世紀の食料問題	地産地消と食の地域自給
15	テスト	テスト

《専門教育科目 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品機能論				
担当者氏名	登成 健之介				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

近年、多くの食品素材から抗変異性、抗酸化性、制ガン性、血圧調整、整腸作用等の健康の維持・増進に作用する機能性成分が見出されている。これら生体機能性成分の性質を知り、生体との係わりを学ぶことで、今問題のガン、心疾患、糖尿病、肥満等の生活習慣病の予防につなぐことができる。

《授業の到達目標》

食品素材中の機能性成分と作用について（例えば、ポリフェノール類による抗酸化機能、食物繊維、オリゴ糖による整腸作用、脂肪酸による脂質代謝機能等）説明でき、その生体への係わりについても説明できる。各種機能性食品を類別でき、法的位置付けを把握できる。

《成績評価の方法》

小テスト2回（各10%）、定期試験（70%）、授業終了時の課題（10%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食品機能学とは	生体調整機能と食品機能学
2	機能性食品と制度	機能性食品（保健機能食品、特別用途食品、健康食品）との分類と法的位置付け
3	抗酸化機能（1）	活性酸素の生成と生体への影響
4	抗酸化機能（2）	抗酸化物質と抗酸化機能性食品
5	消化吸収促進機能（1）	カルシウム、鉄等ミネラル吸収メカニズム、小テスト（1）
6	消化吸収促進機能（2）	ミネラル吸収機能食品とビタミン吸収メカニズム
7	難消化吸収阻害	難消化成分と生体（食物繊維とコレステロール低減作用）
8	微生物活性機能	乳酸菌と生理作用（プロバイオティクスとプレバイオティクス）
9	難消化性炭水化物	糖アルコール、機能性オリゴ糖他
10	食物繊維機能性食品	食品素材と機能、小テスト（2）
11	脂質関連代謝機能（1）	n-3系とn-6系脂肪酸、ジアシルグリセロール
12	脂質関連代謝機能（2）	コレステロールの吸収と代謝
13	酵素阻害機能（1）	血圧（レニン・アンジオテンシン系）と降圧作用食品
14	酵素阻害機能（2）	消化関連酵素阻害と糖尿病
15	免疫系におよぼす機能	免疫機能を活性化する食品

《テキスト》

改訂 食品機能学 青柳康夫編著 建帛社

《参考図書》

・食品機能学 寺尾純二他著 光生館
 ・食品学 食品成分と機能性 久保田紀久編 東京化学同人
 ・ネオエスカ 新訂食品機能論 五明紀春著 同文書院

《授業時間外学習》

高度の内容が多いので授業の予習は勿論、食品学、生化学で履修した基本事項を確認しておくこと。質問事項は自分でも予め調べて、疑問点を明確にししておくこと。

《備考》

テキスト、プリント持参しない者、私語、携帯電話使用など積極的に授業に参加しない者の受講は認めない。試験はテキスト等の持込不可。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	応用栄養学（スポーツ・環境栄養）				
担当者氏名	眞鍋 祐之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

身体活動やストレス、生活環境の変化により起こる生体内の反応には栄養が深く関わっており、その栄養ケア・マネジメントを正しく実践することが重要である。そこで本講義では、身体活動・運動時の生理的特徴、ストレスと生体防御、特殊環境下での代謝変化を理解し、さらにこれら条件下での栄養ケア・マネジメントに関する理論を深く理解し、実践的に対応できる能力を培うことを目的とする。

《授業の到達目標》

(1)身体活動・運動が生体に及ぼす影響を具体的に説明できる。(2)ストレスの定義とストレス時の生体反応について分かりやすく説明できる。(3)特殊環境下における種々の生理的变化と栄養学的対応法を具体的に説明できる。(4)運動時、ストレス時、特殊環境下での実践的栄養ケア・マネジメントプランを提案できる。

《成績評価の方法》

定期試験の結果により成績評価を行う。(なお、試験は教科書・ノート等の「持ち込み不可」として実施する。)

《テキスト》

『応用栄養学 - ライフステージ別、環境別 - 』木戸康博、眞鍋祐之編、医歯薬出版、2012

《参考図書》

『再改訂 動く、食べる、休むScience(健康づくりの生理学)』上田伸男編、アイ・ケイコーポレーション、2009『栄養科学シリーズNEXTスポーツ・運動栄養学』加藤秀夫、中坊幸弘編、講談社サイエンティフィック、2009

《授業時間外学習》

(1)予習の方法：次回講義の該当部分に目を通し、全体的な学習内容の把握をしておくこと。(2)復習の方法：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要です。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動時の生理的特徴とエネルギー代謝	運動にともない、その強度や時間により変化するエネルギー代謝や呼吸・循環機能の応答について説明できる。
2	体力と運動トレーニング	体力・トレーニングとは何かを理解し、運動トレーニングが体力に及ぼす影響について説明できる。
3	運動基準と運動指針	健康・体力の維持・増進における身体活動・運動の意義を学び、実施の基本となる運動基準・運動指針を理解する。
4	運動の健康への影響	運動にともなって糖質や脂質の代謝にどのような影響が出るか、また血圧や骨格にどのような影響が出るかを説明できる。
5	運動と糖質・たんぱく質の摂取	運動時の主たるエネルギー源となる糖質や身体構成に必要なたんぱく質の必要量の変化について理解する。
6	水分・電解質補給	運動、とくに激しい運動でみられる発汗にともなう水分及び電解質損失に対する適切な補給法を理解する。
7	運動と貧血	運動にともないみられる貧血の原因とその対応について説明できる。
8	食事内容と摂取タイミング	運動実施時に摂取すべき食事の内容とその摂取タイミングが吸収・利用に影響することを説明できる。
9	筋グリコーゲンの再補充	運動により減少した筋グリコーゲンをどのようにすればより多くすることができるかについて理解する。
10	運動時の食事摂取基準の活用	運動時には各栄養素の体内需要が増加するが、その需要増を満たすために食事摂取基準をどのように活用するかを理解する。
11	ウエイトコントロールと運動・栄養	ウエイトコントロールを行う場合の運動と栄養の相乗効果について説明できる。
12	栄養補助食品の利用	栄養補助食品とは何かを理解し、身体活動・運動時の栄養素摂取における栄養補助食品の利用方法について説明できる。
13	ストレスと栄養ケア・マネジメント	ストレスの定義やストレス時の生体反応を学び、ストレス条件下における栄養ケア・マネジメントのあり方について正しく理解する。
14	特殊環境と栄養ケア・マネジメント(1)	高温・低温環境下で起こる生体の生理的变化を学び、高温環境でみられる熱中症が起こった場合の水分・電解質補給の重要性についても理解を深める。
15	特殊環境と栄養ケア・マネジメント(2)	高圧・低圧、無重力下で起こる体内代謝の変化と、この変化に対する栄養ケア・マネジメントを理解する。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	実践栄養教育演習				
担当者氏名	矢埜 みどり				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力）				

《授業の概要》

食生活改善のための媒体である食事バランスガイドや問題解決を必要としている人への援助を行うために欠かせないカウンセリングの基礎を学ぶ。そのうえでライフステージ別の特徴を踏まえた栄養教育の企画、実施、評価を行うことで、栄養マネジメント能力を高めることが出来る。

《授業の到達目標》

地域の食文化とライフステージの特徴を反映した食事バランスガイドを作成することで、バランスガイドの目的と策定の背景、ライフステージの特徴を理解することが出来る。カウンセラーの3条件を理解し、簡単な面接が出来るようになる。集団栄養教育を企画、実践できるようになる

《成績評価の方法》

授業態度(40%)，提出レポート(60%)で評価する。

《テキスト》

『食事バランスガイド - フードガイド（仮称）検討会報告書 - 』第一出版編集部編（第一出版）『エッセンシャル 栄養教育論』 春木敏著（医歯薬出版）（購入済み）

《参考図書》

『ニュートリションコーチング』 柳澤厚生著 医歯薬出版
『行動変容のための面接レッスン』 行動カウンセリングの実践 安達淑子著 医歯薬出版

《授業時間外学習》

予習の方法基礎栄養教育論のテキストの該当範囲をよく読むこと。復習の方法作成した資料を再度読み直し、作成出来ていないところは、必ず完成させて授業に臨むこと。分からないところは第一回講義のときにメールアドレスを知らせるので、質問すること。

《備考》

演習科目であることから、積極的な授業参加が重要である。2限継続して実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	カウンセリングの基礎知識	カウンセリングの傾聴、受容、共感、自己一致について確認したのち、視線、頷き、簡単受容、繰り返し、質問の方法などについて実技を通して理解する
2	コーチングとアサーション	栄養教育に必要なコーチングとアサーションについて、ロールプレイを含めて理解を深める。
3	食事バランスガイドの理解と応用	食事バランスガイドの目的、内容について整理し、その応用方法について学ぶ。その後自分の食生活を診断し、自己指導を行うことでバランスガイドの理解を深める。
4	食事バランスガイドを持ちた個別指導	二人組になり、バランスガイドを用いて他者指導を行う。前回の自己指導と今回の他者指導を比較し、行動変容に必要な情報の収集、指導内容について確認することができる
5	ライフステージ別の栄養教育プランニング1	プランニングの方法について復習したのち、グループごとに対象とするライフステージを決定し、各ライフステージの特徴及び社会的背景を踏まえた問題点を整理する。
6	栄養教育プランニング2（ニーズアセスメント）	教育対象者のニーズを明確にするため、整理した問題点をもとに、QOL、健康、ライフスタイル等の問題を仮定し、仮定を確認するためのアンケートをグループで作成する。
7	栄養教育プランニング3（診断）	作成したアンケートを実施し、結果を統計処理を行い、教育対象者が抱えている問題点を整理する。
8	栄養教育プランニング4（計画）	栄養アセスメントデータから、対象者のQOLの向上に貢献できる教育目標を設定し、3回シリーズの健康教育を計画する。
9	栄養教育プランニング5（授業案作成）	3回の授業案を作成する。（ただし、そのうちの一回は、地産地消、食文化の継承、ライフステージを意識した地域版バランスガイドを用いること）
10	栄養教育プランニング6（教材作成）	企画した授業案の中で中心となる授業の回に必要な教材（媒体・ワークシート）、バランスガイドを作成する。
11	栄養教育プランニング7（評価の方法）	経過、影響、結果評価の方法を確認し、必要なシートを作成する。また作成途中の教材作成を引き続き行う。
12	栄養教育の実施1	模擬授業を各班、ロールプレイで行う（4班）
13	栄養教育の実施2	模擬授業を各班、ロールプレイで行う（4班）
14	栄養教育の評価1（分析）	模擬授業について、企画、経過、影響、結果、経済、総合評価についてアンケート等を用いて分析する。
15	栄養教育の評価2（発表）	グループ別実践した栄養教育についての評価結果と検討した改善策についてプレゼンテーションを行う。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	総合演習				
担当者氏名	野田千征子、本澤真弓、細川敬三、矢埜みどり、大西隆仁、内田亨、須見登志子、松村末夫、松尾千鶴子、眞鍋祐之、富永しのぶ、増村美佐子、湯瀬晶文、中井玲子、亀谷小枝、嶋津裕子、福本恭子、前田典子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》

本演習は、これまでに学習してきた成果を、今後、社会で活かす実践トレーニングである臨地・校外実習に先立ち、実習に必要な基本的事項について理解・修得することができる。実習後は、問題点を把握した問題解決に向けた実習内容を報告書にとりまとめ、発表する能力が修得できる。臨地で不足していると感じた専門分野の教育内容を抱合する演習を行うことで、よりいっそう総合的な力量を高めることができる。

《授業の到達目標》

体験した管理栄養士の職務の報告書に基づいて、発表や討議を行い、考え方や知識の幅を広げることができる。
 課題の発見・設定し、問題点や解決法等を文章としてまとめることができる。
 他職種との相互関係を職務内容と関連づけて説明できる。
 専門分野を横断して、栄養評価や管理が行なえる総合的な能力の醸成ができる。

《成績評価の方法》

授業への取り組み態度（10%）、提出物（10%）
 発表および発表資料（30%）、確認テスト（50%）

《テキスト》

進行にあわせて適宜指示する（保健所等の指示による）。
 必要に応じて資料・プリントを配布する。

《参考図書》

授業時に各担当教員から適宜紹介する。

《授業時間外学習》

課題発表のための情報収集や課題の実施を行なうこと。
 期間中に確認テストを実施するため、復習しておくこと。
 専門分野の各教育内容を再確認し、不足する部分に関する学習を行うこと。

《備考》

レポートや提出物は、指示期限内に必ず提出すること。
 栄養マネジメント学科所属全教員が担当する。
 管理栄養士への総仕上げの科目として授業にのぞむこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地実習ガイダンス	オリエンテーション （臨地実習の意義・目的と特徴を理解する、復習テストで基礎項目の修得度を確認）
2	報告会	給食管理臨地実習（校外実習）報告会
3	報告会	臨床栄養臨地実習 報告会
4	事前指導 （公衆栄養活動業務）	予習レポートの作成について （保健所・市町村保健センター等の業務と区別、行政栄養士の業務と役割等）
5	事前指導 （実習課題の取り組み）	課題の作成について （保健所・市町村保健センターから指示された課題内容について説明する）
6	事前指導 （実習前指導）	実習心構え、マナー、礼状の書き方、報告書・実習ノートのまとめ方 諸注意（保険について）
7	報告会	公衆栄養臨地実習 報告会
8	演習課題の実践	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、実習内容を充実させることができる。 （社会・環境と健康、公衆栄養学）
9	演習課題の実践	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、実習内容を充実させることができる。 （人体の構造と機能及び疾病の成り立ち）
10	演習課題の実践	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、実習内容を充実させることができる。 （食べ物と健康）
11	演習課題の実践	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、実習内容を充実させることができる。 （基礎栄養学）
12	演習課題の実践	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、実習内容を充実させることができる。 （応用栄養学）
13	演習課題の実践	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、実習内容を充実させることができる。 （栄養教育論）
14	演習課題の実践	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、実習内容を充実させることができる。 （臨床栄養学）
15	演習課題の実践	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、実習内容を充実させることができる。 （給食経営管理論）

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	卒業演習				
担当者氏名	野田千征子、本澤真弓、細川敬三、矢埜みどり、大西隆仁、内田亨、須見登志子、松村末夫、松尾千鶴子、眞鍋祐之、富永しのぶ、増村美佐子、湯瀬晶文、中井玲子、亀谷小枝、嶋津裕子、福本恭子、前田典子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力）				

《授業の概要》

専門職である管理栄養士として必要とされる個別の知識・情報を多様な状況に応じて適宜利用できるように収集して身に付け、これらを自らに適した分類内容ごとに整理し、さらに常時有効な情報源とするために統合できる学習力を育むことを目標に進める。

《テキスト》

各教科で指定された教科書及び随時配布されるプリント

《参考図書》

授業時に各担当教員から適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 専門基礎及び専門科目で学習した内容を関連づけて考えることができる。
- (2) 管理栄養士として必要な専門知識及び技能を確実に修得し、資格者としての質を向上させる。

《授業時間外学習》

日々学習した内容を再確認するとともに、不足する部分に関する検索を継続的に行う。

《成績評価の方法》

試験の結果で成績評価する。

《備考》

栄養マネジメント学科所属全教員が担当する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
2	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
3	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
4	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
5	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
6	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
7	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
8	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
9	管理栄養士への道	収集した管理栄養士の基本的基礎知識をわかりやすく整理できる。
10	管理栄養士への道	収集した管理栄養士の基本的基礎知識をわかりやすく整理できる。
11	管理栄養士への道	収集した管理栄養士の基本的基礎知識をわかりやすく整理できる。
12	管理栄養士への道	収集した管理栄養士の基本的基礎知識をわかりやすく整理できる。
13	管理栄養士への道	自ら収集・整理した管理栄養士の基本的基礎知識を利用しやすく統合できる。
14	管理栄養士への道	自ら収集・整理した管理栄養士の基本的基礎知識を利用しやすく統合できる。
15	管理栄養士への道	自ら収集・整理した管理栄養士の基本的基礎知識を利用しやすく統合できる。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	卒業演習				
担当者氏名	野田千征子、本澤真弓、細川敬三、矢埜みどり、大西隆仁、内田亨、須見登志子、松村末夫、松尾千鶴子、眞鍋祐之、富永しのぶ、増村美佐子、湯瀬晶文、中井玲子、亀谷小枝、嶋津裕子、福本恭子、前田典子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》

専門職である管理栄養士として必要とされる個別の知識・情報を多様な状況に応じて適宜利用できるように収集して身に付け、これらを自らに適した分類内容ごとに整理し、さらに常時有効な情報源とするために統合できる学習力を育むことを目標に進める。

《テキスト》

各教科で指定された教科書及び随時配布されるプリント

《参考図書》

授業時に各担当教員から適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 専門基礎及び専門科目で学習した内容を関連づけて考えることができる。
- (2) 管理栄養士として必要な専門知識及び技能を確実に修得し、資格者としての質を向上させる。

《授業時間外学習》

日々学習した内容を再確認するとともに、不足する部分に関する検索を継続的に行う。

《成績評価の方法》

試験の結果で成績評価する。

《備考》

栄養マネジメント学科所属全教員が担当する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
2	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
3	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
4	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
5	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
6	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
7	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
8	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
9	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
10	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を随時展開する能力を活用できる。
11	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を随時展開する能力を活用できる。
12	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を随時展開する能力を活用できる。
13	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を随時展開する能力を活用できる。
14	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を随時展開する能力を活用できる。
15	管理栄養士への道	管理栄養士資格の取得により、社会で役立つ人材となるべき自信と自己評価能力に必要なことが理解できる。

《専門教育科目 群（専門に関する科目）》

科目名	公衆栄養臨地実習				
担当者氏名	嶋津 裕子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-4 常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）				

《授業の概要》

本実習は、これまでに学内の講義、実験・実習・演習等で学んできた成果を、今後社会で活かす実践トレーニングの第一歩である。公衆栄養等の現場における地域住民が抱える健康・栄養・食生活上の諸問題に対し、それらに携わる管理栄養士等の専門職の仕事に接する機会である。実践活動を目指して、保健所や市町村保健センターにおいて管理栄養士の職務を体験し、総合的な力量を高めることができる。

《授業の到達目標》

保健所、保健センターの役割・業務の概要と両者の関係を説明できる。行政栄養士の業務を理解し関連専門職と協働関係を構築することができる。

地域住民の健康、福祉等に関わる業務や管轄地域の問題点を把握して課題解決に向けた目標を設定し、計画を立て実践し、結果を解析して評価を行い、それらを報告書や論文に取りまとめることができる能力を修得することができる。

《成績評価の方法》

各臨地実習先指導管理栄養士の評価（60％）、各臨地実習先の管理栄養士が指示する課題および臨地実習ノート等提出物（40％）

所定の実習時間の出席を満たさないものは、評価の対象としない。

《テキスト》

臨地実習先（保健所）からの指示により、適宜資料・プリントを配布する。

「公衆栄養学」のテキスト（既学年で購入済み）

《参考図書》

「2013年度版 管理栄養士・栄養士必携」
（社）日本栄養士会編 第一出版
「国民衛生の動向2013 / 2014」 厚生労働統計協会

《授業時間外学習》

都道府県、市町村行政の違い、行政栄養士の業務について復習しておくこと。

各臨地実習先を管轄する地域の特徴、健康関連施策や公衆栄養プログラムの内容について予習しておくこと。

《備考》

実習先施設の都合で、授業計画は変更されることもある。身だしなみ、言葉遣いに注意し、管理栄養士への総仕上げの実践の場として実習に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地実習（実習先でのガイダンス）	実践活動を目指して、臨地で課題の発見や目標達成に向けて関連専門職と協働関係を構築することができるように、関連職種に関する基本的な知識を学習する。
2	臨地実習（実習先からの事前課題）	保健所、保健センターの役割・業務の概要と両者の関係を説明できる。管轄地域の概要や地域住民の健康、福祉等に関わる業務内容とその主な役割を理解する。
3	臨地実習（実習先からの事前課題）	地域住民を対象とした健康教育、例えば「健康・栄養教室」等の企画、広報、実施、評価、フィードバック等の一連のプロセスを概説できる。事業計画案を作成できる。
4	臨地実習（保健所企画のプログラム）	健康福祉事務所（保健所）または市町村保健センターの公衆栄養活動を現場で学習し、行政栄養士の業務を理解する。
5	臨地実習（保健所企画のプログラム）	健康福祉事務所（保健所）または市町村保健センターの公衆栄養活動を現場で学習し、行政栄養士の業務を理解する。
6	臨地実習（保健所企画のプログラム）	健康福祉事務所（保健所）または市町村保健センターの公衆栄養活動を現場で学習し、行政栄養士の業務を理解する。
7	臨地実習（保健所企画のプログラム）	健康福祉事務所（保健所）または市町村保健センターの公衆栄養活動を現場で学習し、行政栄養士の業務を理解する。
8	臨地実習（保健所企画のプログラム）	健康福祉事務所（保健所）または市町村保健センターの公衆栄養活動を現場で学習し、行政栄養士の業務を理解する。
9	臨地実習（保健所企画のプログラム）	健康福祉事務所（保健所）または市町村保健センターの公衆栄養活動を現場で学習し、行政栄養士の業務を理解する。
10	臨地実習（保健所企画のプログラム）	健康福祉事務所（保健所）または市町村保健センターの公衆栄養活動を現場で学習し、行政栄養士の業務を理解する。
11	臨地実習（保健所企画のプログラム）	健康福祉事務所（保健所）または市町村保健センターの公衆栄養活動を現場で学習し、行政栄養士の業務を理解する。
12	臨地実習（保健所企画のプログラム）	健康福祉事務所（保健所）または市町村保健センターの公衆栄養活動を現場で学習し、行政栄養士の業務を理解する。
13	臨地実習（保健所企画のプログラム）	健康福祉事務所（保健所）または市町村保健センターでの管理栄養士の職務と関わる他職種との相互関係を、職務内容と関連づけて説明することができる。
14	臨地実習（保健所企画のプログラム）	健康福祉事務所（保健所）または市町村保健センターで体験した管理栄養士の職務に基づいて、改善点や理想とする姿を文書で提案することができる。
15	臨地実習（実習先での報告会）	臨地実習で体験した管理栄養士の職務について、社会的な役割および責任に関して報告書を作成し説明できる。学んできた成果を、今後社会で活かす実践力を修得できる。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	矢埜 みどり				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

研究テーマにそって論文検索を行い、集めた論文は輪読会を行い、これまで研究がどのような方法でなされ、どこまで明らかになっているのか、何が問題なのかを理解する。問題点を踏まえ、今後の研究内容を計画する、研究をすすめる。得られたデータは、集計し、分析、考察を行う。

《テキスト》

テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《授業の到達目標》

論文の検索の仕方、情報の収集、解析の方法、論文の書き方を習得するとともに、研究の流れを体験できる。

《授業時間外学習》

検索及び配付された論文は、必ず何度も何度も読み返して下さい。得られた結果は、終了後ただちに整理して下さい。

《成績評価の方法》

平常の授業態度（50%）、発表及び報告書（50%）をあわせて評価する

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の概要説明及びテーマ決定	卒業論文について、説明を行い、卒業論文のテーマを決定する
2	論文購読	自分の研究内容に近い内容の論文（各自1編）を検索し、目的、方法、結果について説明を行い、質疑応答を行う（論文輪読）。
3	論文購読	検索した論文について、目的、方法、結果について説明を行い、質疑応答を行う（論文輪読を全員が、少なくとも1回担当するまで継続する）。
4	研究計画	自分の研究テーマについて、さらに論文を読み、自分の研究テーマについてのこれまでの研究の歴史を理解する
5	研究計画	研究計画を立てる
6	研究・データ分析	計画に沿って研究に着手する
7	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告すること
8	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告すること
9	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告すること
10	研究・データ分析	得られた結果を踏まえ、研究の方向性を検討する
11	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告すること
12	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告すること
13	研究・データ分析	結果を踏まえ、研究の方向性を確認する
14	途中経過のまとめ	これまで得ることのできたデータを整理する
15	中間報告	研究の進行度、方向性を確認し、期の研究計画について再検討を行う。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	細川 敬三				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

(1) 研究テーマに沿って、「論文調査・実験計画・実験・データ解析・データのまとめ・中間報告」の順に行い、研究方法について学ぶ。
 (2) 研究の進捗状況を中間報告会にて発表する。

《テキスト》

必要に応じ資料を配付する。

《参考図書》

必要の応じ提示する。

《授業の到達目標》

各自の研究テーマについて、論文調査・実験計画・実験・データ解析・データのまとめ・卒業論文の作成という流れに沿って卒業研究を行う。このことにより、研究の流れを理解するとともに論理的思考方法について学ぶ。また、基本的実験操作などについても復習し、基本操作を確実なものとするとともに新たな実験手法を身につける。

《授業時間外学習》

実験結果は、実験終了後直ちにデータを整理して下さい。

《成績評価の方法》

実験態度(50%)・中間報告(50%)で評価を行う。

《備考》

1人1テーマを基本とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の概要の説明 研究テーマの決定	卒業研究で実施する内容を概説する。各自の研究テーマを選ぶ。
2	実験計画の立案	各自の研究テーマに基づき、1年間の実験計画のスケジュールを立てる。
3	実験手法のトレーニング	実験に必要なテクニックを身につける。
4	実験手法のトレーニング	実験に必要なテクニックを身につける。
5	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
6	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
7	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
8	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
9	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
10	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
11	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
12	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
13	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
14	研究結果のまとめ	実験方法と結果を図や表としてまとめる。
15	中間報告	作成した図表を使って15分間で口頭発表を行う。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	大西 隆仁				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

研究テーマについて論文検索を行い、今までどのような研究が行われてきたのか理解する。実験計画書を作成し、研究テーマに沿って実験を行う。その結果を観察し記録する。データ解析と整理を行い、考察する。実験成果をまとめて、発表と報告書を作成する。

《テキスト》

適宜プリントや資料を配布する。

《参考図書》

適宜プリントや資料を配布する。

《授業の到達目標》

研究によって真理を追究し、新しい事実を求めることを目標とする。研究目的と方法を理解し、論理的に物事を考えるような習慣を身につける。

《授業時間外学習》

指定された参考文献や論文(日本語、英語)を予め読んでおくこと。

《成績評価の方法》

研究に対する態度と実験ノート(50%)、中間発表(50%)

《備考》

勉強会や論文(英語を含む)の抄読会を適宜行う。共同研究者として、曲木助手も指導を行うことがある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究概要の説明とその理解	研究内容の概まかな説明をおこなう。
2	文献検索および抄読会	参考文献の検索と論文を読む。
3	研究計画書の作成	研究計画書の作成と実験の準備をおこなう。
4	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
5	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
6	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
7	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
8	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
9	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
10	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
11	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
12	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
13	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
14	まとめ	実験データの整理と解析したデータの考察を行う。
15	中間発表	実験データと解析したデータを発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	内田 亨				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

研究テーマを設定し、文献検索により既知の事実を整理し、計画を立てて実験を開始する。日々のデータを評価・解析し、方向性を探る。最終的に、研究成果を整理し、根拠に基づいた考察を行い、中間報告としてまとめ、発表する。

《テキスト》

必要に応じ配布する。

《参考図書》

必要に応じ紹介する。

《授業の到達目標》

実験し新たなことを発見できる喜びを実感できる。
疑問点を抽出し、解決するために考えることができる。
理論的に考えることができる。

《授業時間外学習》

論文の作成・報告書の作成などを自主的に行う必要がある。

《成績評価の方法》

実験態度 50%、中間報告書 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究テーマの設定	卒業研究のテーマの候補を示すので、興味持てる内容を選択する。
2	研究計画・材料調整	議論の上、テーマに沿っておおよその実験計画を立てていく。必要と思われる物品を抽出し、準備していく。
3	研究計画・材料調整	議論の上、より具体的な実験計画を立てていく。
4	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
5	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
6	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
7	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
8	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
9	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
10	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
11	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
12	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
13	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
14	結果のまとめ	実験結果を整理し、中間報告書の作成を開始する。
15	中間報告	中間報告書に沿って結果を発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	増村 美佐子				
授業方法	演習	単位・必修	3・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

研究テーマに沿った論文検索を行い、現在までに行なわれてきた研究について明らかにし、研究計画を立て、計画に沿った研究を行なう。得られた結果を統計解析し、考察をする。論文を作成し、中間発表を行う。

《テキスト》

テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

必要に応じて指示する。

《授業の到達目標》

各自の研究テーマについて、論文検索、研究計画、研究、データ解析、データのまとめ方、卒業論文作成という一連の課程を通し、研究能力を身につける。

研究テーマに対する理解を深める。

研究実施課程の中で、論理的思考力を修得する。

分析結果について自分の意見まとめ、発表する能力を身につける。

《授業時間外学習》

文献検索・文献講読、研究、分析やまとめを授業時間以外にも行う必要がある。

《成績評価の方法》

(1)研究態度50% (2)中間報告50%で評価を行う。

《備考》

卒業研究 も履修することが望ましい。
データの取扱いには十分注意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究概要の説明・テーマ設定	卒業研究の目的、研究とは何か、について説明し、各自の研究テーマを検討する。
2	文献検索および抄読会	研究テーマに関連した論文を読み、先行研究の内容を確認し、その研究分野での独創的な研究であることを事前に調査する。
3	文献検索および抄読会	研究テーマに関連した論文を読み、先行研究の内容を確認し、その研究分野での独創的な研究であることを事前に調査する。
4	研究計画	研究テーマに沿った、研究方法（対象、実施期間など）を検討する。
5	研究計画	研究テーマに沿った、研究方法（対象、実施期間など）を検討する。
6	研究・データ解析	予備調査を行い、得られたデータより研究の見通しを立て、計画を再検討する。
7	研究・データ解析	予備調査を行い、得られたデータより研究の見通しを立て、計画を再検討する。
8	研究計画	本格的な研究方法を検討する。
9	研究計画	本格的な研究方法を検討する。
10	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
11	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
12	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
13	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
14	結果のまとめ	得られたデータをまとめ、考察する。
15	中間報告	得られた結果をまとめ、発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	中井 玲子				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

この科目では「食と健康の専門家」の仕上げ教育として、「研究＝課題発見とその解決」の能力を磨くことを目的としている。特に食品学および栄養学に関連する内容をテーマに設定し、実験を中心とした研究活動を行い、「研究する姿勢」を学習する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて論文等の文献使用を指示、指導する。

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《授業の到達目標》

自然科学分野（実験系）における研究の特徴（流れ）を理解し、人に伝えることができるようになる。
ロジカル・シンキング（論理的思考）スキルが身につく。
ディスカッション能力や論理的文章の作成能力が向上する。
一般的な実験器具や分析機器の取り扱いについて習熟する。
「食と健康」について多面的かつ実践的に理解し、説明できるようになる。

《授業時間外学習》

指定された参考文献を予め読み込み、各実験に臨むこと。
実験記録の整理に努め、研究遂行の円滑化を心がけること。
報告書作成等、研究成果のとりまとめを授業時間外にも行う必要がある。

《成績評価の方法》

平常の受講態度（50%）と実験報告書（50%）を合わせて評価する。

《備考》

卒業研究 も履修することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究テーマ設定と概要説明	研究テーマの背景について理解する。
2	文献調査	研究テーマに関連した文献について調査し、理解を深める。
3	実験計画	実験計画を立てる。
4	実験準備	試薬調製、器具の準備等を行う。
5	実験手法のトレーニング	基本的な実験手法について学習する。
6	実験手法のトレーニング	基本的な実験手法について学習する（継続）。
7	実験とデータ解析	基本的な実験手法を元に、研究材料の実験に取り組み。得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる。
8	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
9	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
10	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
11	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
12	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
13	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
14	報告書作成およびディスカッション	実験データを元に、研究報告書（中間報告書）を作成する。
15	報告書完成	研究報告書（中間報告書）を完成させる。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

本授業は、これまでの講義や実験・実習のような既知の知識を修得するのではなく、新たな真実を見つけなければならない。そのためには、自ら探求心を持ち、試行錯誤を重ねながら粘り強く継続する力が必要である。研究の流れとして、テーマを設定、文献検索・講読をし、研究計画を立て、調査、実験を実施する。得られた結果を整理、分析、考察し、研究計画を再考しながら進める。研究結果を整理し、中間報告書の作成を行う。

《授業の到達目標》

- ・自分の研究テーマや内容について説明できる。
- ・研究の流れを理解し、論理的思考力を育てる。
- ・探求心を持ち、粘り強く物事に取り組む姿勢を身につけ、そこから新たな発見をする喜びを知る。
- ・研究する態度を身につけることで総合的な能力の向上を目指す。

《成績評価の方法》

平常の受講態度：50%、中間報告書：50%の割合で成績評価を行う。

《テキスト》

随時、資料を配付する。

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《授業時間外学習》

研究テーマにそった文献検索、文献講読、研究結果のまとめや研究計画の再考、報告書の作成などを授業時間外に行う必要がある。

《備考》

卒業研究 も履修することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究概要の説明	卒業研究の概要を理解する。各自の研究テーマを設定し、内容について理解を深める。
2	文献調査	文献検索の方法を理解し、各自のテーマにそった文献検索と文献講読を行う。
3	研究計画	各自のテーマにそった研究計画を考える。
4	研究計画	各自のテーマにそった研究計画を考える。
5	調査・実験の準備	調査方法や実験準備について確認し、各自の調査・実験準備を行う。
6	調査・実験の準備	調査方法や実験準備について確認し、各自の調査・実験準備を行う。
7	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
8	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
9	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
10	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
11	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
12	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
13	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
14	中間報告結果のまとめ	これまでの調査・実験の結果を分析・考察し、中間報告ができるようにまとめる。
15	中間報告	中間報告の内容を整理し、報告書を作成する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	矢埜 みどり				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

卒業研究 で取り組んだ内容を中心にデータの処理方法や論文の書き方を学習します。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

必要に応じて提示する

《授業の到達目標》

論文の検索の仕方、情報の収集、解析の方法、論文の書き方を習得するとともに、研究の流れを体験できる。

《授業時間外学習》

論文購読、データ処理は、授業時間外にも行う必要があります。

《成績評価の方法》

平常時の授業態度（50%）と発表及び卒業論文（50%）を合わせて評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究および分析	統計処理の方法及び統計用ソフトの使用方法について説明を行う
2	研究・データ分析	得られた結果を元に、分析を進める
3	研究・データ分析	得られた結果を元に、分析を進める
4	研究・データ分析	得られた結果を元に、分析を進める
5	研究・データ分析	分析結果を元に論文の流れについて打ち合わせを行う
6	研究・データ分析	論文用の図・表の作成
7	研究・データ分析	論文用の図・表の訂正および不足分の分析を行う
8	研究・データ分析	論文用の図・表の完成
9	研究・データ分析	再度論文の形式を確認し、得られた結果をもとに論文を作成する
10	論文作成	論文内容を推敲する
11	論文作成	指摘された部分を再度分析し、論文の完成度を上げる
12	論文作成	論文の表現について、再度推敲する
13	論文作成	報告会用のプレゼン資料を作成する
14	報告会	自分の卒業論文について発表会を行う
15	論文提出	論文原稿を最終確認し、提出する

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	細川 敬三				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

(1) 卒業研究 の続きとして「 実験・ データ解析・ データのまとめ・ 卒業論文の作成」の順に行う。
 (2) 1年間の実験結果を卒業論文にまとめる。

《テキスト》

必要に応じ資料を配付する。

《参考図書》

必要の応じ提示する。

《授業の到達目標》

卒業研究 の続きとして、実験・データ解析・卒業論文の作成という流れに沿って卒業研究を行う。このことにより、研究の流れを理解するとともに論理的思考方法について学ぶ。また、基本的実験操作などについても復習し、基本操作を確実なものとするとともに、新たな実験手法を身につける。

《授業時間外学習》

実験結果は、実験終了後直ちにデータを整理して下さい。

《成績評価の方法》

実験態度(50%)・卒業論文(50%)で評価を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
2	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
3	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
4	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
5	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
6	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
7	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
8	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
9	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
10	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
11	研究結果のまとめ	実験方法と結果を図や表としてまとめる。
12	卒業論文の作成	「序論・実験方法・結果・考察」の各項目ごとにまとめ、卒業論文を作成する。
13	卒業論文の作成	「序論・実験方法・結果・考察」の各項目ごとにまとめ、卒業論文を作成する。
14	卒業論文の作成	「序論・実験方法・結果・考察」の各項目ごとにまとめ、卒業論文を作成する。
15	報告会	作成した卒業論文をもとにして、15分間で口頭発表を行う。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	大西 隆仁				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力(客観的評価力)				

《授業の概要》

研究テーマについて論文検索を行い、今までどのような研究が行われてきたのか理解する。実験計画書を作成し、研究テーマに沿って実験を行う。その結果を観察し記録する。データ解析と整理を行い、考察する。実験成果をまとめて、発表と報告書を作成する。

《テキスト》

適宜プリントや資料を配布する。

《参考図書》

適宜プリントや資料を配布する。

《授業の到達目標》

研究によって真理を追究し、新しい事実を求めることを目標とする。研究目的と方法を理解し、論理的に物事を考えるような習慣を身につける。

《授業時間外学習》

指定された参考文献や論文(日本語、英語)を予め読んでおくこと。

《成績評価の方法》

研究に対する態度と実験ノート(50%)、卒業論文と研究発表(50%)

《備考》

勉強会や論文(英語を含む)の抄読会を適宜行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
2	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
3	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
4	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
5	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
6	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
7	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
8	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
9	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
10	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
11	まとめ	実験データの整理と解析したデータの考察を行う。
12	卒業論文の作成	データを論理的に評価し論文を作成する。
13	卒業論文の作成	データを論理的に評価し論文を作成する。
14	卒業論文の作成	データを論理的に評価し論文を作成する。
15	研究発表	作成した卒業論文を発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	内田 亨				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

卒業研究の続きとして、計画を立てて実験を開始する。最終必要に応じ配布する。
的に、研究成果を整理し、根拠に基づいた考察を行い、卒業研究としてまとめ、発表する。

《テキスト》

必要に応じ配布する。

《参考図書》

必要に応じ紹介する。

《授業の到達目標》

研究の流れを理解できる。
自分で新たな実験方法の考案ができる。
理論的に考えることができる。

《授業時間外学習》

卒業論文の作成などを自主的に行う必要がある。

《成績評価の方法》

実験態度 50%、卒業論文 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究計画・材料調整	卒業演習 で得た結果を更に発展させるために議論し、実験計画を立てる。
2	研究計画・材料調整	実験計画にそって必要と思われる物品を抽出し、準備していく。
3	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
4	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
5	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
6	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
7	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
8	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
9	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
10	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
11	結果のまとめ	実験結果を整理し、卒業論文の作成を開始する。
12	卒業論文の作成	議論しながら、卒業論文の作成を進める。
13	卒業論文の作成	議論しながら、卒業論文の作成を進める。
14	卒業論文の作成	議論しながら、卒業論文の作成を進める。
15	報告会	卒業論文に沿って結果を発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	増村 美佐子				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

卒業研究 で得た成果を元に、研究テーマに沿った研究を継続して実施する。不足している事項を明らかにするために、研究計画を立て、計画に沿った研究を行なう。得られた結果を統計解析し、考察をする。論文を作成し、発表を行う。

《テキスト》

テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

必要に応じて指示する。

《授業の到達目標》

研究実施課程の中で、論理的思考力を修得する。
得られた情報を客観的に評価する能力を身につける。
分析結果について自分の意見まとめ、発表する能力を身につける

《授業時間外学習》

文献検索・文献講読、研究、分析やまとめを授業時間以外にも行う必要がある。

《成績評価の方法》

(1) 研究態度50% (2) 卒業論文50%で評価を行う。

《備考》

卒業研究 に引き続いて履修することが望ましい。
データの取扱いには十分注意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究概要の説明・テーマの設定	卒業研究 で得られたデータから、再度研究テーマを設定する。
2	文献検索および抄読会	研究テーマに関連した論文を読み、先行研究の内容を確認し、その研究分野での独創的な研究であることを事前に調査する。
3	研究計画	研究テーマに沿った、研究方法（対象、実施期間など）を検討する。
4	研究計画	研究テーマに沿った、研究方法（対象、実施期間など）を検討する。
5	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
6	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
7	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
8	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
9	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
10	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
11	結果のまとめ	得られたデータをまとめる。
12	論文作成	得られたデータを論理的かつ客観的にまとめる。
13	論文作成	得られたデータを論理的かつ客観的にまとめる。
14	論文作成	得られたデータを論理的かつ客観的にまとめる。
15	発表	各自のテーマから得られた結果について発表し、評価を得る。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	中井 玲子				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

この科目では「食と健康の専門家」の仕上げ教育として、「研究＝課題発見とその解決」の能力を磨くことを目的としている。特に食品学および栄養学に関連する内容をテーマに設定し、実験を中心とした研究活動を行い、「研究する姿勢」を学習する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて論文等の文献使用を指示、指導する。

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《授業の到達目標》

自然科学分野（実験系）における研究の特徴（流れ）を理解し、人に伝えることができるようになる。ロジカル・シンキング（論理的思考）スキルが身につく。ディスカッション能力が向上する。論理的な文章の作成能力が向上する。一般的な実験器具および分析機器の取り扱いについて習熟する。「食と健康」について多面的かつ実践的に理解し、説明できるようになる。

《授業時間外学習》

指定された参考文献を予め読み込み、各実験に臨むこと。実験記録の整理に努め、研究遂行の円滑化を心がけること。報告書作成等、研究成果のとりまとめを授業時間外にも行う必要がある。

《成績評価の方法》

平常の受講態度（50%）と卒業研究論文（50%）を合わせて評価する。

《備考》

原則として、卒業研究 に引き続いて履修することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究テーマ設定と概要説明、実験計画	研究テーマの背景について理解し、実験計画を立てる。
2	卒業研究論文完成	卒業研究論文を完成させる。
3	実験準備	試薬調製、器具の準備等を行う。
4	実験手法のトレーニング	基本的な実験手法について学習する。
5	実験とデータ解析	基本的な実験手法を元に、研究材料の実験に取り組む。得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる。
6	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
7	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
8	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
9	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
10	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
11	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
12	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
13	卒業研究論文予稿作成およびディスカッション	実験データを元に、卒業研究論文予稿を作成し、完成に向けてメンバーでディスカッションする。
14	卒業研究論文作成	卒業研究論文予稿を修正し、完成に向けて更にメンバーでディスカッションする。
15	文献調査	研究テーマに関連した文献について調査し、理解を深める。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	演習	単位・必修	3・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

本授業は、これまでの講義や実験・実習のような既知の知識を修得するのではなく、新たな真実を見つけなければならない。そのためには、自ら探求心を持ち、試行錯誤を重ねながら粘り強く継続する力が必要である。卒業研究に引き続き、研究テーマにそった文献検索、文献講読、調査、実験を実施する。得られた結果を整理、分析、考察し、研究計画を再考しながら進める。最後に研究成果を整理し、卒業論文を作成する。

《授業の到達目標》

- ・自分の研究データや情報から客観的に評価できる能力を養う
- ・研究の流れを理解し、論理的思考力を育てる。
- ・探求心を持ち、粘り強く物事に取り組む姿勢を身につけ、そこから新たな発見をする喜びを知る。
- ・研究する態度を身につけることで総合的な能力の向上を目指す。

《成績評価の方法》

平常の受講態度：50%、卒業論文：50%の割合で成績評価を行う

《テキスト》

随時、資料を配付する。

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《授業時間外学習》

研究テーマにそった文献検索、文献講読、研究結果のまとめや研究計画の再考、報告書の作成などを授業時間外に行う必要がある。

《備考》

卒業研究に引き続き履修することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
2	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
3	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
4	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
5	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
6	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
7	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
8	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
9	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
10	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
11	結果のまとめ	これまでの調査・実験の結果を分析・考察し、論文の作成ができるようにまとめる。
12	結果のまとめ	これまでの調査・実験の結果を分析・考察し、論文の作成ができるようにまとめる。
13	卒業論文の作成	卒業論文の予稿を作成し、ディスカッションを行い、文章の書き方や研究内容について理解を深める。
14	卒業論文の作成	卒業論文の予稿を作成し、ディスカッションを行い、文章の書き方や研究内容について理解を深める。
15	卒業論文の作成	卒業論文を完成させる。

《教職に関する科目》

科目名	栄養教育実習				
担当者氏名	亀谷 小枝、前田 典子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本実習は、栄養教諭としての専門的知識の習得と技術の向上を目指し、さらに教職に関する実践的能力と研究能力及び態度を養っていく事を目標とする。栄養教諭の役割、職務について理解を深め、栄養教育に必要な資質の向上を図る。実際の学校現場において、児童及び生徒に対する食に関する授業研究、生徒指導、学校行事などに主体的に取り組み、体験的学習を深め、栄養教育における実践的な指導力を養う。

《授業の到達目標》

実習には、管理と指導の二領域がある。管理の部分では、安全で安心できる食事を調整し、それを指導に生かすものであること、指導では、児童・生徒に直接向かい合うことから出発するので、常に児童・生徒に愛情をもち、人格を尊重する態度で接することが大切であることを理解することが出来る。また、各実習校で、学校経営、校務分掌や学校教育方針等を理解し、栄養教諭としての職務を体験することが出来る。

《成績評価の方法》

実習校の指導教諭による実習態度、課題内容などの評価・・・80%
 栄養教育実習ノートの記述内容・・・20%

《テキスト》

事前事後指導で配布した栄養教育実習ノートを使用する他、必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『栄養教諭養成における実習の手引き』 田中信 監修・編著 (東山書房)

《授業時間外学習》

実習時間だけでなく、帰宅後も実習内容は詳細に記録し、実習目標や課題について可能な範囲で研究・考察を行うこと。

《備考》

将来、栄養教諭になりたいという強い希望を持つ学生以外の履修は不可

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習	実習は、原則として、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町の小学校で行なう。各実習校における指導教諭の計画に基づく1週間のプログラムで実施する。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（栄養教諭）				
担当者氏名	矢埜 みどり、山本 啓子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教員として学級経営ができる資質や生徒指導の能力向上させるため、グループ討議やロールプレイによりスキルを身につける。また栄養教諭として、教壇に立つための基本的な教育力を養うため、生徒の食の問題点の調査・分析に基づく模擬授業を实践する。最後に学校現場で、現職教員の学級経営及び授業進行と自分で作成した学級経営案・模擬授業を比較し、自分にとっての教職の意義及び教員の役割について論じる

《授業の到達目標》

栄養教諭として、学校経営を理解したうえで、児童・生徒を指導できる能力及び授業の実践力を養い、教職の意義及び教員の役割について認識を深める。

《成績評価の方法》

学習態度（20%）、討議時の意見や役割遂行度（20%）、学級経営案（20%）、模擬授業の評価（20%）、提出レポート（20%）

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

「学級経営力を高める 感化主義の提唱」堀裕嗣著（明治図書）
 「学校栄養教育概論 学校における食の指導」上田伸男編（化学同人）

《授業時間外学習》

学級経営案や授業案など授業時間内では、作成できないため時間外の学習が必要となる。また、学校現場の見学も含まれているため移動時間も必要となる。

《備考》

活発な討議により多くの学びが生まれる。教員を目指す者同士、お互いに高めあう気持ちをもって、自分の考えを必ず述べるという意識をもつこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	グループ討議により、学習の振り返りを行いながら、自己の問題点などを認識する
2	教職の意義や教員の役割	教職の職務内容、子供に対する責任などグループ討議を行いながら教職の意義や教員の役割について理解を深める
3	学級経営講義	社会性、対人関係能力、児童生徒理解、学級経営についての理論を理解する
4	学級経営講義	講義で学んだ社会性、対人関係能力、児童生徒理解、学級経営についてグループ討議を行い、他人の考えを傾聴しながら、自分なりの考えを整理することができる。
5	学級経営講義	学級経営案を作成する力を身につける。
6	学級経営講義	学級経営案を説明し、意見交換を行い、学級経営についてより理解を深める。
7	コーチング	学生指導の能力を向上させるため、ロールプレイにより、コーチングのスキルを身につける。
8	カウンセリング	学生指導の能力を向上させるため、ロールプレイにより、カウンセリングのスキルを身につける。
9	模擬授業	生徒の食の問題点の調査・分析する力を身につける。
10	模擬授業	授業計画を立案し、媒体を作成する力を身につける。
11	模擬授業	模擬授業を行い、授業運営について改善点を検討することで、授業運営能力を育てる。
12	模擬授業	栄養に関する科目及び事前事後指導の担当教員を含めて、改善した指導案をもとに模擬授業を行い、授業運営能力を身につける。
13	学校現場の見学	現職教員の学級経営及び授業進行を見学し、自分で作成した学級経営案・模擬授業を比較することで、自分に不足している能力を認識することができる
14	グループ討議	見学により感じたことについて、グループ討議を行い、どのようにしてその能力を身につければよいか改善策を考えることができる
15	まとめ	自分にとっての教職の意義及び教員の役割についてまとめることにより、これからの教職に対する方向性を自覚することができる。